

人権問題に関する別府市市民意識調査 結果報告書

令和8年3月

別 府 市

はじめに

別府市では、平成12（2000）年12月の「人権教育及び人権啓発に関する法律」の施行を受け、平成19（2007）年2月に「別府市人権教育及び人権啓発基本計画」を策定し、令和3（2020）年4月に改訂しました。「人権尊重について自ら考え、理解と認識を深め、様々な状況での具体的な態度や行動に現れること」をめざして人権のまちづくりを推進しています。

また、国においては、平成28（2016）年4月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」、6月に「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取り組みの推進に関する法律」、12月に「部落差別の解消の推進に関する法律」が相次いで施行されました。また、令和5年（2023）年6月には「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」が施行されるなど、人権に関する取り組みが進められています。本市でもそれに合わせ「別府市部落差別等をなくし人権を擁護する条例」の一部改正を行い、世界人権宣言および日本国憲法の精神にのっとり、差別のない平和で明るい『国際観光温泉文化都市』実現に向け取り組んでいるところです。

しかしながら、近年では、急速な少子高齢化や国際化、情報化で社会は大きく変化し、子ども、高齢者や障がい者に対する虐待、外国人への差別やインターネット上の人権侵害、性的少数者に関わる人権問題、あらゆる感染症に伴う患者や家族、医療関係者等への差別など、新たな人権課題が発生しており、また、各課題についても、以前より複雑化かつ多様化しています。

このような新しい人権課題に加え、部落差別問題をはじめとする様々な人権問題に対する市民のみなさまの人権意識を把握し、これまでの教育啓発活動の成果と今後取り組むべき課題を明らかにするため、平成6（1994）年から「市民意識調査」を開始し、今回7回目の調査を実施しました。

市民のみなさまには、この調査の結果及び調査により明らかになった成果や課題について報告します。

調査結果を分析した内容を考察し「別府市人権教育及び人権啓発基本計画」をはじめとする、これからの別府市における人権行政の指針とする予定です。

最後になりますが、この調査にご協力いただきました市民のみなさまに心からお礼申し上げます。

令和8（2026）年3月

別府市

目次

第1部 調査の概要

I. 調査の目的.....	1
II. 調査の設計.....	1
III. 回収の結果.....	1
IV. 報告書の見方.....	1

第2部 調査結果

I. 回答者の基本属性について	3
II. 人権問題全般について	6
III. 個別の人権問題について	22
IV. 部落差別問題（同和問題）について.....	57
V. 人権問題解決のための啓発事業や市の取り組みについて	94

第3部 考察

I. はじめに.....	125
II. 回答者の基本属性について	125
III. 人権問題全般について	126
IV. 個別の人権問題について	131
V. 部落差別問題（同和問題）について.....	138
VI. 人権問題解決のための啓発事業や市の取り組みについて	148

第4部 調査票

調査票.....	153
----------	-----

第 1 部
調査の概要

I. 調査の目的

この調査は、市民の人権・部落差別問題に関する意識の現状を把握・分析し、令和2年度調査や県調査との比較・考察をすることにより、今後の人権教育・啓発に関する施策を有効に推進するための資料とすることを目的とする。

II. 調査の設計

- | | |
|---------|-----------------------------------------------------|
| 1. 調査地域 | 別府市全域 |
| 2. 調査対象 | 別府市に住民登録している20歳以上の方 |
| 3. 標本数 | 2,040人 |
| 4. 抽出方法 | 住民基本台帳から年齢10歳階層ごとに（70歳以上は1階層とし、全部で6階層とする）男女同数を無作為抽出 |
| 5. 調査方法 | 郵送による配布、郵送による回収またはウェブ上でのオンライン回答 |
| 6. 調査期間 | 令和7年6月4日～令和7年6月27日 |
| 7. 調査主体 | 別府市市民福祉部 共生社会実現・部落差別解消推進課 |

III. 回収の結果

配布数	有効回収数			有効回収率
	紙	Web	合計	
2,040件	487件	101件	588件	28.8%

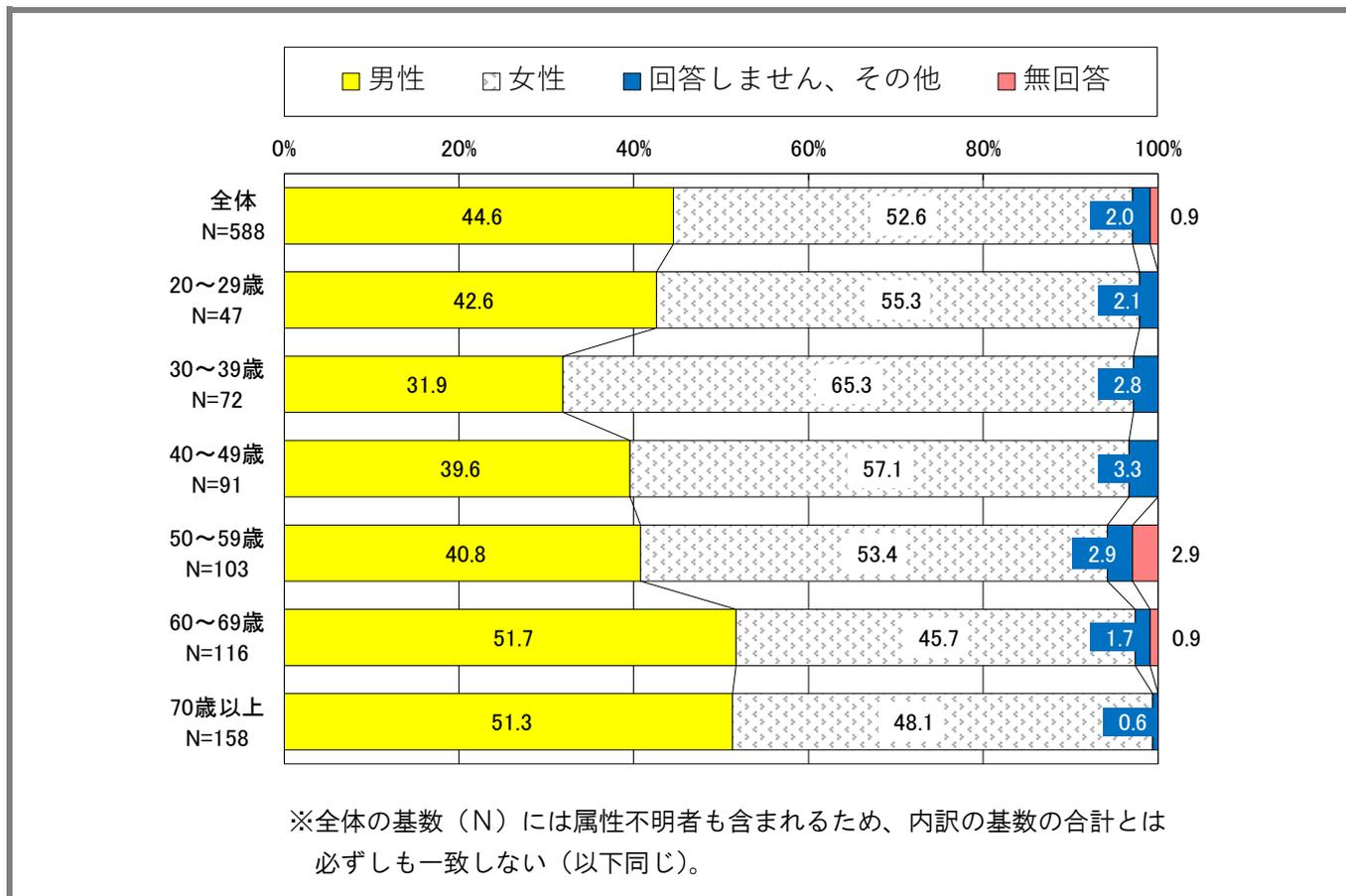
IV. 報告書の見方

1. 回答は、各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示している。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合がある。
2. 複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超える。
3. 表・グラフにおいて、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。

第 2 部
調 查 結 果

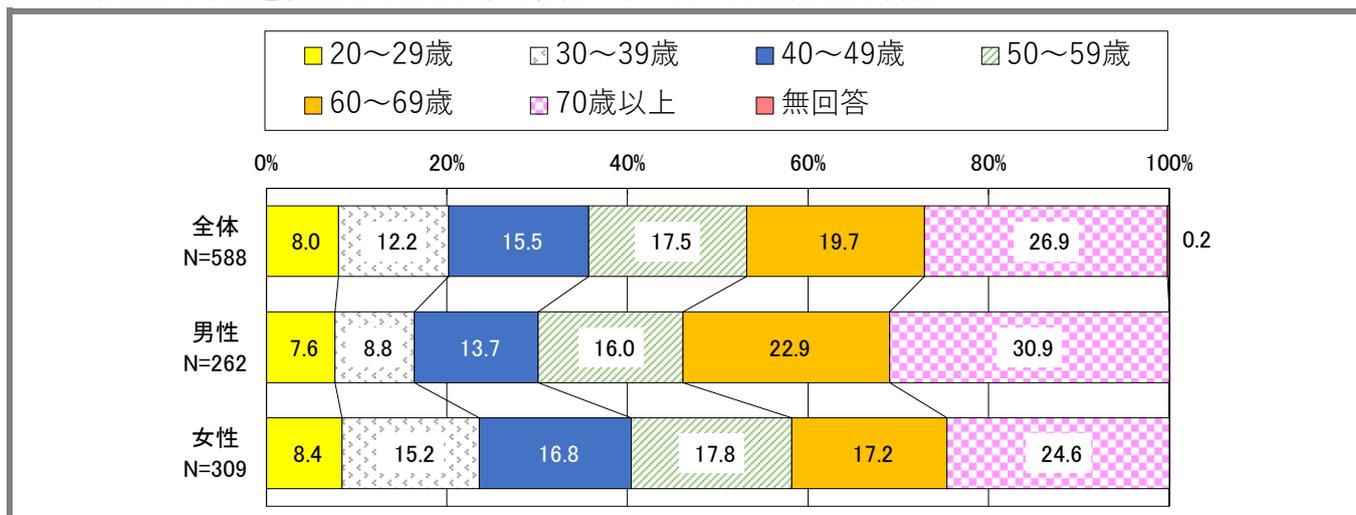
I. 回答者の基本属性について

A あなたの性別を教えてください。



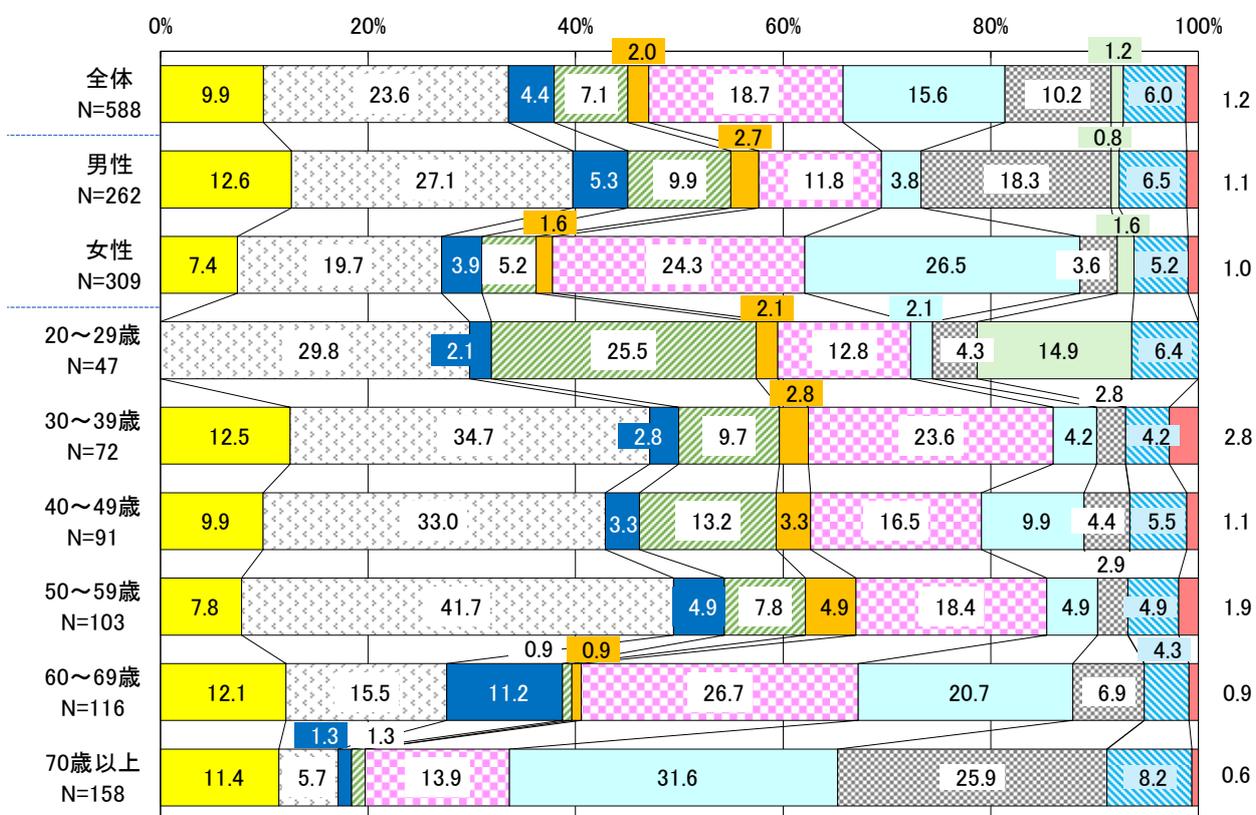
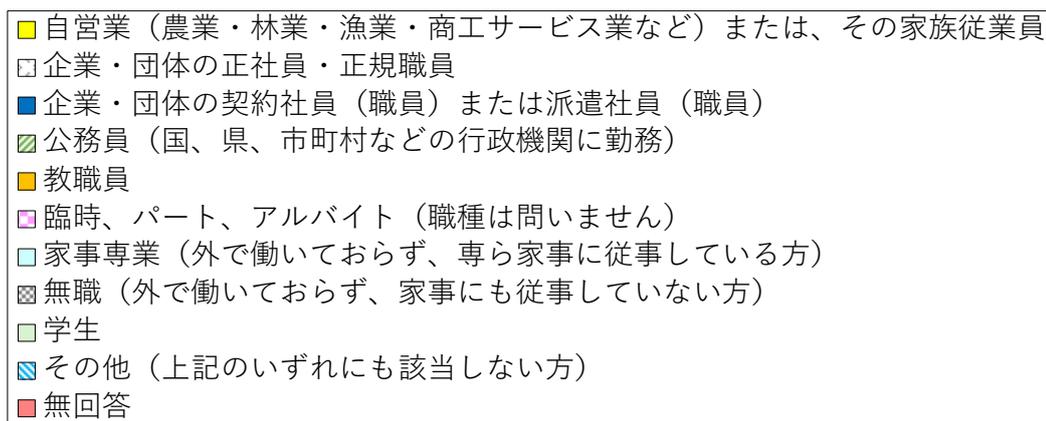
- 回答者の性別については、「男性」が44.6%、「女性」が52.6%、「回答しません、その他」が2.0%となっている。
- 年齢階層別に見ると、60歳未満は女性、60歳以上は男性の割合の方が高くなっている。

B あなたの年齢を教えてください。(令和7年5月1日現在の満年齢)



- 回答者の年齢構成は上のおりで、「70歳以上」の割合が26.9%と最も高く、年齢階層が低くなるにつれて割合が低くなっている。
- 男女別に見ると、男性では60歳以上の割合が53.8%と半数以上を占めているのに対し、女性では41.8%にとどまり、「20～29歳」「70歳以上」を除けば年齢階層による割合の差が男性に比べ小さくなっている。

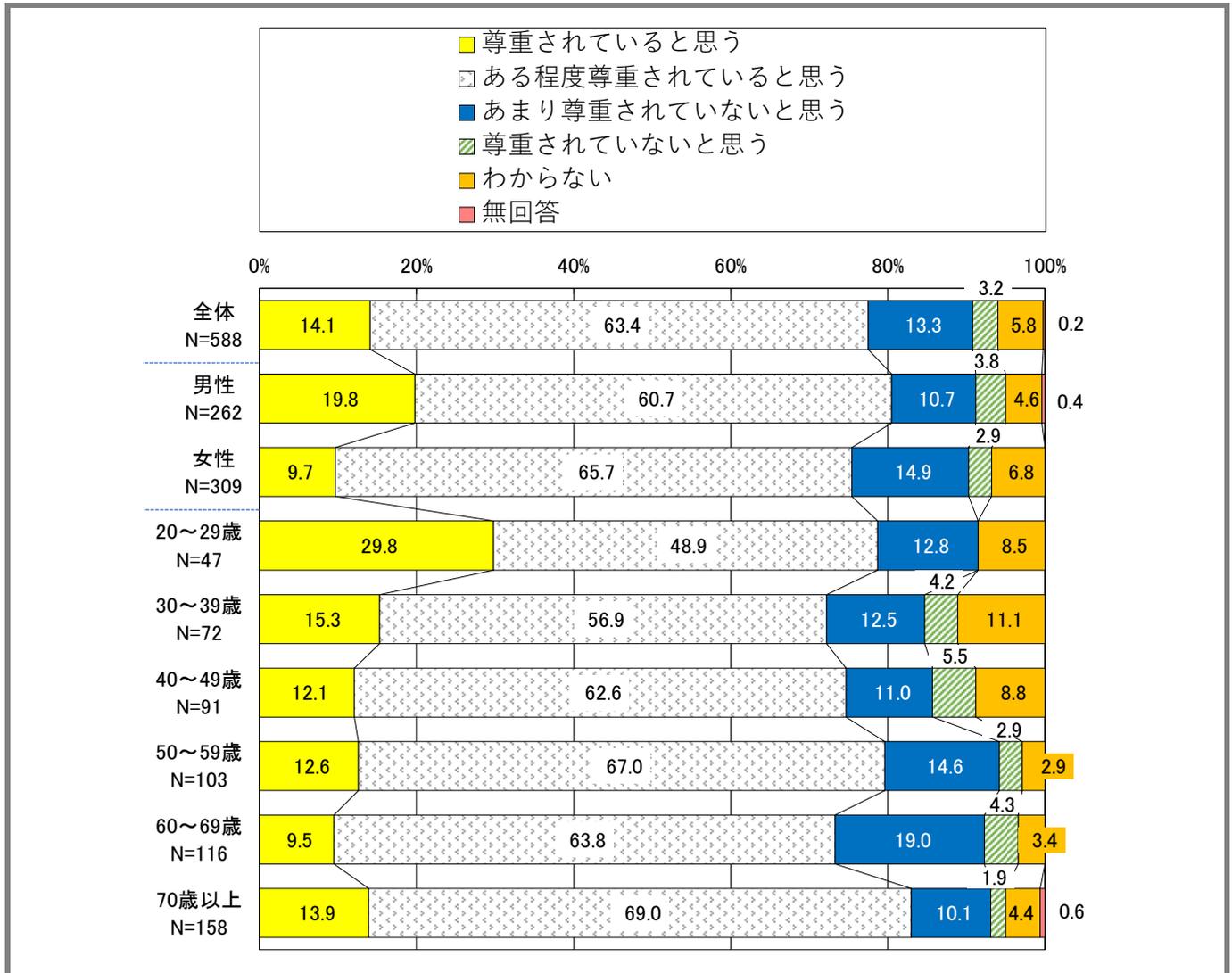
C あなたの職業を教えてください。



- 回答者の職業は上のおりで、男性は「企業・団体の正社員・正規職員」(27.1%)、女性は「家事専業」(26.5%)が最も多くなっている。
- 年齢階層別に見ると、60歳未満は「企業・団体の正社員・正規職員」、60~69歳は「臨時、パート、アルバイト」、70歳以上は「家事専業」が最も多くなっている。

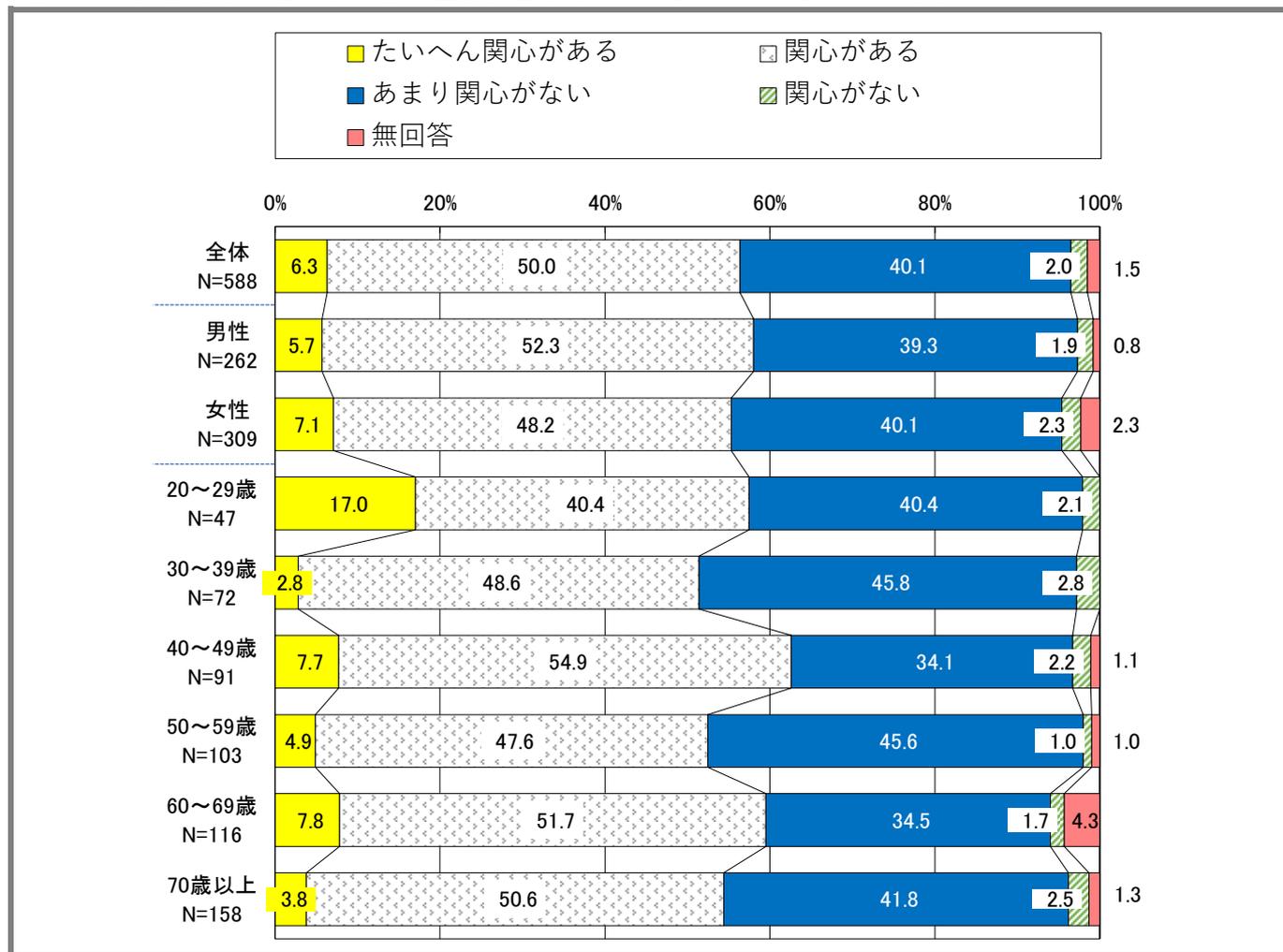
Ⅱ. 人権問題全般について

質問1 「基本的人権は侵すことのできない永久の権利である」と日本国憲法で保障されていますが、今の日本で人権は尊重されていると思いますか。(○は1つだけ)



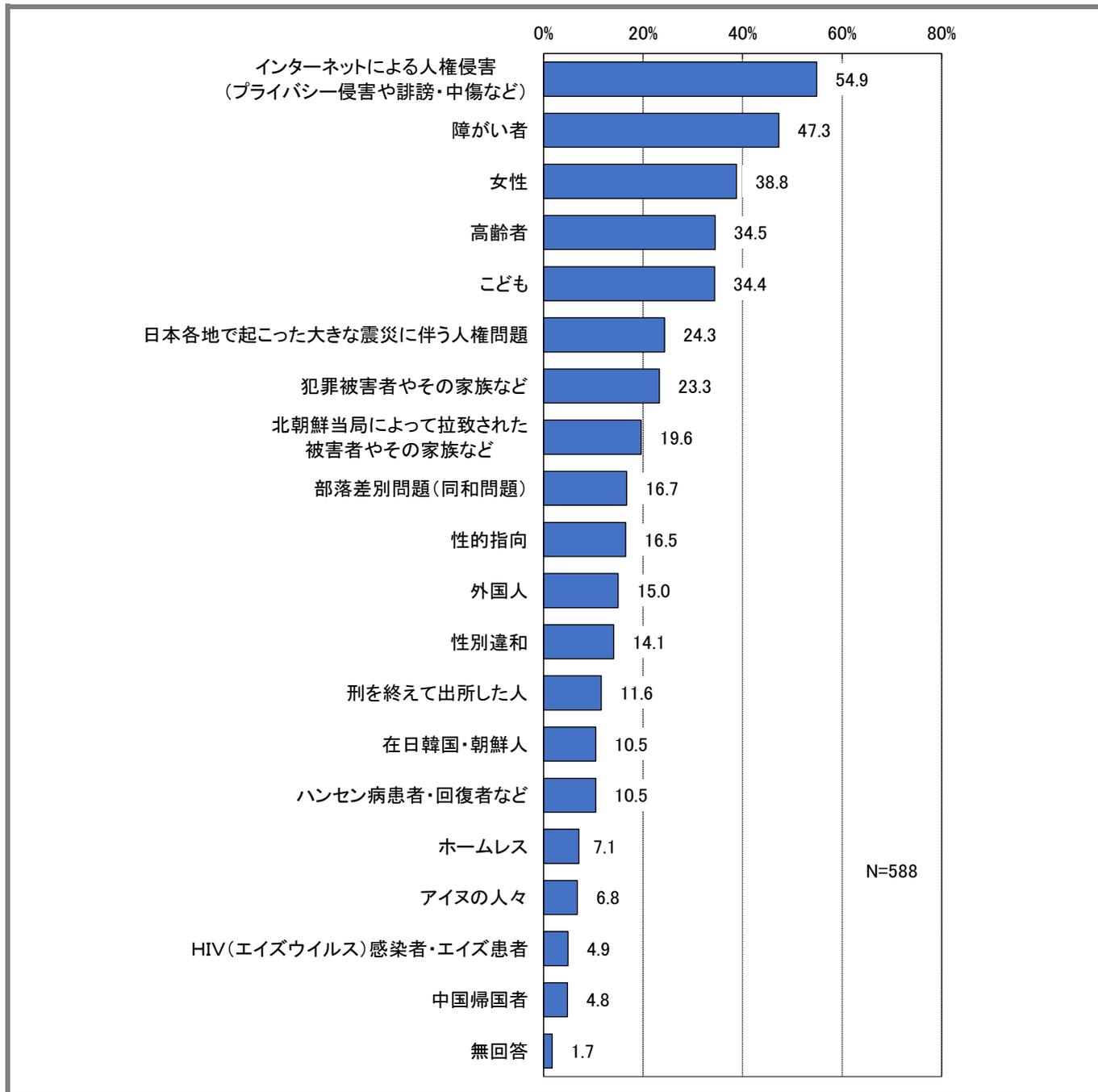
- 今の日本で人権は「尊重されていると思う」と回答した人の割合は全体の14.1%で、「ある程度尊重されていると思う」(63.4%)を合わせると77.5%と、「あまり尊重されていないと思う」(13.3%)と「尊重されていないと思う」(3.2%)を合わせた回答割合(16.5%)を大きく上回っている。
- 男女別に見ると、「あまり尊重されていないと思う」「尊重されていないと思う」と回答した人の割合は、男性(14.5%)より女性(17.8%)の方が高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、「尊重されていると思う」と回答した人の割合が最も高かったのは「20～29歳」(29.8%)、「あまり尊重されていないと思う」「尊重されていないと思う」と回答した人の割合が最も高かったのは「60～69歳」(23.3%)となっている。

質問2 あなたは人権問題にどの程度関心を持っていますか。(〇は1つだけ)



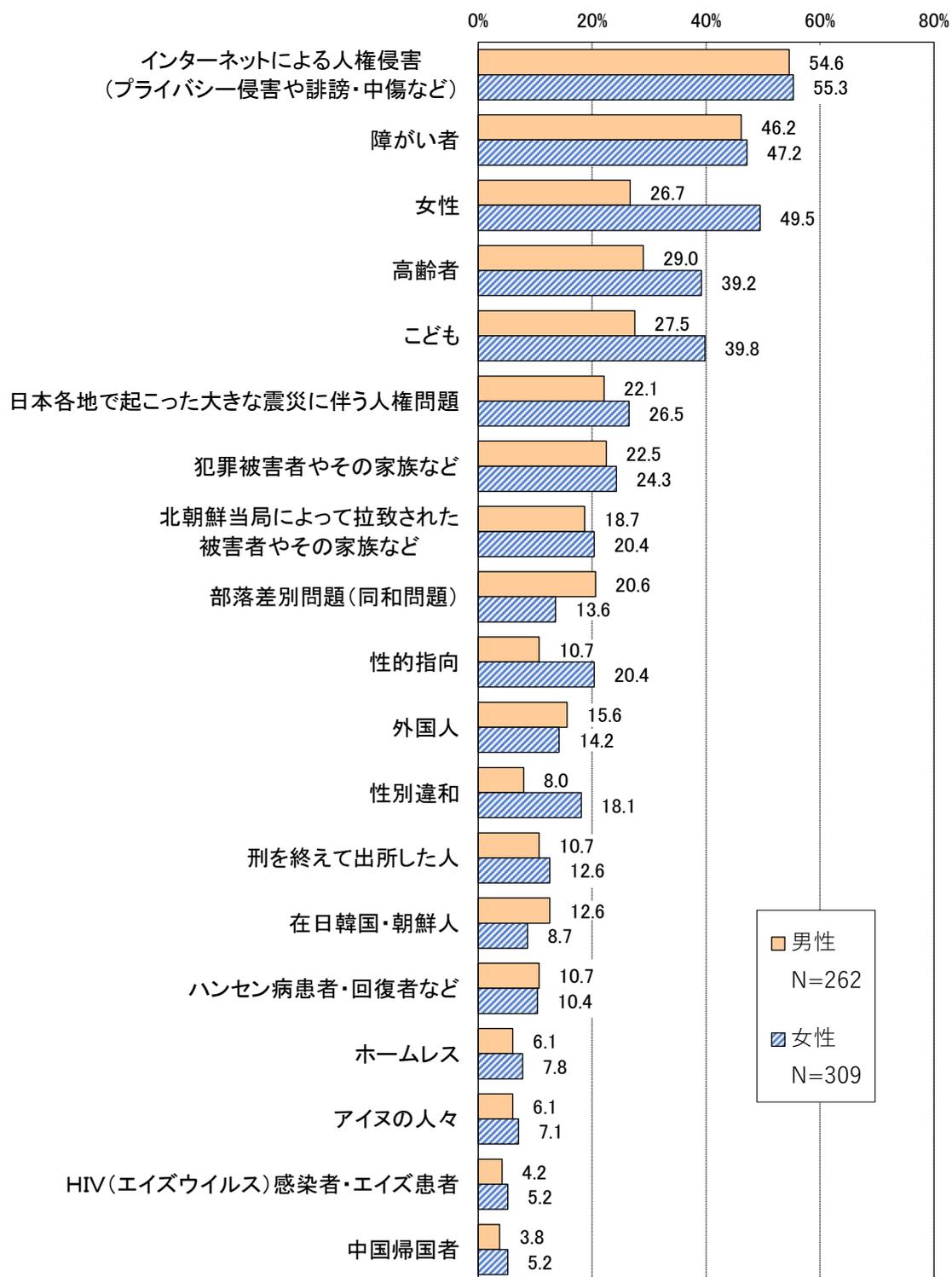
- 人権問題に「たいへん関心がある」「関心がある」と回答した人の割合は全体の 56.3%で、「あまり関心がない」「関心がない」と回答した人の割合 (42.1%) を 14.2 ポイント上回っている。
- 男女別に見ると、「たいへん関心がある」「関心がある」と回答した人の割合は女性 (55.3%) より男性 (58.0%) の方がやや高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、「たいへん関心がある」「関心がある」と回答した人の割合が最も高かったのは「40～49歳」(62.6%)、最も低かったのは「30～39歳」(51.4%) となっている。

質問3 日本における人権問題について、あなたの関心があるのはどの問題ですか。(〇はいくつでも)

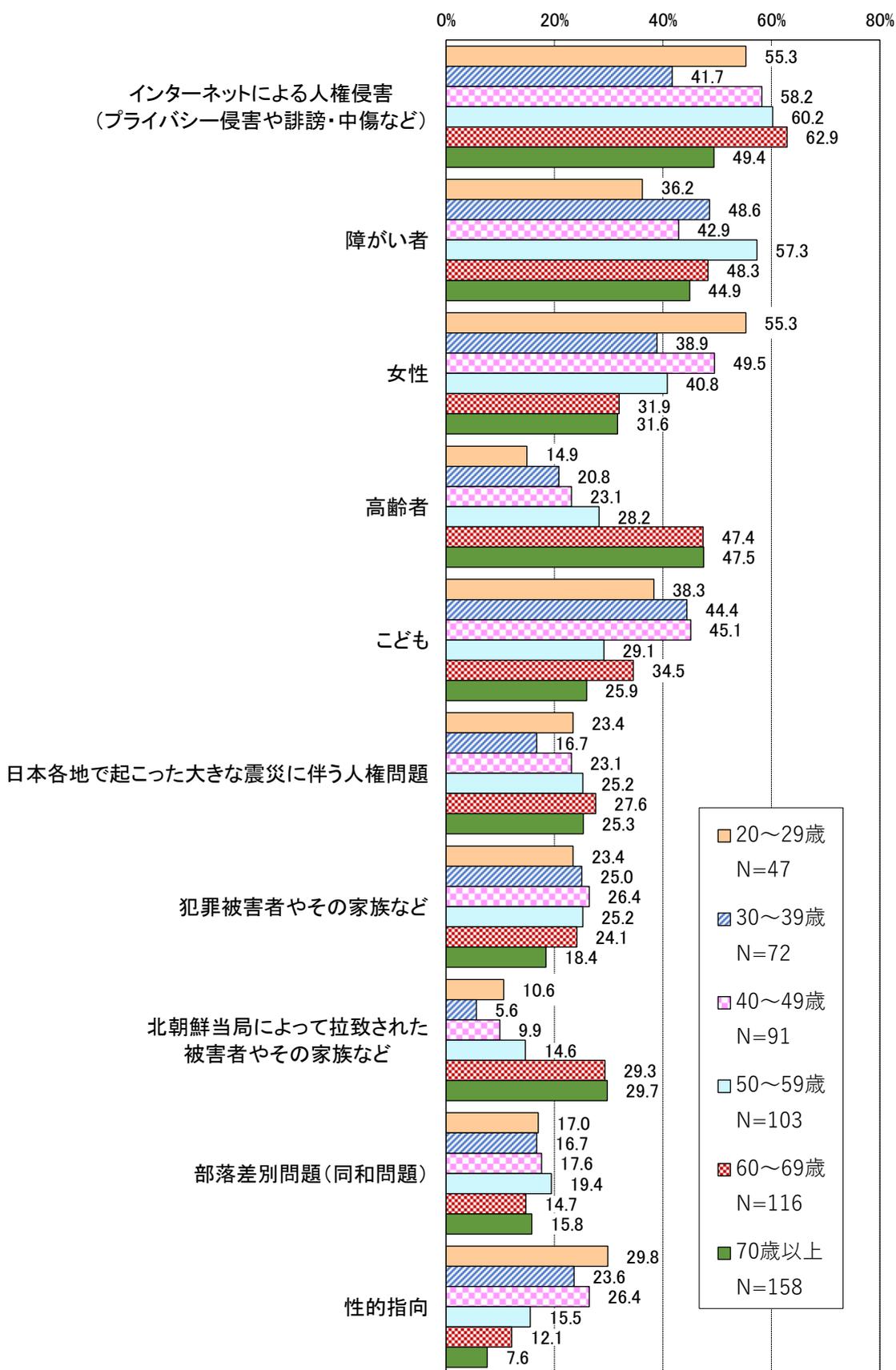


- 関心がある人権問題については、「インターネットによる人権侵害（プライバシー侵害や誹謗・中傷など）」を選択した人の割合が 54.9%と最も高く、以下、「障がい者」（47.3%）、「女性」（38.8%）、「高齢者」（34.5%）、「子ども」（34.4%）と続いている。
- 男女別に見ると、「女性」「子ども」「高齢者」「性的指向」「性別違和」については、男性に比べ女性の回答率が特に高くなっている（次ページの男女別クロス集計結果参照）。
- 年齢階層別に見ると、「20～29 歳」では「インターネットによる人権侵害」と「女性」（ともに 55.3%）、「30～39 歳」では「障がい者」（48.6%）、40 歳以上では「インターネットによる人権侵害」が、それぞれ最も回答割合が高くなっている（次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照）。

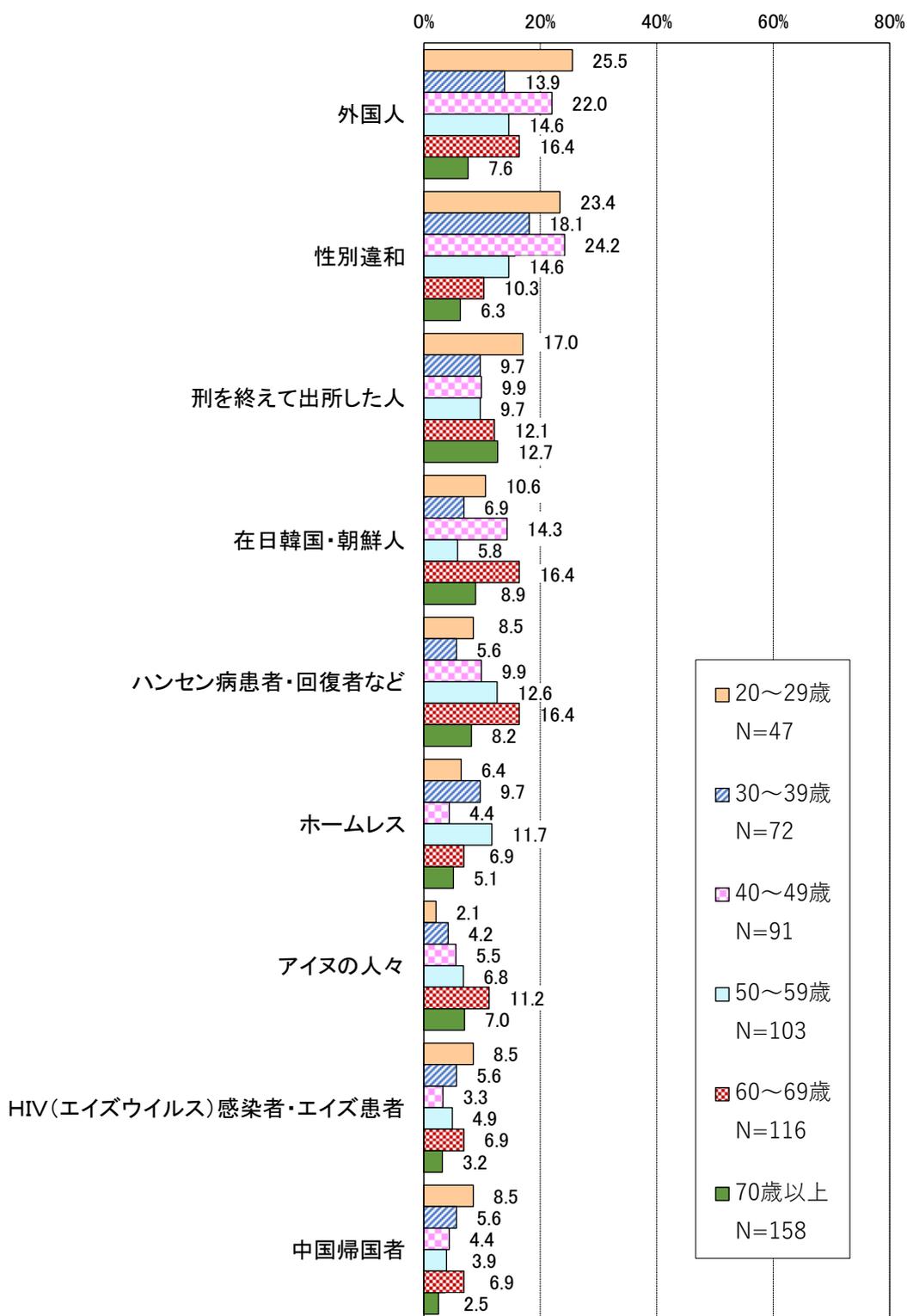
《男女別クロス集計結果》



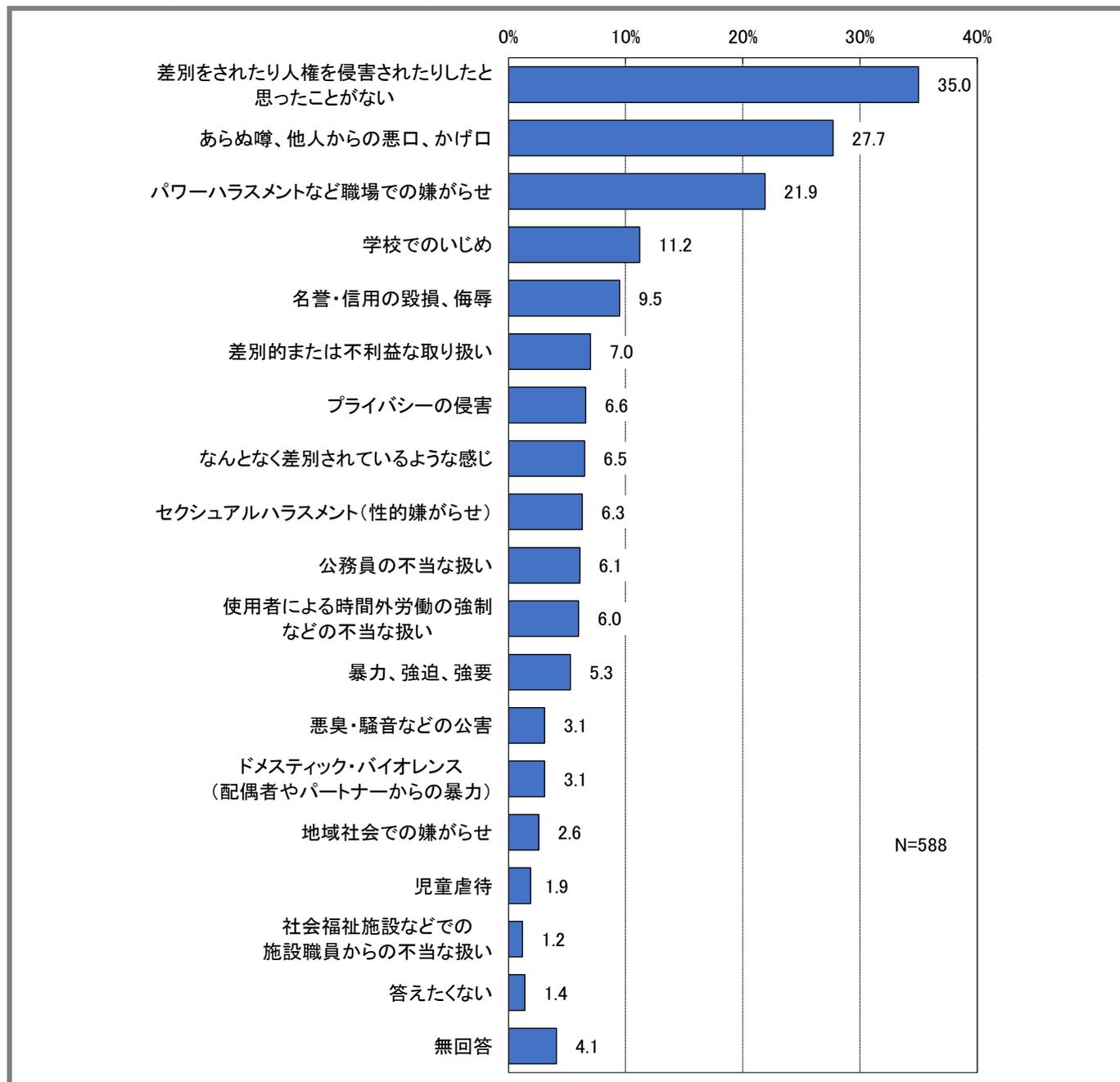
《年齢階層別クロス集計結果（上位10項目）》



《年齢階層別クロス集計結果（11位以下の項目）》

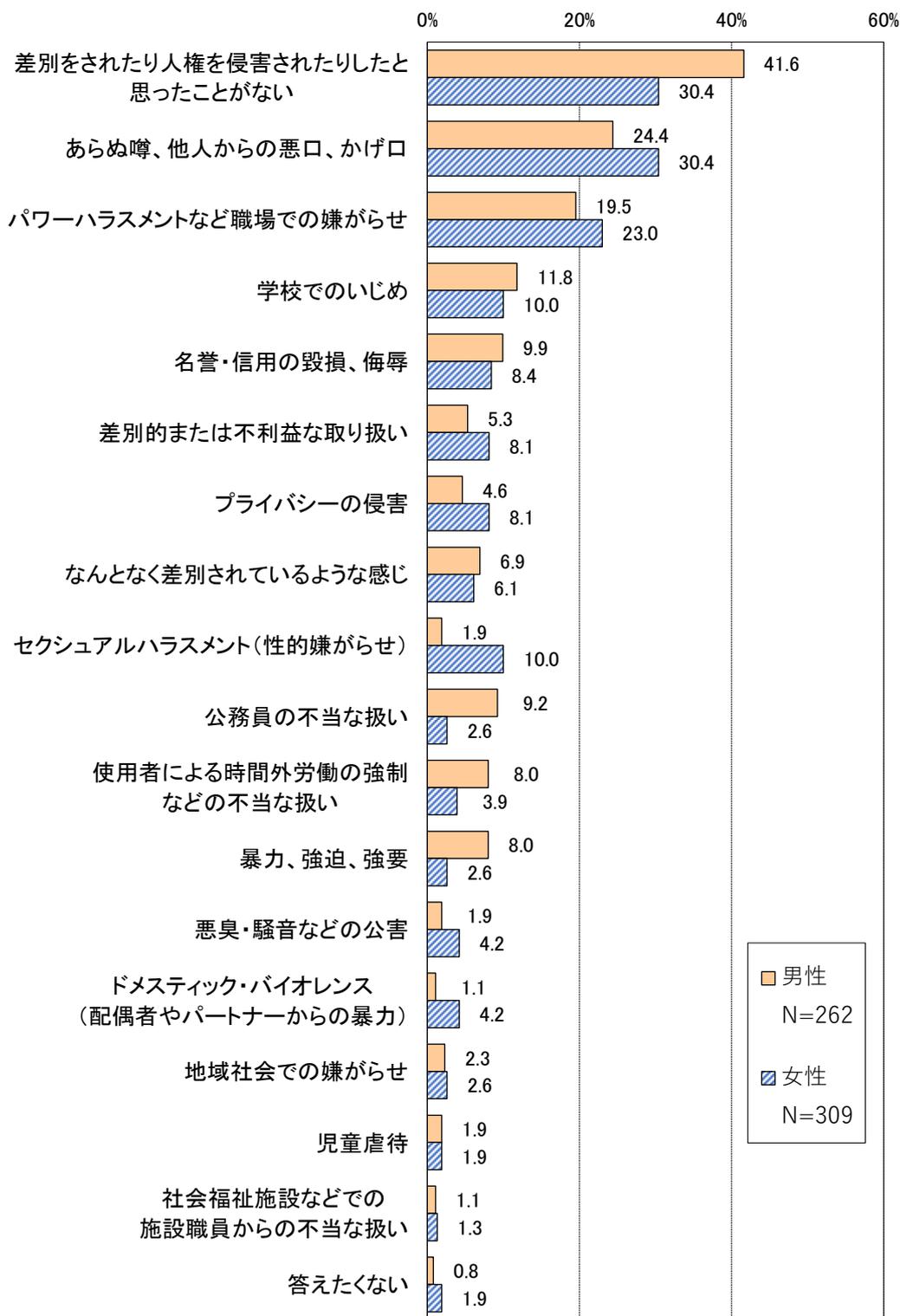


質問4 あなた自身これまで差別されたり人権を侵害されたりしたと思ったことがありますか。それはどのようなことで思いましたか。(〇はいくつでも)

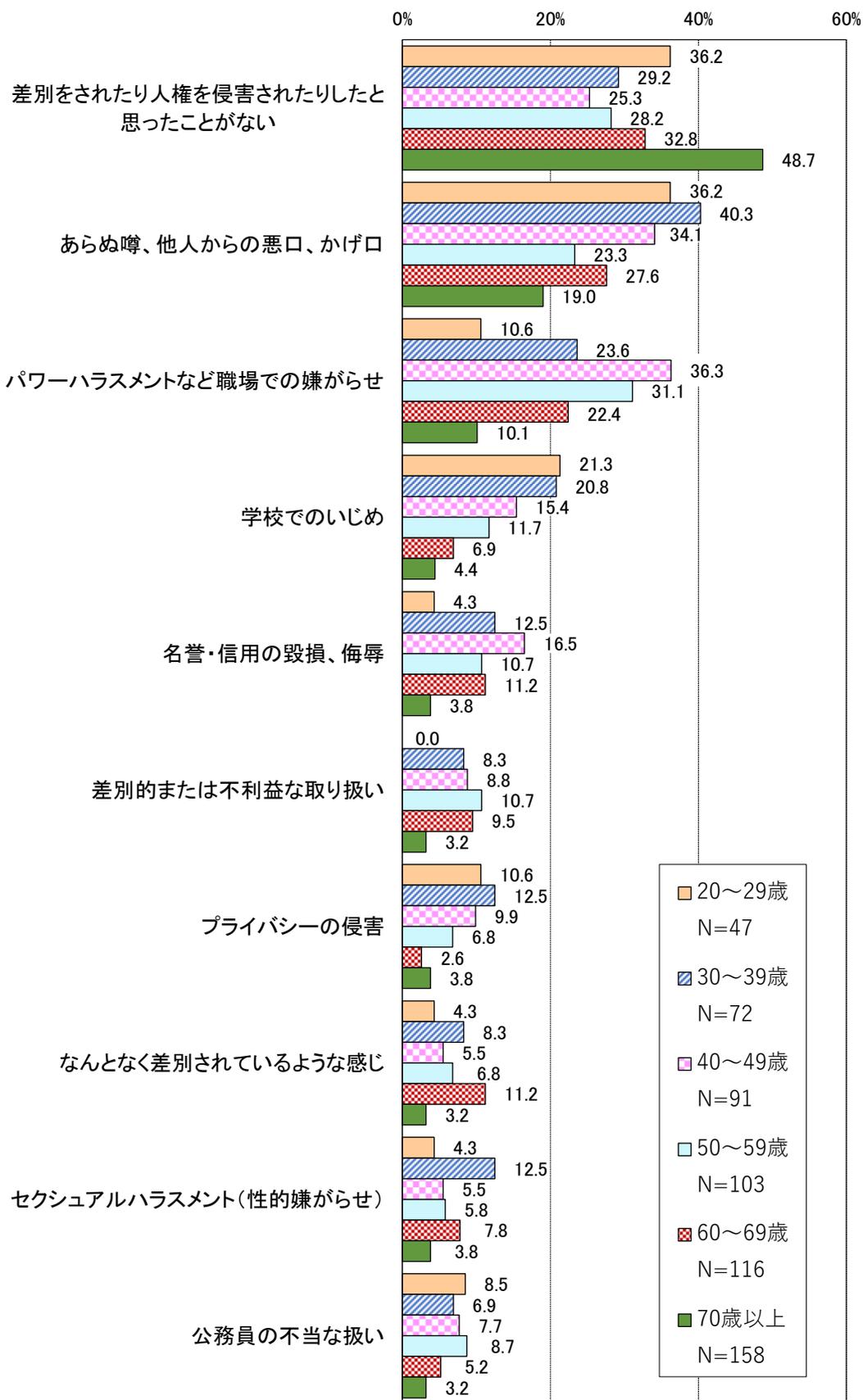


- これまで「差別をされたり人権を侵害されたりしたと思っ
たことがない」と回答した人の割合は全
体の35.0%で、これと「無回答」「答えたくない」を除く59.5%の人は差別されたり人権を侵害され
たりしたことがあると回答しており、内容としては、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」(27.7%)、
「パワーハラスメントなど職場での嫌がらせ」(21.9%)が上位にあがっている。
- 男女別に見ると、「差別をされたり人権を侵害されたりしたと思っ
たことがない」と回答した人の割
合は女性(30.4%)に比べ男性(41.6%)の方が高くなっている(次ページの男女別クロス集計結果
参照)。
- 年齢階層別に見て、「差別をされたり人権を侵害されたりしたと思っ
たことがない」と回答した人の
割合が最も高かったのは「70歳以上」(48.7%)、最も低かったのは「40～49歳」(25.3%)となっ
ている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

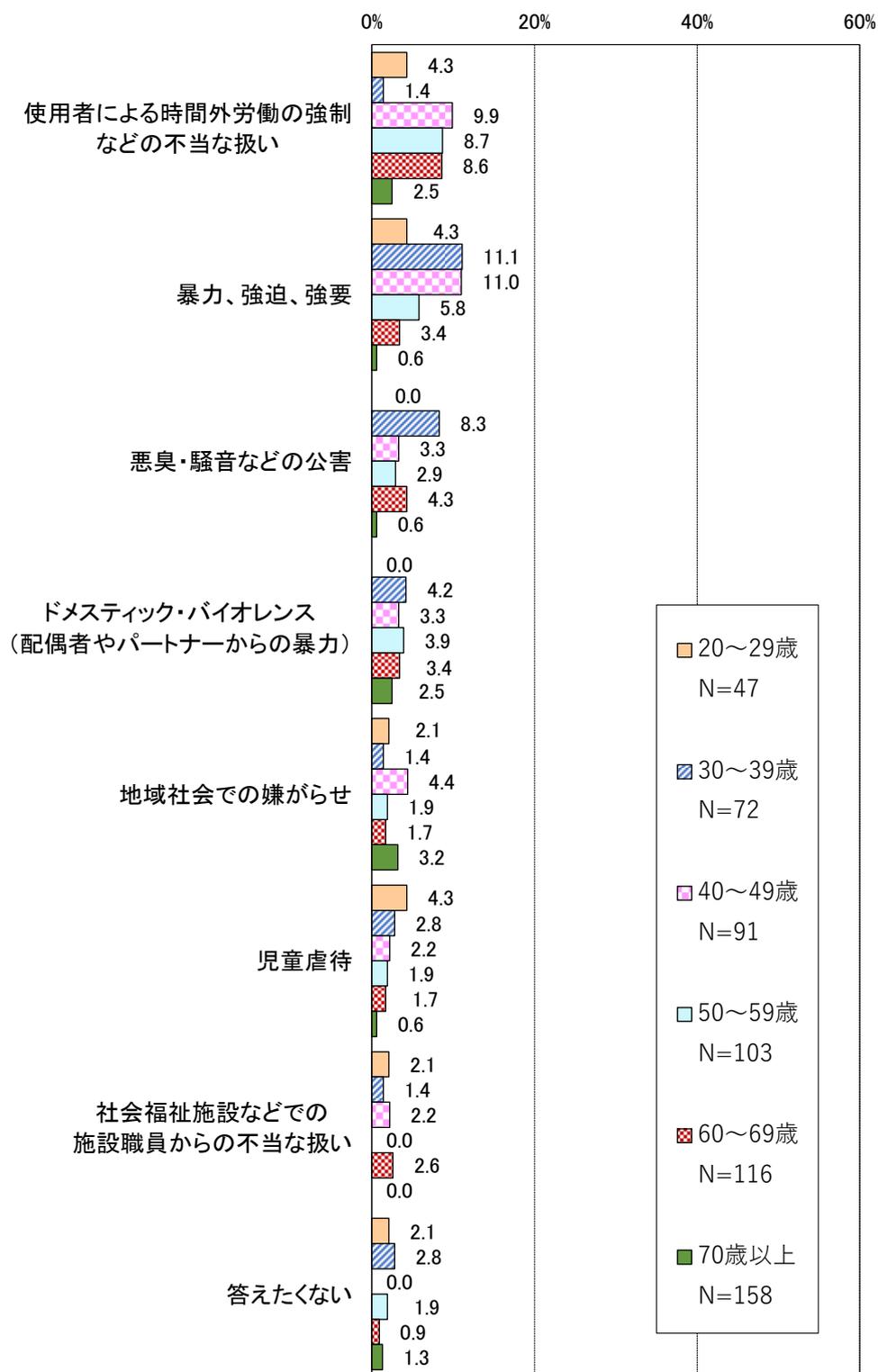
《男女別クロス集計結果》



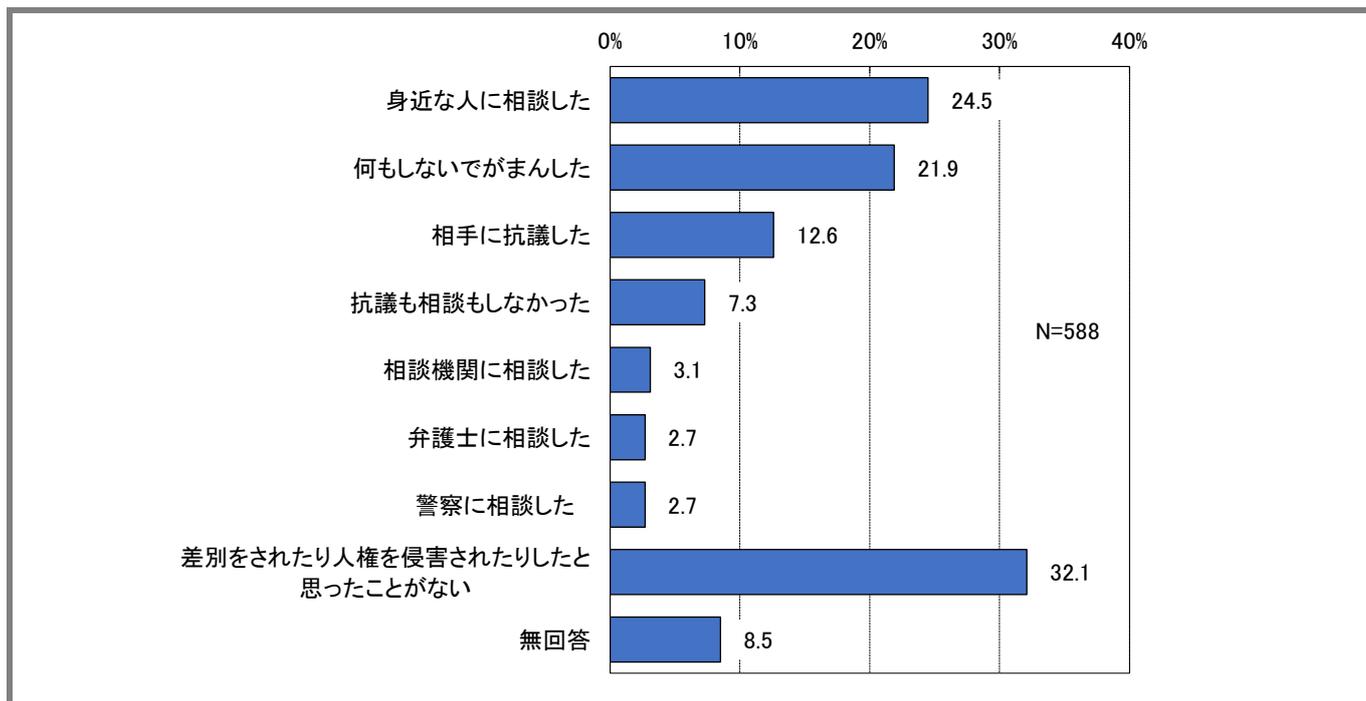
《年齢階層別クロス集計結果（上位10項目）》



《年齢階層別クロス集計結果（11位以下の項目）》

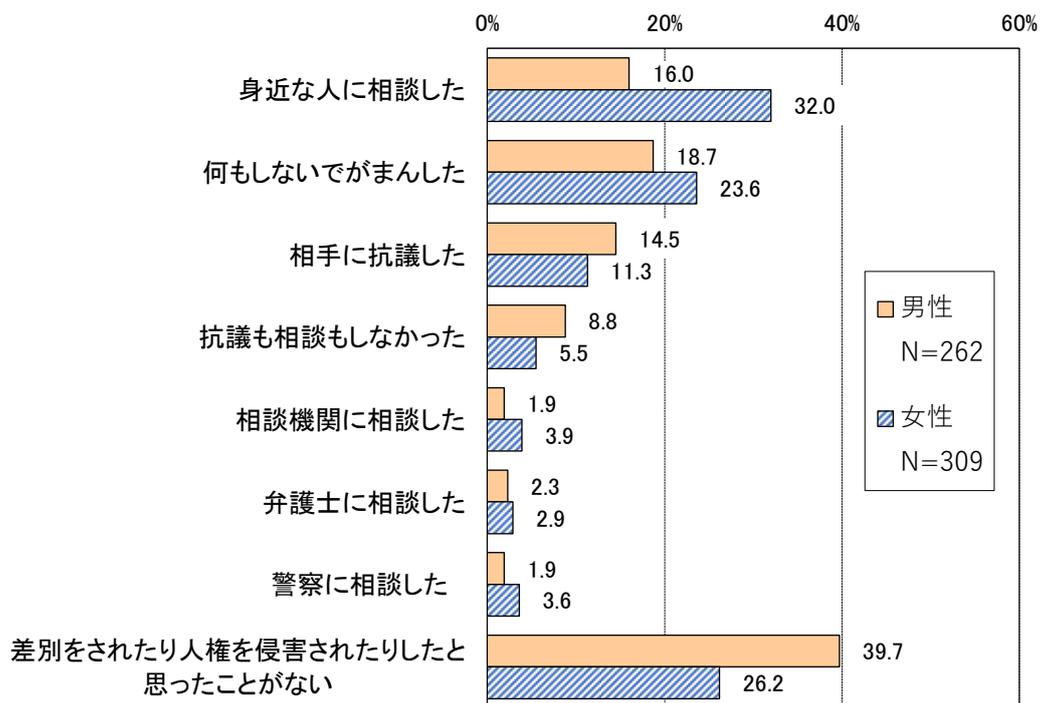


質問5 あなたは差別をされたり人権を侵害されたりしたときどのように対処しましたか。
(〇はいくつでも)

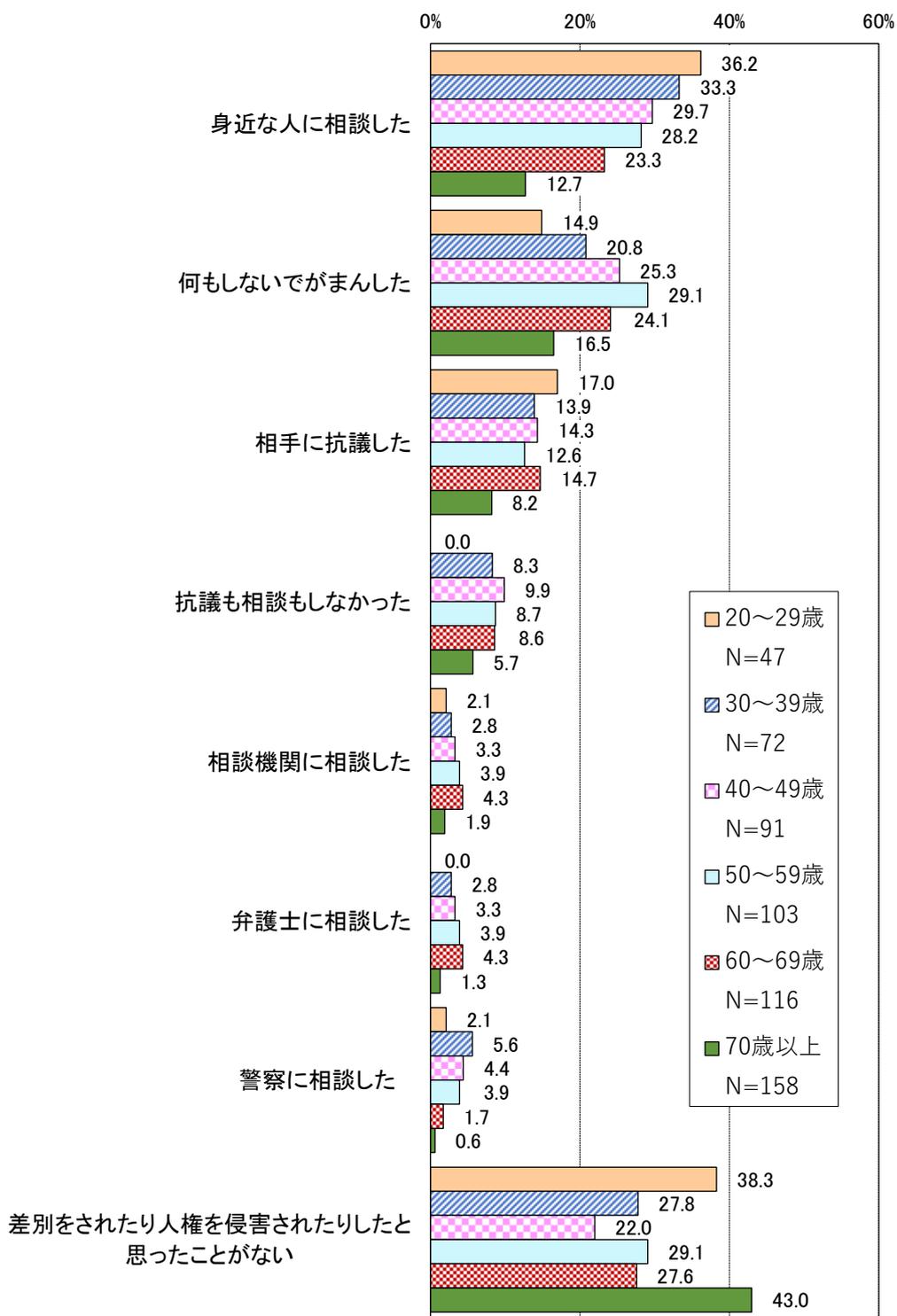


- 差別をされたり人権を侵害されたりしたときに対処法については、「身近な人に相談した」と回答した人の割合が 24.5%と最も高く、以下、「何もしないでがまんした」(21.9%)、「相手に抗議した」(12.6%)と続いている。
- 男女別に見ると、男性は女性に比べ、「差別をされたり人権を侵害されたりしたと思っただけ」という回答割合が高いこともあるが、「身近な人に相談した」の回答した人の割合は 16.0%と、女性(32.0%)の半分となっている(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ると、「身近な人に相談した」と回答した人の割合は年齢階層が高くなるにつれて低くなっており、50歳以上では「何もしないでがまんした」と回答した人の割合の方が高くなっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

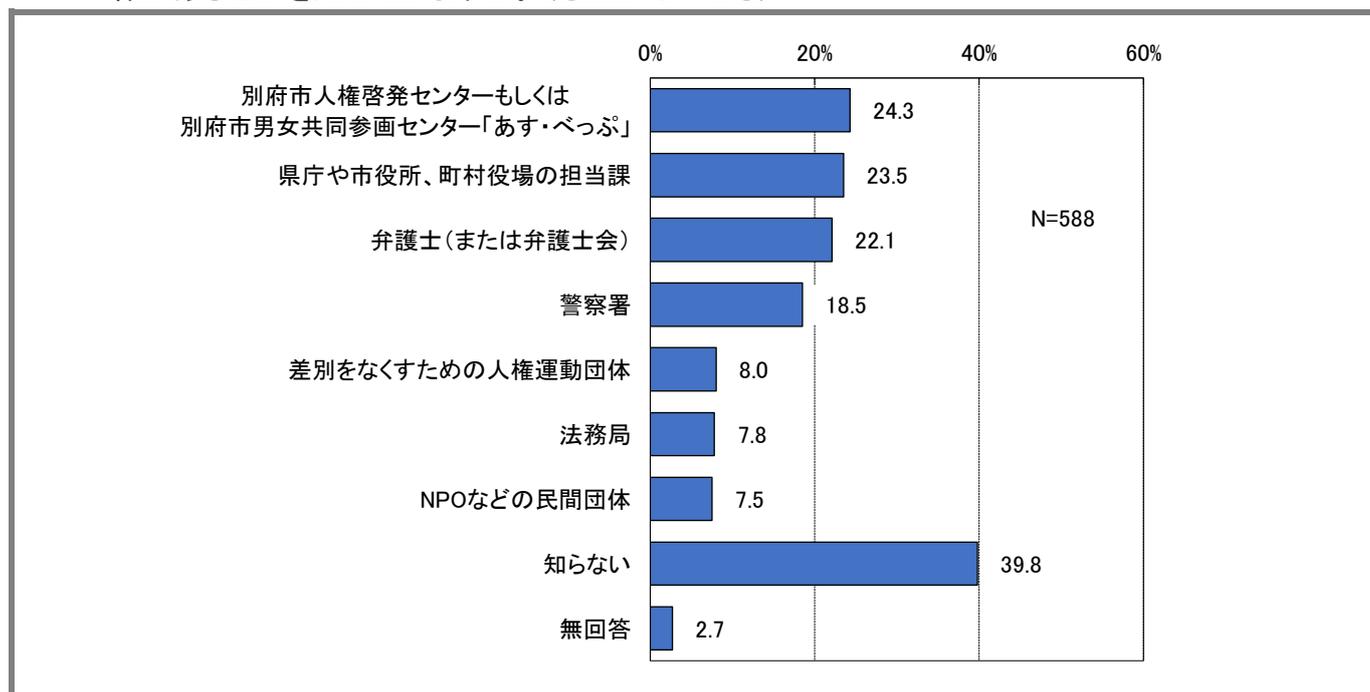
《男女別クロス集計結果》



《年齢階層別クロス集計結果》

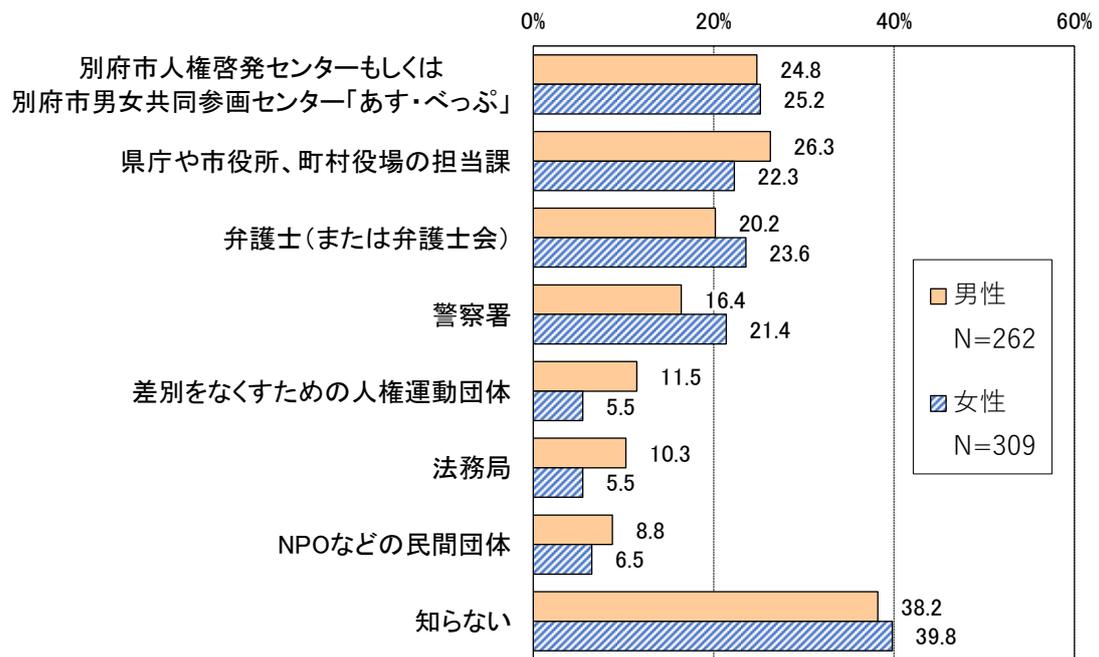


質問6 あなたは差別をされたり人権を侵害されたりしたと思った場合に相談できる機関（場所）や団体があることを知っていますか。（〇はいくつでも）

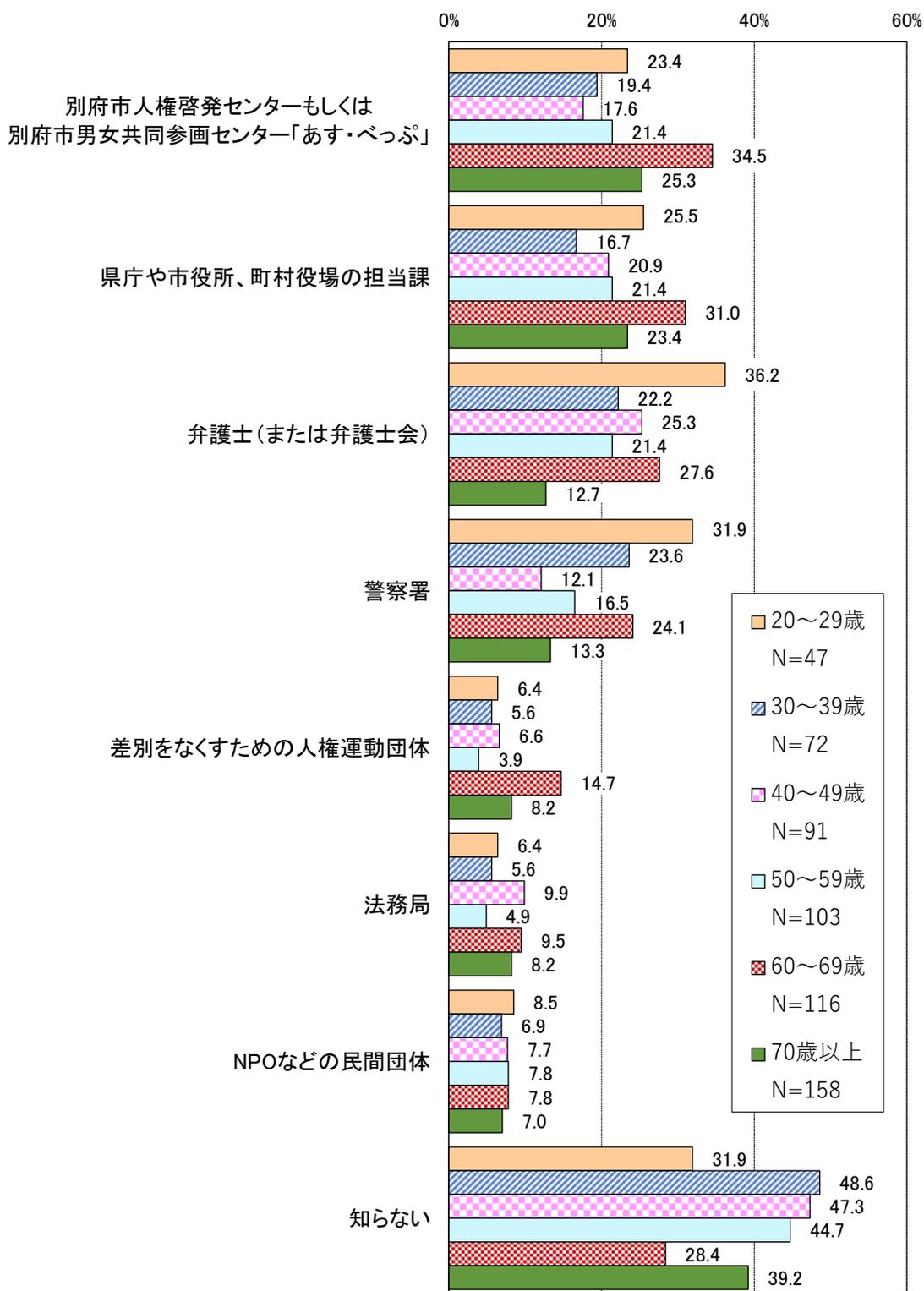


- 差別をされたり人権を侵害されたりしたと思った場合に相談できる機関（場所）や団体があることを「知らない」と回答した人の割合は 39.8%となっており、知っている相談できる機関（場所）や団体としては、「別府市人権啓発センターもしくは別府市男女共同参画センター「あす・べっぷ」」（24.3%）、「県庁や市役所、町村役場の担当課」（23.5%）、「弁護士（または弁護士会）」（22.1%）が上位にあがっている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られないが、「差別をなくすための人権運動団体」や「法務局」の認知度は男性に比べ女性の方が低くなっている（次ページの男女別クロス集計結果参照）。
- 年齢階層別に見ると、「知らない」と回答した人の割合が高かったのは「30～39歳」「40～49歳」「50～59歳」「70歳以上」で、「20～29歳」は「弁護士（または弁護士会）」、「60～69歳」は「別府市人権啓発センターもしくは別府市男女共同参画センター「あす・べっぷ」」の回答割合が最も高くなっている（次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照）。

《男女別クロス集計結果》

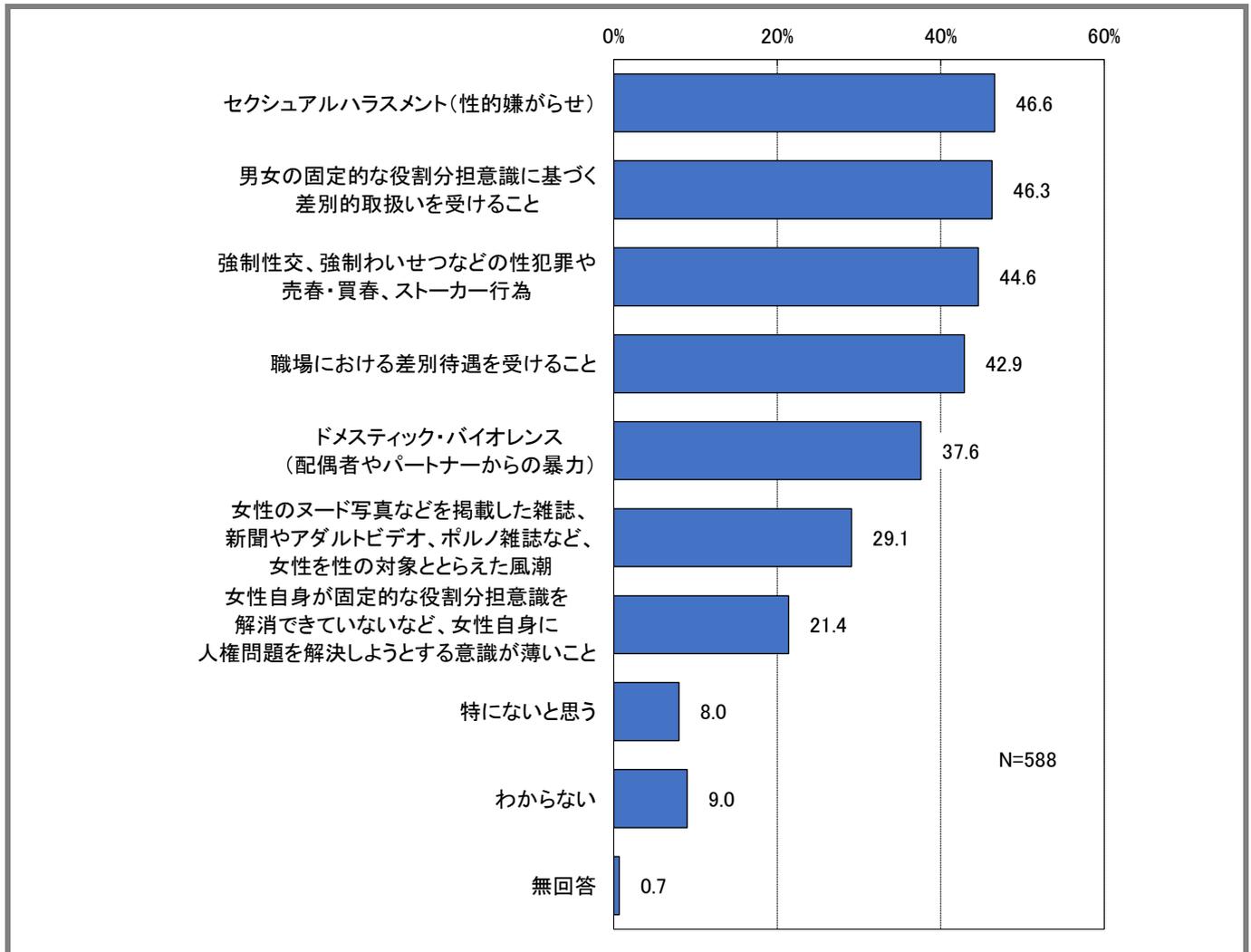


《年齢階層別クロス集計結果》



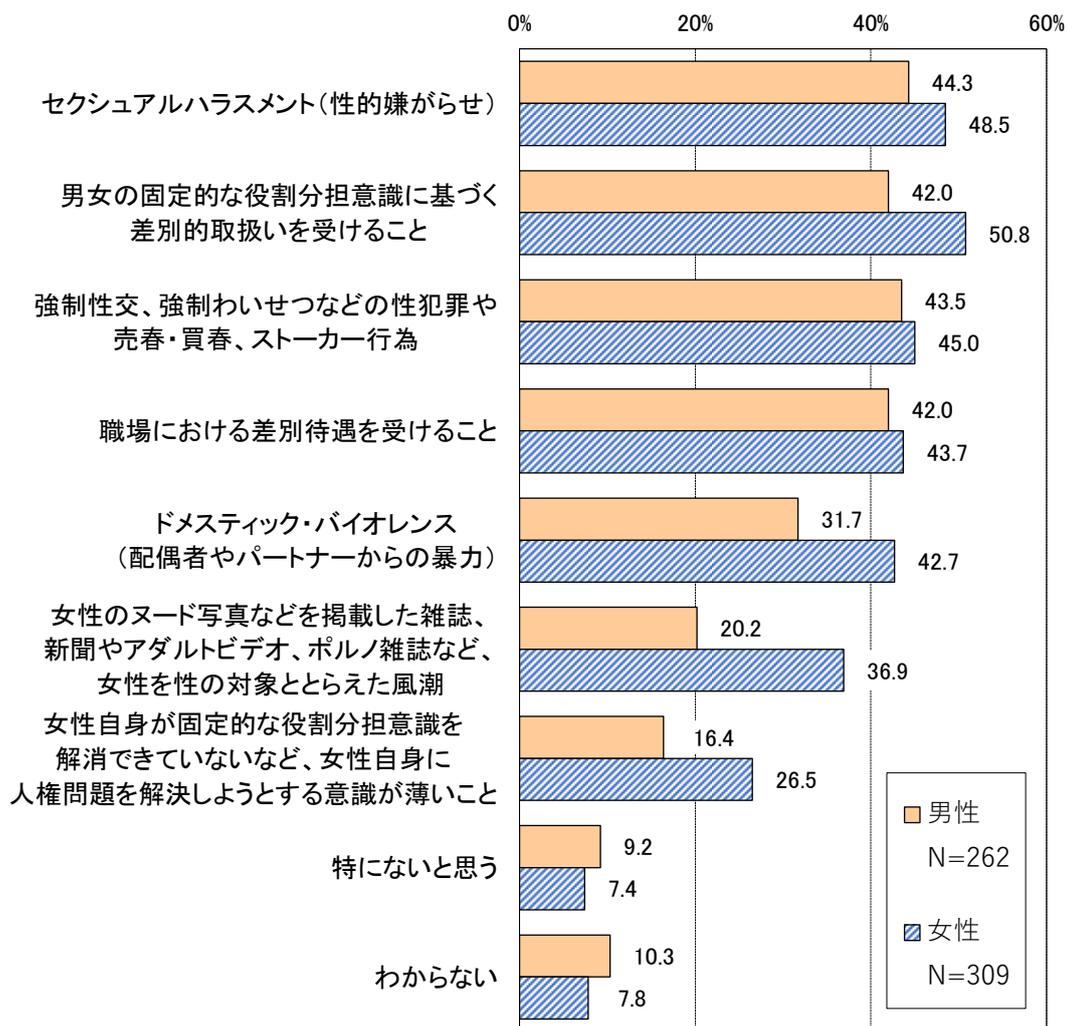
Ⅲ. 個別の人権問題について

質問7 あなたは女性に関することで現在どのような人権問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

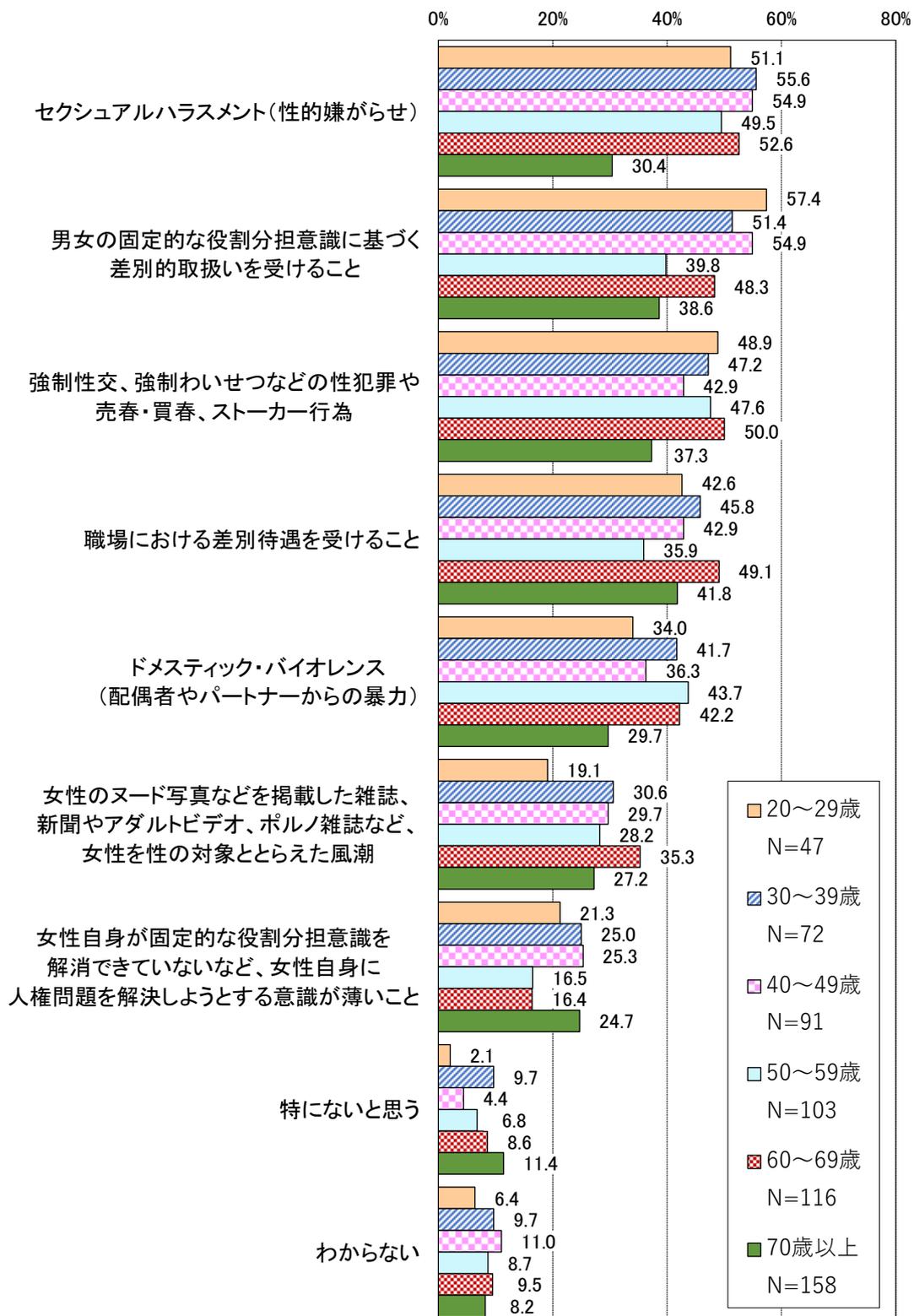


- 女性に関する人権問題については、「セクシュアルハラスメント(性的嫌がらせ)」(46.6%)や「男女の固定的な役割分担意識に基づく差別的取扱いを受けること」(46.3%)、「強制性交、強制わいせつなどの性犯罪や売春・買春、ストーカー行為」(44.6%)、「職場における差別待遇を受けること」(42.9%)が上位にあがっている。
- 男女別に見ると、「女性のヌード写真などを掲載した雑誌、新聞やアダルトビデオ、ポルノ雑誌など、女性を性の対象ととらえた風潮」や「ドメスティック・バイオレンス(配偶者やパートナーからの暴力)」、「女性自身が固定的な役割分担意識を解消できていないなど、女性自身に人権問題を解決しようとする意識が薄いこと」、「男女の固定的な役割分担意識に基づく差別的取扱いを受けること」については、男性に比べ女性の回答割合が高くなっている(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ると、「20～29歳」では「男女の固定的な役割分担意識に基づく差別的取扱いを受けること」、「30～39歳」では「セクシュアルハラスメント(性的嫌がらせ)」、「40～49歳」では「男女の固定的な役割分担意識に基づく差別的取扱いを受けること」と「セクシュアルハラスメント(性的嫌がらせ)」、「50～59歳」「60～69歳」では「セクシュアルハラスメント(性的嫌がらせ)」、「70歳以上」では「職場における差別待遇を受けること」がそれぞれ最も高い回答割合となっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

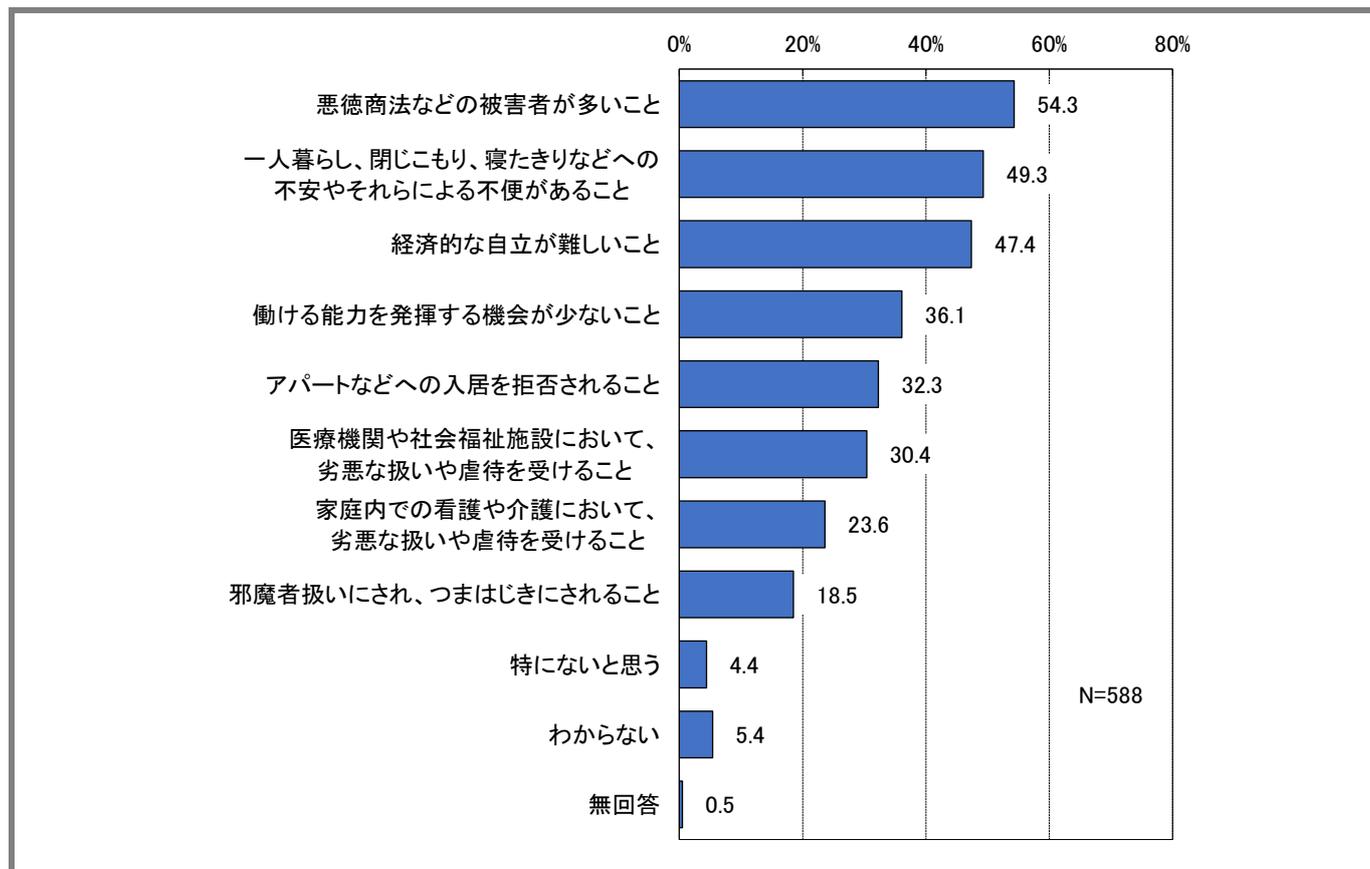
《男女別クロス集計結果》



《年齢階層別クロス集計結果》

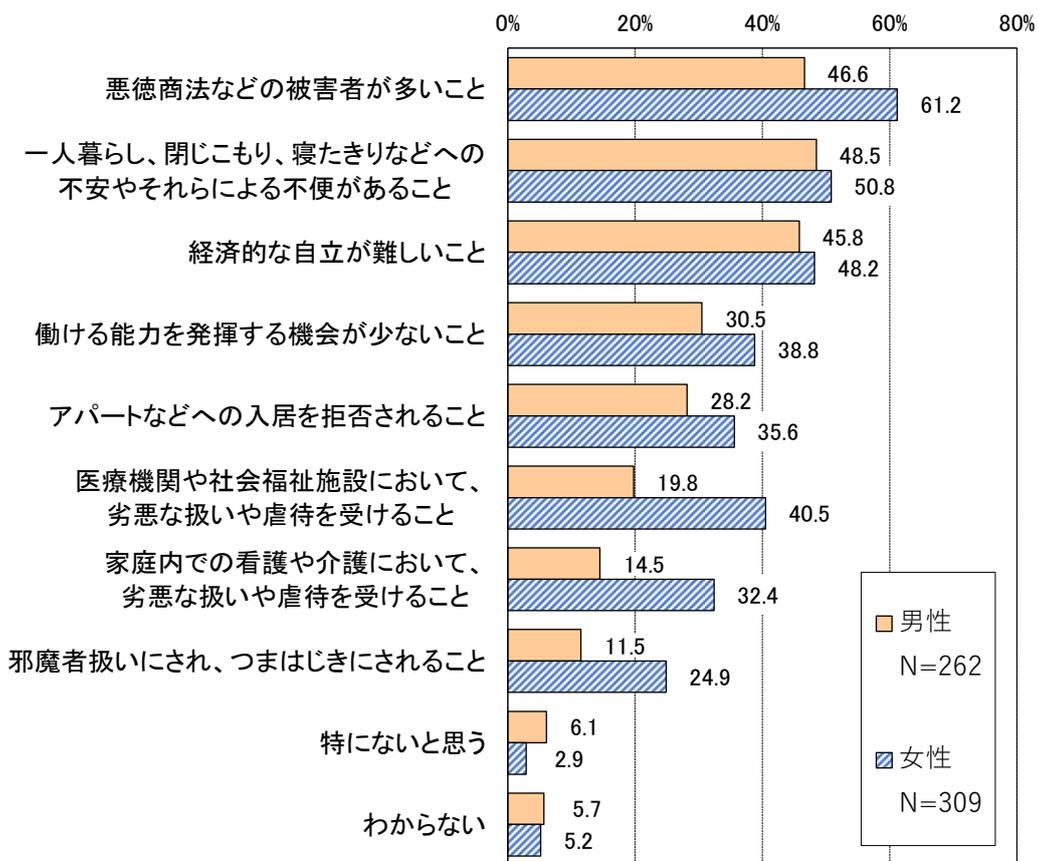


質問8 あなたは高齢者に関することで現在どのような人権問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

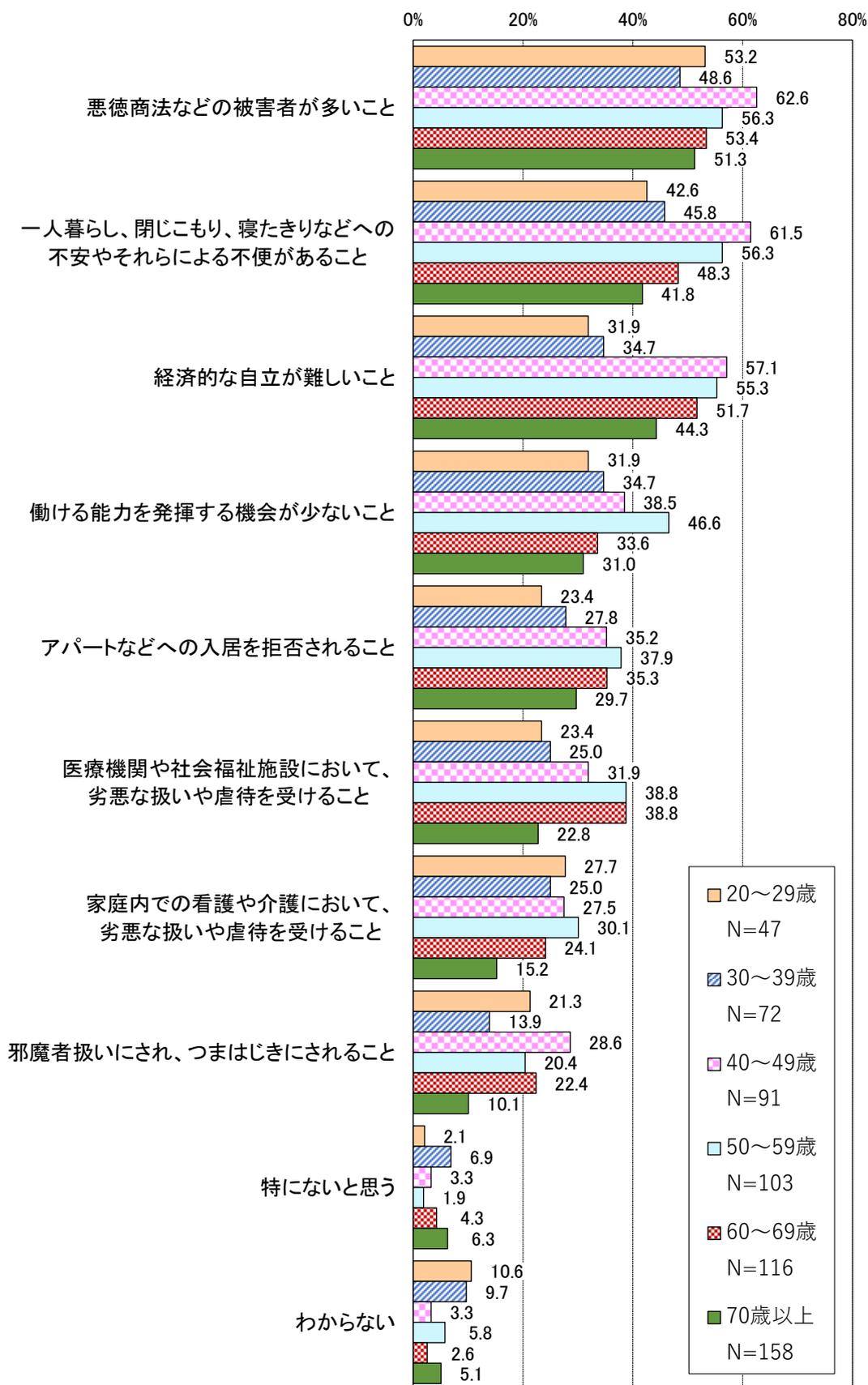


- 高齢者に関する人権問題については、「悪徳商法などの被害者が多いこと」を選択した人の割合が54.3%と最も高く、以下、「一人暮らし、閉じこもり、寝たきりなどへの不安やそれらによる不便があること」(49.3%)、「経済的な自立が難しいこと」(47.4%)、「働ける能力を発揮する機会が少ないこと」(36.1%)と続いている。
- 男女別に見ても上位3項目に差異は見られないが、女性では「医療機関や社会福祉施設において、劣悪な扱いや虐待を受けること」が4番目に高い割合となっており、男性の回答割合との差が目立っている(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ても上位3項目にあまり差異は見られないが、「20～29歳」「30～39歳」では「働ける能力を発揮する機会が少ないこと」が全体3位の「経済的な自立が難しいこと」と同率で並んでいる(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

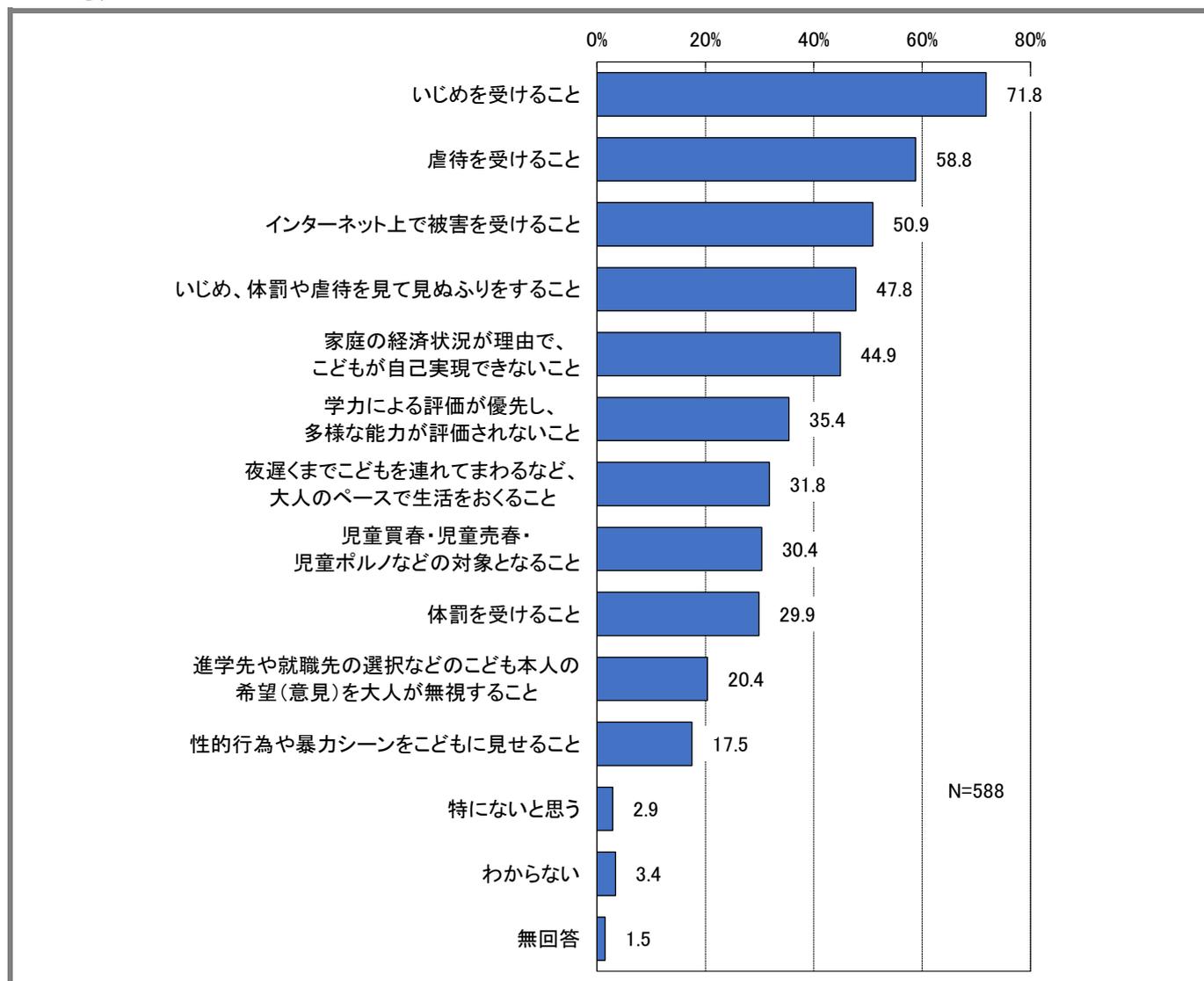
《男女別クロス集計結果》



《年齢階層別クロス集計結果》

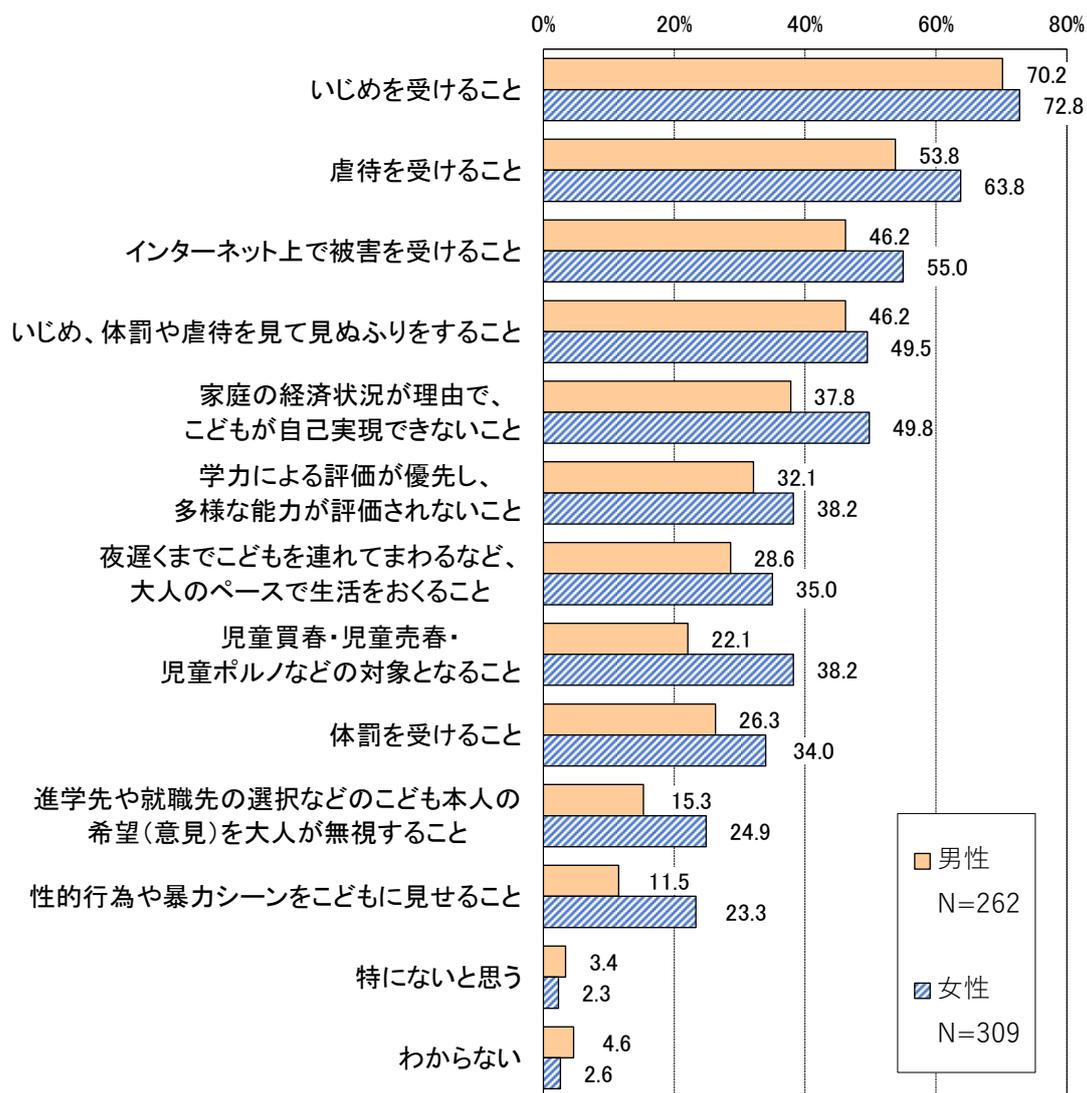


質問9 あなたはこどもに関することで現在どのような人権問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

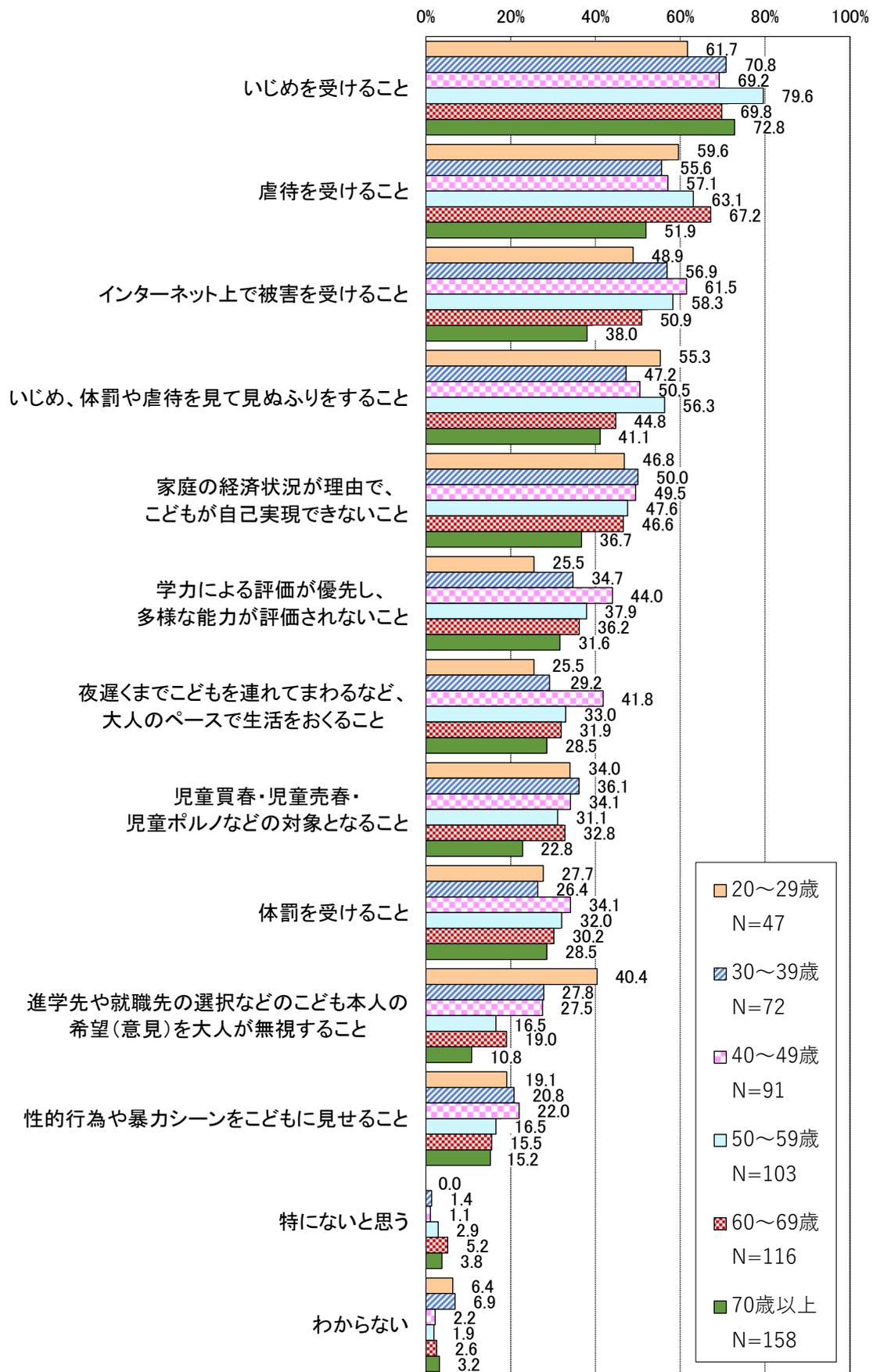


- こどもに関する人権問題については、「いじめを受けること」を選択した人の割合が71.8%と最も高く、以下、「虐待を受けること」(58.8%)、「インターネット上で被害を受けること」(50.9%)、「いじめ、体罰や虐待を見て見ぬふりをする事」(47.8%)、「家庭の経済状況が理由で、こどもが自己実現できないこと」(44.9%)がそれに続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られないが、すべての項目で男性に比べ女性の回答割合の方が高くなっている(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ても回答傾向に大きな差異は見られないが、「30～39歳」「40～49歳」では「虐待を受けること」よりも「インターネット上で被害を受けること」の方が回答割合が高く、「いじめを受けること」に次いで第2位となっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

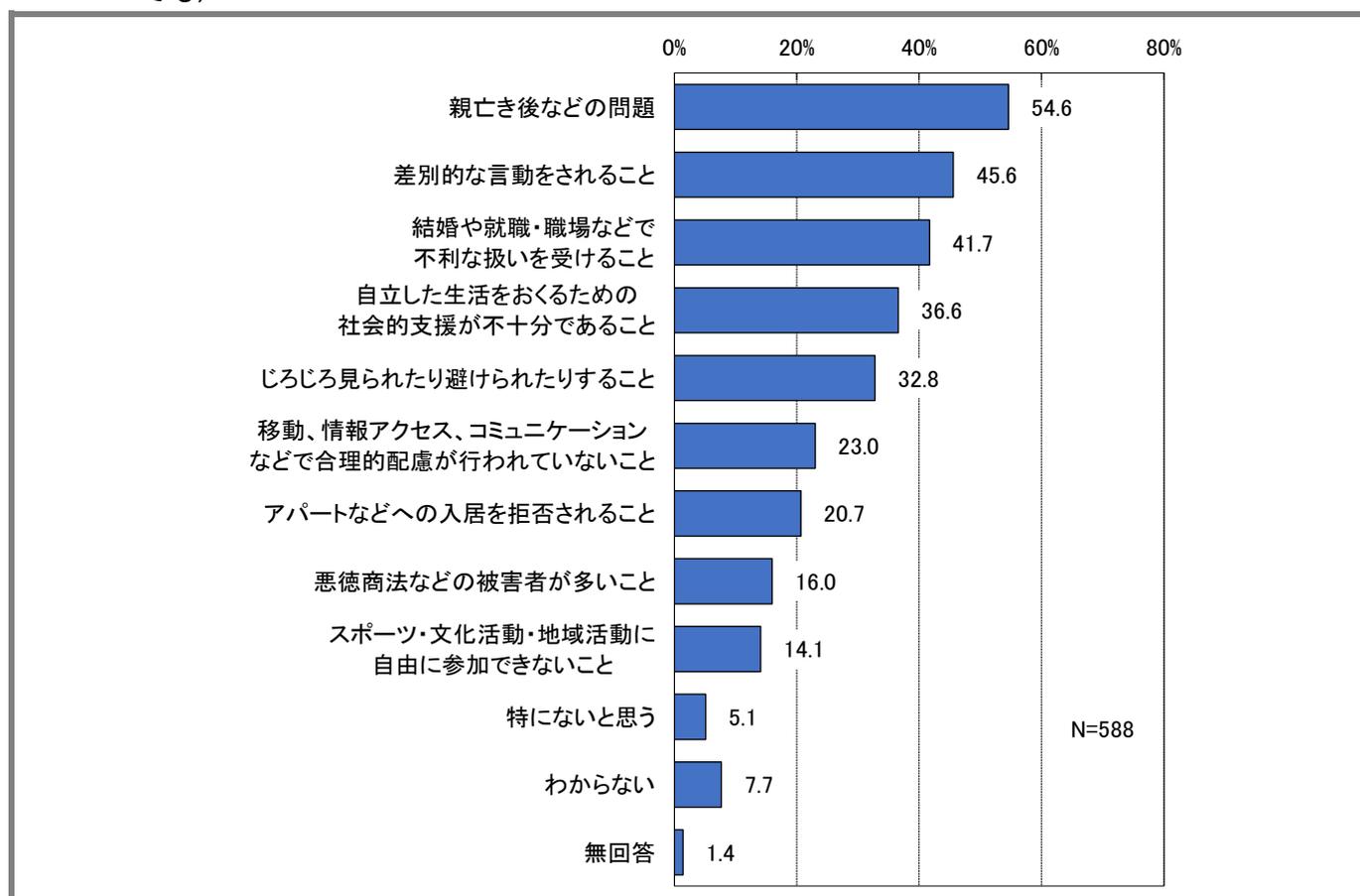
《男女別クロス集計結果》



《年齢階層別クロス集計結果》

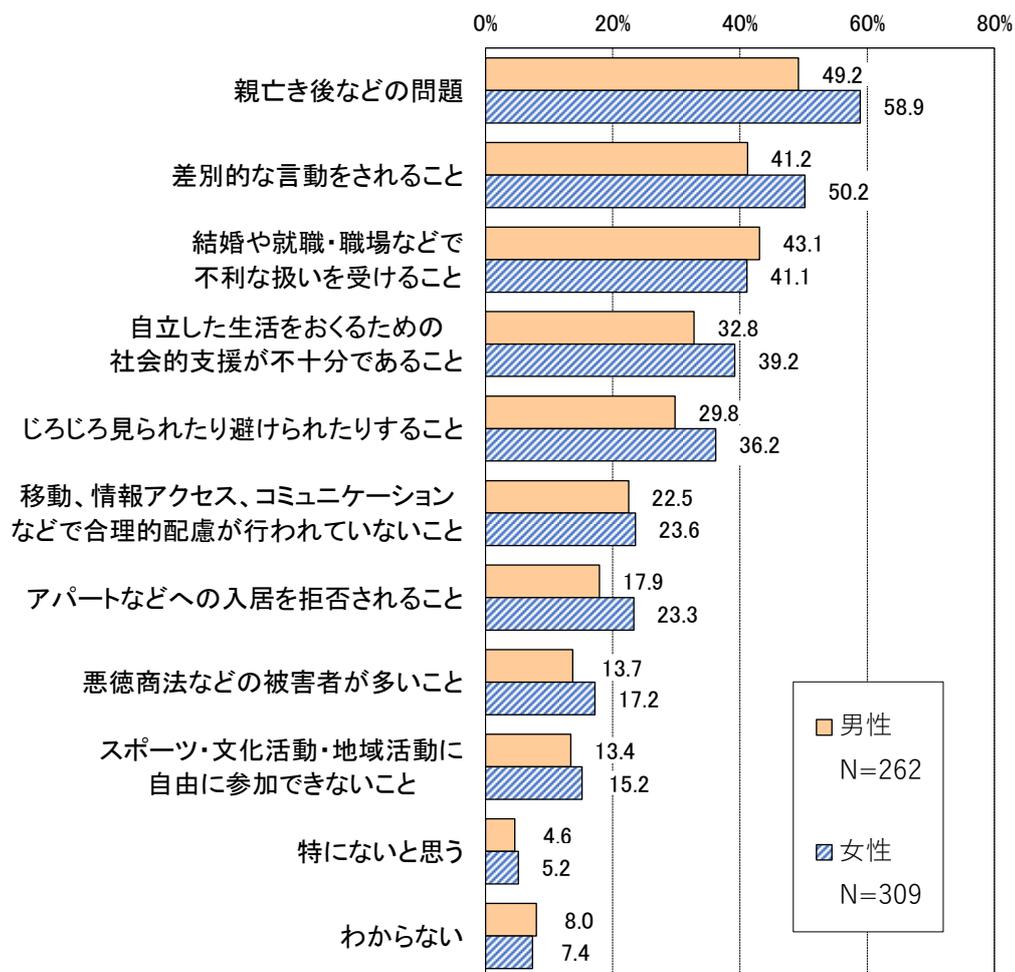


質問10 あなたは障がい者に関することで現在どのような人権問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

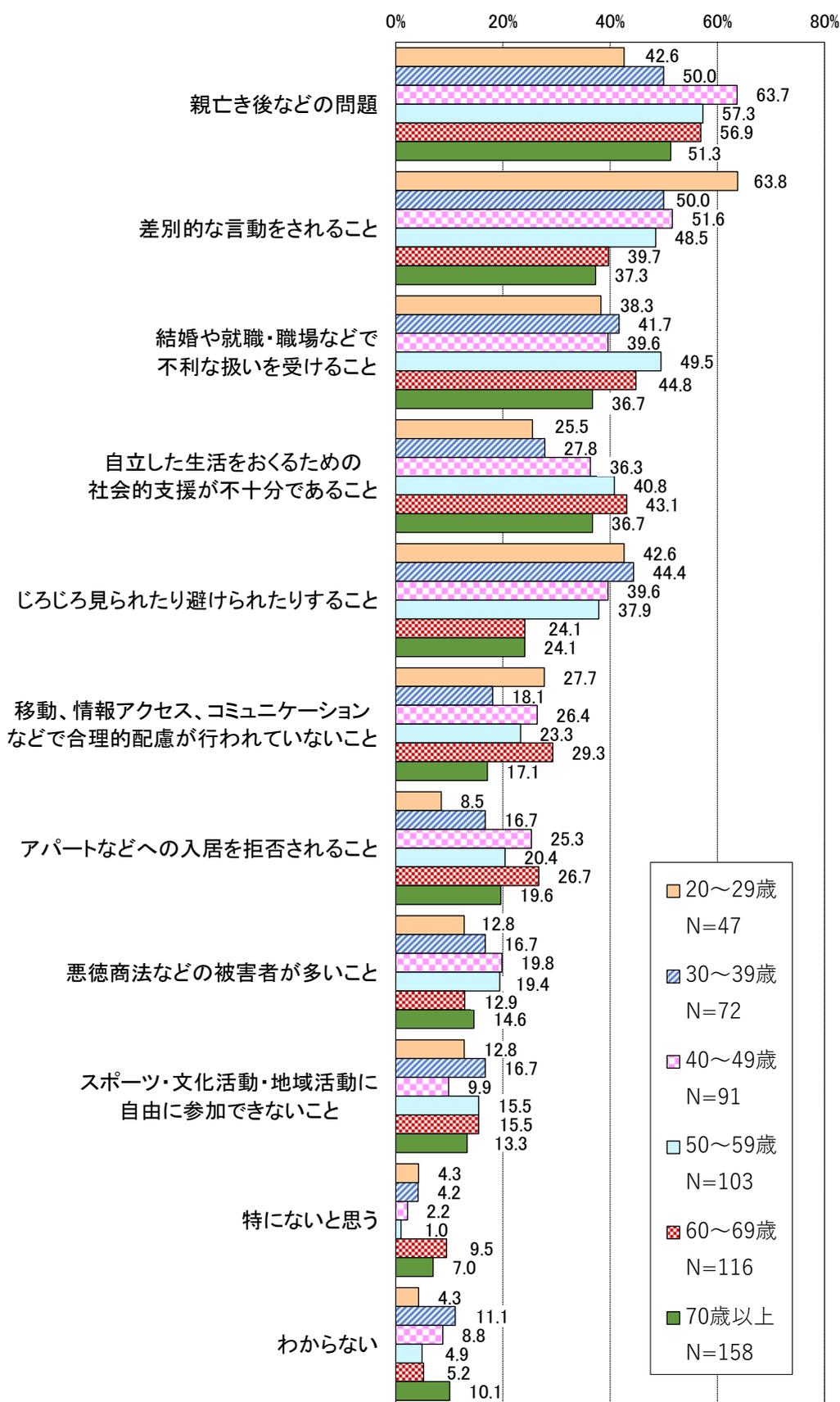


- 障がい者に関する人権問題については、「親亡き後などの問題」を選択した人の割合が54.6%と最も高く、以下、「差別的な言動をされること」(45.6%)、「結婚や就職・職場などで不利な扱いを受けること」(41.7%)、「自立した生活をおくるための社会的支援が不十分であること」(36.6%)、「じろじろ見られたり避けられたりすること」(32.8%)と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られない(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ても回答傾向に大きな差異は見られないが、「20～29歳」では「差別的な言動をされること」が最も高い回答割合となっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

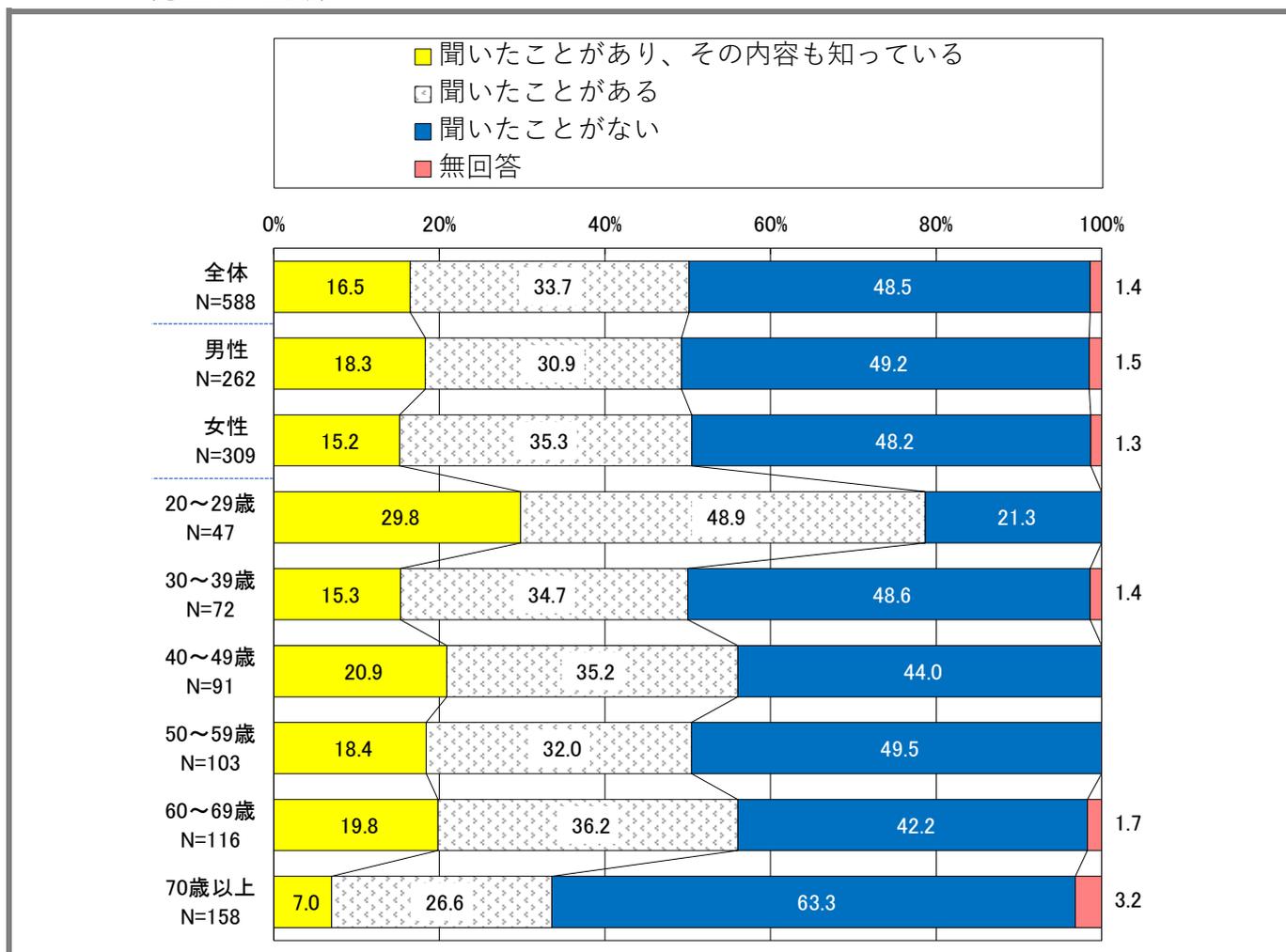
《男女別クロス集計結果》



《年齢階層別クロス集計結果》

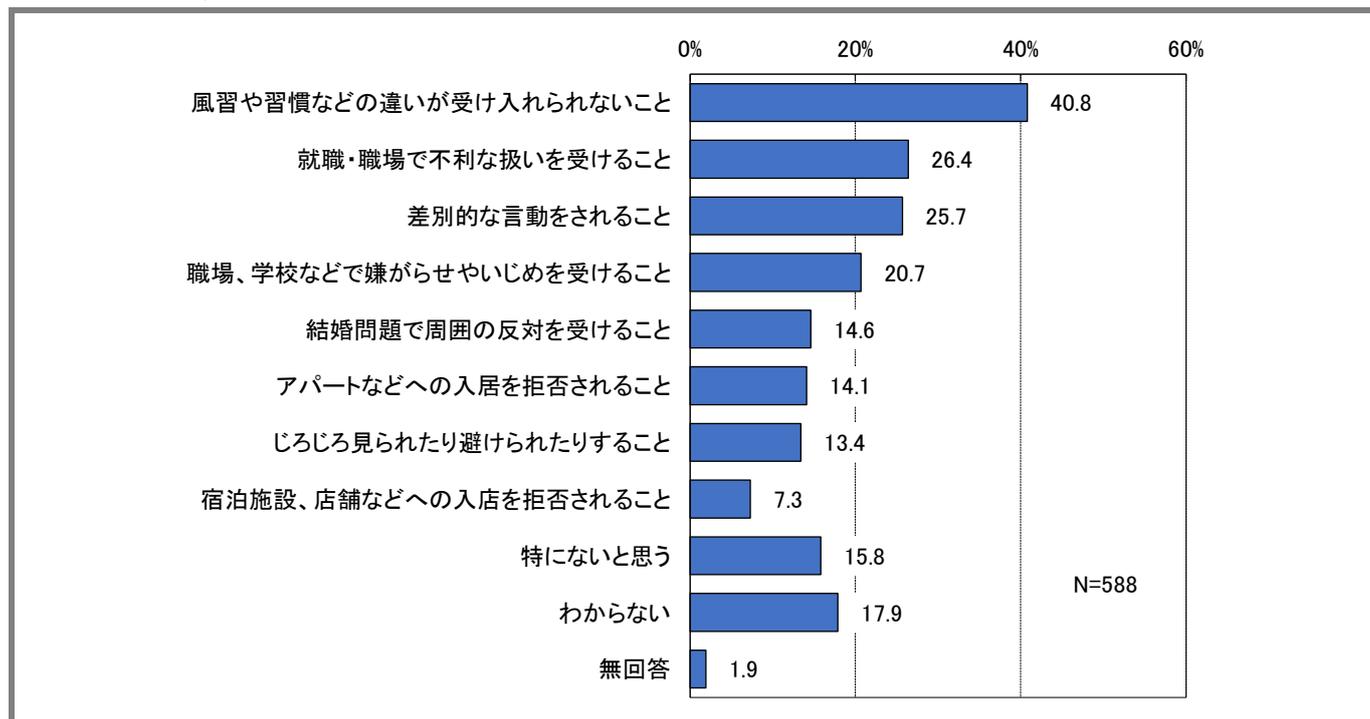


質問11 あなたは、障がいのある人に対する「合理的配慮」という言葉を聞いたことがありますか。
(○は1つだけ)



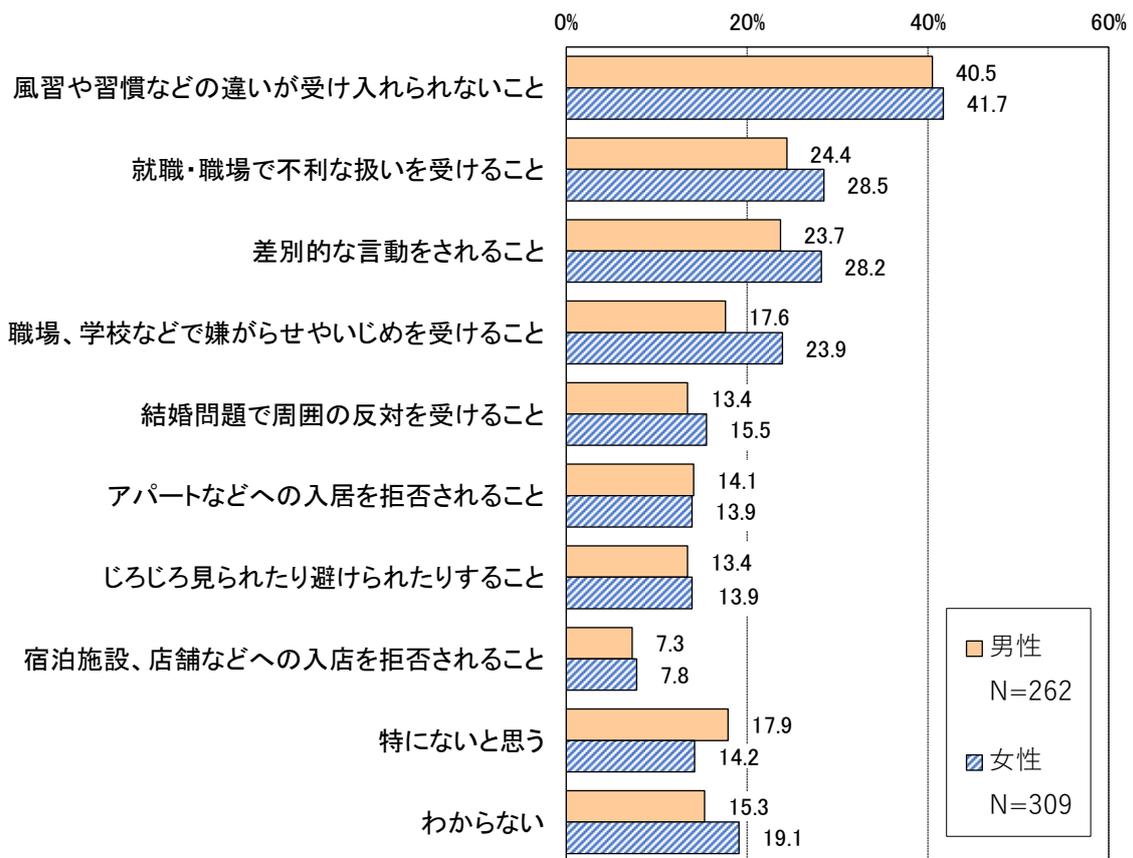
- 障がいのある人に対する「合理的配慮」という言葉を「聞いたことがあります、その内容も知っている」と回答した人の割合は全体の16.5%、「聞いたことがある」が33.7%、「聞いたことがない」が48.5%となっている。
- 男女別に見ると、「聞いたことがあります、その内容も知っている」と回答した人の割合は、女性(15.2%)より男性(18.3%)の方がやや高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、「聞いたことがあります、その内容も知っている」「聞いたことがある」とともに「20～29歳」の回答割合が最も高く、「聞いたことがない」は21.3%と少なくなっている。
- 一方、「聞いたことがない」と回答した人の割合が最も高かったのは「70歳以上」で、63.3%となっている。

質問12 あなたは日本に居住している外国人に関することで現在どのような人権問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

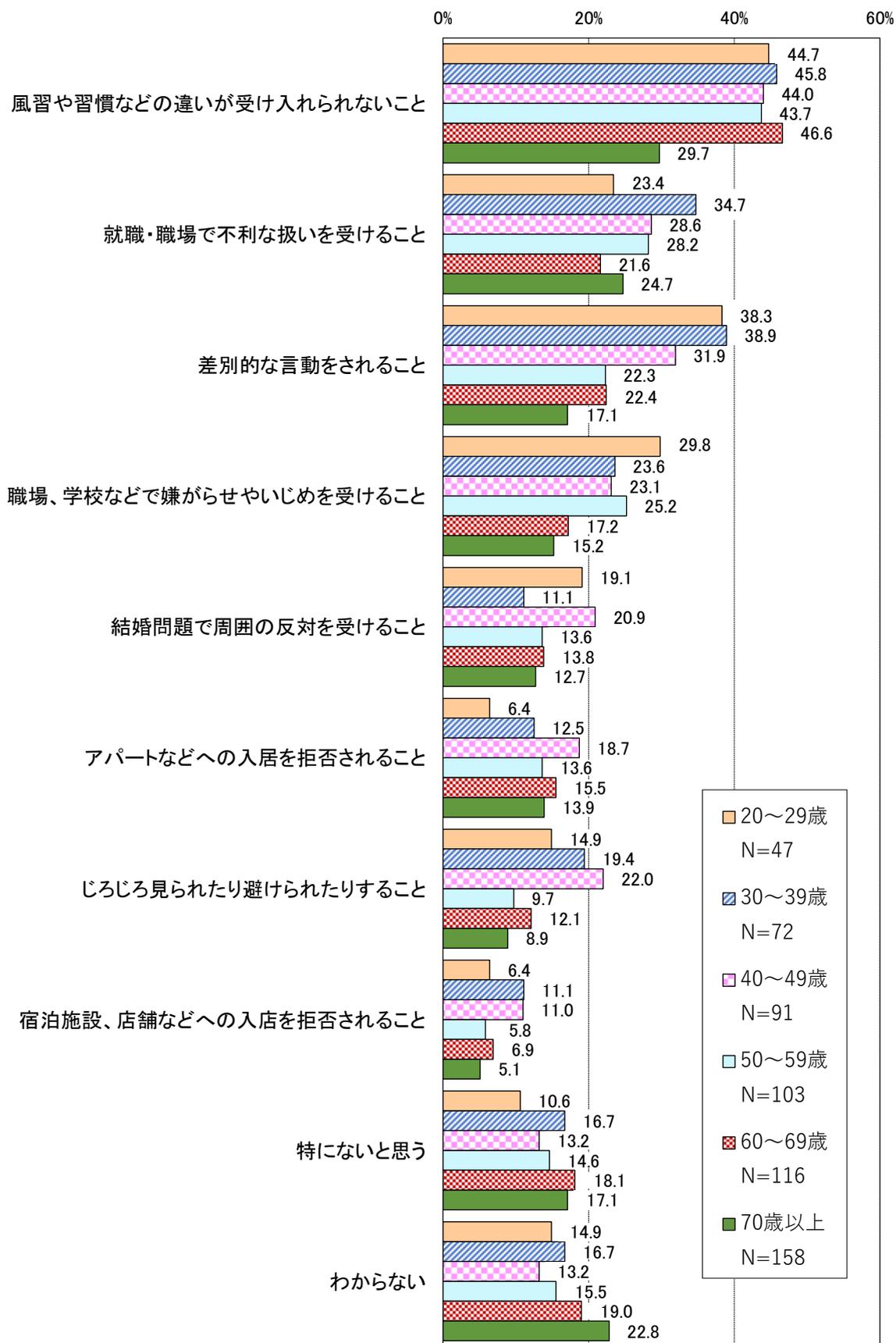


- 日本に居住している外国人に関する人権問題については、「風習や習慣などの違いが受け入れられないこと」を選択した人の割合が40.8%と最も高く、以下、「就職・職場で不利な扱いを受けること」(26.4%)、「差別的な言動をされること」(25.7%)、「職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること」(20.7%)と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られない(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ると、「風習や習慣などの違いが受け入れられないこと」はすべての年齢階層で最も回答割合が高くなっているが、「50～59歳」「70歳以上」以外は、「差別的な言動をされること」が「就職・職場で不利な扱いを受けること」より高い割合となっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

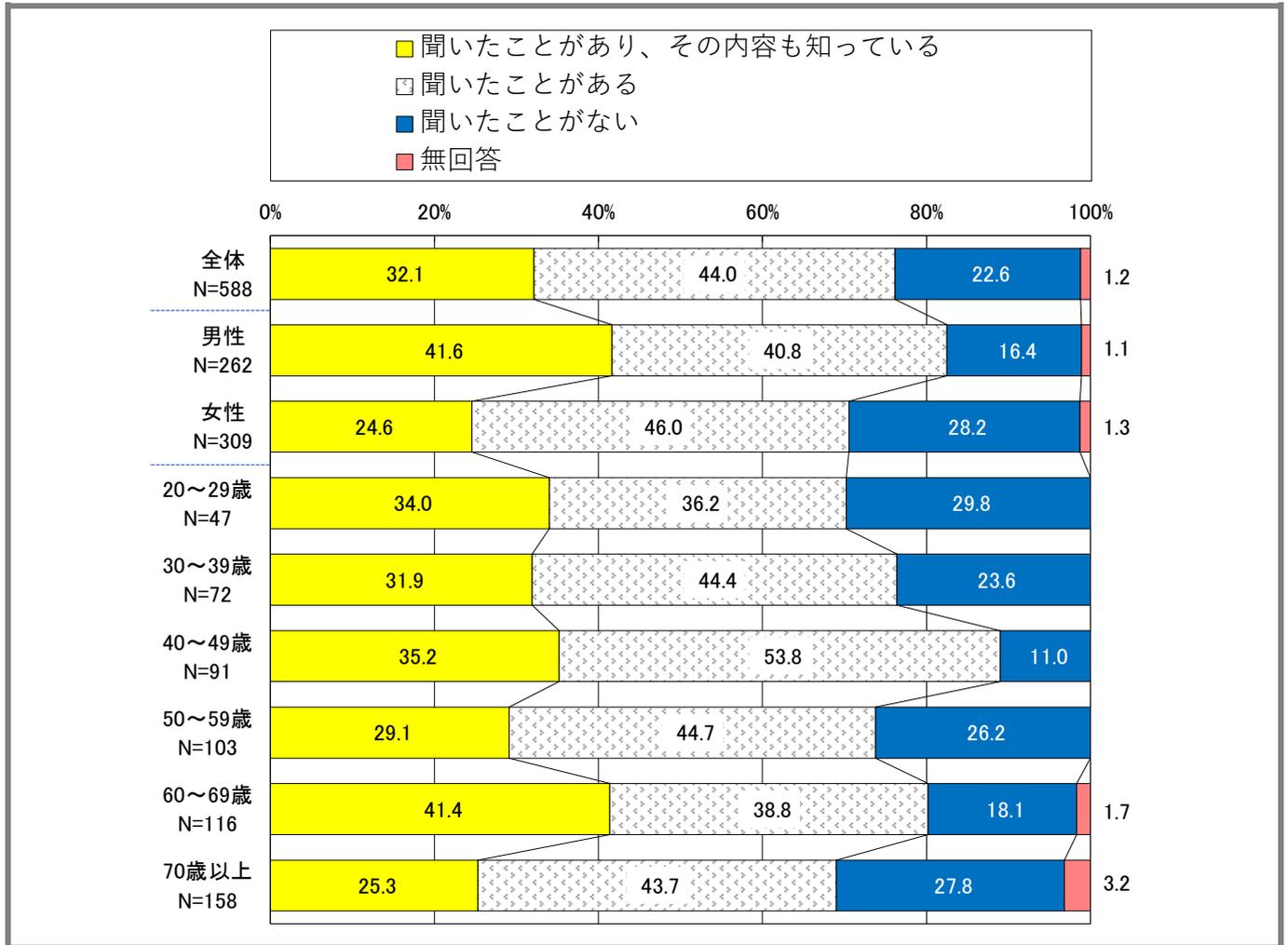
《男女別クロス集計結果》



《年齢階層別クロス集計結果》

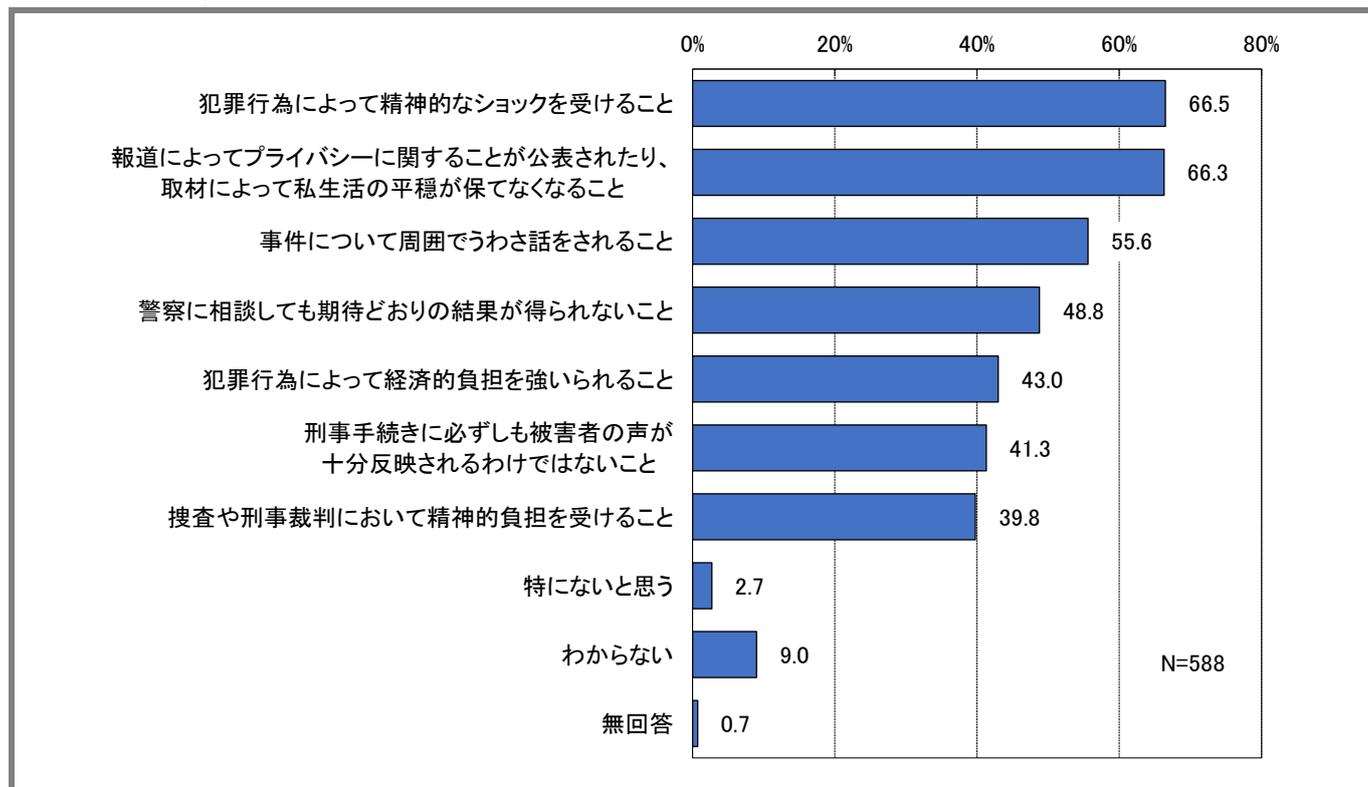


質問13 あなたは、「ヘイトスピーチ」という言葉を聞いたことがありますか。(〇は1つだけ)



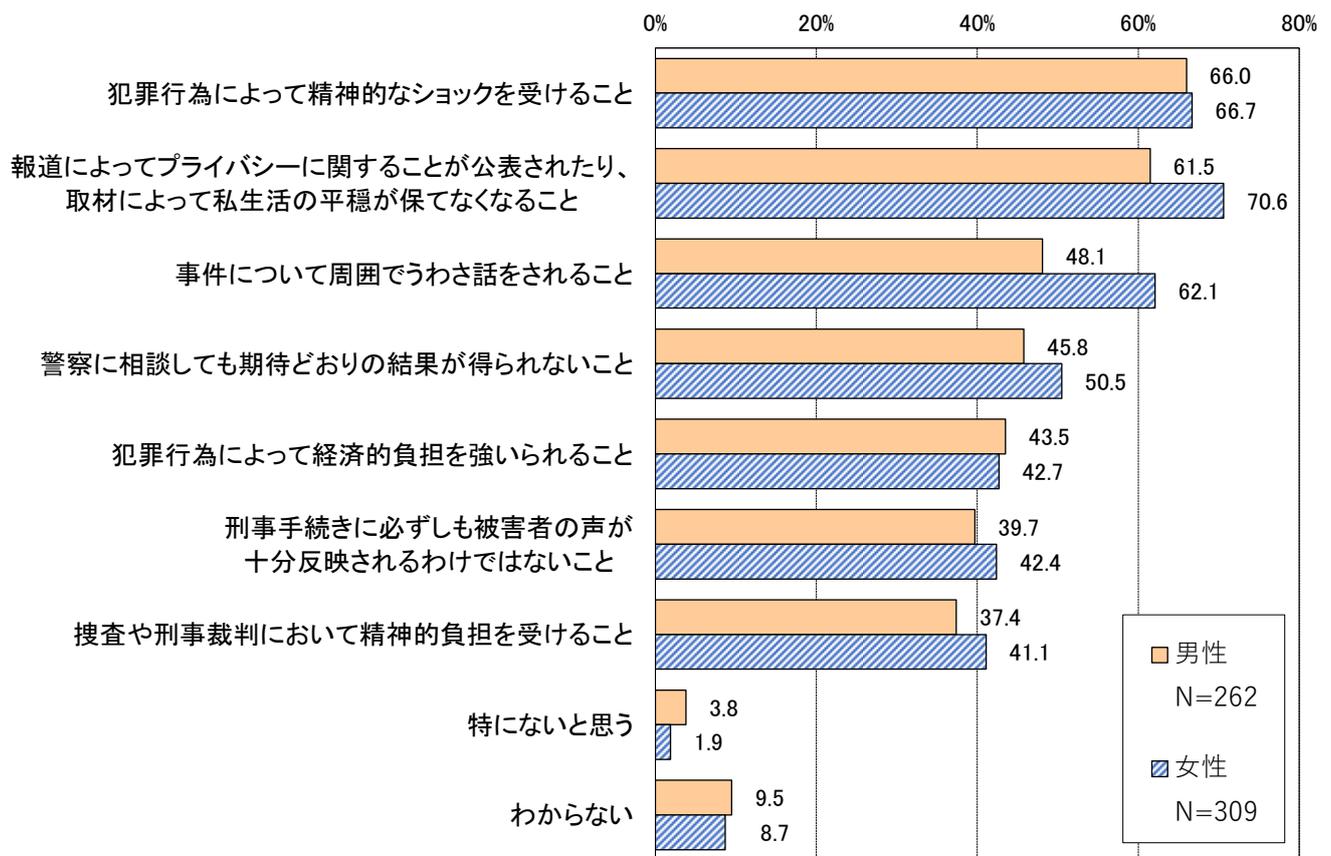
- 「ヘイトスピーチ」という言葉を「聞いたことがあります、その内容も知っている」と回答した人の割合は全体の32.1%、「聞いたことがある」が44.0%、「聞いたことがない」が22.6%となっている。
- 男女別に見ると、「聞いたことがあります、その内容も知っている」と回答した人の割合は、女性(24.6%)より男性(41.6%)の方が高く、「聞いたことがない」と答えた人の割合は女性の28.2%に対し男性は16.4%と11.8ポイント低くなっている。
- 年齢階層別に見ると、「聞いたことがあります、その内容も知っている」と回答した人の割合が最も高かったのは「60～69歳」(41.4%)、「聞いたことがない」と回答した人の割合が最も低かったのは「40～49歳」(11.0%)となっている。

質問14 あなたは犯罪被害者やその家族などに関することで現在どのような人権問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

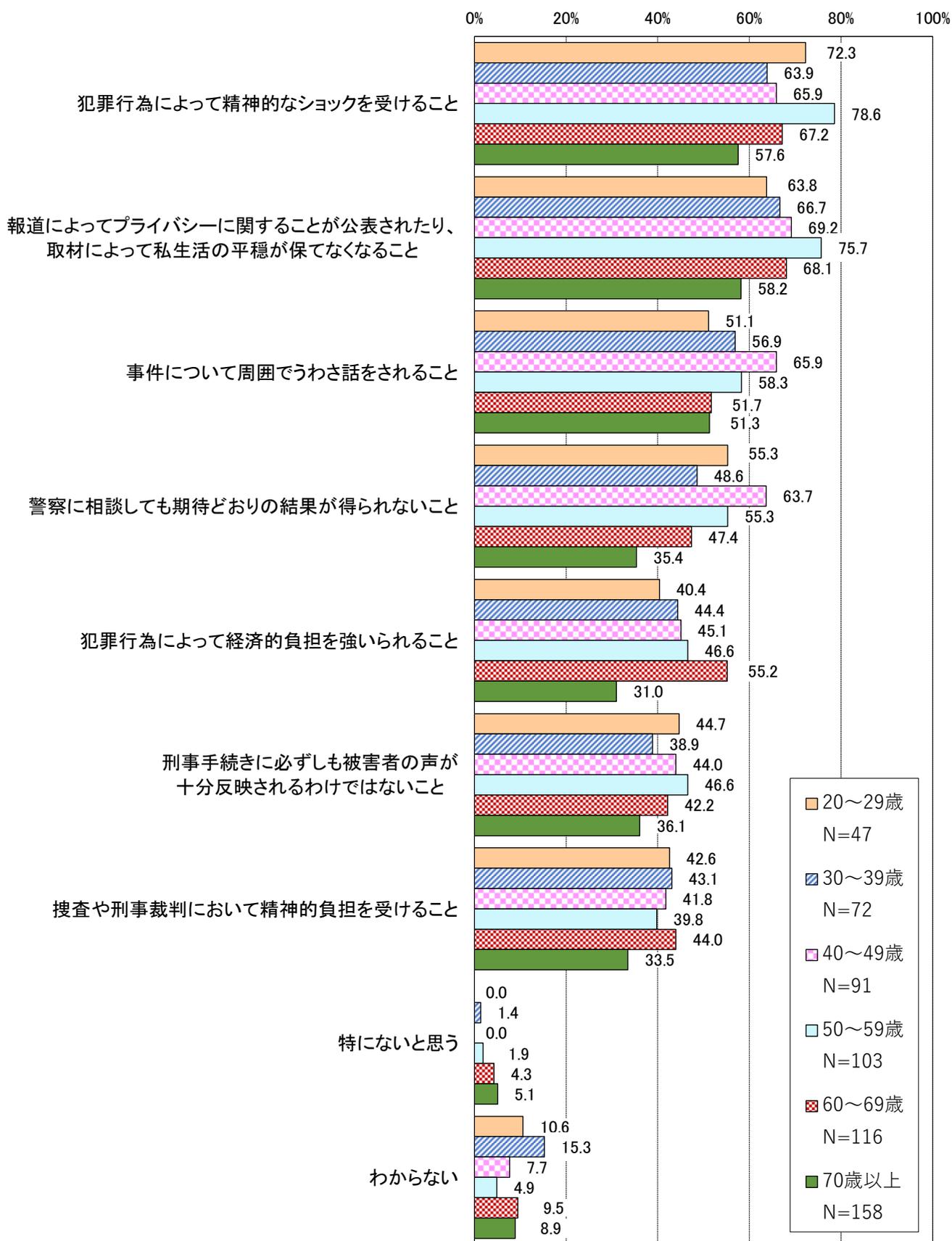


- 犯罪被害者やその家族などに関する人権上の問題については、「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」(66.5%)と「報道によってプライバシーに関する情報が公表されたり、取材によって私生活の平穩が保てなくなること」(66.3%)が上位にあがっており、以下、「事件について周囲でうわさ話をされること」(55.6%)、「警察に相談しても期待どおりの結果が得られないこと」(48.8%)と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られないが、「報道によってプライバシーに関する情報が公表されたり、取材によって私生活の平穩が保てなくなること」と「事件について周囲でうわさ話をされること」については男性に比べ女性の回答割合がかなり高くなっている(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ると、「20～29歳」と「50～59歳」以外は、「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」より「報道によってプライバシーに関する情報が公表されたり、取材によって私生活の平穩が保てなくなること」の方が回答割合が高くなっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

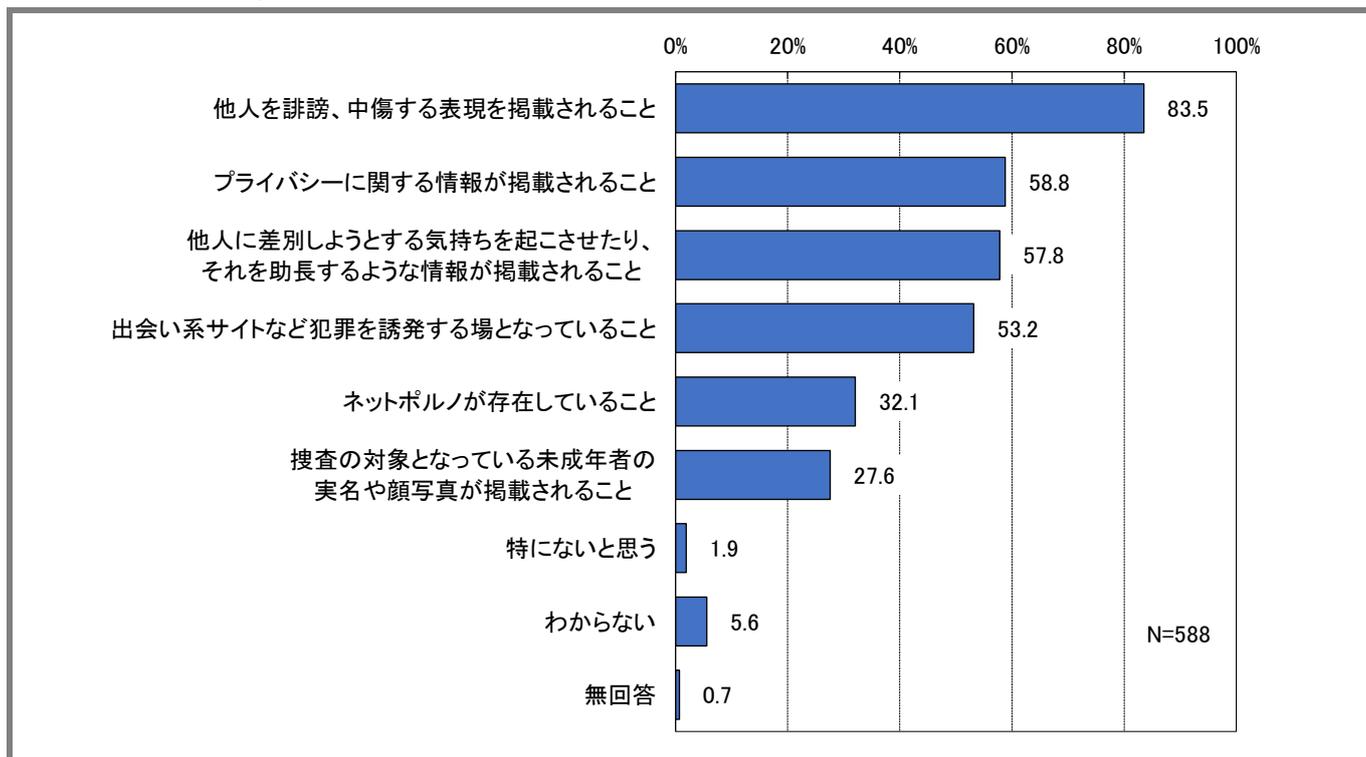
《男女別クロス集計結果》



《年齢階層別クロス集計結果》

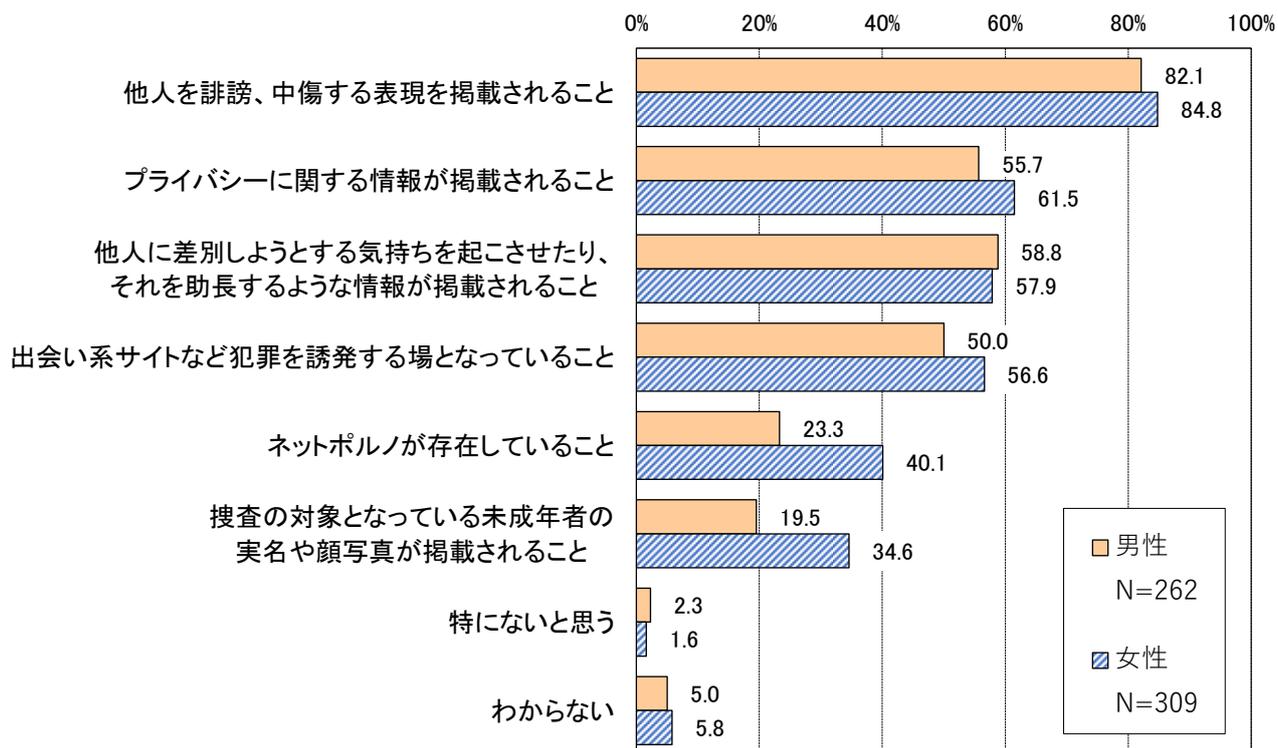


質問15 あなたはインターネットによる人権侵害に関することで現在どのような人権問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

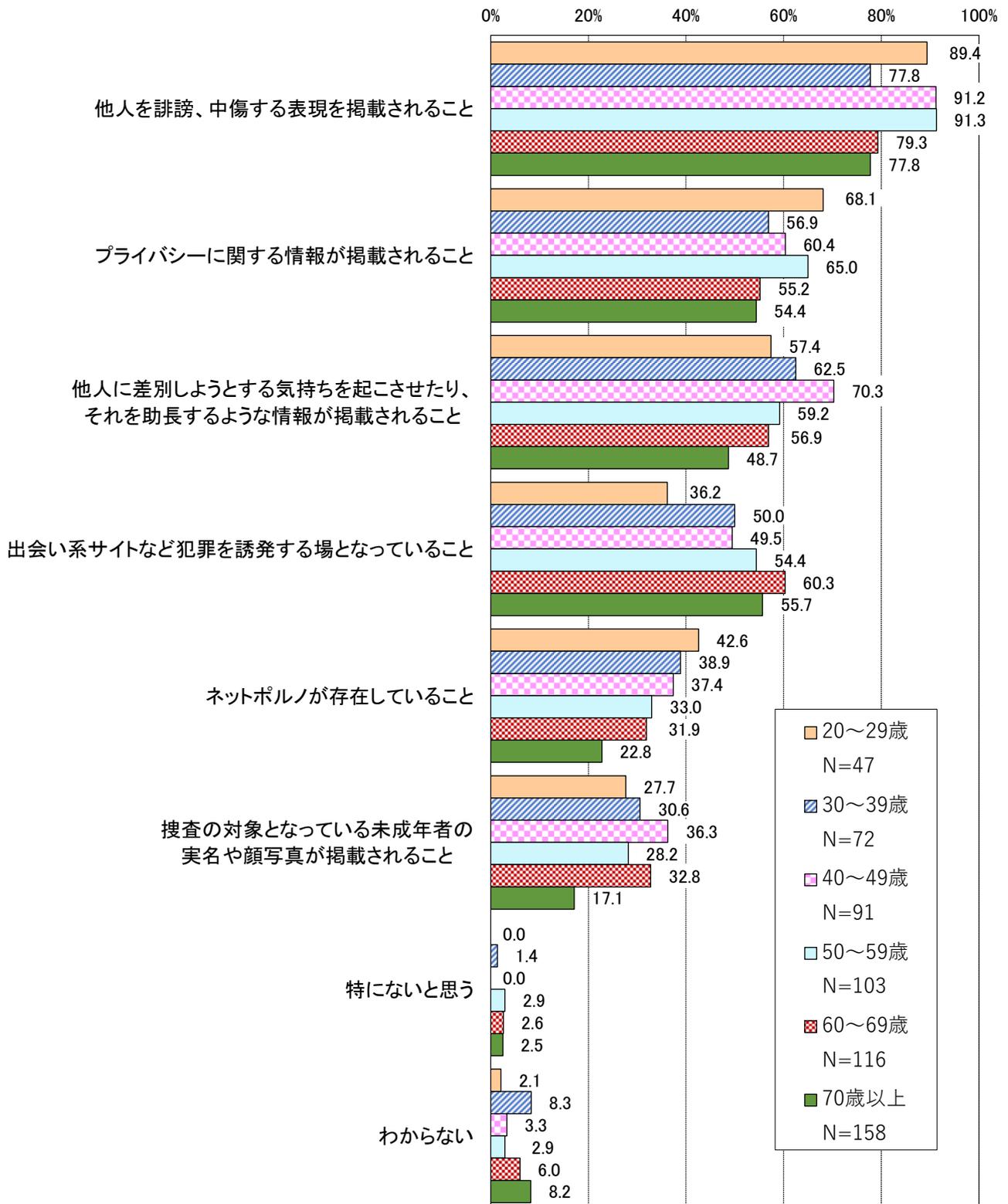


- インターネットによる人権侵害に関する人権問題については、「他人を誹謗、中傷する表現が掲載されること」を選択した人の割合が83.5%と最も高く、以下、「プライバシーに関する情報が掲載されること」(58.8%)、「他人に差別しようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること」(57.8%)、「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」(53.2%)と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られないが、「ネットポルノが存在していること」や「捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真が掲載されること」については、男性に比べ女性の回答割合がかなり高くなっている(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ると、「他人を誹謗、中傷する表現が掲載されること」はすべての年齢階層で最も回答割合が高くなっているが、「30～39歳」「40～49歳」「60～69歳」では、「プライバシーに関する情報が掲載されること」より「他人に差別しようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること」の方が高い割合となっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

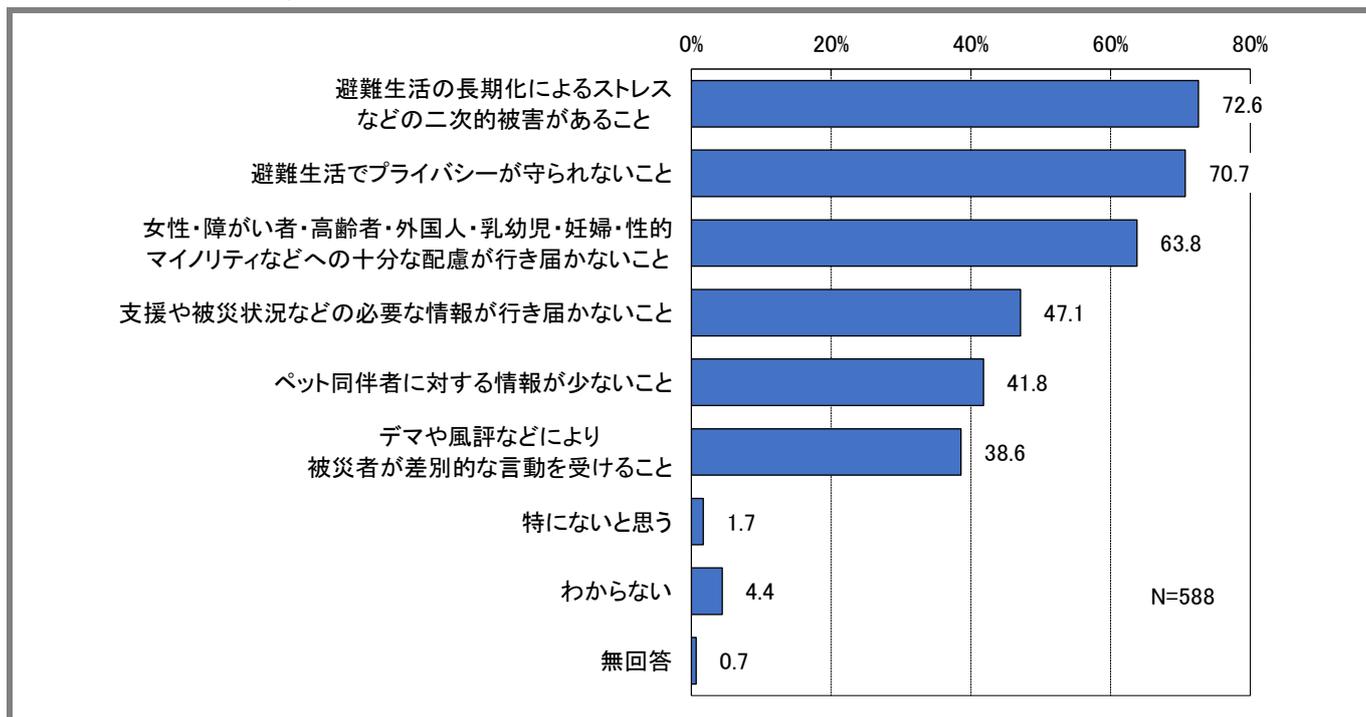
《男女別クロス集計結果》



《年齢階層別クロス集計結果》

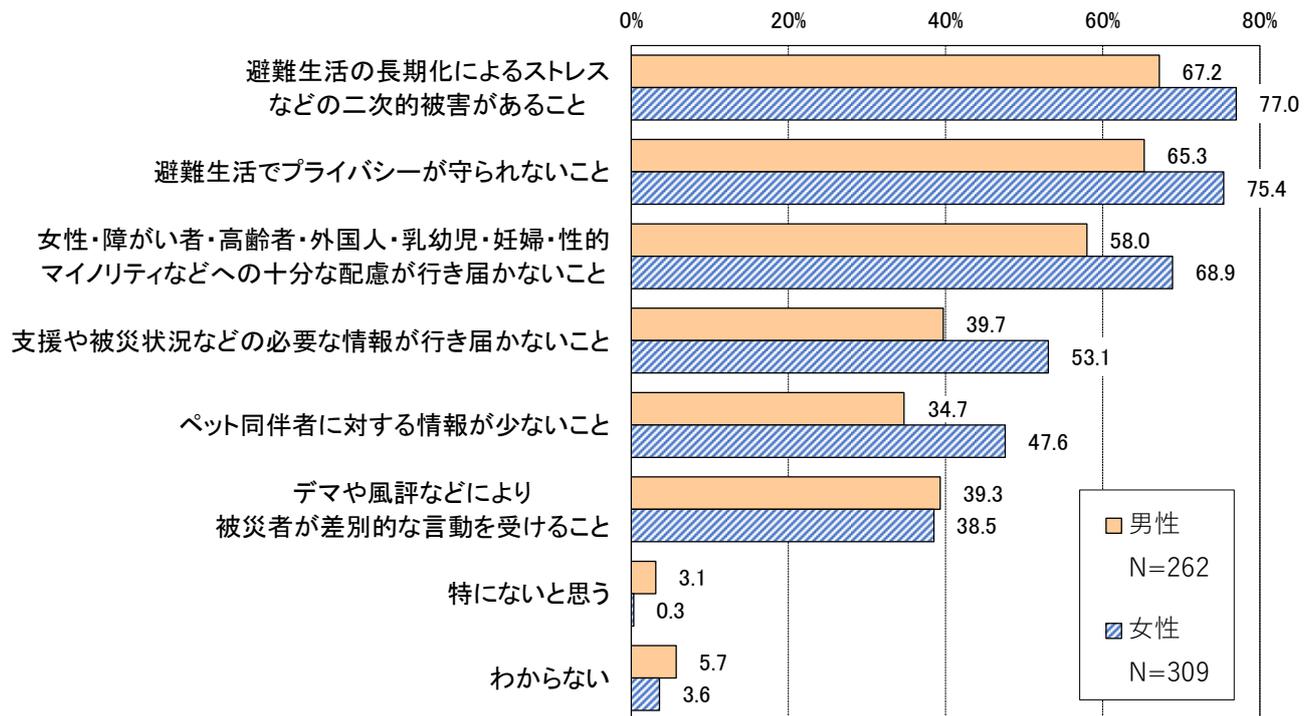


質問16 あなたは地震などの災害が発生した場合、避難所などにおいてどのような人権問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

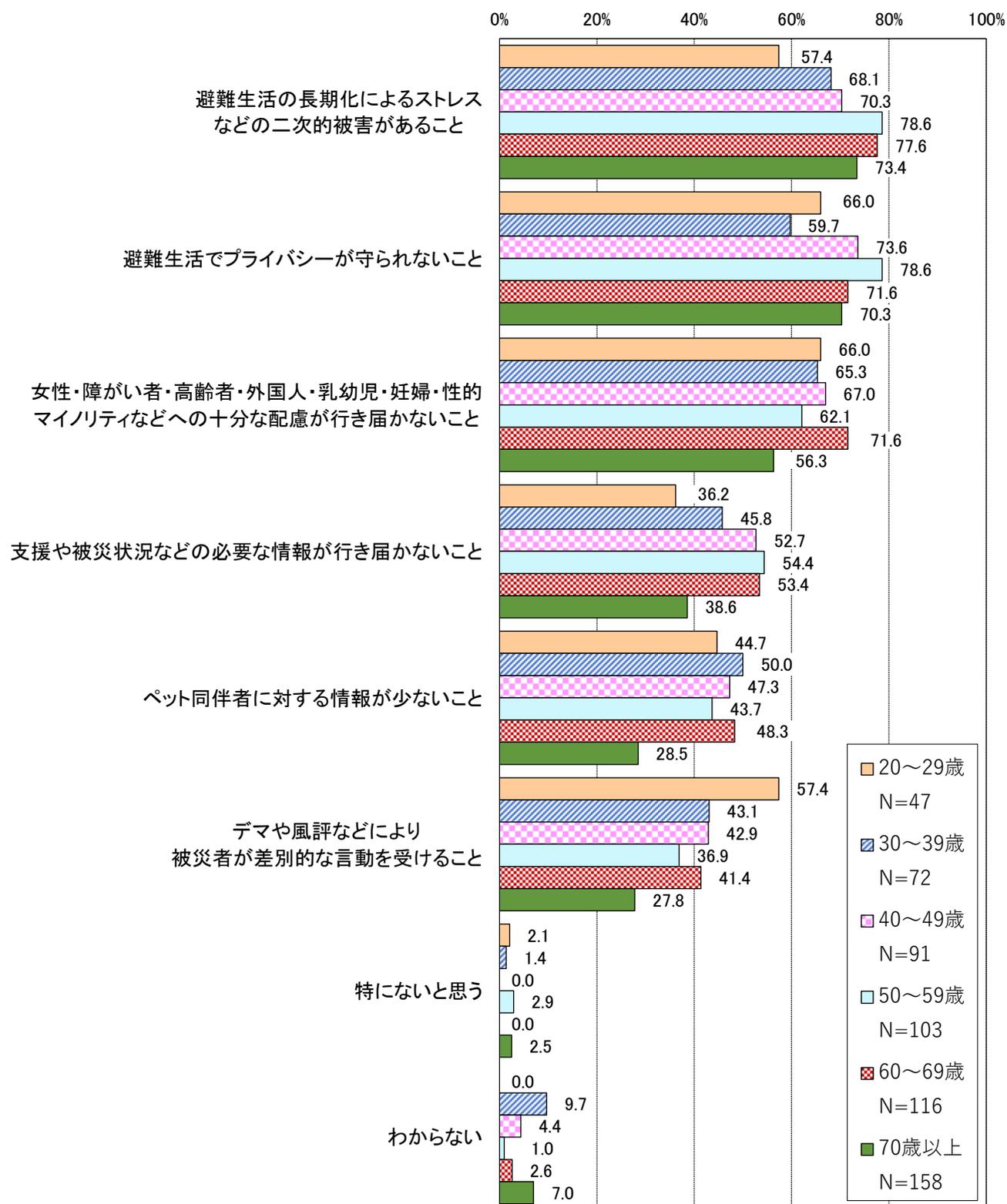


- 地震などの災害が発生した場合に避難所などにおいて起こる人権問題については、「避難生活の長期化によるストレスなどの二次的被害があること」を選択した人の割合が72.6と最も高く、以下、「避難生活でプライバシーが守られないこと」(70.7%)、「女性・障がい者・高齢者・外国人・乳幼児・妊婦・性的マイノリティなどへの十分な配慮が行き届かないこと」(63.8%)と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られないが、「デマや風評などにより被災者が差別的な言動を受けること」を除くすべての項目で、男性に比べ女性の回答割合がかなり高くなっている(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ても回答傾向に大きな差異は見られないが、「20～29歳」では「デマや風評などにより被災者が差別的な言動を受けること」を選択した人の割合が他の年齢階層に比べ高く、第4位となっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

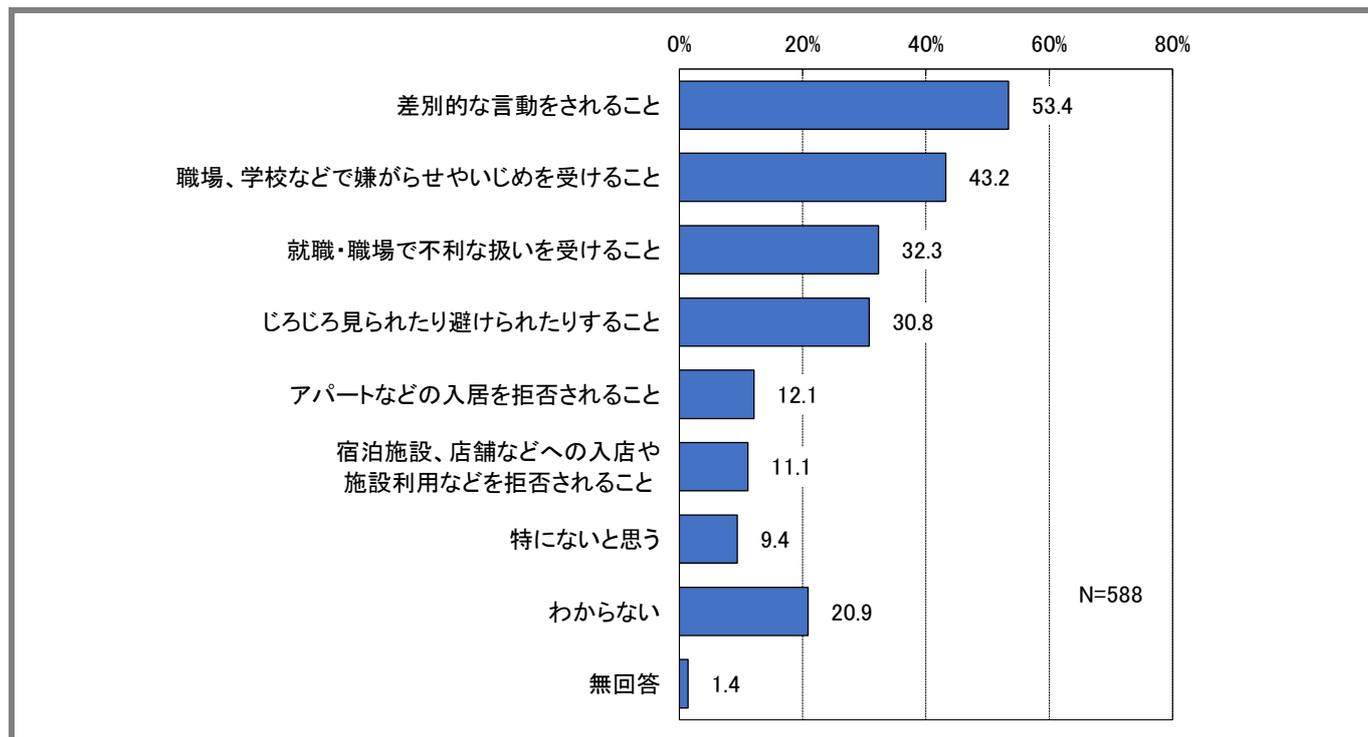
《男女別クロス集計結果》



《年齢階層別クロス集計結果》

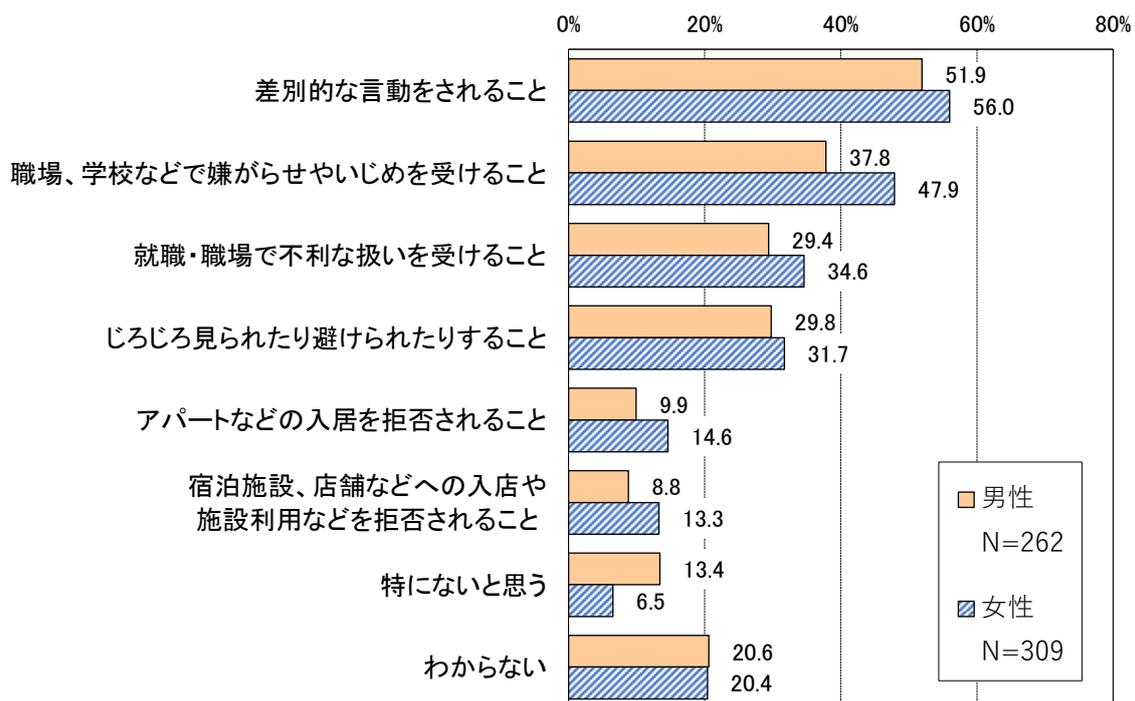


質問17 あなたは性的指向や性自認に関することで現在どのような人権問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

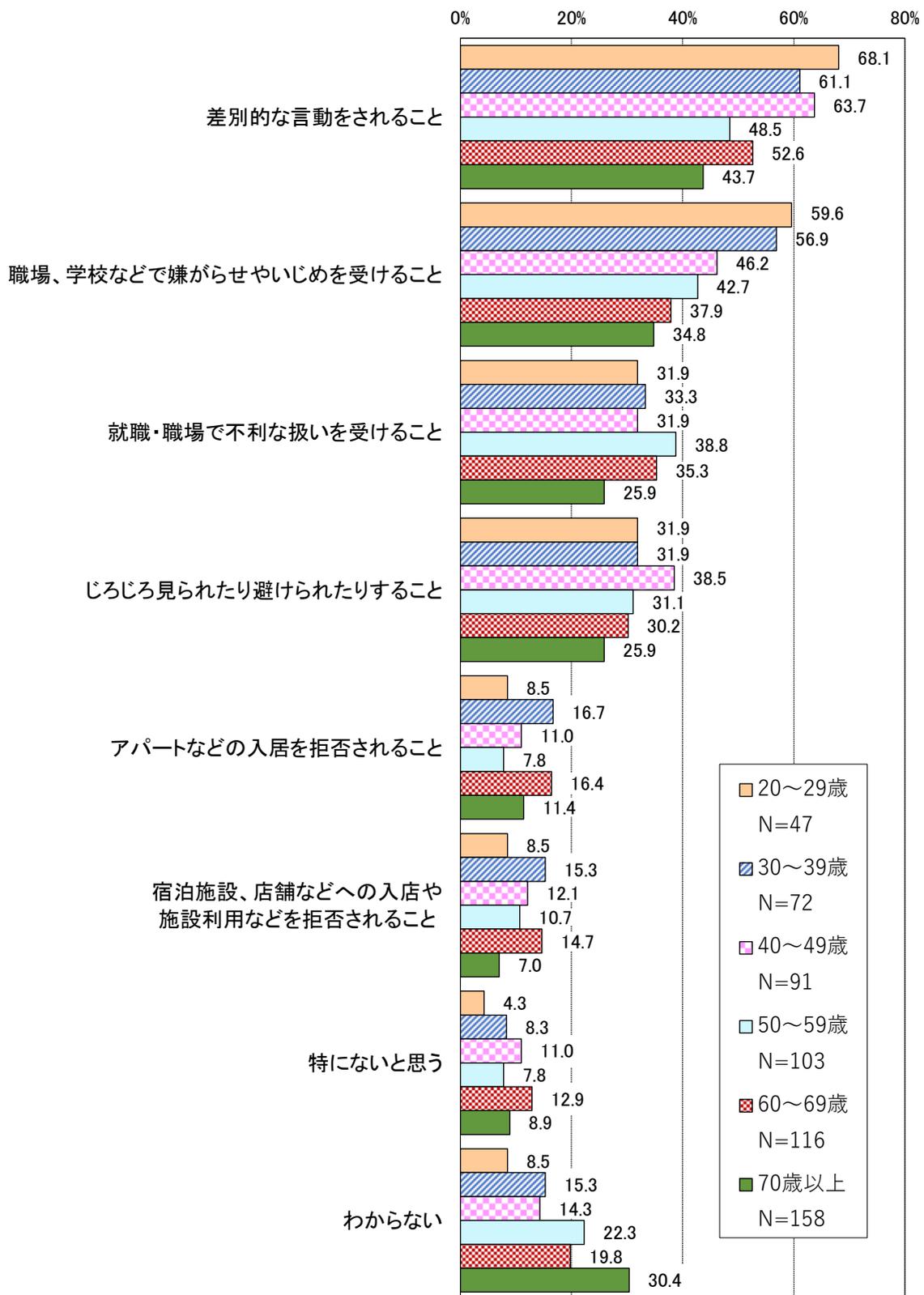


- 性的指向や性自認に関する人権問題については、「差別的な言動をされること」を選択した人の割合が53.4%と最も高く、以下、「職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること」(43.2%)、「就職・職場で不利な扱いを受けること」(32.3%)、「じろじろ見られたり避けられたりすること」(30.8%)と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られないが、「職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること」を選択した人の割合は男性(37.8%)に比べ女性(47.9%)の方が10.1ポイント高くなっている(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ても回答傾向に大きな差異は見られないが、「70歳以上」では他の年齢階層に比べ「わからない」という回答割合がやや高くなっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

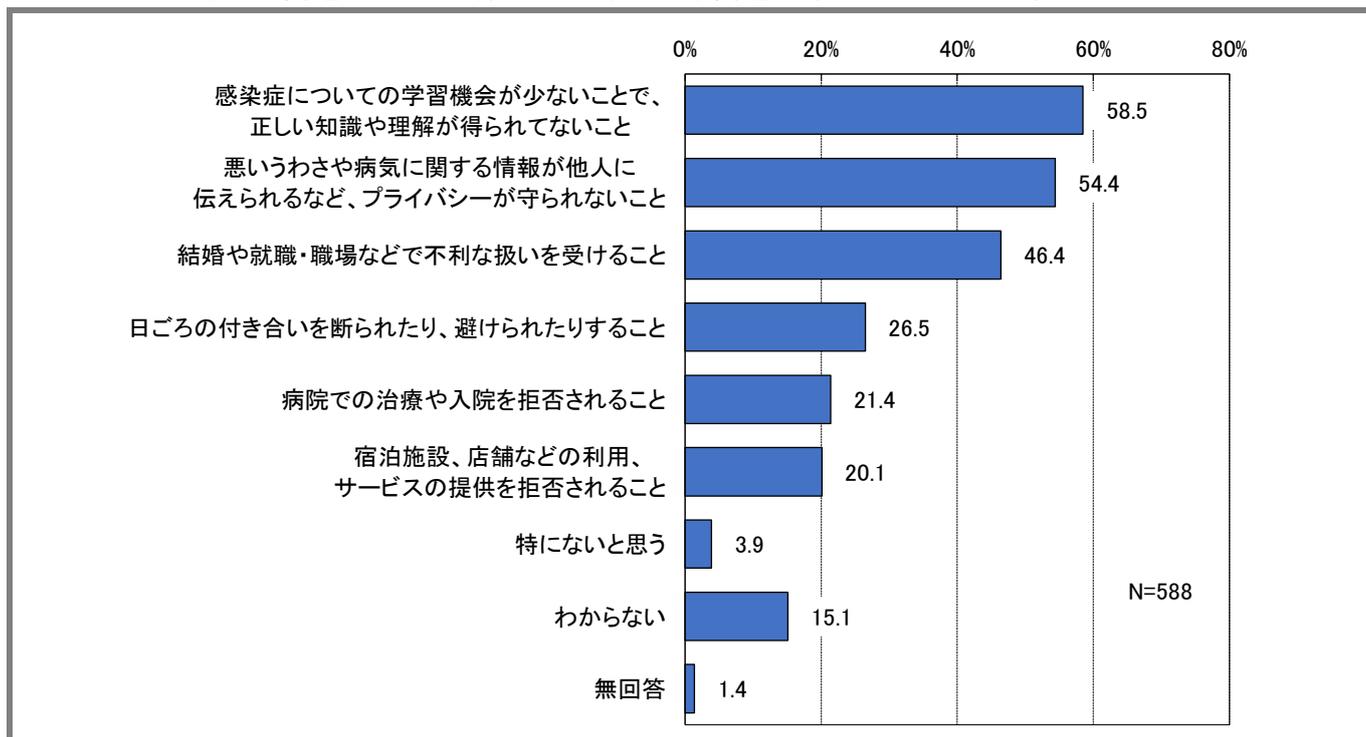
《男女別クロス集計結果》



《年齢階層別クロス集計結果》

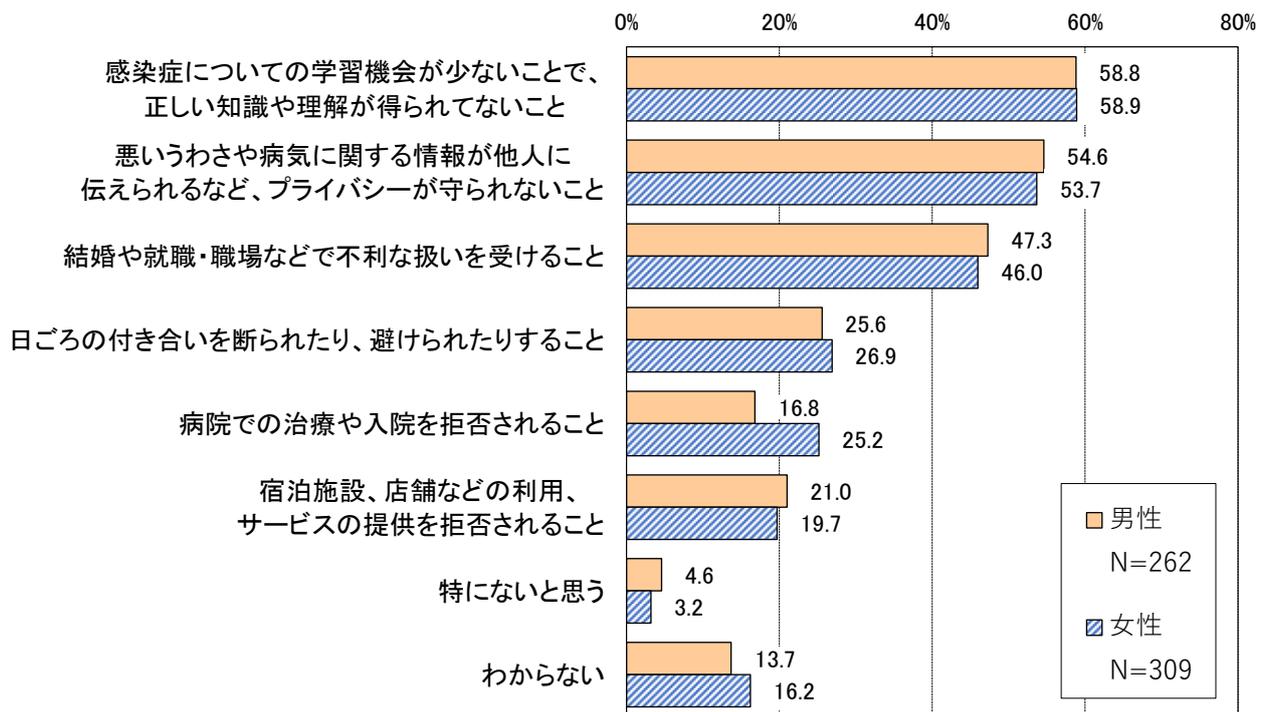


質問18 感染症患者など（特に、ハンセン病患者・回復者、HIV感染者、エイズ患者など）に関する人権上の問題について現在どのような人権問題があると思いますか。（〇はいくつでも）

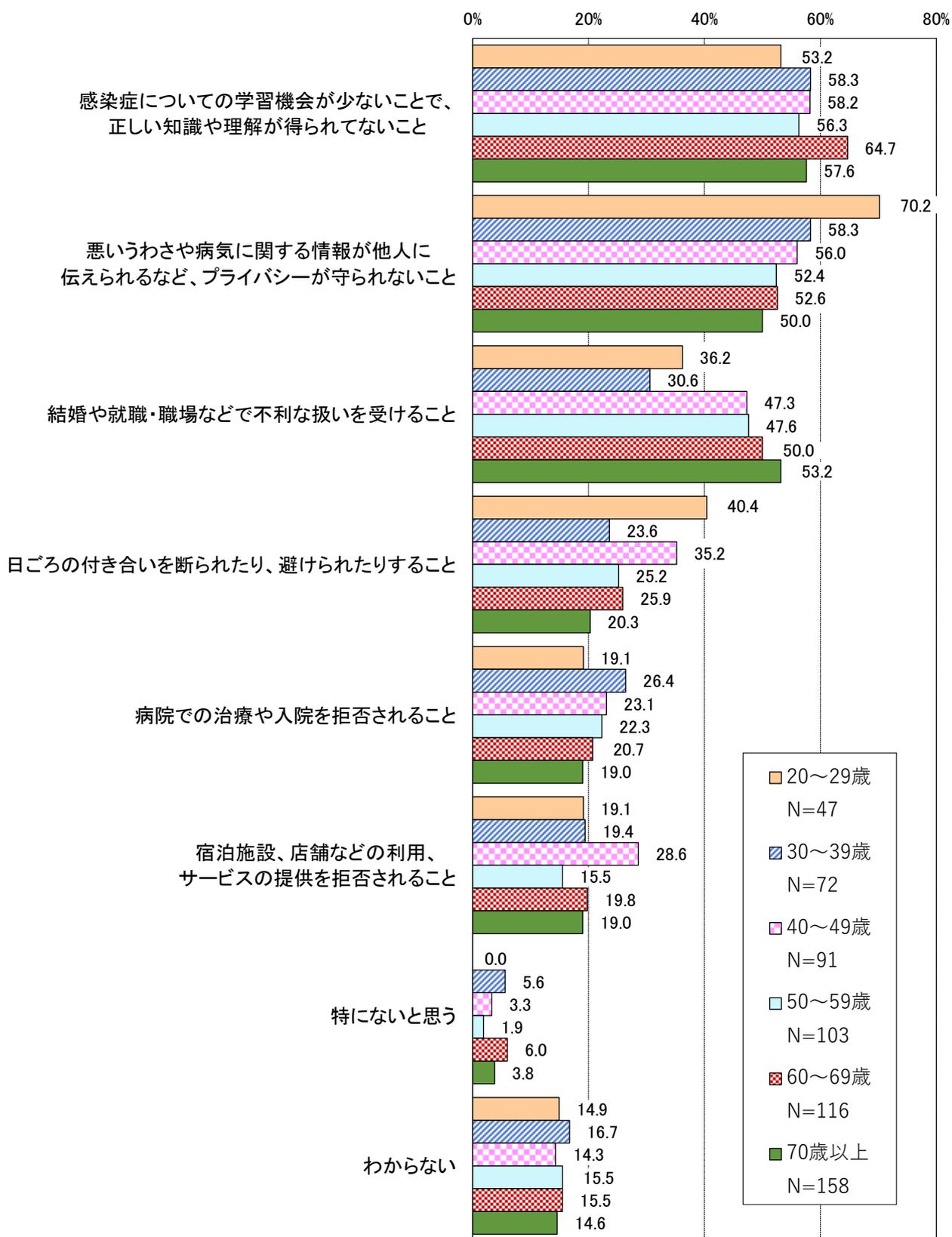


- 感染症患者などに関する人権問題については、「感染症についての学習機会が少ないことで、正しい知識や理解が得られてないこと」を選択した人の割合が58.5%と最も高く、以下、「悪いうわさや病気に関する情報が他人に伝えられるなど、プライバシーが守られないこと」(54.4%)、「結婚や就職・職場などで不利な扱いを受けること」(46.4%)と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られない（次ページの男女別クロス集計結果参照）。
- 年齢階層別に見ると、「20～29歳」では「悪いうわさや病気に関する情報が他人に伝えられるなど、プライバシーが守られないこと」を選択した人の割合が70.2%と最も高くなっている（次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照）。

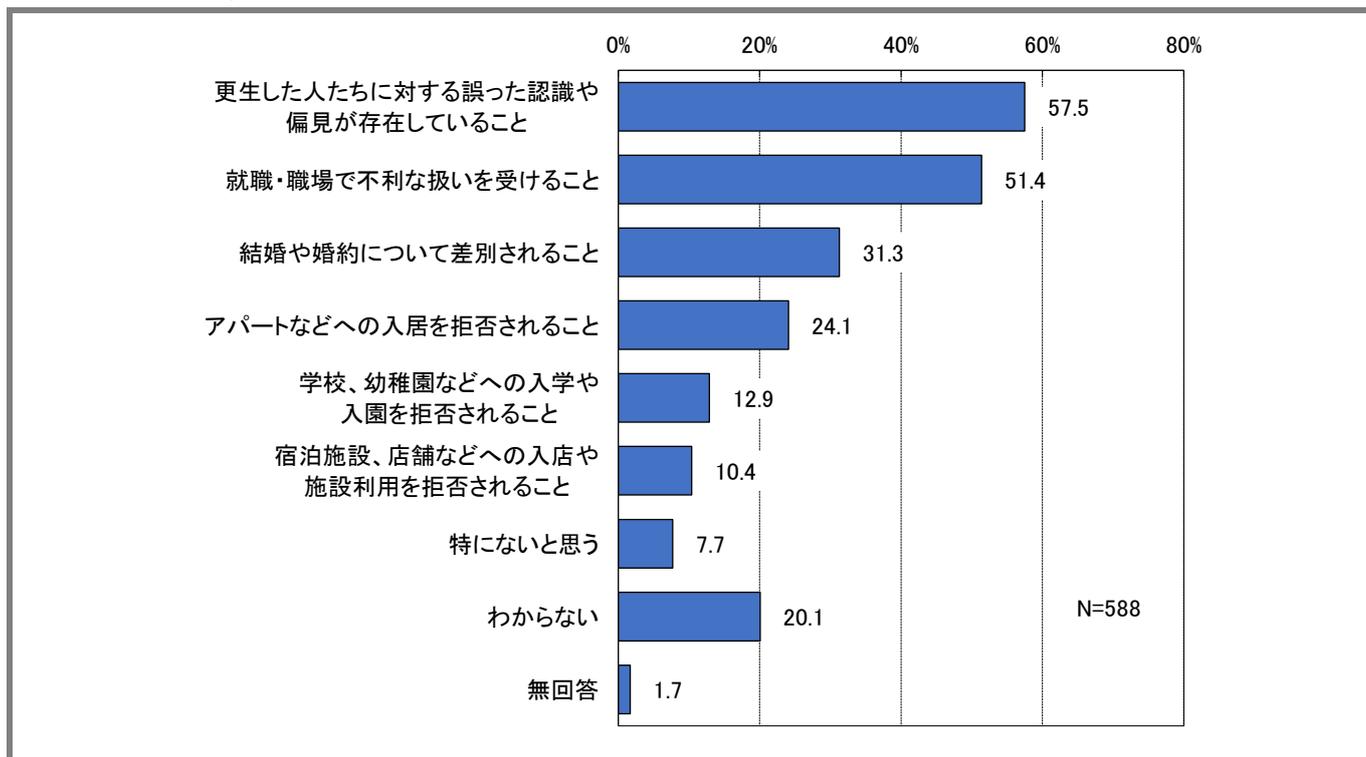
《男女別クロス集計結果》



《年齢階層別クロス集計結果》

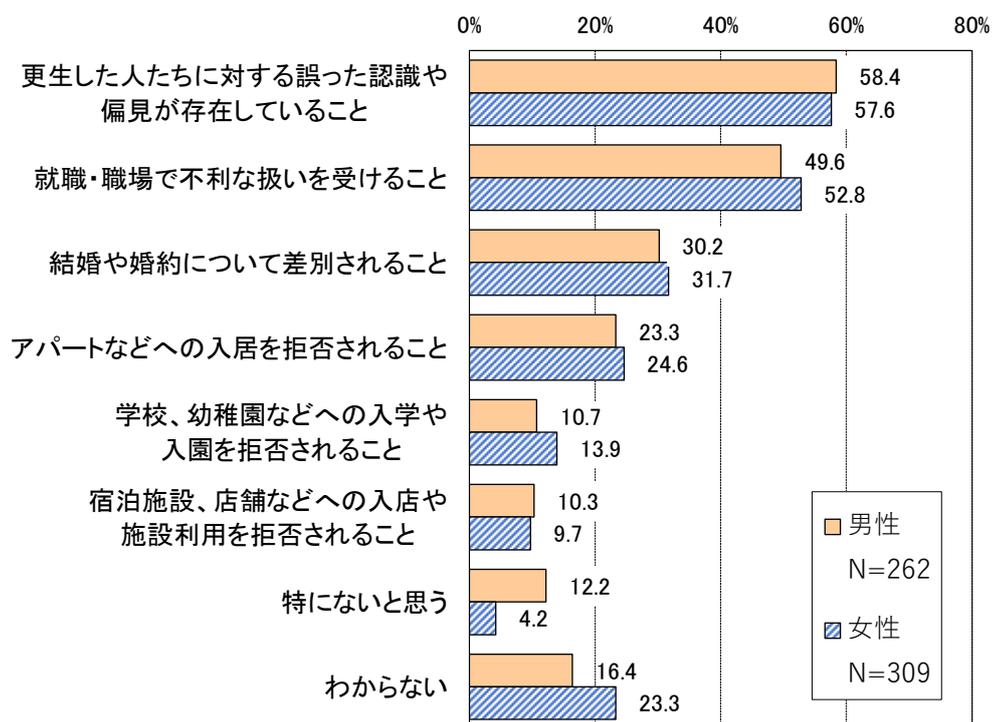


質問19 あなたは、刑を終えて出所した人に関する事からで、特にどのような人権問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

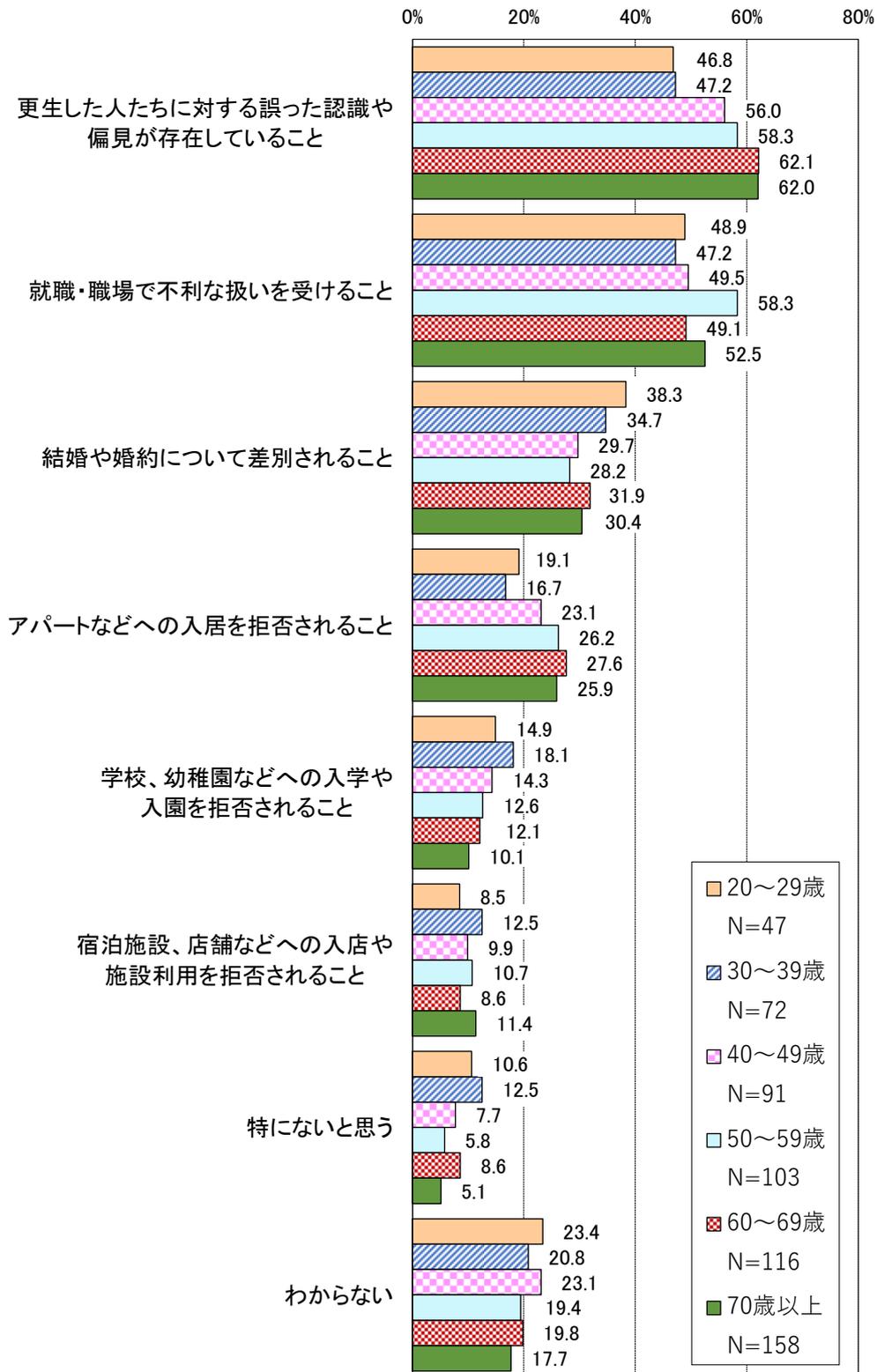


- 刑を終えて出所した人に関する人権問題については、「更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」を選択した人の割合が57.5%と最も高く、以下、「就職・職場で不利な扱いを受けること」(51.4%)、「結婚や婚約について差別されること」(31.3%)、「アパートなどへの入居を拒否されること」(24.1%)と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られない(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ても回答傾向に大きな差異は見られない(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

《男女別クロス集計結果》

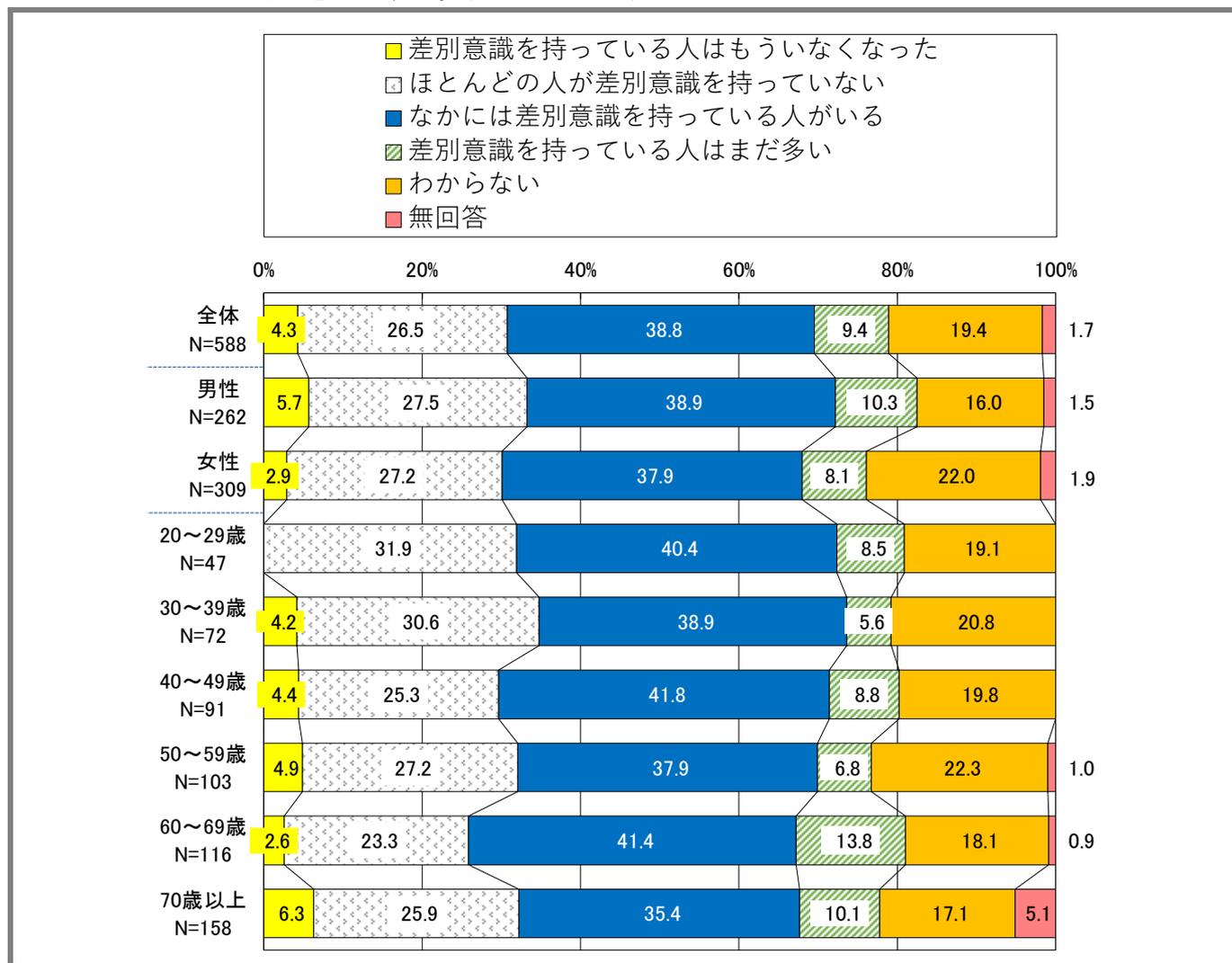


《年齢階層別クロス集計結果》



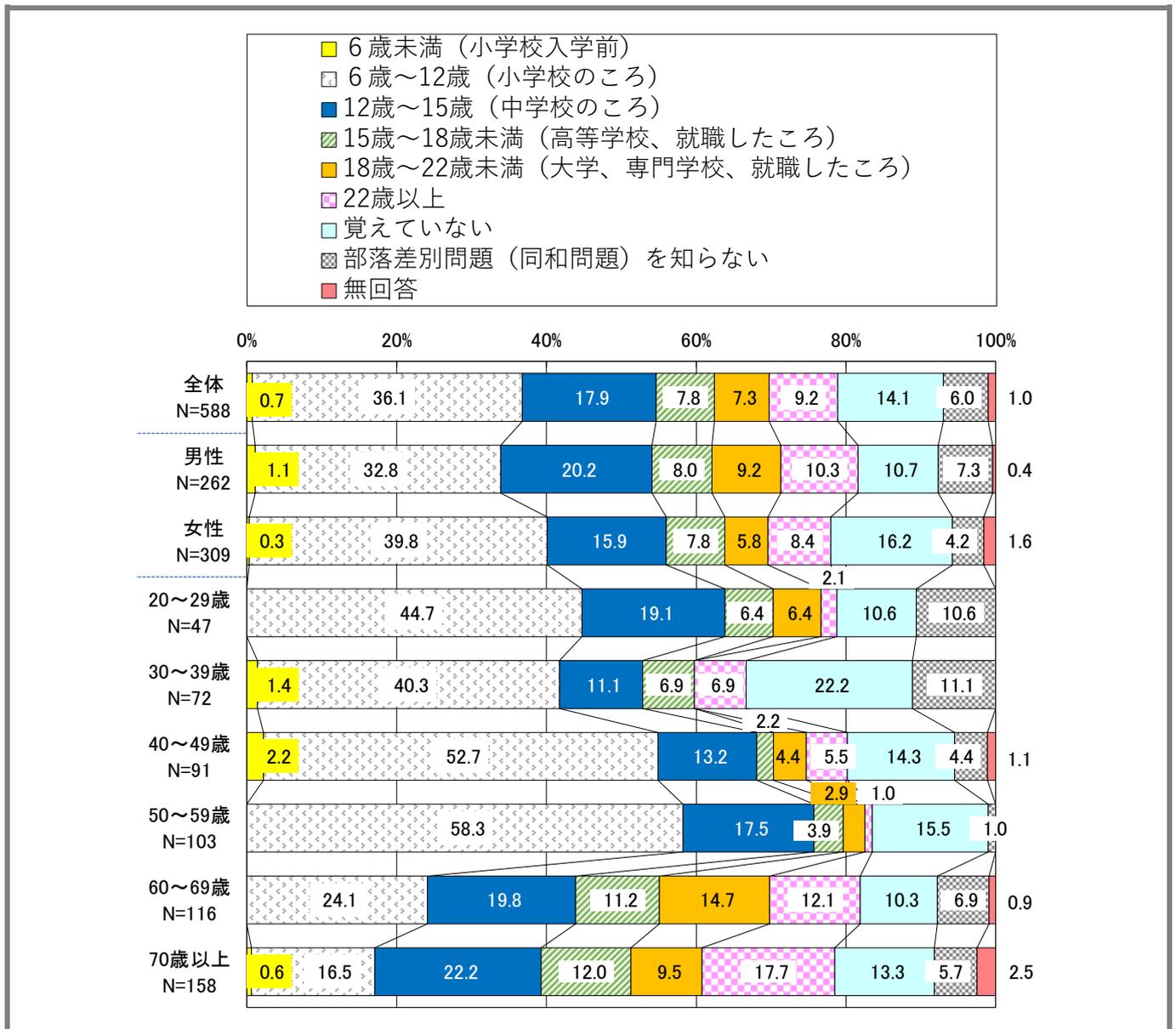
IV. 部落差別問題（同和問題）について

質問20 あなたは被差別部落（旧同和地区）の人を見下したり排除しようとしたりする差別意識を持った人いると思いますか。（○は1つだけ）



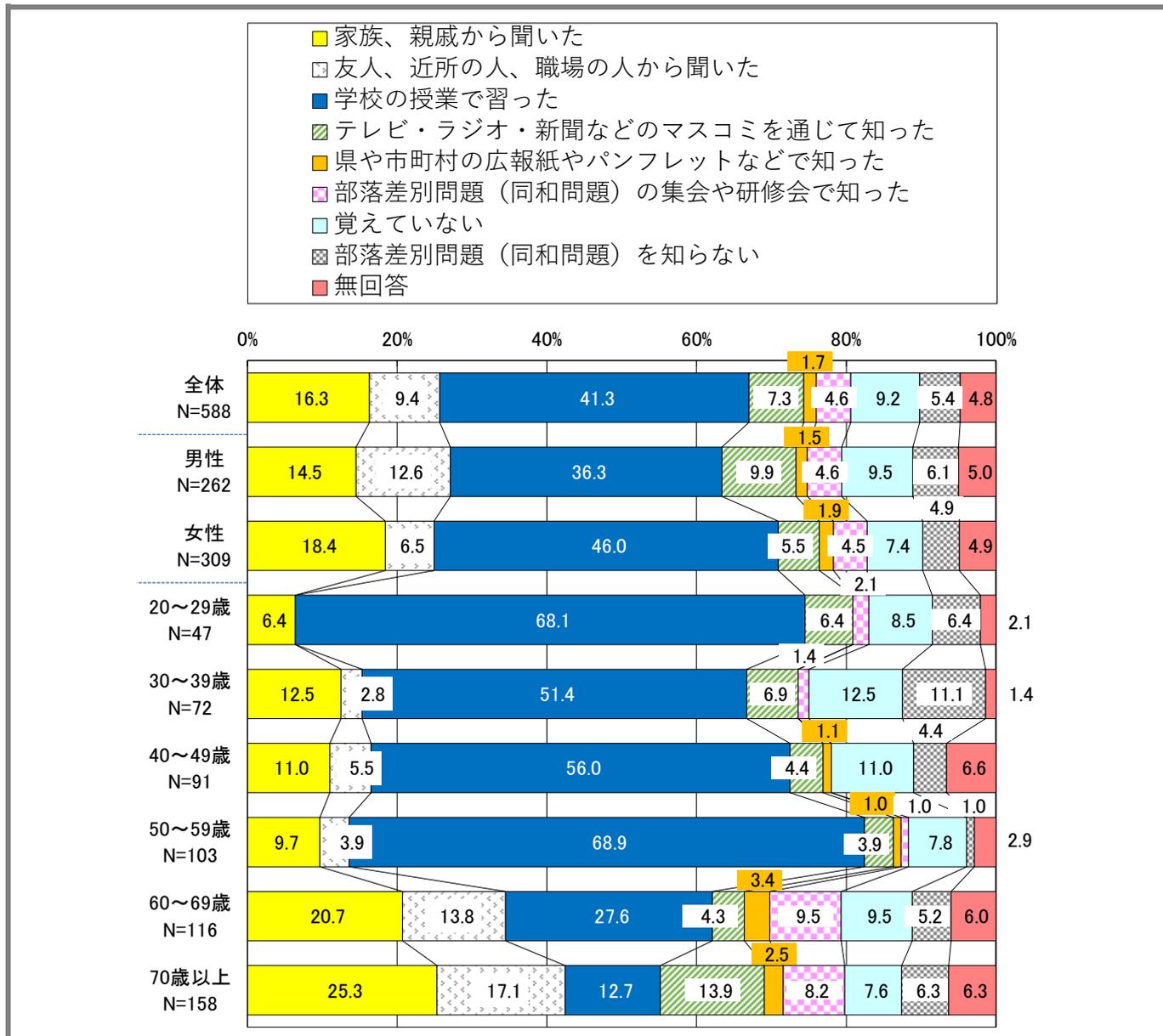
- 被差別部落（旧同和地区）の人を見下したり排除しようとしたりする差別意識については、「なかには差別意識を持っている人がある」と回答した人が全体の38.8%と最も多くなっているが、「ほとんどの人が差別意識を持っていない」（26.5%）と「差別意識を持っている人はもうなくなった」（4.3%）を合わせると30.8%となっている。
- 男女別に見ると、男性に比べ女性の方が「わからない」と回答した人の割合が高くなっている。
- 年齢階層別に見て、「なかには差別意識を持っている人がある」「差別意識を持っている人はまだ多い」と回答した人の割合が最も高かったのは「60～69歳」で、55.2%となっている。

質問21 あなたが部落差別問題（同和問題）をはじめて知ったのはいつ頃ですか。（〇は1つだけ）



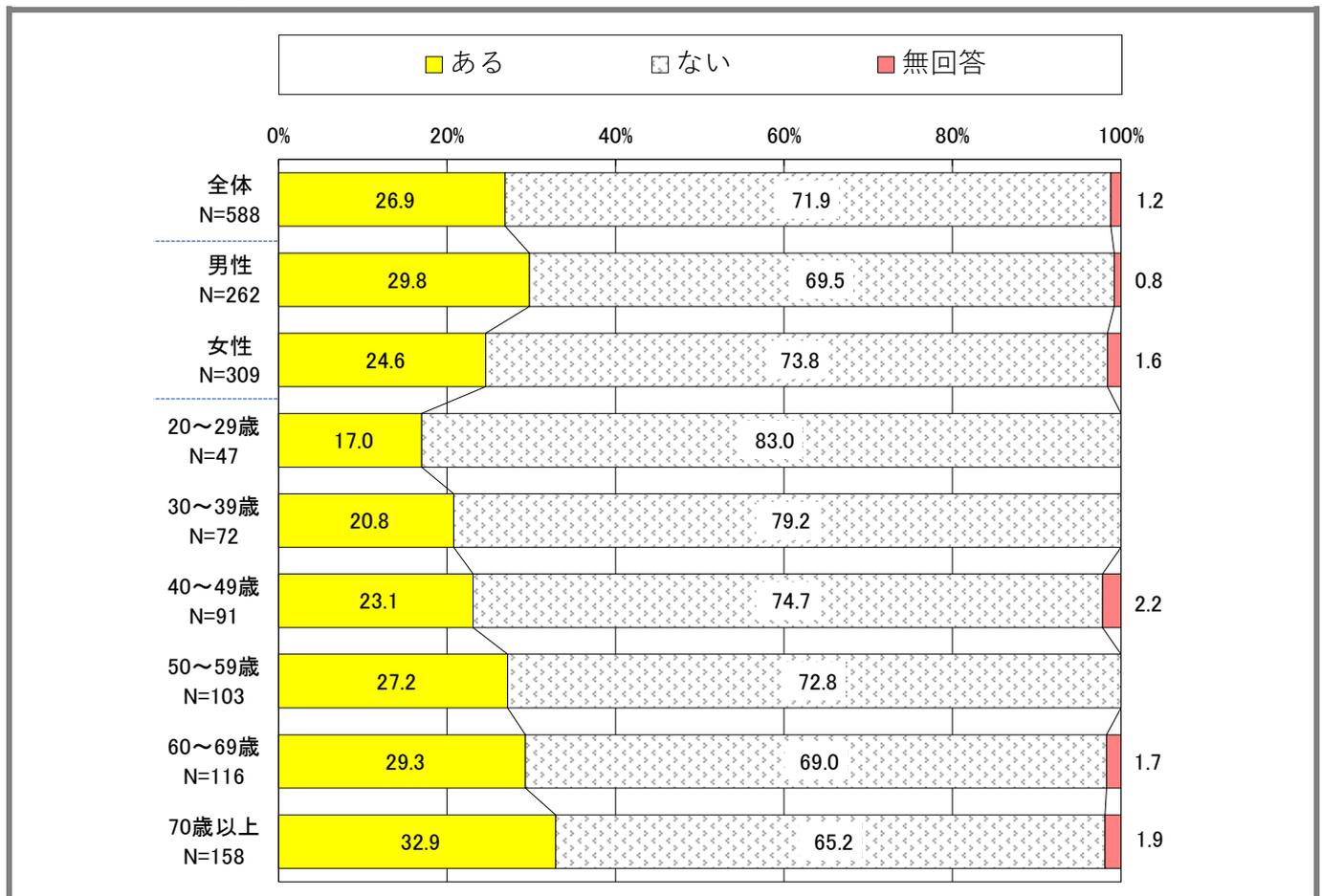
- 部落差別問題（同和問題）をはじめて知った時期については、「6歳～12歳未満（小学校のころ）」が全体の36.1%と最も多くなっており、「12歳～15歳（中学校のころ）」が17.9%で、それに続いている。
- 年齢階層別に見ても、「70歳以上」を除くすべての年齢階層で、「6歳～12歳未満（小学校のころ）」という回答が最も多くなっている。
- 「部落差別問題（同和問題）を知らない」と回答した人の割合は全体の6.0%で、40歳未満では1割を超えている。

質問22 あなたが部落差別問題（同和問題）をはじめて知ったきっかけは何ですか。（○は1つだけ）



● 部落差別問題（同和問題）をはじめて知ったきっかけについては、「学校の授業で習った」と回答した人の割合が全体の41.3%と最も多く、「70歳以上」を除くすべての年齢階層で最も多くなっている。

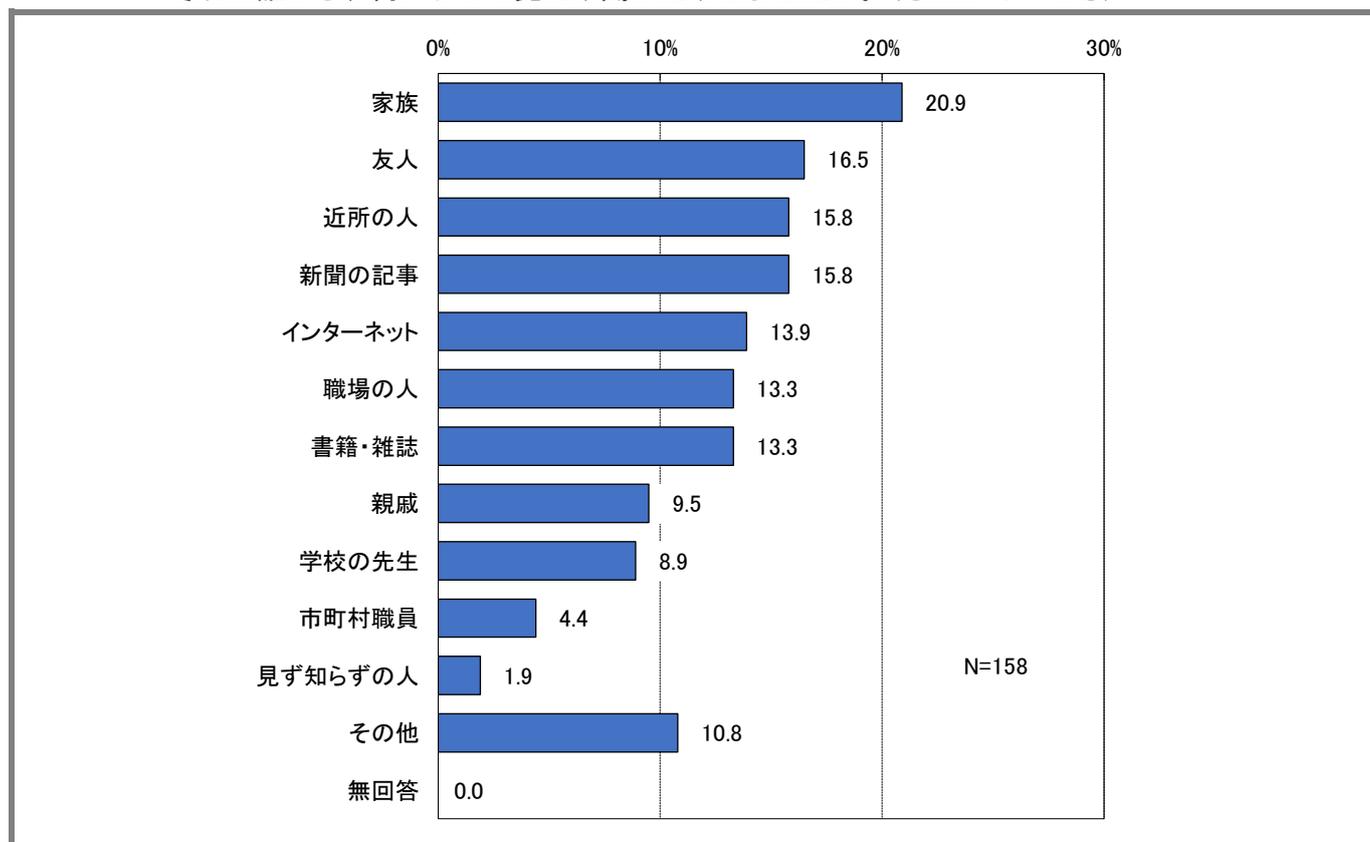
質問23 あなたは「被差別部落出身者は怖い」というような内容を見たり聞いたりしたことがありますか。(〇は1つだけ)



- 「被差別部落出身者は怖い」というような内容を見たり聞いたりしたことが「ある」と回答した人の割合は全体の26.9%となっており、年齢階層が低くなるにつれてその割合も低くなっている。

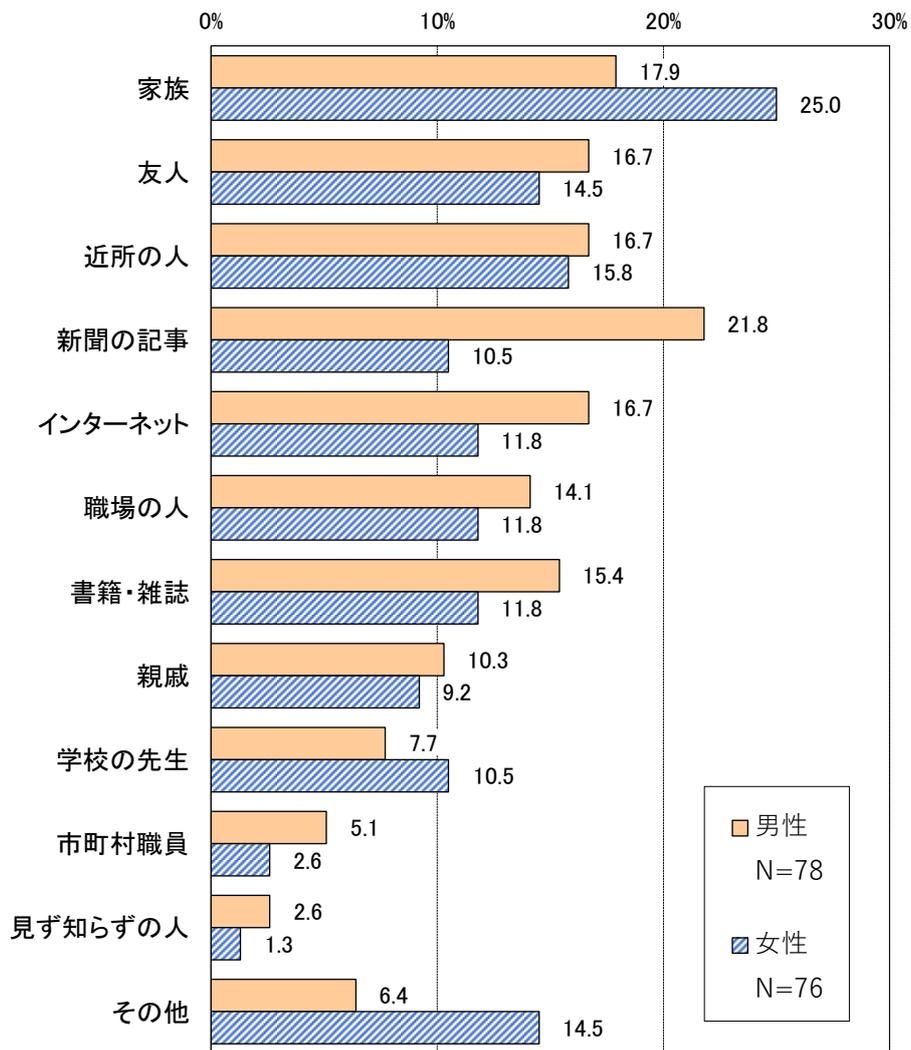
質問24 質問23で「ある」と答えた方におたずねします。

それは誰から、何によって見たり聞いたりしましたか。(〇はいくつでも)

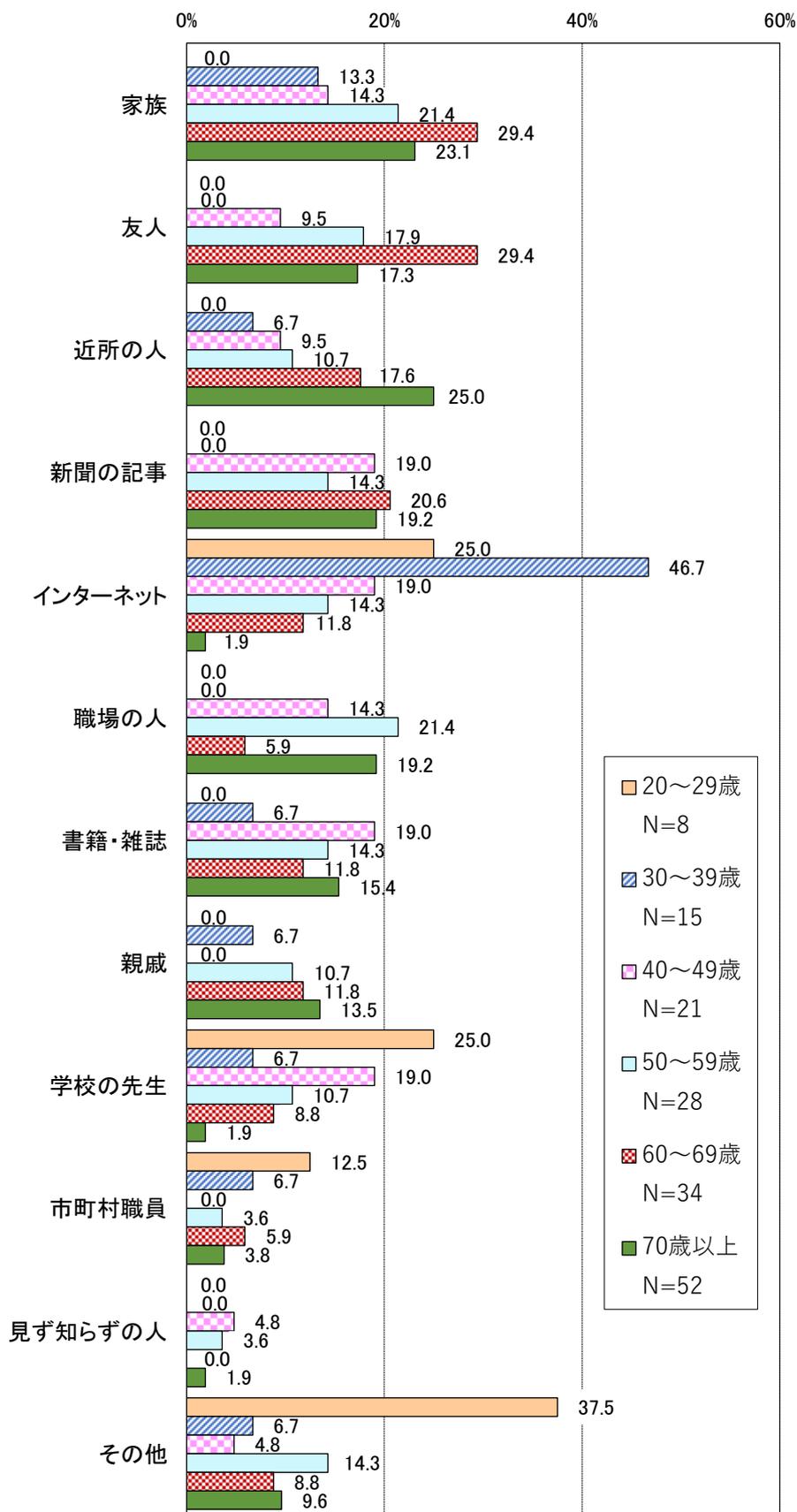


- 前問で「被差別部落出身者は怖い」というような内容を見たり聞いたりしたことが「ある」と回答した人に、誰から、何によって見たり聞いたりしたかを尋ねたところ、「家族」を選択した人の割合が20.9%と最も高く、以下、「友人」(16.5%)、「近所の人」「新聞の記事」(ともに15.8%)、「インターネット」(13.9%)、「職場の人」「書籍・雑誌」(ともに13.3%)と続いている。
- 男女別に見ると、男性は「新聞の記事」(21.8%)、女性は家族(25.0%)が最も多くなっている(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ると、「20～29歳」は「インターネット」「学校の先生」(ともに25.0%)、「30～39歳」は「インターネット」(46.7%)、「40～49歳」は「新聞の記事」「インターネット」「書籍・雑誌」「学校の先生」(ともに19.0%)、「50～59歳」は「家族」「職場の人」(ともに21.4%)、「60～69歳」は「家族」「友人」(ともに29.4%)、「70歳以上」は「近所の人」(25.0%)がそれぞれ最も多くなっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

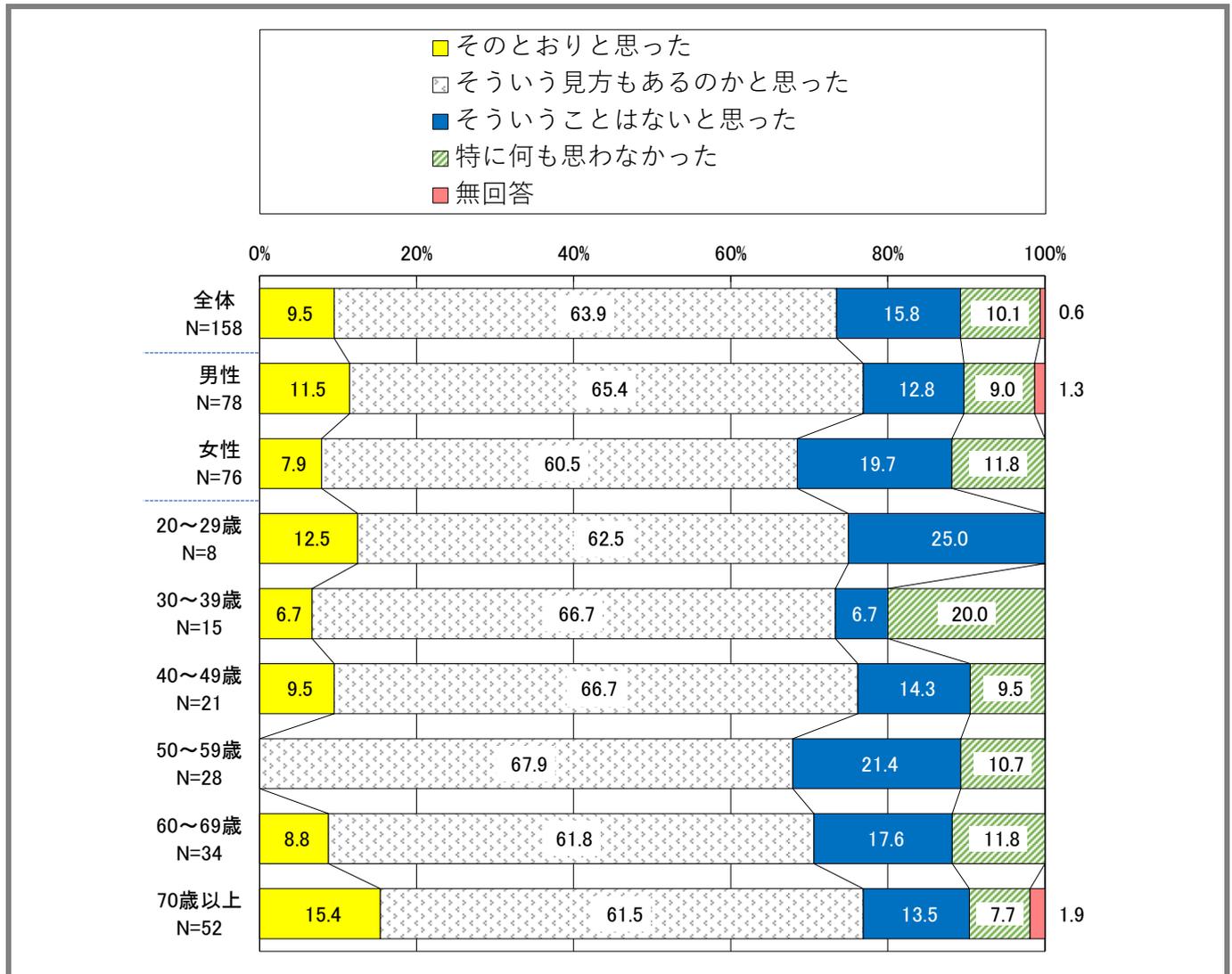
《男女別クロス集計結果》



《年齢階層別クロス集計結果》

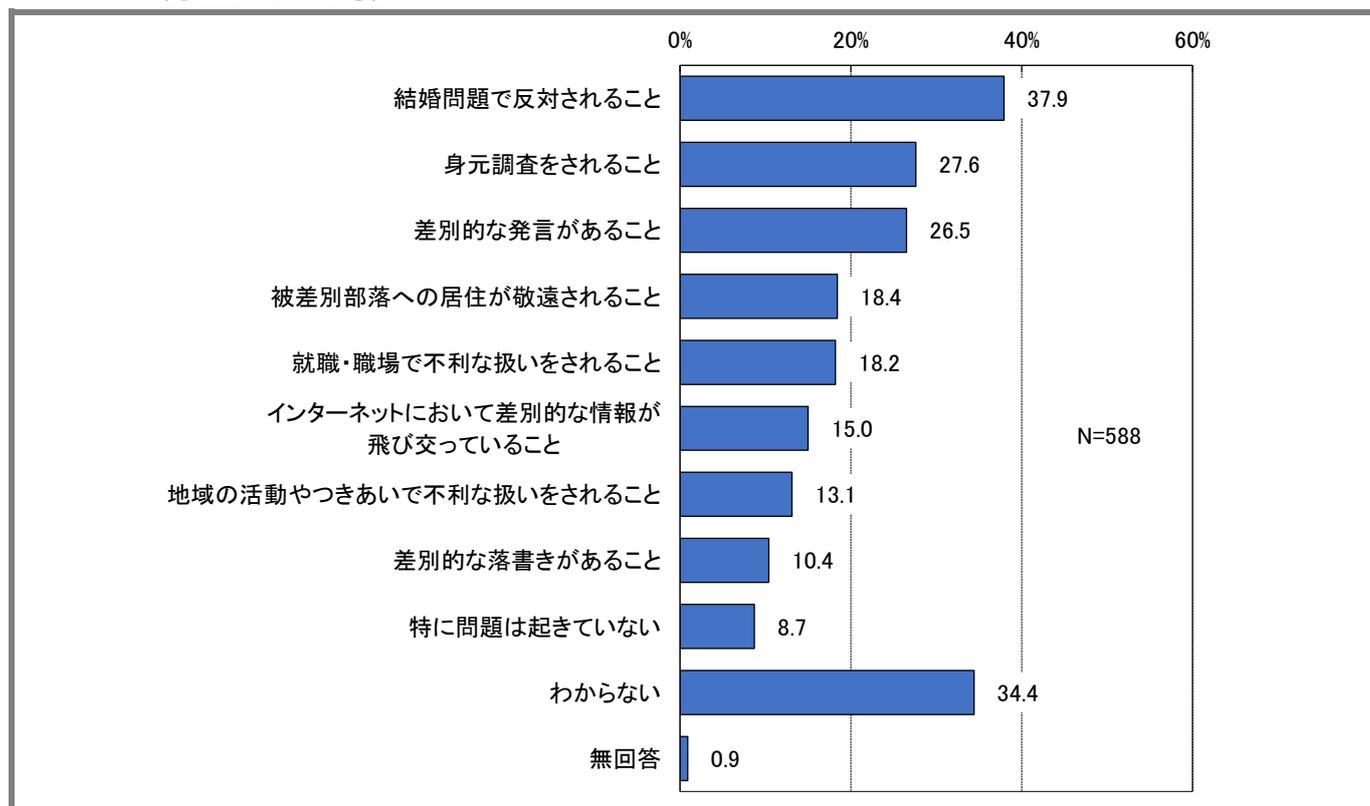


質問25 質問23で「ある」と答えた方におたずねします。
その話を見たり聞いたりした時、どう感じましたか。(〇は1つだけ)



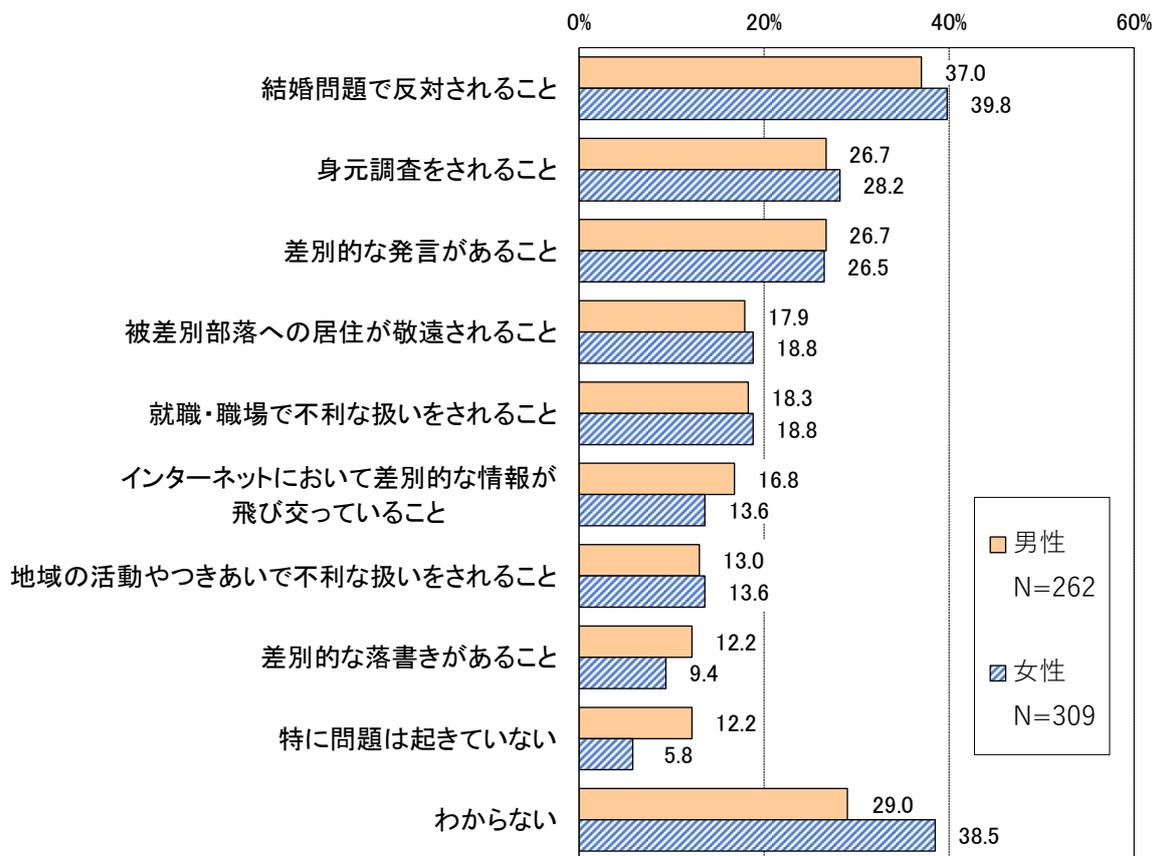
- 「被差別部落出身者は怖い」というような内容を見たり聞いたりした時にどう感じたかについては、「そういう見方もあるのかと思った」という回答が全体の63.9%と、最も多くなっている。

質問26 あなたは部落差別問題（同和問題）に関して現在どのような問題が起きていると思いますか。
（〇はいくつでも）

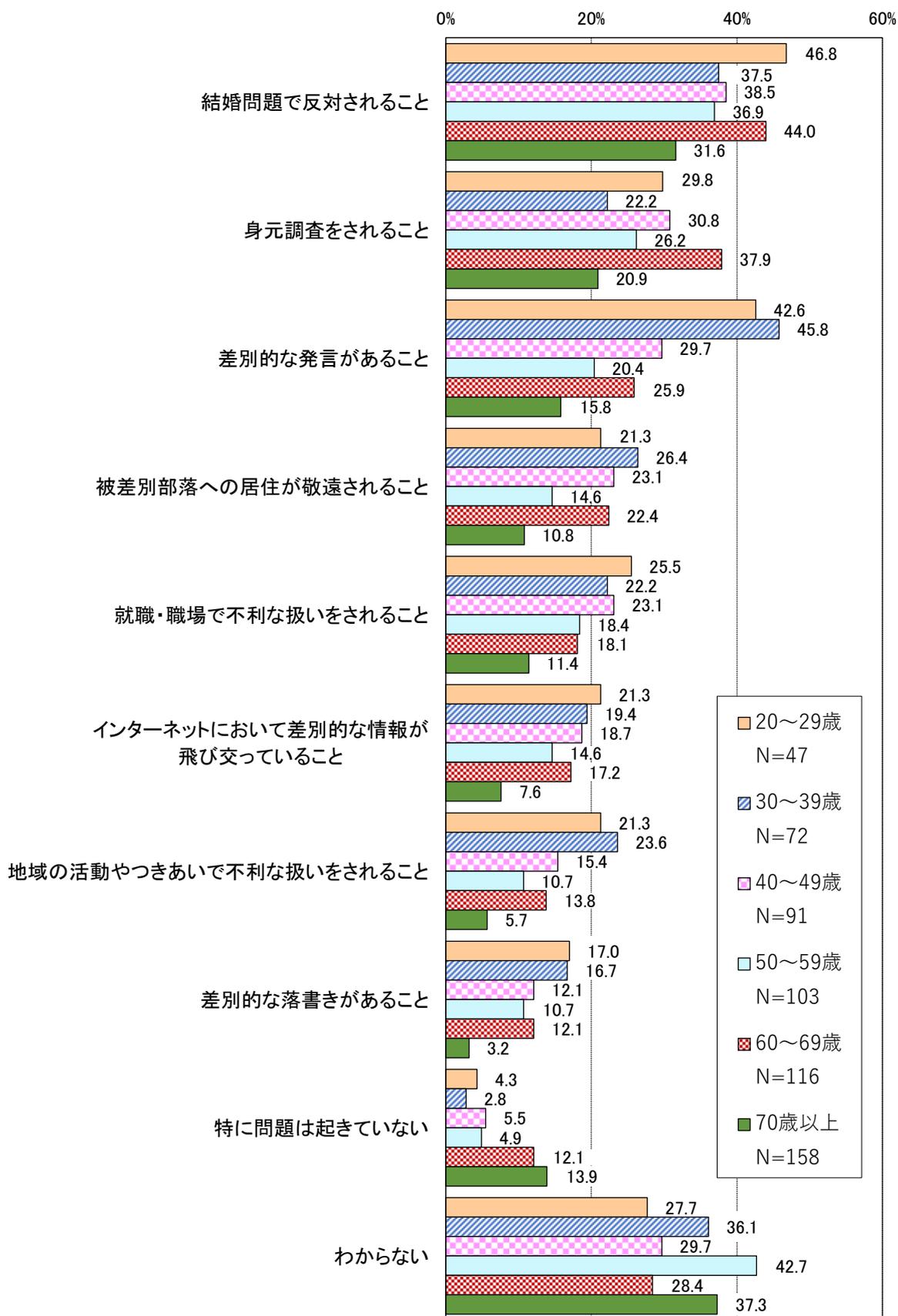


- 部落差別問題（同和問題）に関して現在起きていると思う問題については、「結婚問題で反対されること」という回答が 37.9%と最も多く、以下、「身元調査をされること」（27.6%）、「差別的な発言があること」（26.5%）、「被差別部落への居住が敬遠されること」（18.4%）、「就職・職場で不利な扱いをされること」（18.2%）と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られないが、「特に問題は起きていない」という回答は女性（5.8%）より男性（12.2%）が、「わからない」という回答は男性（29.0%）より女性（38.5%）が高くなっている（次ページの男女別クロス集計結果参照）。
- 年齢階層別に見ると、「結婚問題で反対されること」という回答は「30～39歳」を除くすべての年齢階層で最も多くなっている（次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照）。
- 「30～39歳」では、「差別的な発言があること」が 45.8%と最も多くなっている（次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照）。

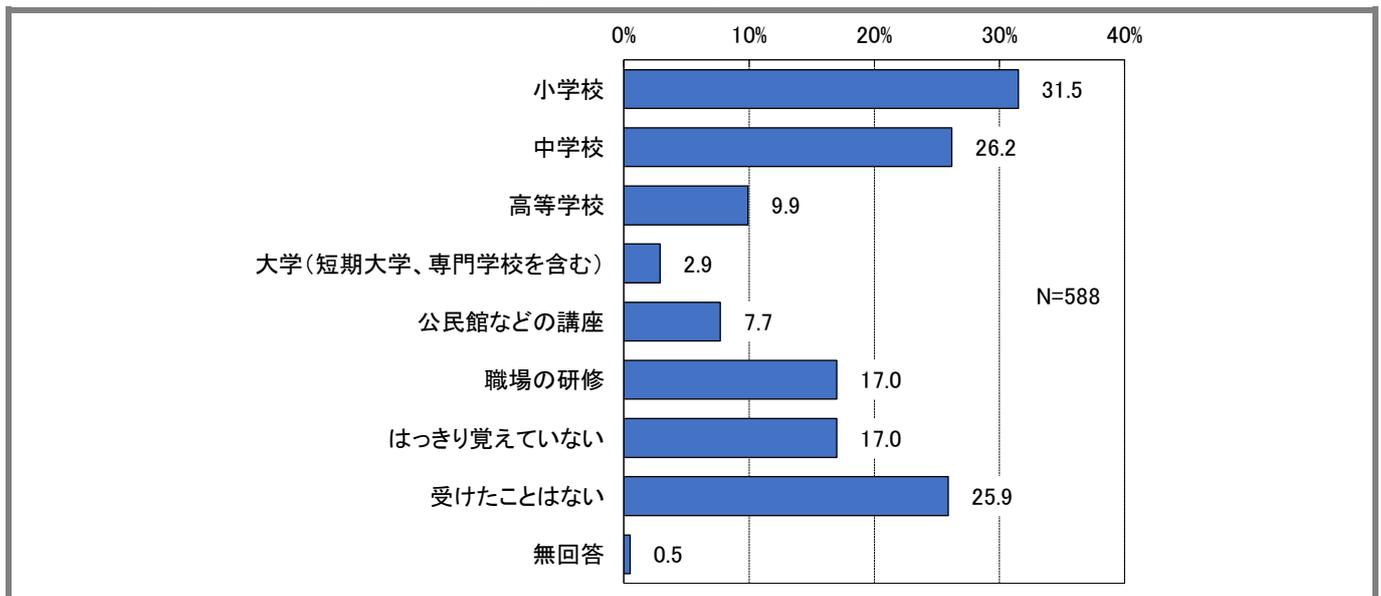
《男女別クロス集計結果》



《年齢階層別クロス集計結果》

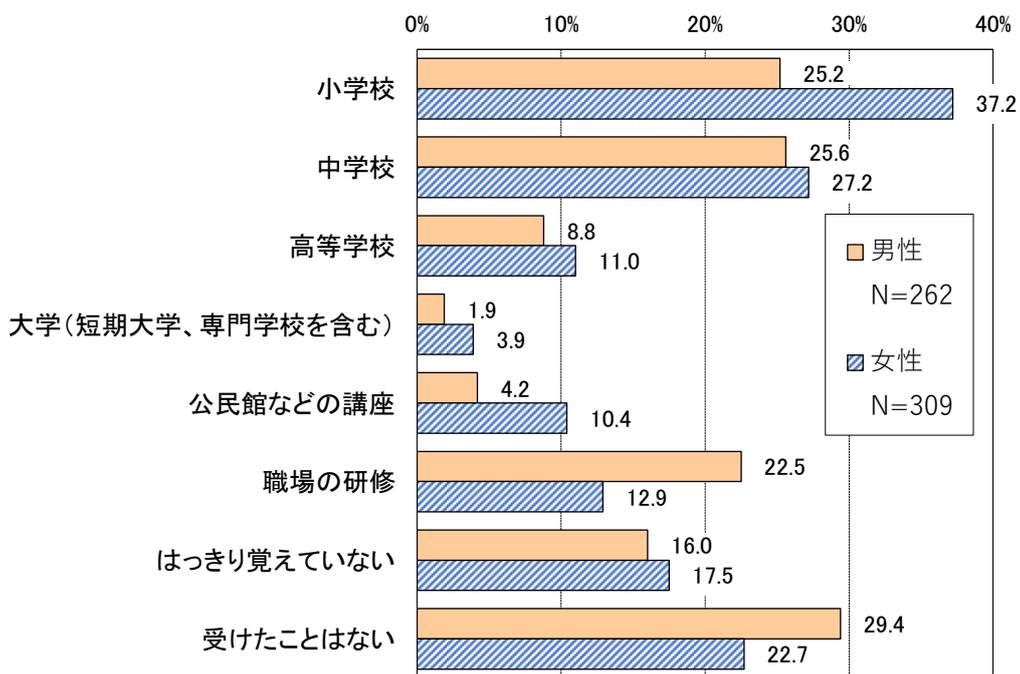


質問27 あなたはこれまで学校・職場・地域などで部落差別問題（同和問題）についての学習や研修を受けたことがありますか。（〇はいくつでも）

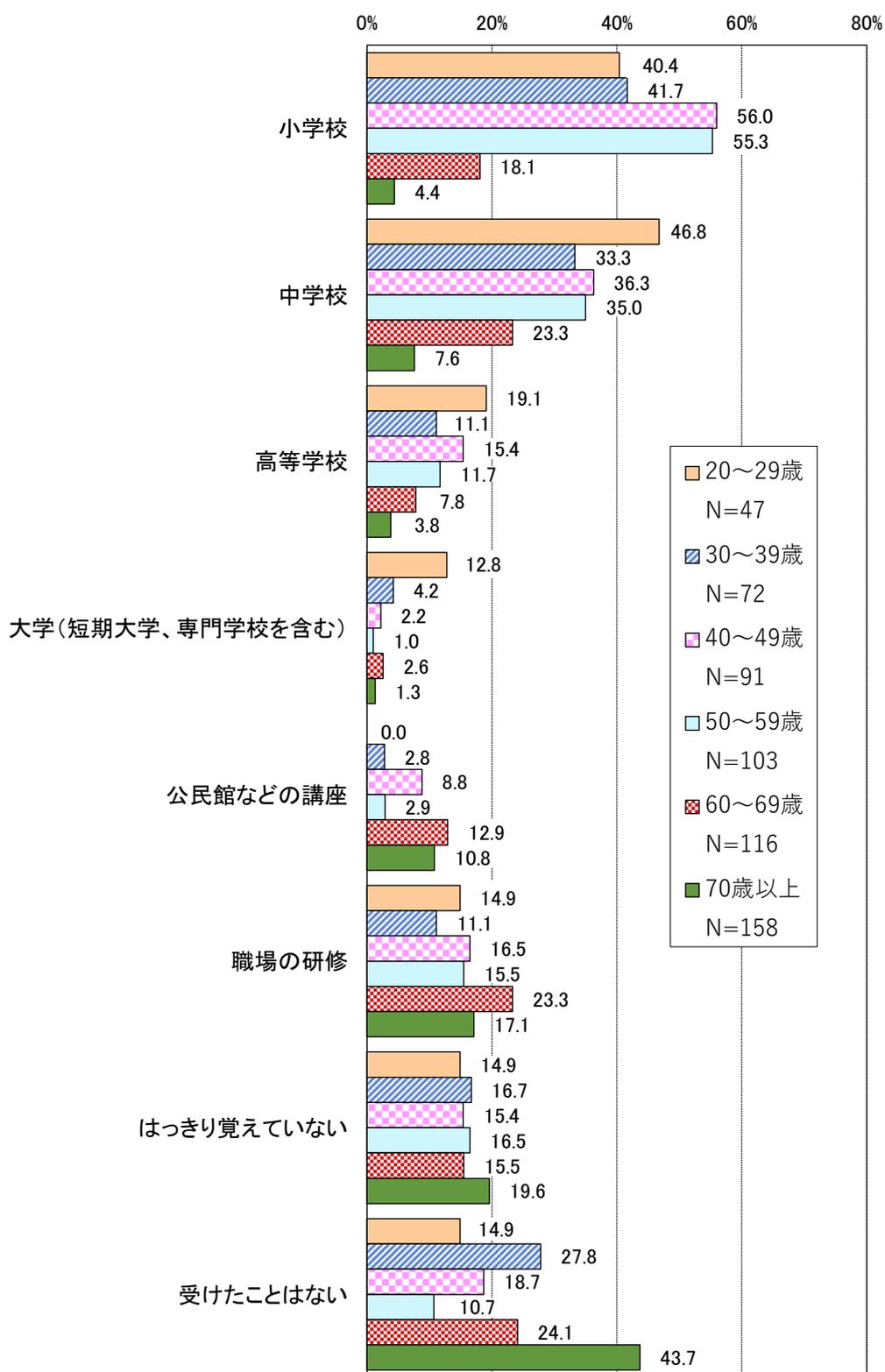


- 学校・職場・地域などで部落差別問題（同和問題）についての学習や研修を「受けたことはない」と回答した人の割合は全体の25.9%となっており、受けた学習や研修としては、「小学校」（31.5%）、「中学校」（26.2%）という回答が多くなっている。
- 男女別に見ると、「受けたことはない」という回答は女性（22.7%）より男性（29.4%）の回答割合の方が高くなっている（次ページの男女別クロス集計結果参照）。
- また、「小学校」は男性（25.2%）より女性（37.2%）、「職場の研修」は女性（12.9%）より男性（22.5%）の回答割合の方が高くなっている（次ページの男女別クロス集計結果参照）。
- 年齢階層別に見ても、回答傾向に大きな差異はないが、「70歳以上」では「受けたことはない」という回答が43.7%と、最も多くなっている（次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照）。

《男女別クロス集計結果》

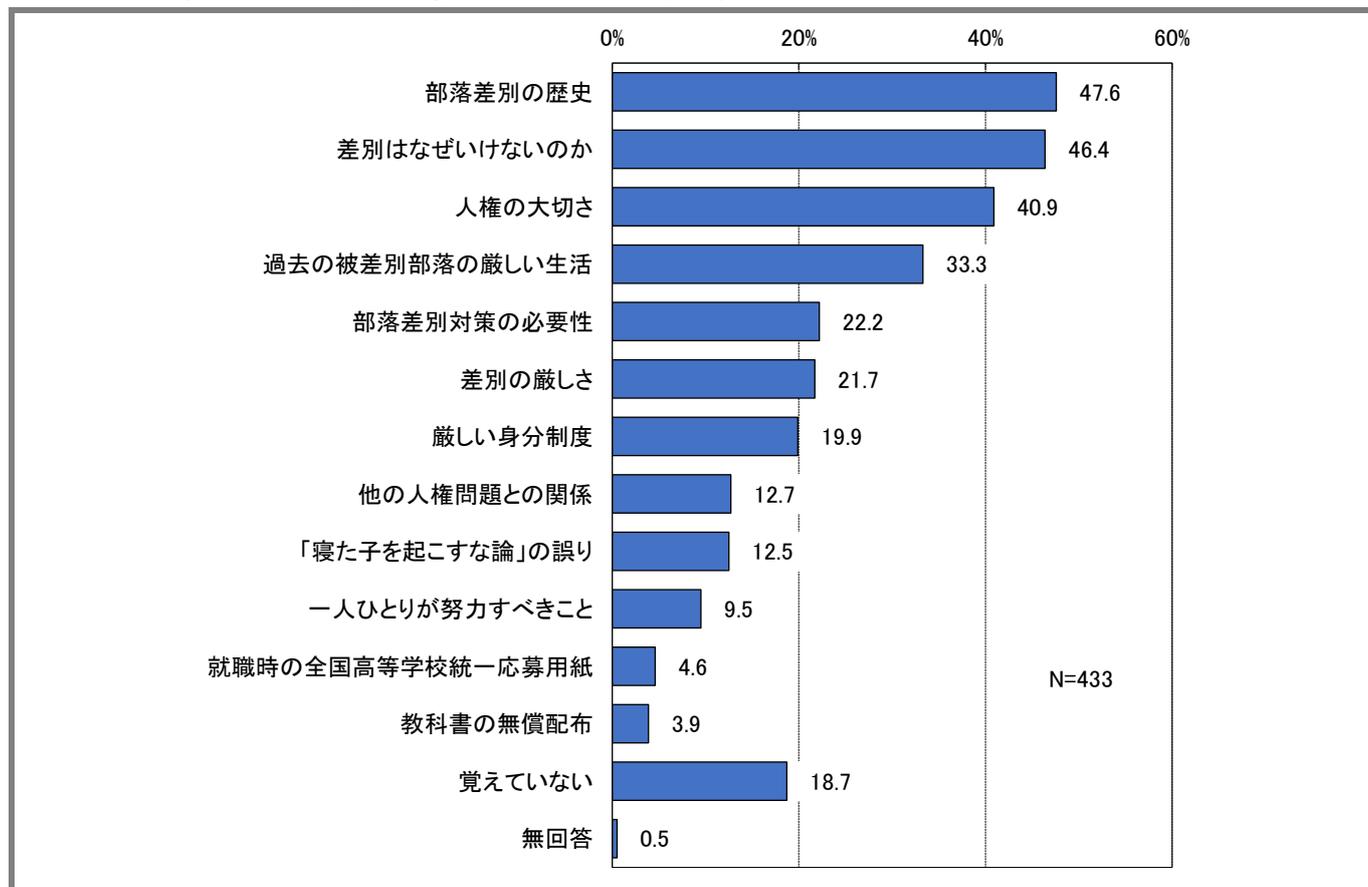


《年齢階層別クロス集計結果》



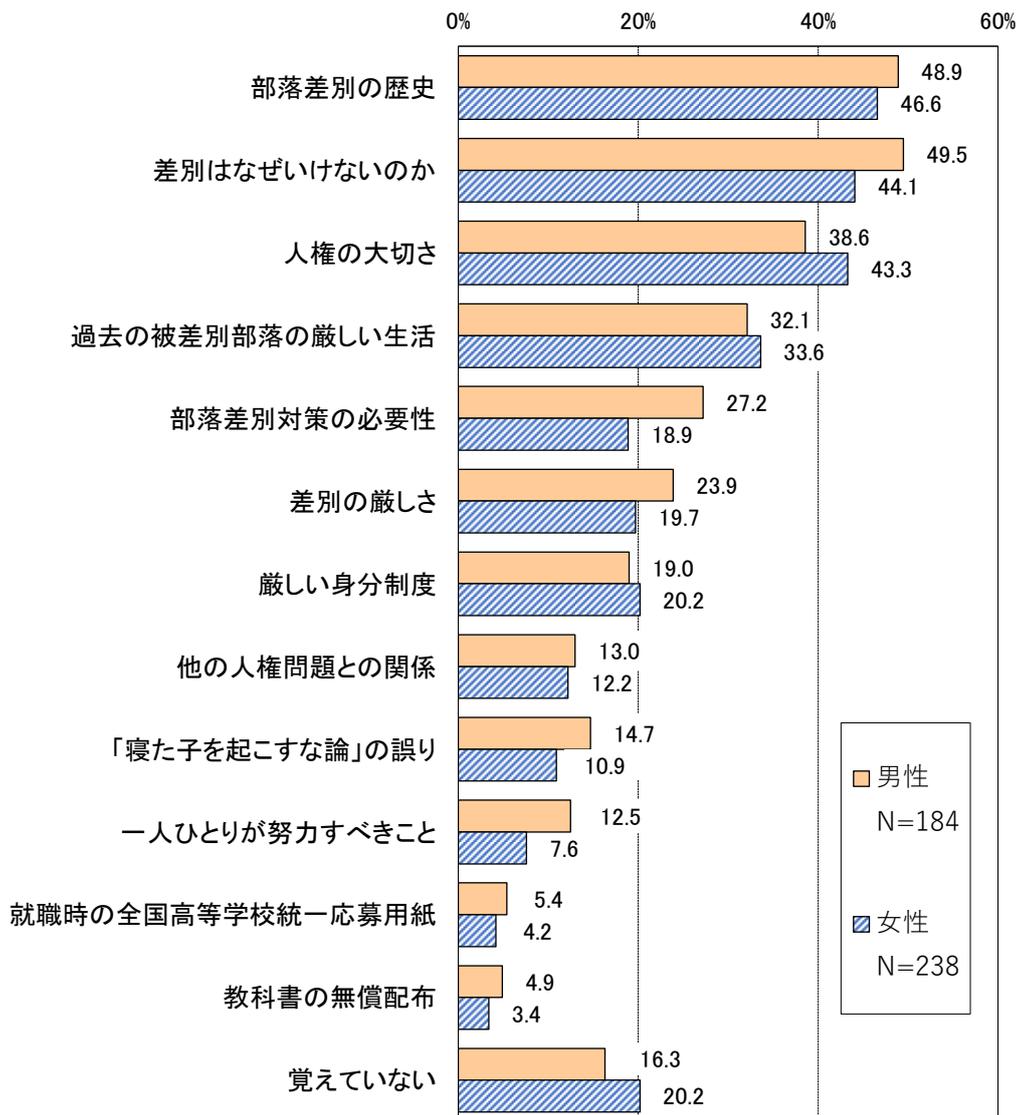
質問28 質問27で「1」～「7」のいずれかを選択した方（「受けたことはない」「無回答」以外の人）におたずねします。

それはどのような内容だったのでしょうか。（〇はいくつでも）

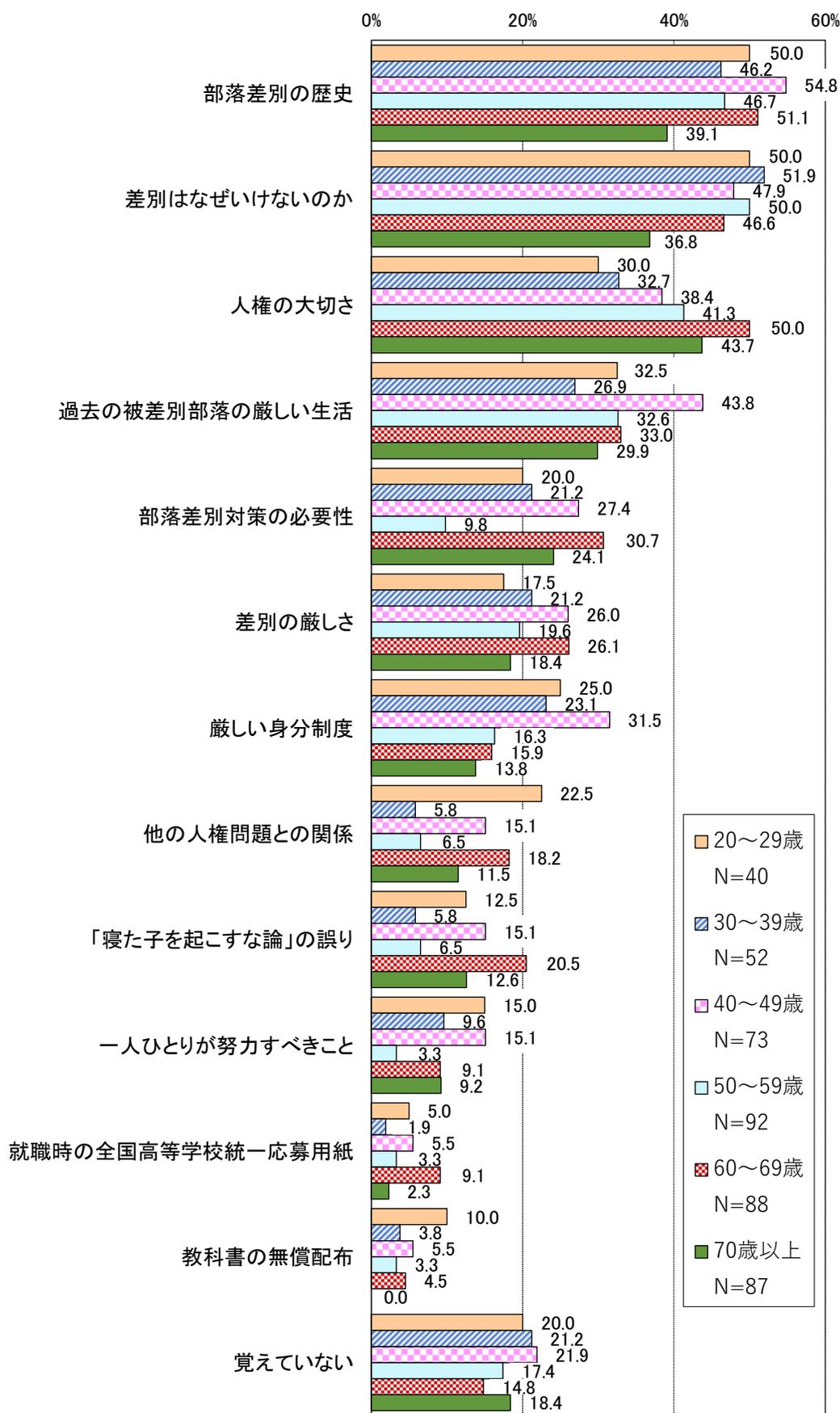


- 受けたことのある学習や研修の内容については、「部落差別の歴史」が47.6%と最も多く、以下、「差別はなぜいけないのか」(46.4%)、「人権の大切さ」(40.9%)、「過去の被差別部落の厳しい生活」(33.3%)と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られない（次ページの男女別クロス集計結果参照）。
- 年齢階層別に見ても回答傾向に大きな差異は見られない（次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照）。

《男女別クロス集計結果》

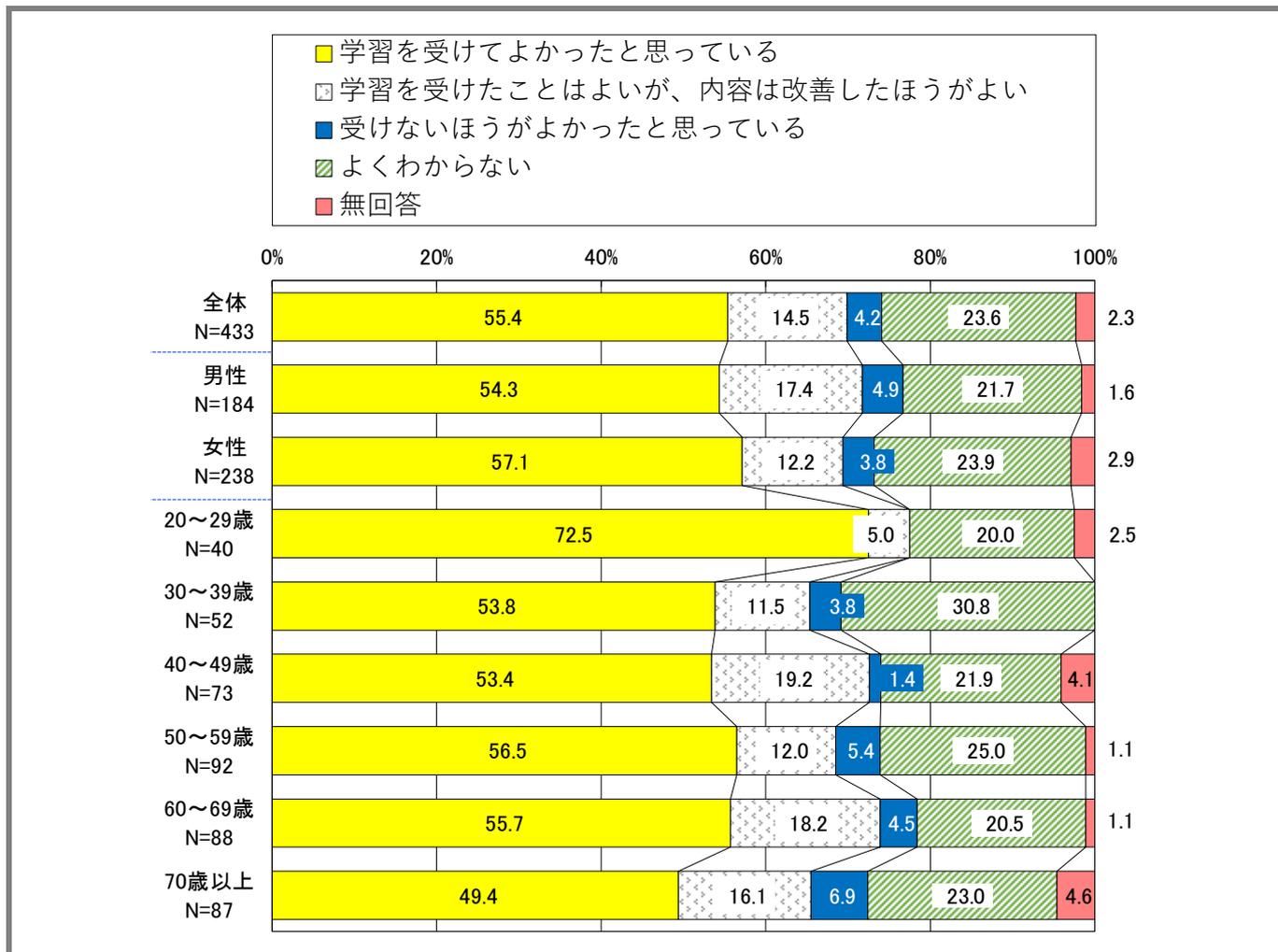


《年齢階層別クロス集計結果》



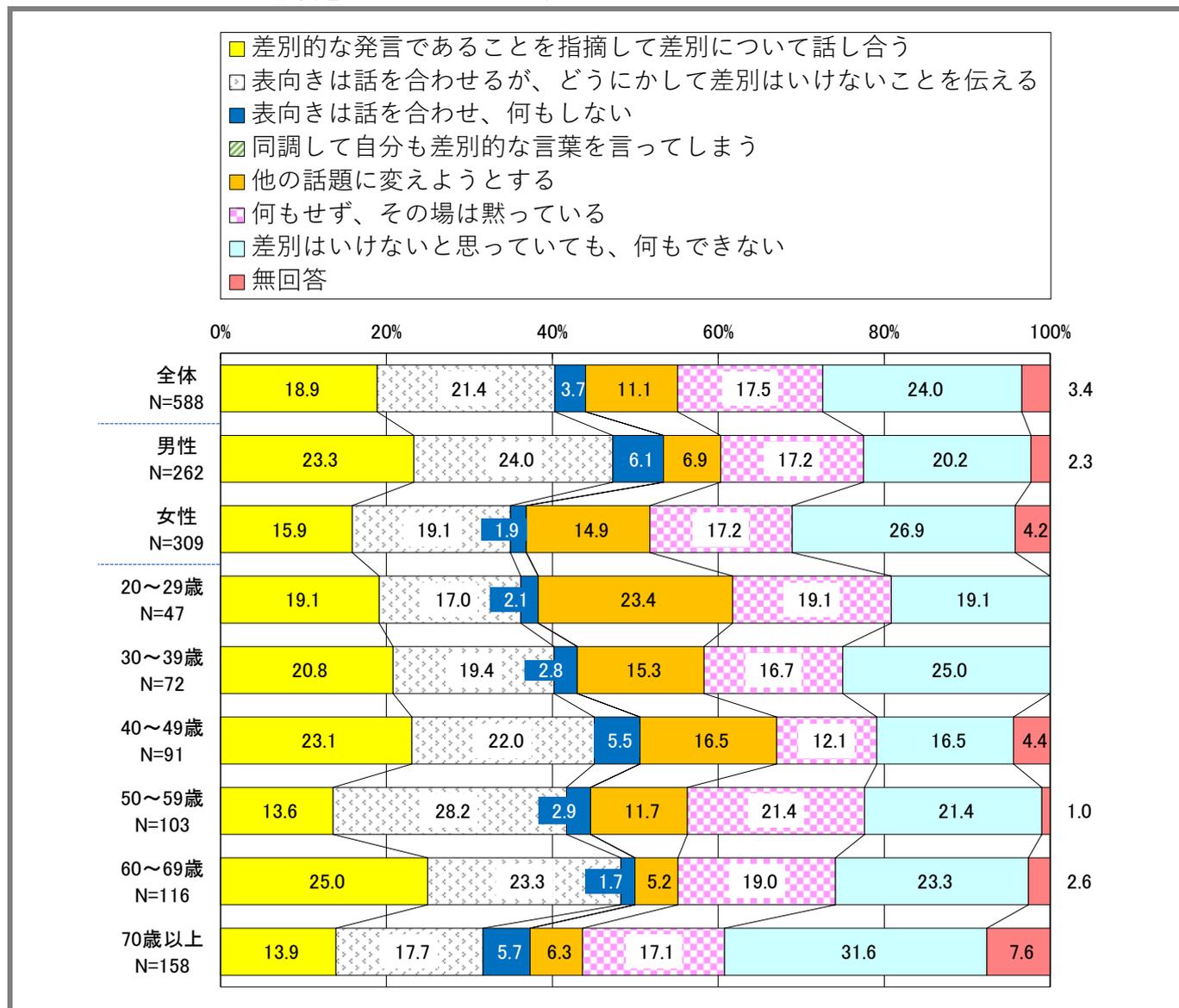
質問29 質問27で「1」～「7」のいずれかを選択した方（「受けたことはない」「無回答」以外の人）におたずねします。

こうした学習を受けたことについて今どう感じていますか。（〇は1つだけ）



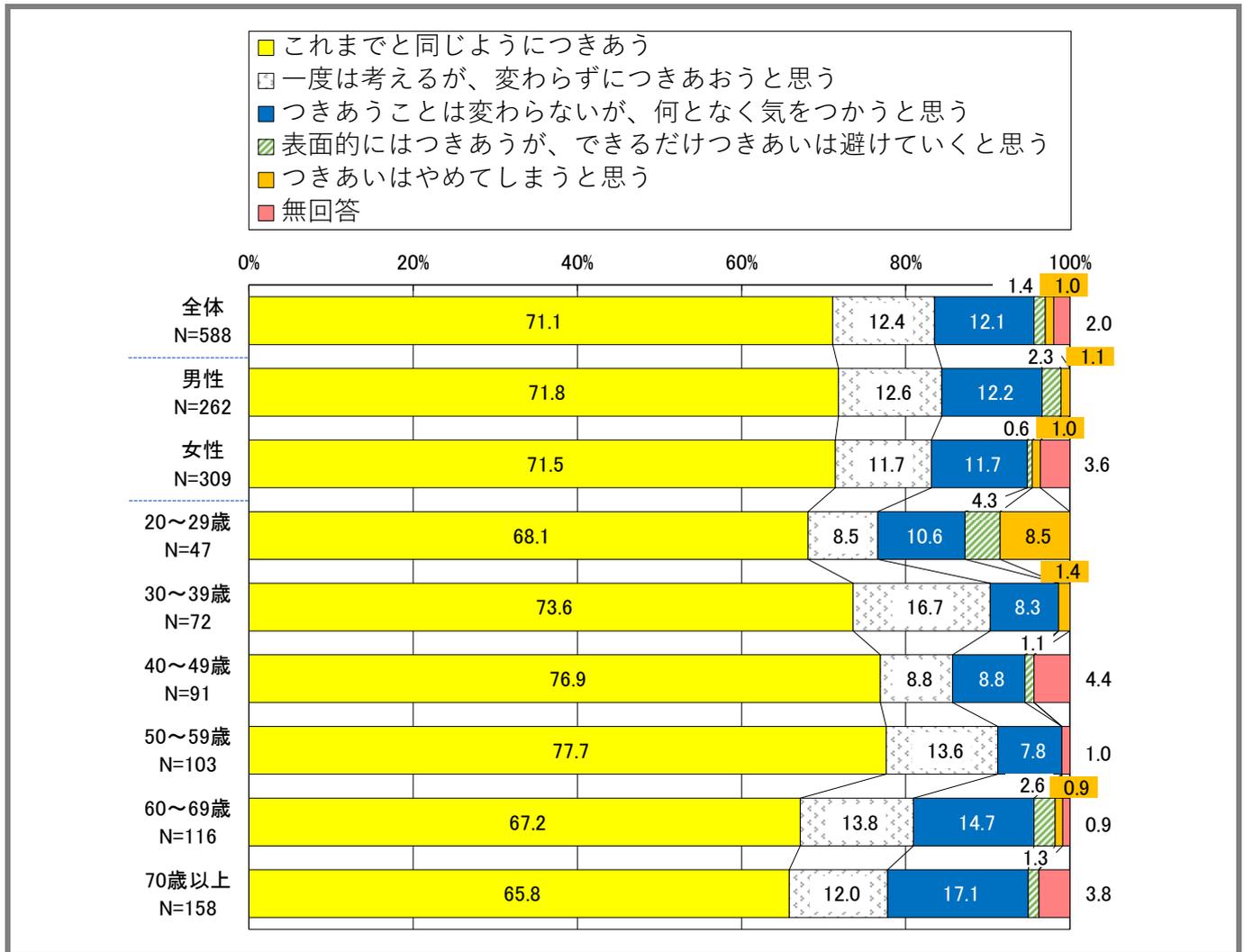
- 部落差別問題（同和問題）についての学習を受けたことについてどう感じているかについては、「学習を受けてよかったと思っている」という回答が全体の55.4%と最も多く、「受けないほうがよかったと思っている」と回答した人は4.2%と、少なくなっている。
- 年齢階層別に見ると、「20～29歳」では、「学習を受けてよかったと思っている」という回答が72.5%と特に高くなっている。

質問30 学校や職場、日常生活の中で誰かが被差別部落出身者に対する差別的な発言をした時あなたは
 どのような態度を取ると思いますか。(○は1つだけ)



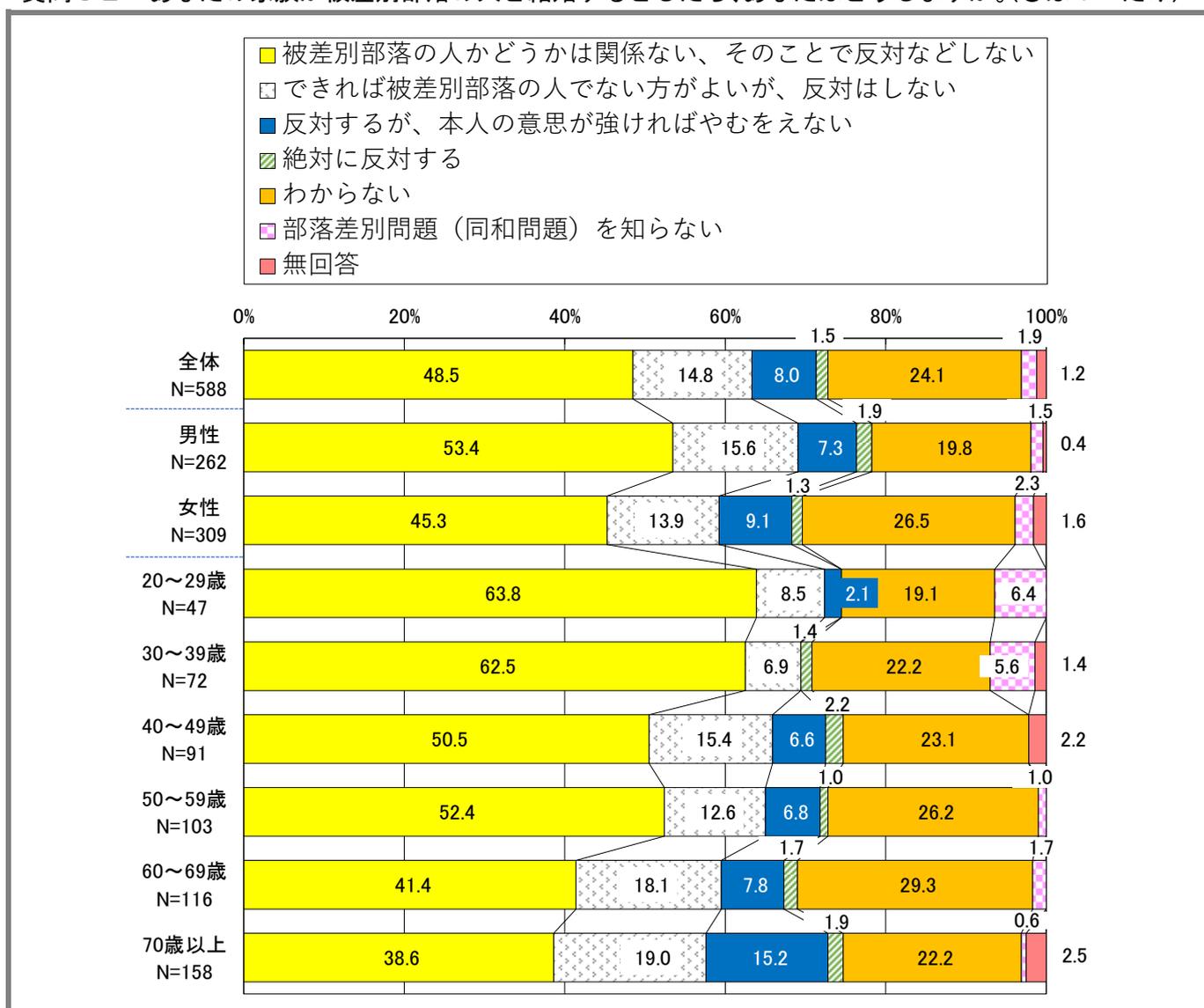
- 学校や職場、日常生活の中で誰かが被差別部落出身者に対する差別的な発言をした時にとる態度については、「差別はいけないと思っけていても、何もできない」という回答が全体の24.0%と、最も多く、次いで、「表向きは話を合わせるが、どうにかして差別はいけないことを伝える」が21.4%、「差別的な発言であることを指摘して差別について話し合う」が18.9%と続いている。
- 男女別に見ると、「差別的な発言であることを指摘して差別について話し合う」「表向きは話を合わせるが、どうにかして差別はいけないことを伝える」という回答割合は、女性（35.0%）より男性（47.3%）の方が12.3ポイント高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、「20~29歳」は「他の話題に変えようとする」（23.4%）、「30~39歳」「70歳以上」は「差別はいけないと思っけていても、何もできない」（25.0%、31.6%）、「40~49歳」「60~69歳」は「差別的な発言であることを指摘して差別について話し合う」（23.1%、25.0%）、「50~59歳」は「表向きは話を合わせるが、どうにかして差別はいけないことを伝える」（28.2%）がそれぞれ最も多くなっている。

質問3 1 日頃親しく付き合っている職場の友人や近所の人々が被差別部落出身者だとわかった場合あなたはどのようにしますか。(〇は1つだけ)



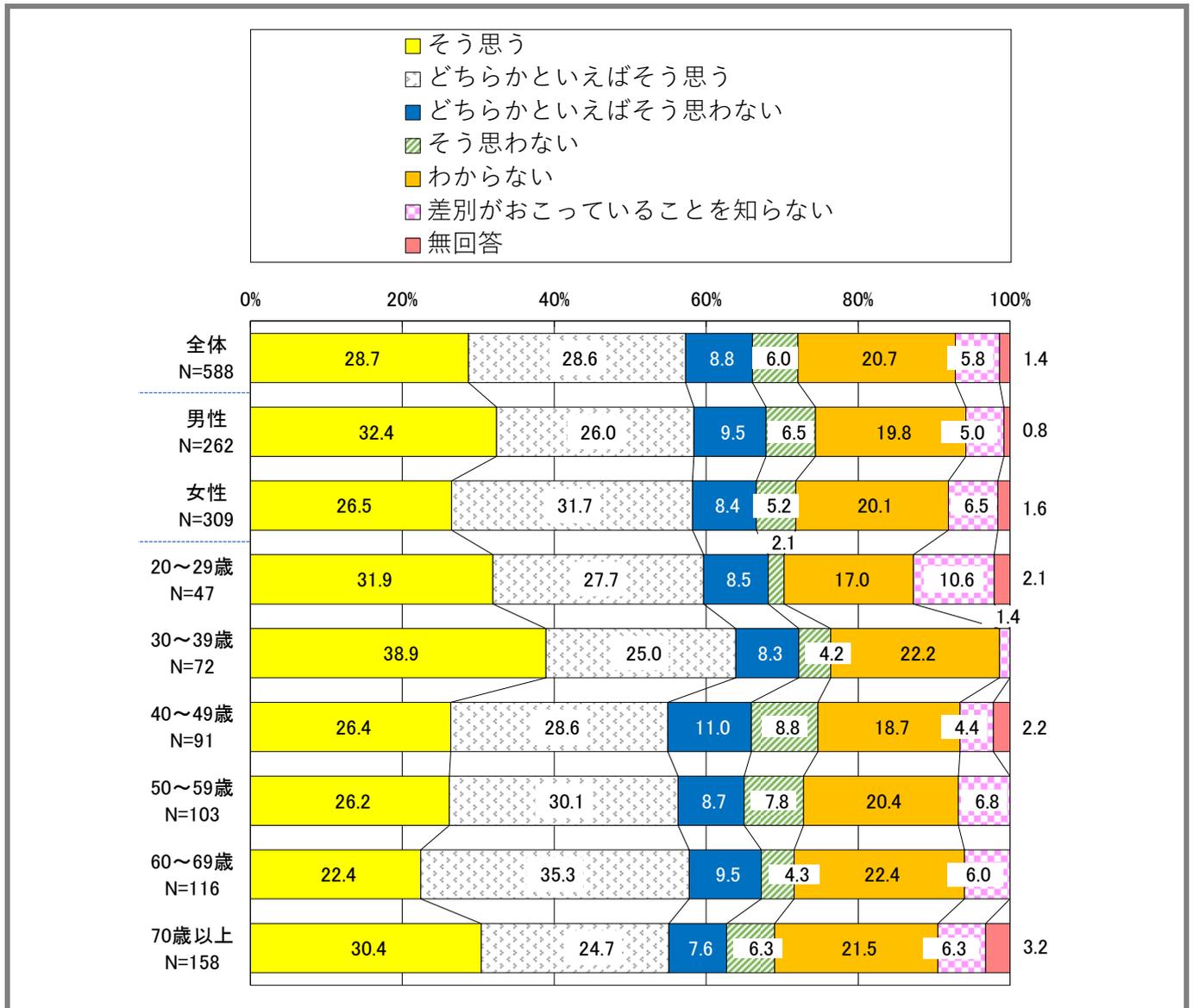
- 日頃親しく付き合っている職場の友人や近所の人々が被差別部落出身者だとわかった場合、「これまでと同じようにつきあう」と回答した人の割合は全体の71.1%となっており、「一度は考えるが、変わらずにつきあおうと思う」(12.4%)を合わせ、全体の83.5%はそのままつきあいを継続すると回答している。
- 年齢階層別に見ると、「20～29歳」では「つきあいはやめてしまうと思う」と回答した人の割合が8.5%と、他の年齢階層に比べ特に高くなっている。

質問32 あなたの家族が被差別部落の人と結婚するとしたら、あなたはどうしますか。(〇は1つだけ)



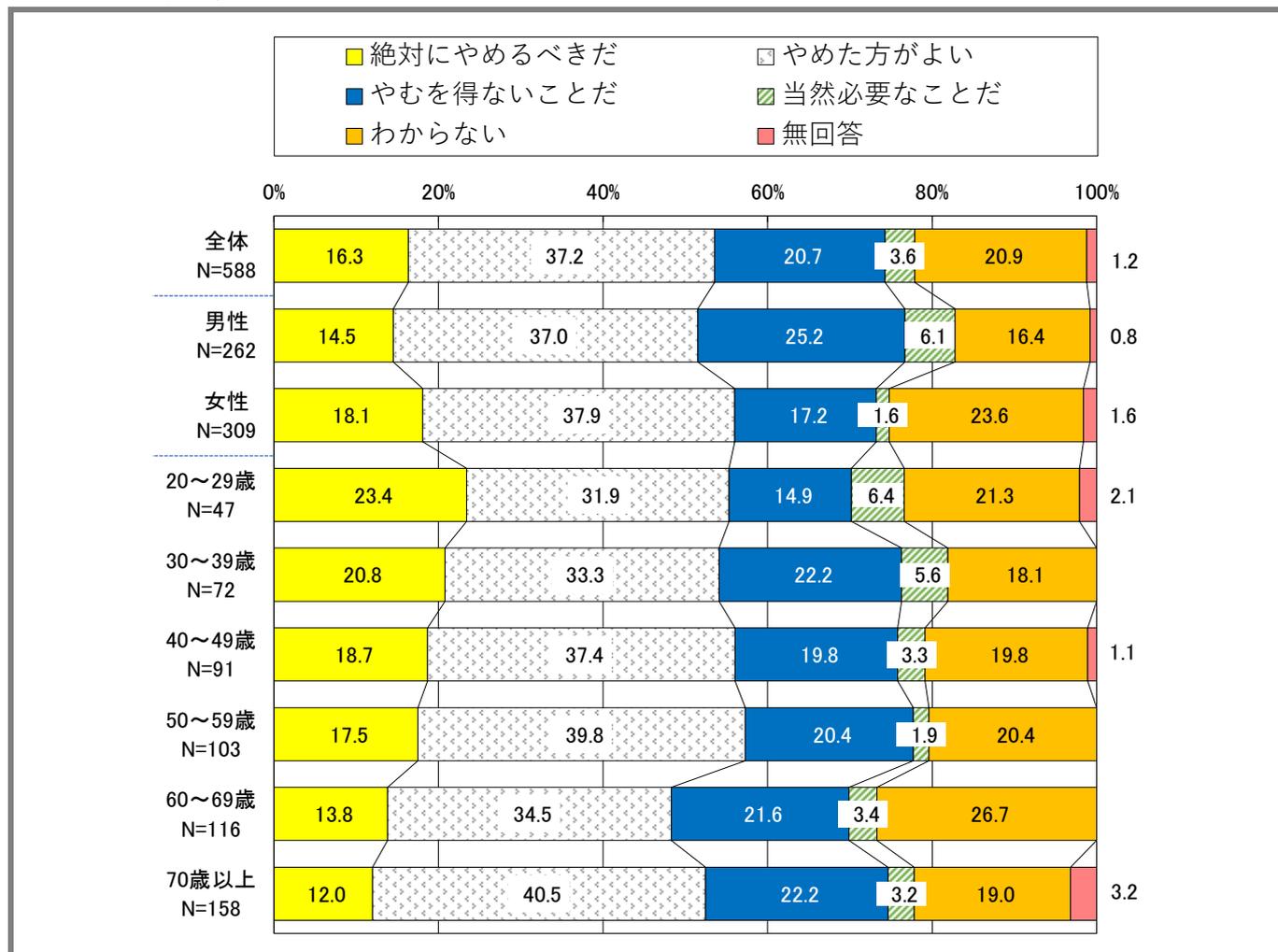
- 家族が被差別部落の人と結婚するとしたら、どうするかについては、「被差別部落の人かどうかは関係ない、そのことで反対などしない」という回答が全体の48.5%と最も多く、「できれば被差別部落の人でない方がよいが、反対はしない」(14.8%)を合わせ、全体の63.3%が反対しないと回答している。
- 「絶対に反対する」という回答は全体の1.5%と少なくなっているが、「わからない」という回答は24.1%と、少なくない。
- 年齢階層別に見ると、「被差別部落の人かどうかは関係ない、そのことで反対などしない」「できれば被差別部落の人でない方がよいが、反対はしない」という回答割合は、年齢階層が高くなるにつれて低くなっている。

質問33 あなたは被差別部落の人たちに対する就職差別や結婚差別は将来なくすことができると思いますか。(〇は1つだけ)



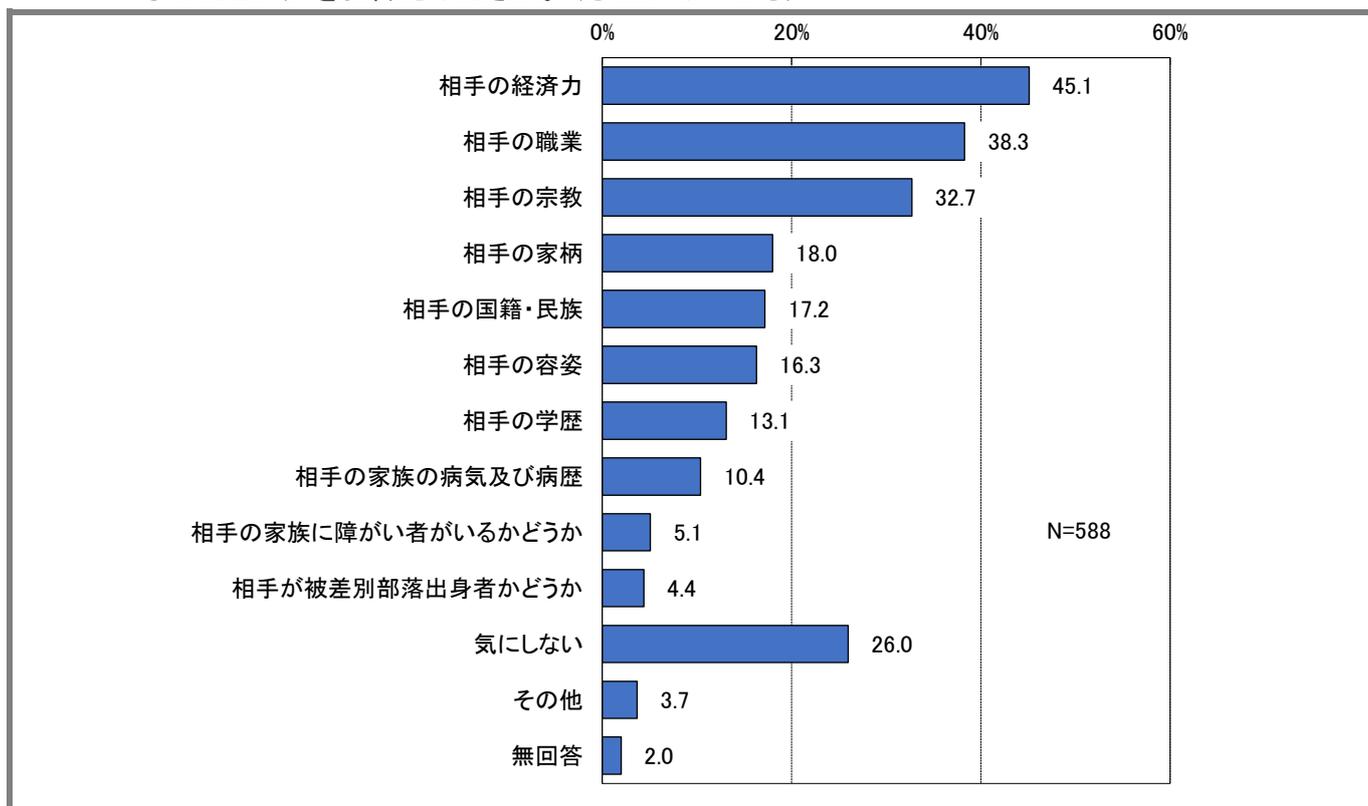
- 被差別部落の人たちに対する就職差別や結婚差別は将来なくすことができると思うかという問いに対し「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は全体の 57.3%で、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した人の割合（14.8%）を大きく上回っている。
- 年齢階層別に見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が最も高かったのは「30~39歳」（63.9%）、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した人の割合が最も高かったのは「40~49歳」（19.8%）となっている。

質問34 あなたは就職や結婚のときにその相手方などの身元調査をすることについてどのように考えますか。(〇は1つだけ)



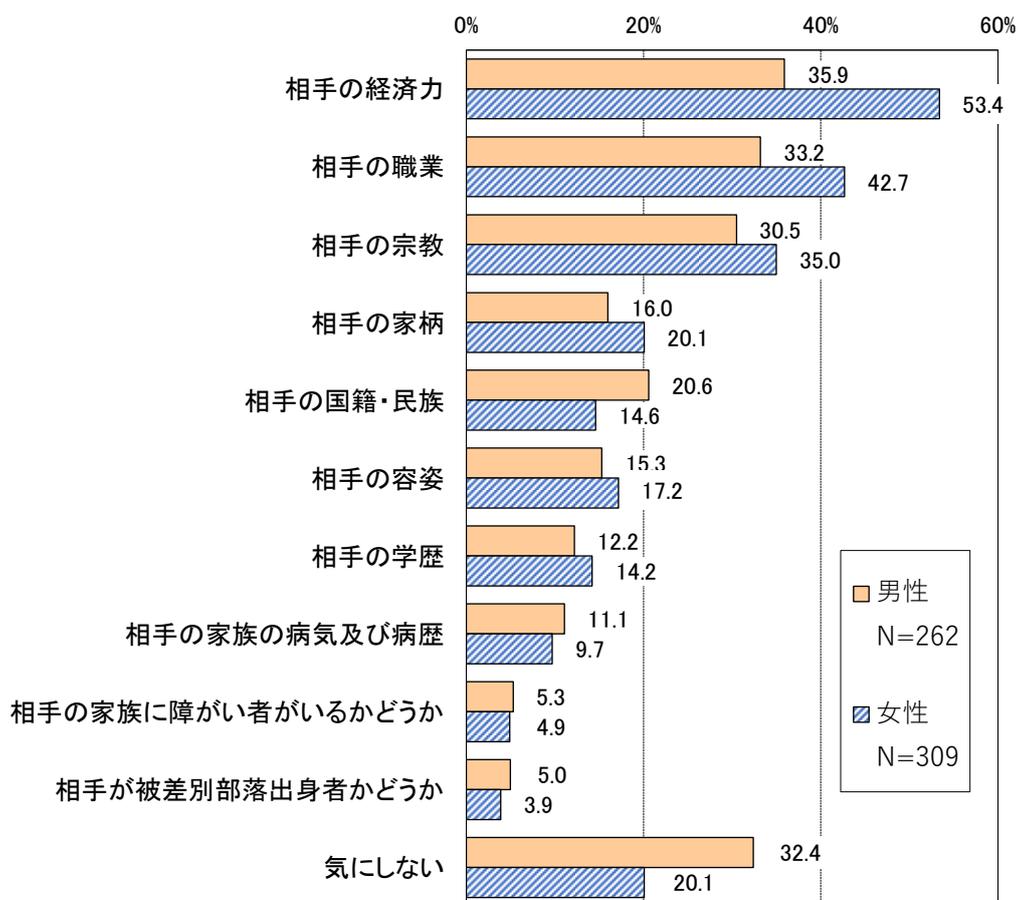
- 就職や結婚のときの身元調査について、「絶対にやめるべきだ」と回答した人の割合は全体の16.3%で、「やめた方がよい」(37.2%)を合わせた否定派は全体の53.5%となっており、「やむを得ないことだ」(20.7%)、「当然必要なことだ」(3.6%)を合わせた肯定派(24.3%)を29.2ポイント上回っている。
- 男女別に見ると、「やむを得ないことだ」「当然必要なことだ」を合わせた肯定派は、女性(18.8%)より男性(31.3%)の方が多くなっている。
- 年齢階層別に見ると、「絶対にやめるべきだ」と回答した人の割合は年齢階層が低くなるにつれて高くなっている。

質問35 あなたや、あなたの家族の結婚相手を考える際相手の人柄や性格以外で気になること（気になったこと）をお答えください。（〇はいくつでも）

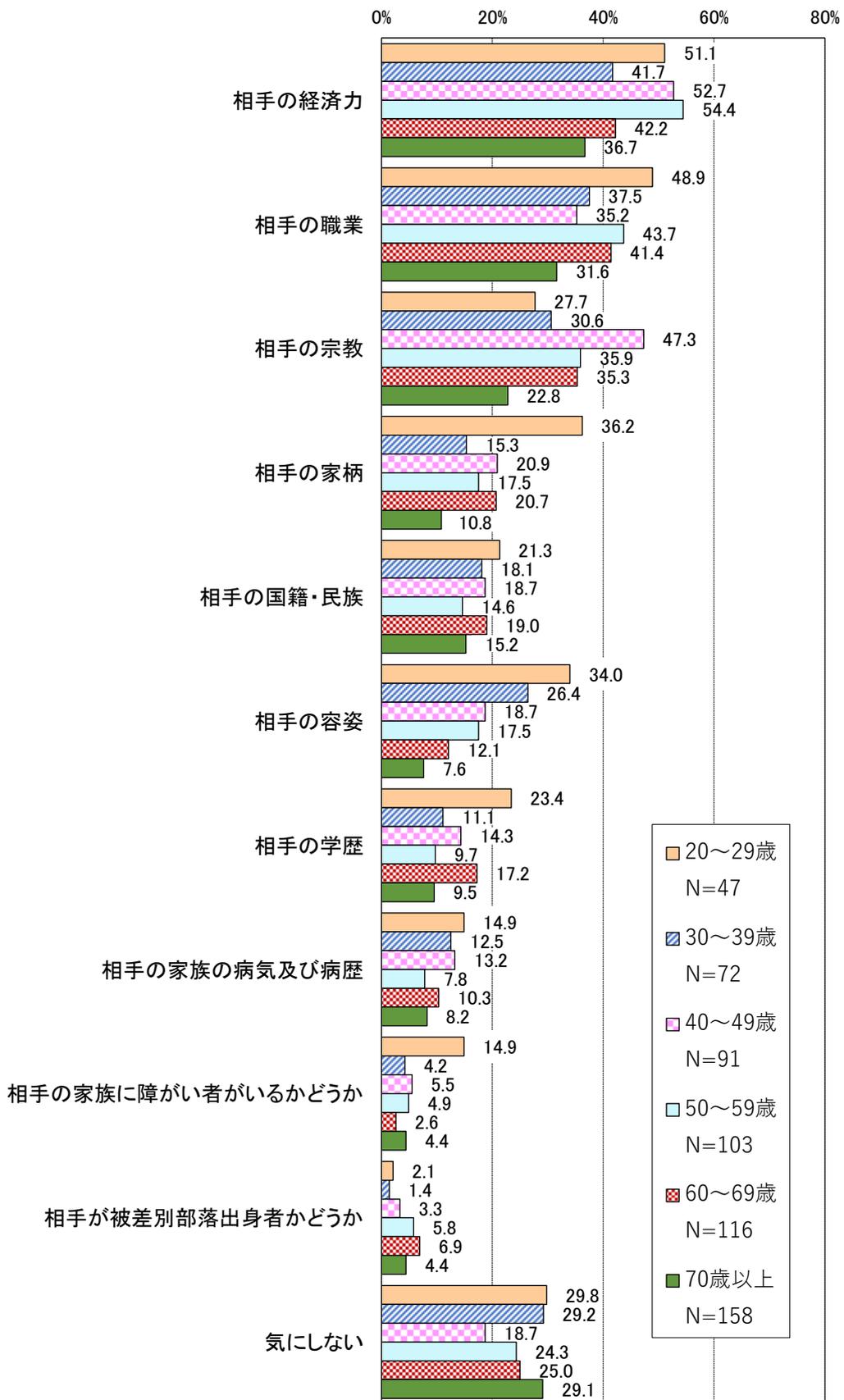


- 結婚相手を考える際相手の人柄や性格以外で気になること（気になったこと）については、「相手の経済力」という回答が45.1%と最も多く、次いで、「相手の職業」が38.3%、「相手の宗教」が「32.7%」となっており、「気にしない」という回答は26.0%となっている。
- 男女別に見ると、「相手の経済力」や「相手の職業」という回答割合は男性に比べ女性の方が高く、「相手の国籍・民族」は女性に比べ男性の方が高くなっている（次ページの男女別クロス集計結果参照）。
- 年齢階層別に見ると、「20～29歳」は、「相手の家柄」「相手の容姿」「相手の学歴」「相手の家族に障がい者がいるかどうか」など多くの項目で他の年齢階層に比べ高い回答割合となっている（次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照）。

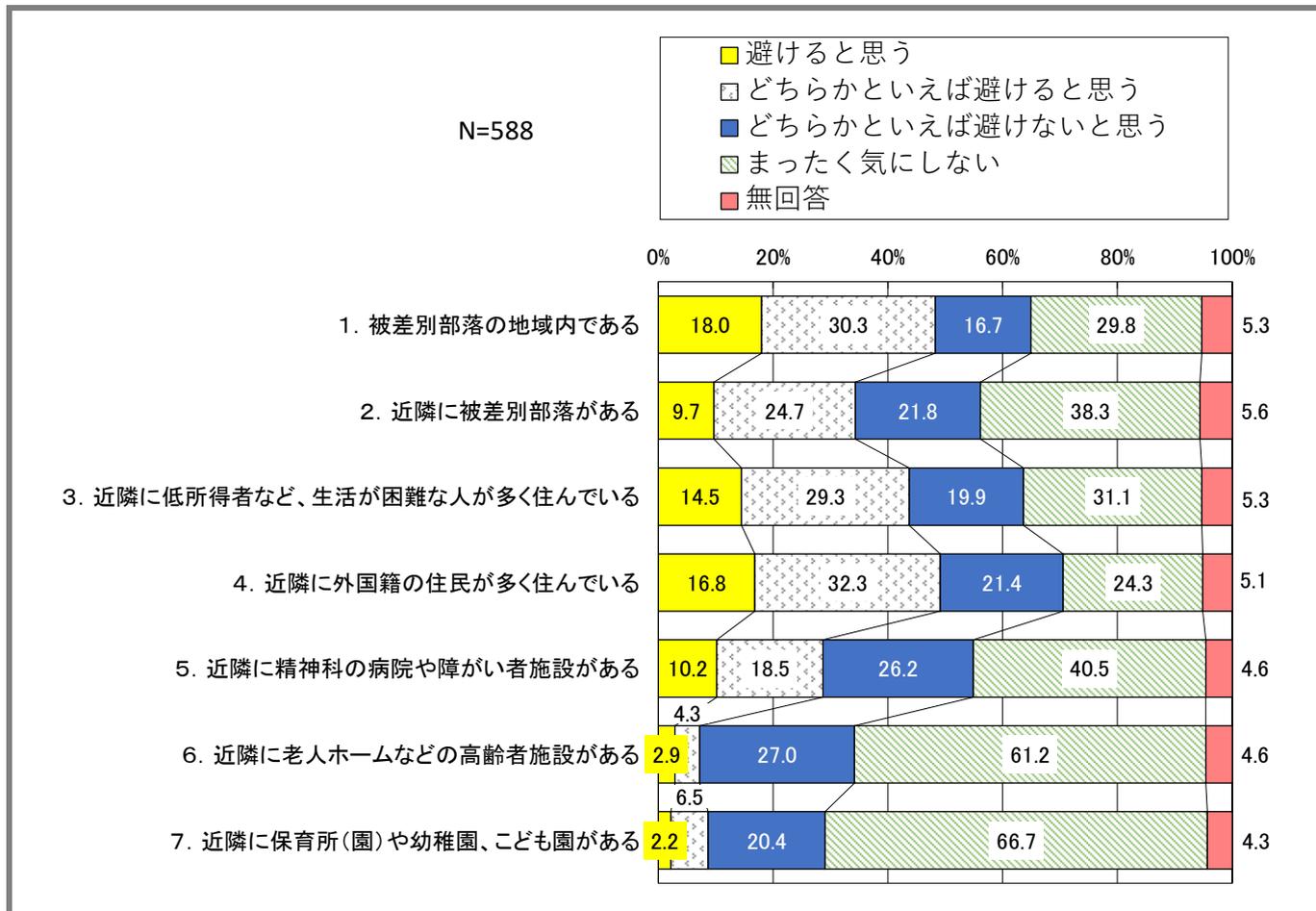
《男女別クロス集計結果》



《年齢階層別クロス集計結果》



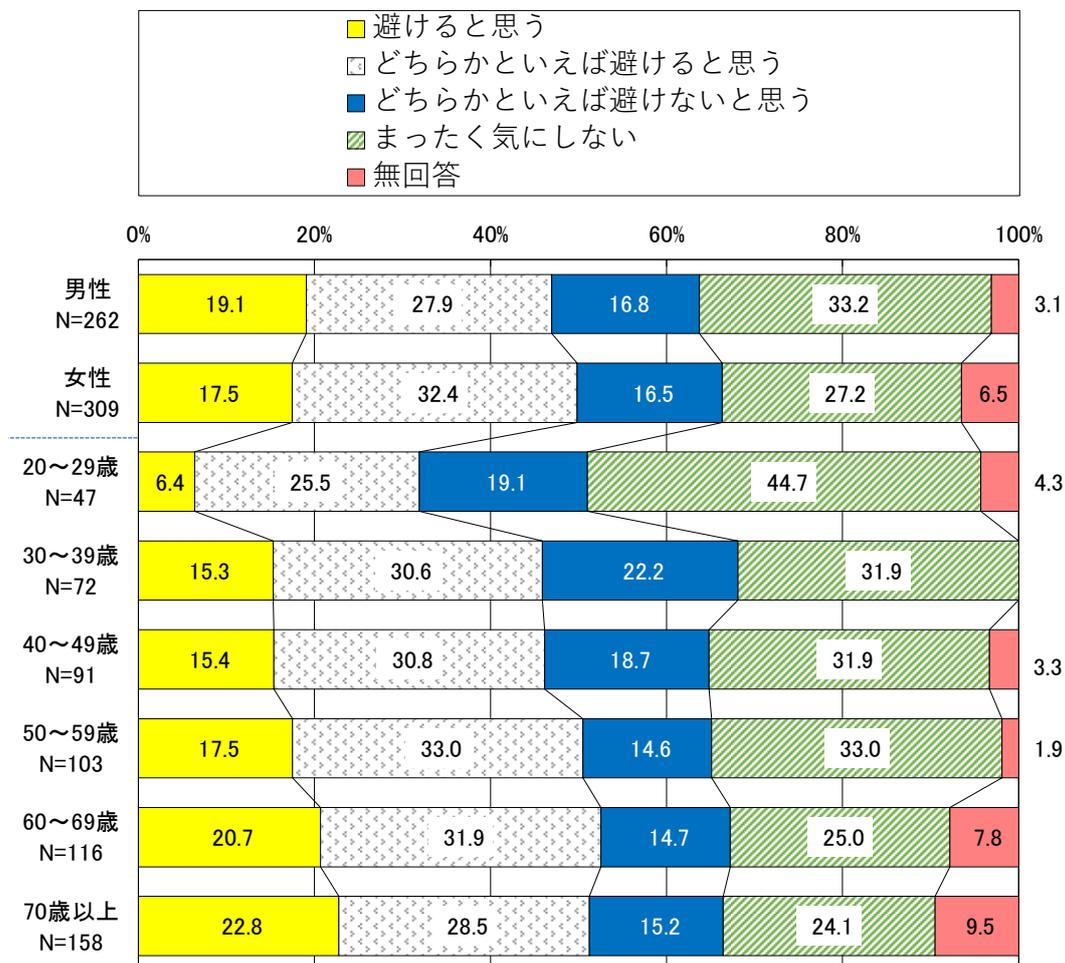
問36 あなたが住宅を購入したり借りたりするなど住まいを選ぶ際に価格や立地条件が希望にあっても次のような物件の場合避けることがありますか。(7つの質問のそれぞれについて○を1つ)



● 住まいを選ぶ際に「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と回答した人の割合が最も高かったのは「近隣に外国籍の住民が多く住んでいる」で 49.1%、次いで「被差別部落の地域内である」が 48.3%、「近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる」が 43.8%、「近隣に被差別部落がある」が 34.4%、「近隣に精神科の病院や障がい者施設がある」が 28.7%と続いている。

1. 被差別部落の地域内である

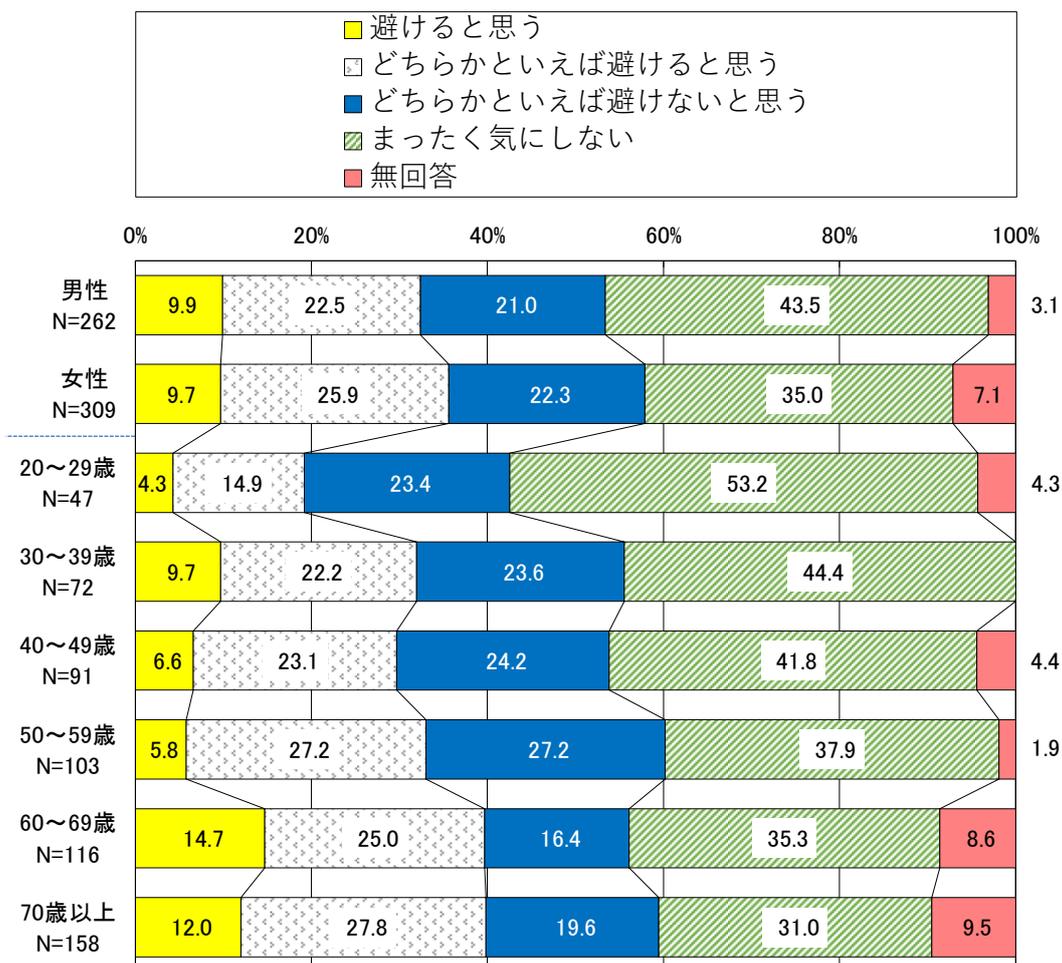
《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



- 男女別に見ると、「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と回答した人の割合は男性（47.0%）よりも女性（49.9%）の方がやや高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と回答した人の割合は概ね年齢階層が低くなるにつれて低くなっており、「20～29歳」では31.9%となっている。

2. 近隣に被差別部落がある

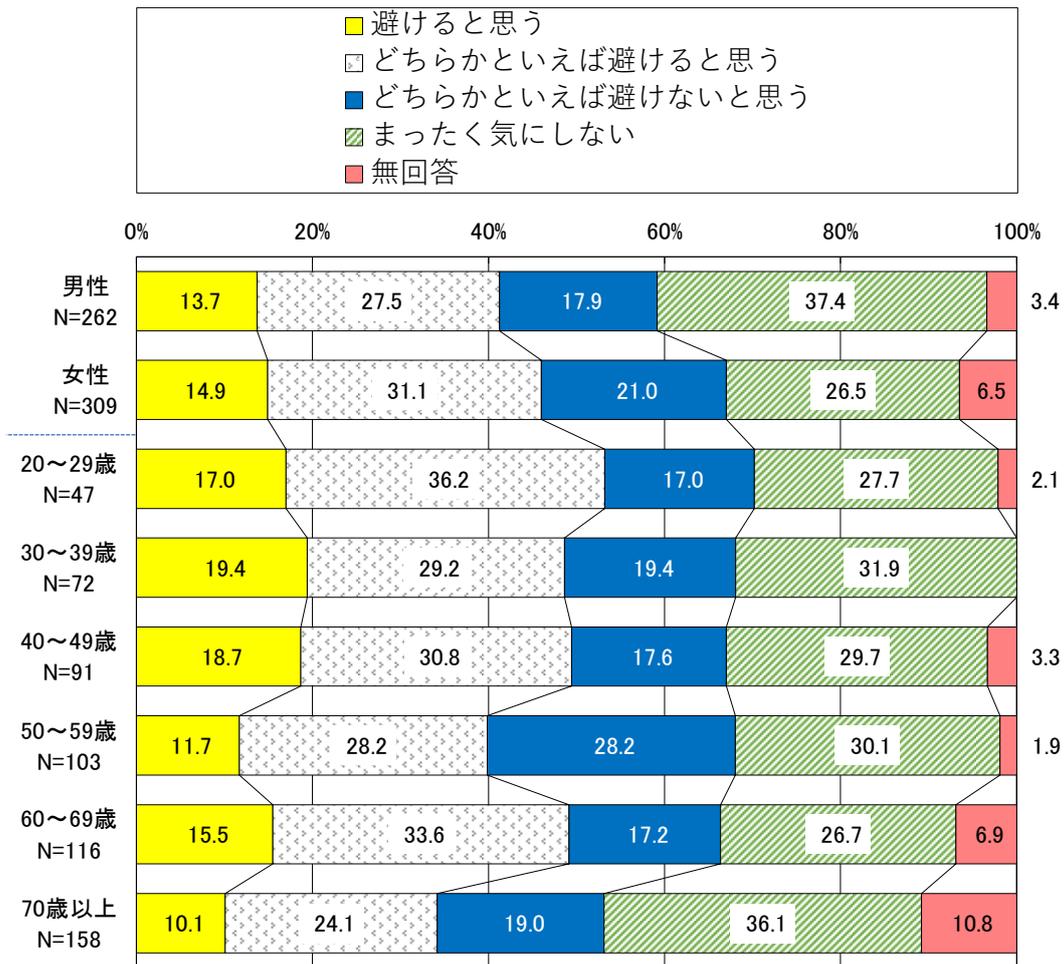
《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



- 男女別に見ると、「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と回答した人の割合は男性（32.4%）よりも女性（35.6%）の方がやや高くなっている。
- 年齢階層別に見て、「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と回答した人の割合が高かったのは「70歳以上」（39.8%）、「60～69歳」（39.7%）、逆に最も低かったのは「20～29歳」（19.2%）となっている。

3. 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる

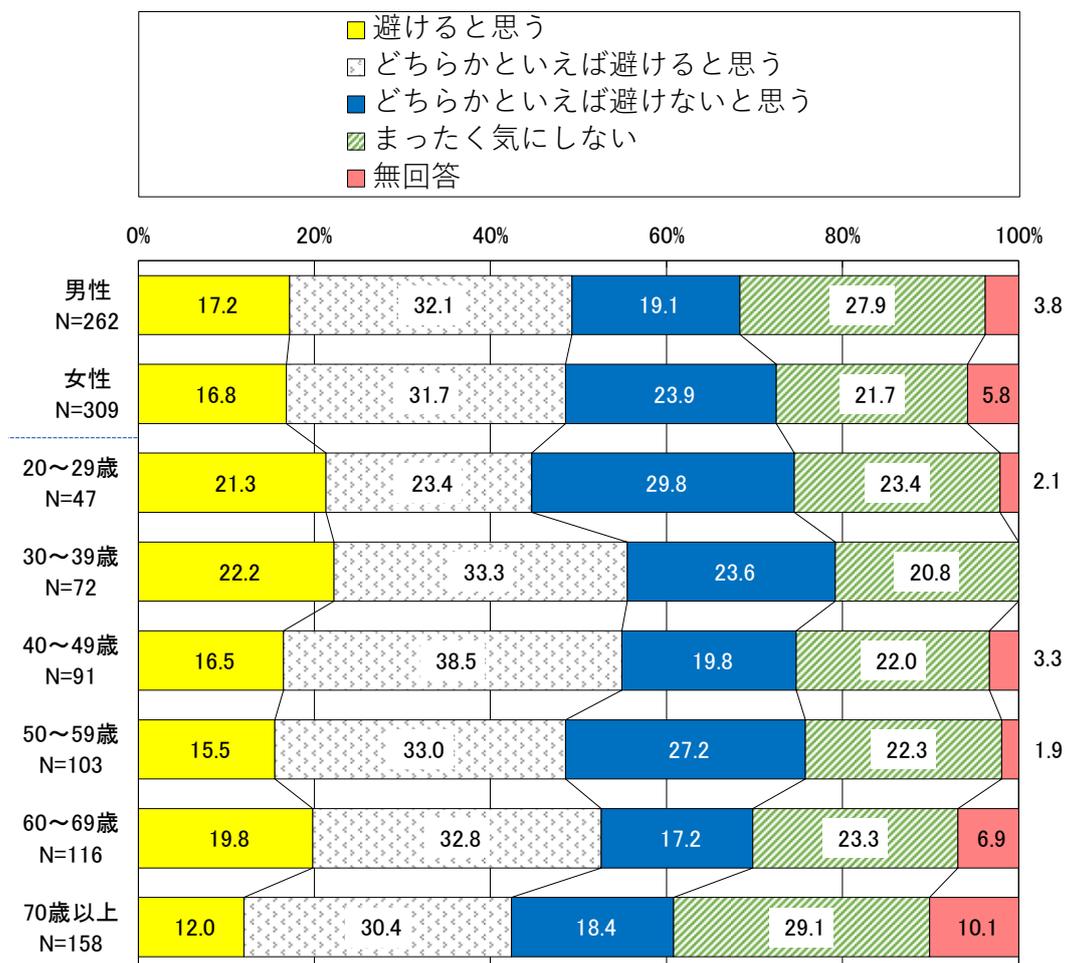
《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



- 男女別に見ると、「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と回答した人の割合は男性（41.2%）よりも女性（46.0%）の方がやや高くなっている。
- 年齢階層別に見て、「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と回答した人の割合が最も高かったのは「20～29歳」（53.2%）、逆に最も低かったのは「70歳以上」（34.2%）となっている。

4. 近隣に外国籍の住民が多く住んでいる

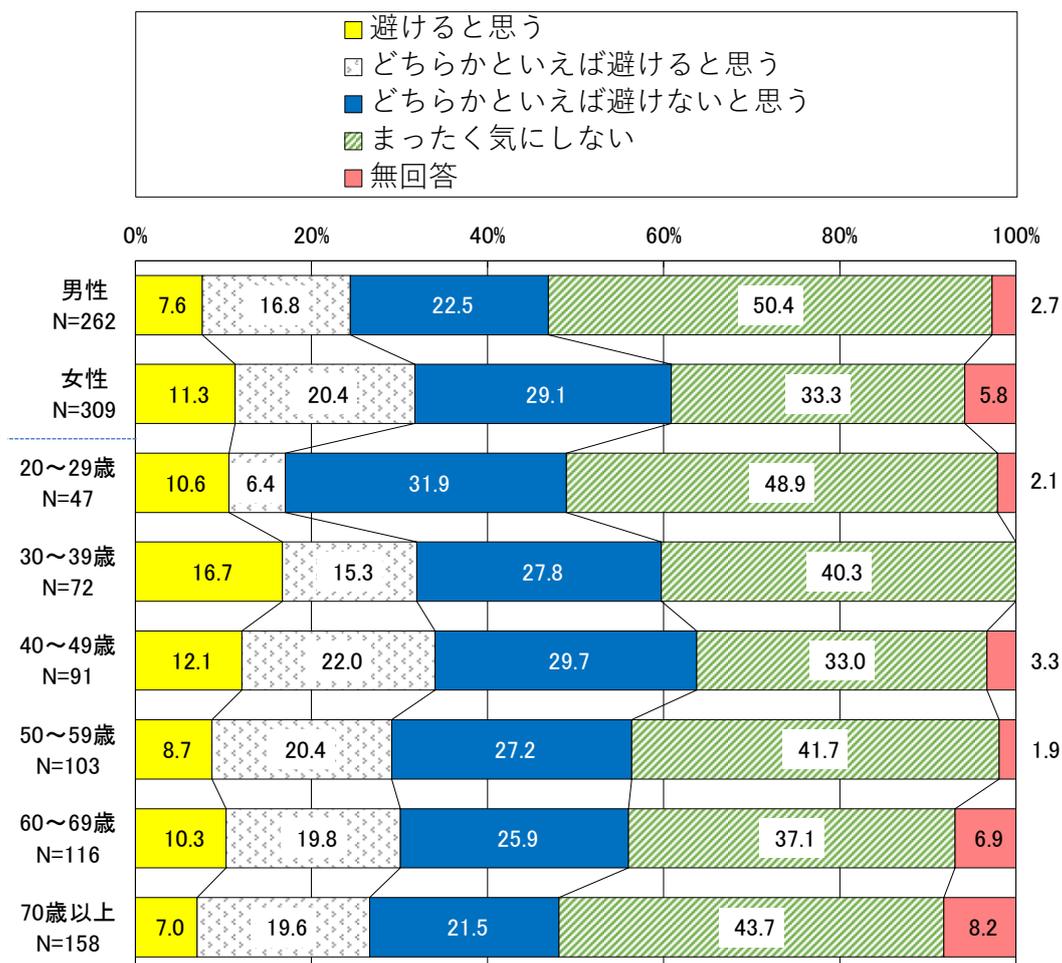
《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



- 男女別に見ても、回答傾向にあまり大きな差異は見られなかった。
- 年齢階層別に見て、「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と回答した人の割合が最も高かったのは「30~39歳」(55.5%)、逆に最も低かったのは「70歳以上」(42.4%)となっている。

5. 近隣に精神科の病院や障がい者施設がある

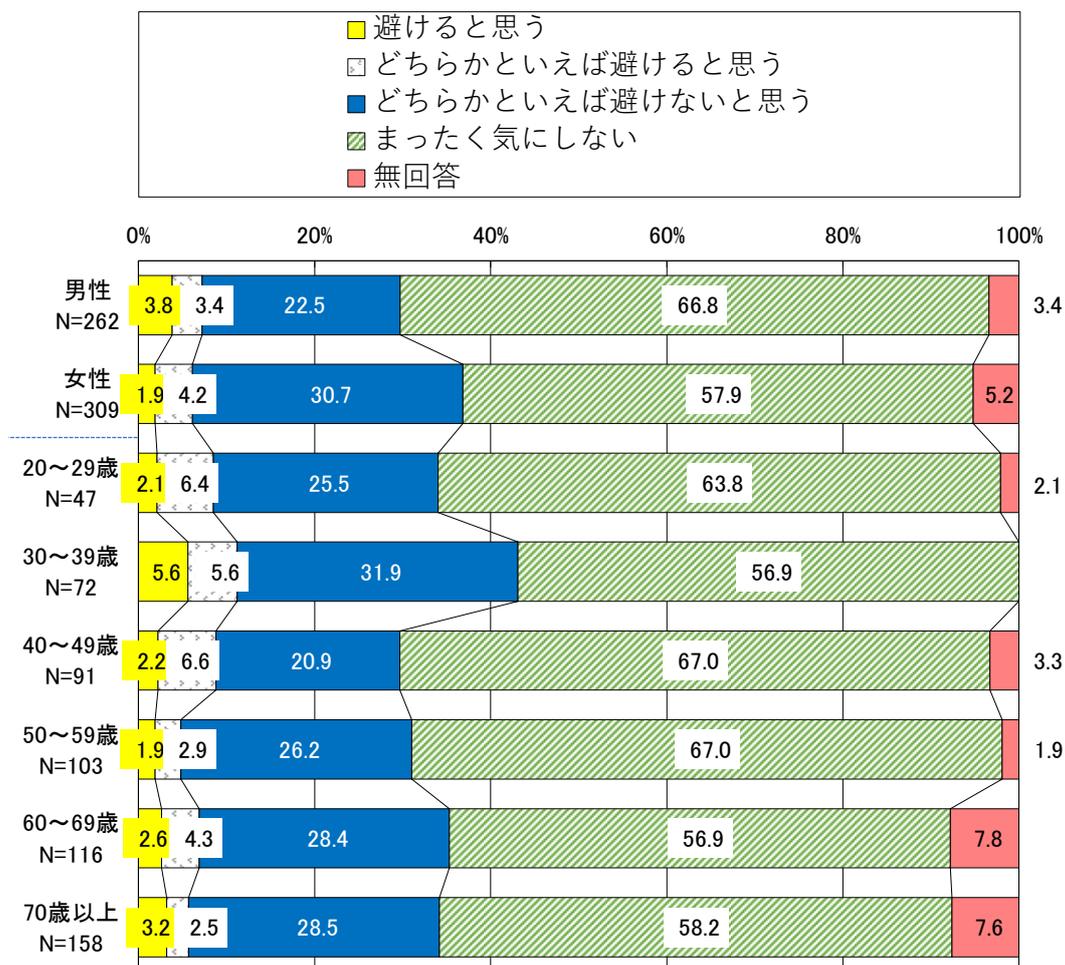
《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



- 男女別に見ると、「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と回答した人の割合は女性（31.7%）よりも男性（24.4%）の方が低くなっている。
- 年齢階層別に見て、「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と回答した人の割合が最も高かったのは「40～49歳」（34.1%）、逆に最も低かったのは「20～29歳」（17.0%）となっている。

6. 近隣に老人ホームなどの高齢者施設がある

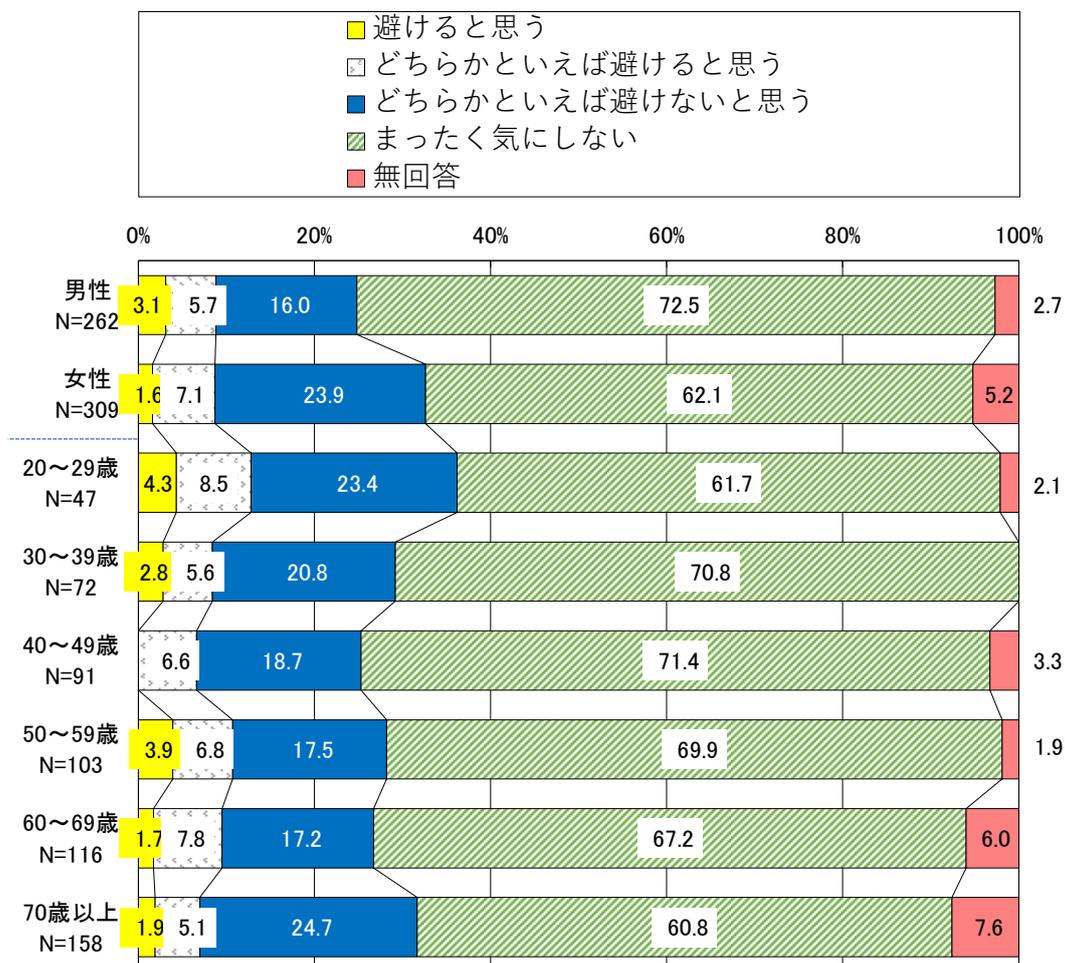
《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



- 住まいを選ぶ際に「まったく気にしない」「どちらかといえば避けないと思う」と回答した人が大半を占めており、男女別に見ても、年齢階層別に見ても大きな差異は見られなかった。

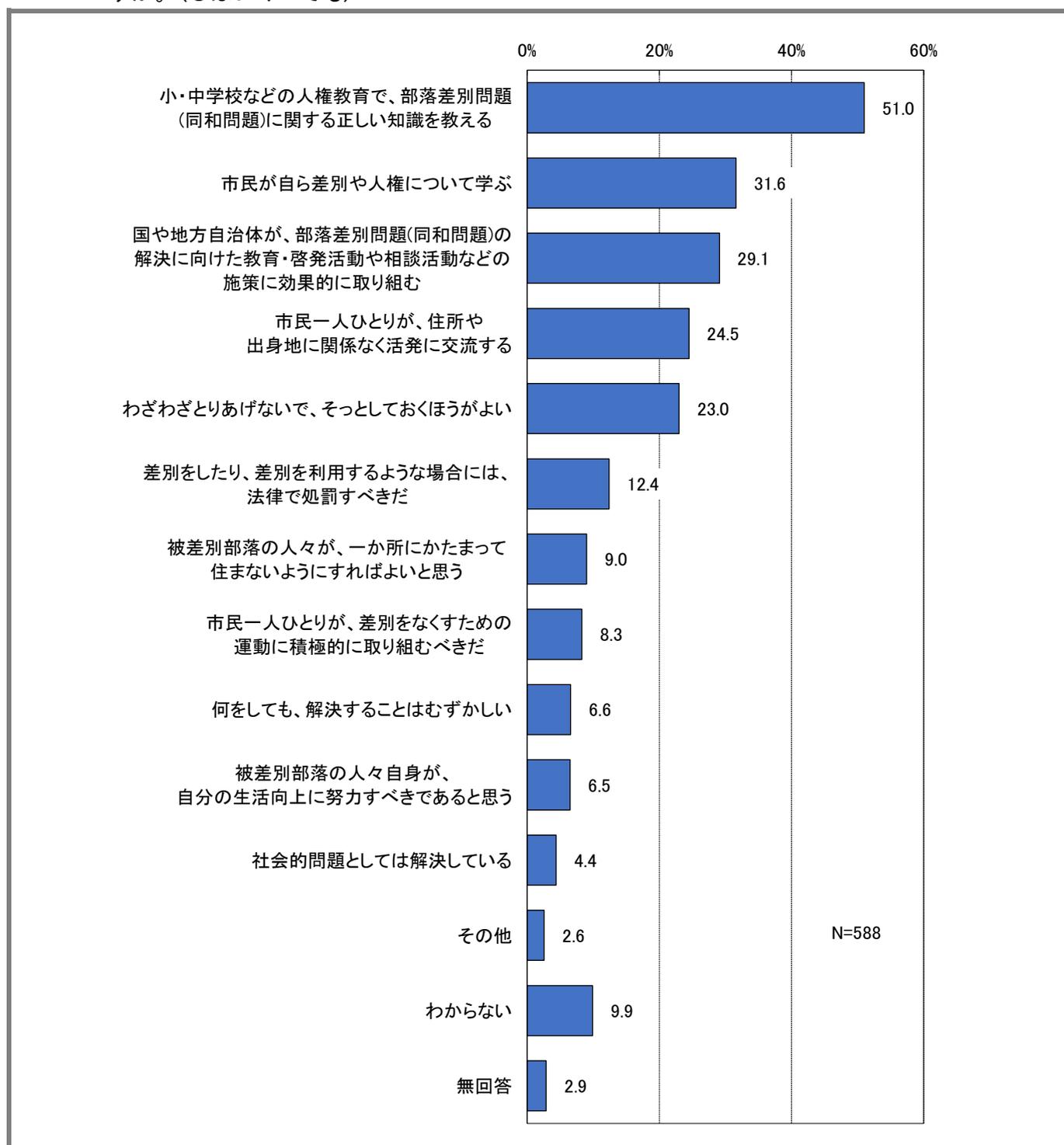
7. 近隣に保育所（園）や幼稚園、こども園がある

《男女別・年齢階層別クロス集計結果》

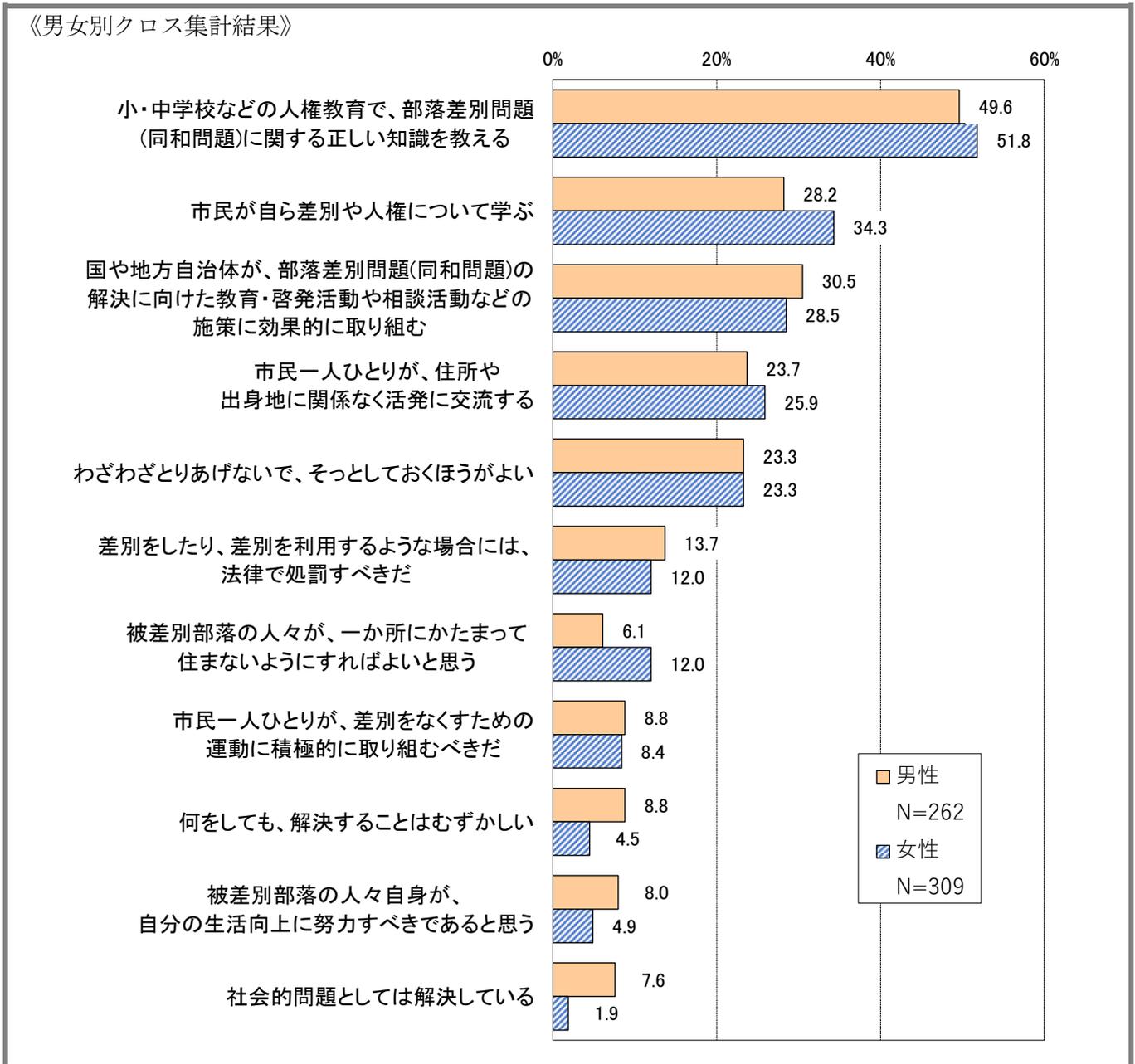


- 住まいを選ぶ際に「まったく気にしない」「どちらかといえば避けないと思う」と回答した人が大半を占めており、男女別に見てもあまり差異は見られなかった。
- 年齢階層別に見て、「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と回答した人の割合が最も高かったのは「20～29歳」（12.8%）、逆に最も低かったのは「40～49歳」（6.6%）となっている。

質問37 あなたは部落差別問題(同和問題)を解決するためには、どのような方向が望ましいと思いますか。(〇はいくつでも)

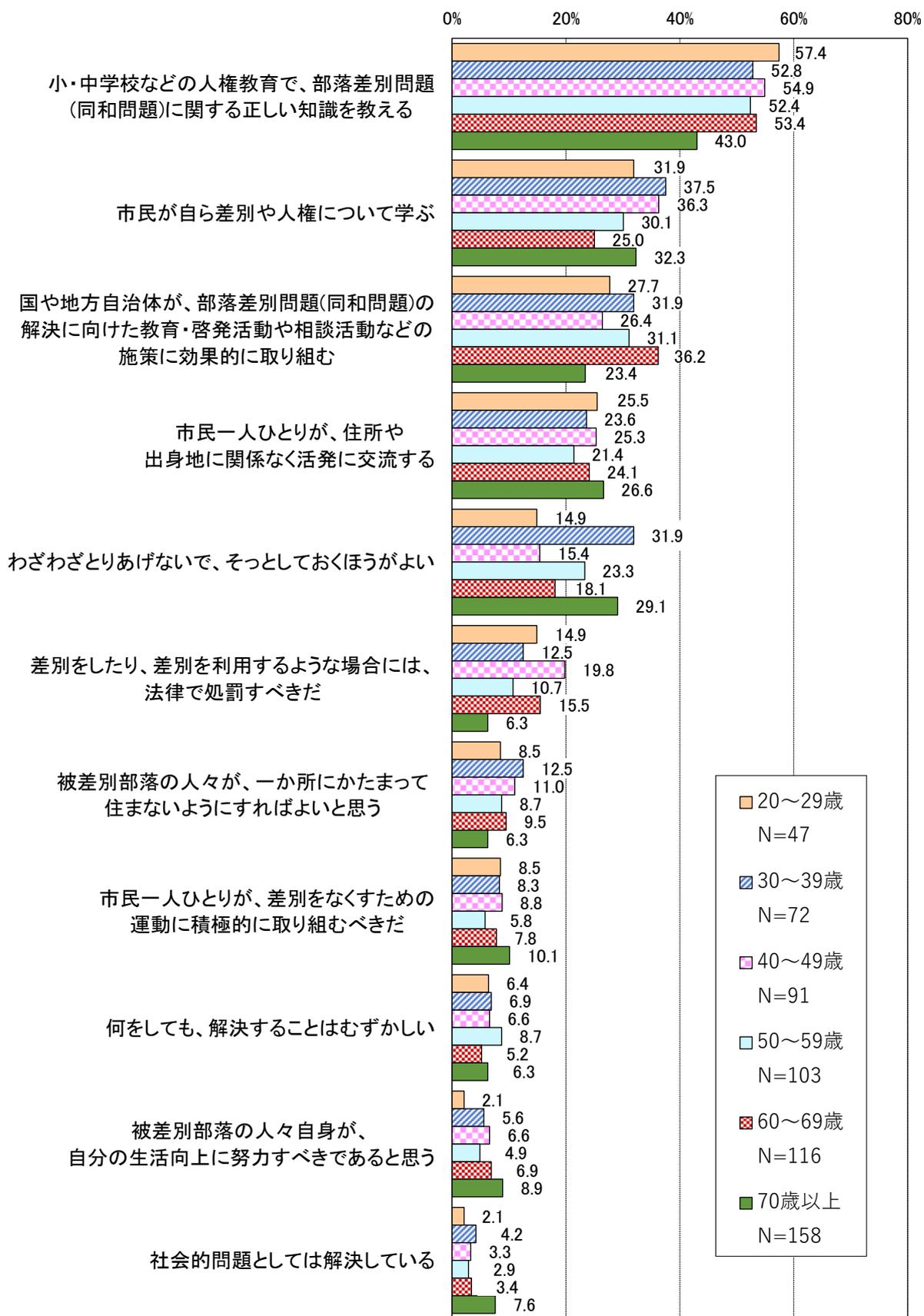


- 部落差別問題(同和問題)を解決するための望ましい方向については、「小・中学校などの人権教育で、部落差別問題(同和問題)に関する正しい知識を教える」を選択した人の割合が51.0%と最も高く、以下、「市民が自ら差別や人権について学ぶ」(31.6%)、「国や地方自治体が、部落差別問題(同和問題)の解決に向けた教育・啓発活動や相談活動などの施策に効果的に取り組む」(29.1%)、「市民一人ひとりが、住所や出身地に関係なく活発に交流する」(24.5%)、「わざわざとりあげないで、そっとしておくほうがよい」(23.0%)と続いている。



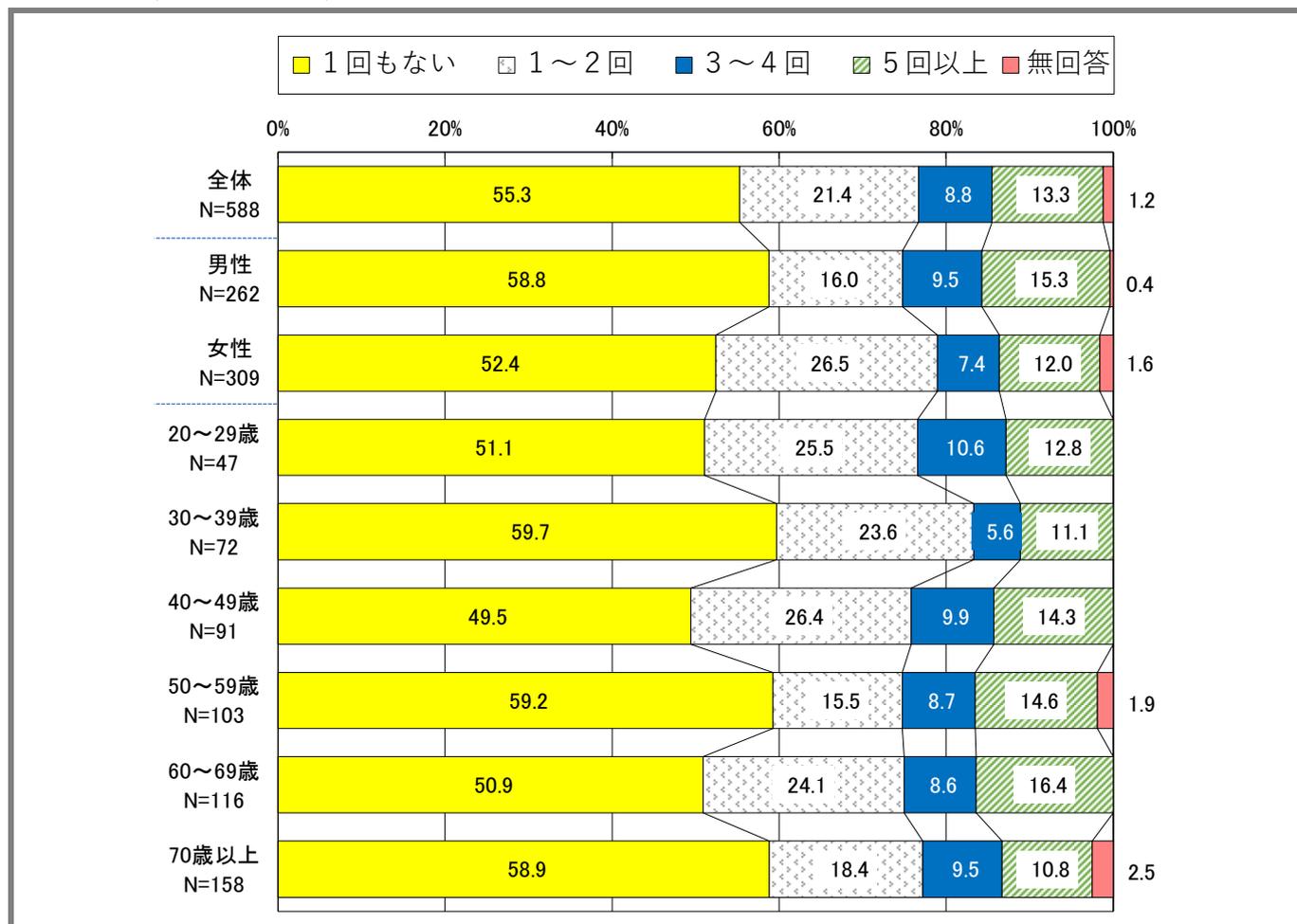
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られないが、男性では「市民が自ら差別や人権について学ぶ」(28.2%)よりも「国や地方自治体が、部落差別問題(同和問題)の解決に向けた教育・啓発活動や相談活動などの施策に効果的に取り組む」(30.5%)の回答割合の方がやや高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、いずれの階層においても「小・中学校などの人権教育で、部落差別問題(同和問題)に関する正しい知識を教える」という回答割合が最も高くなっており、50歳未満と「70歳以上」では「市民が自ら差別や人権について学ぶ」、「50～59歳」と「60～69歳」では「国や地方自治体が、部落差別問題(同和問題)の解決に向けた教育・啓発活動や相談活動などの施策に効果的に取り組む」がそれぞれ2番目に高い割合となっている(次ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

《年齢階層別クロス集計結果》



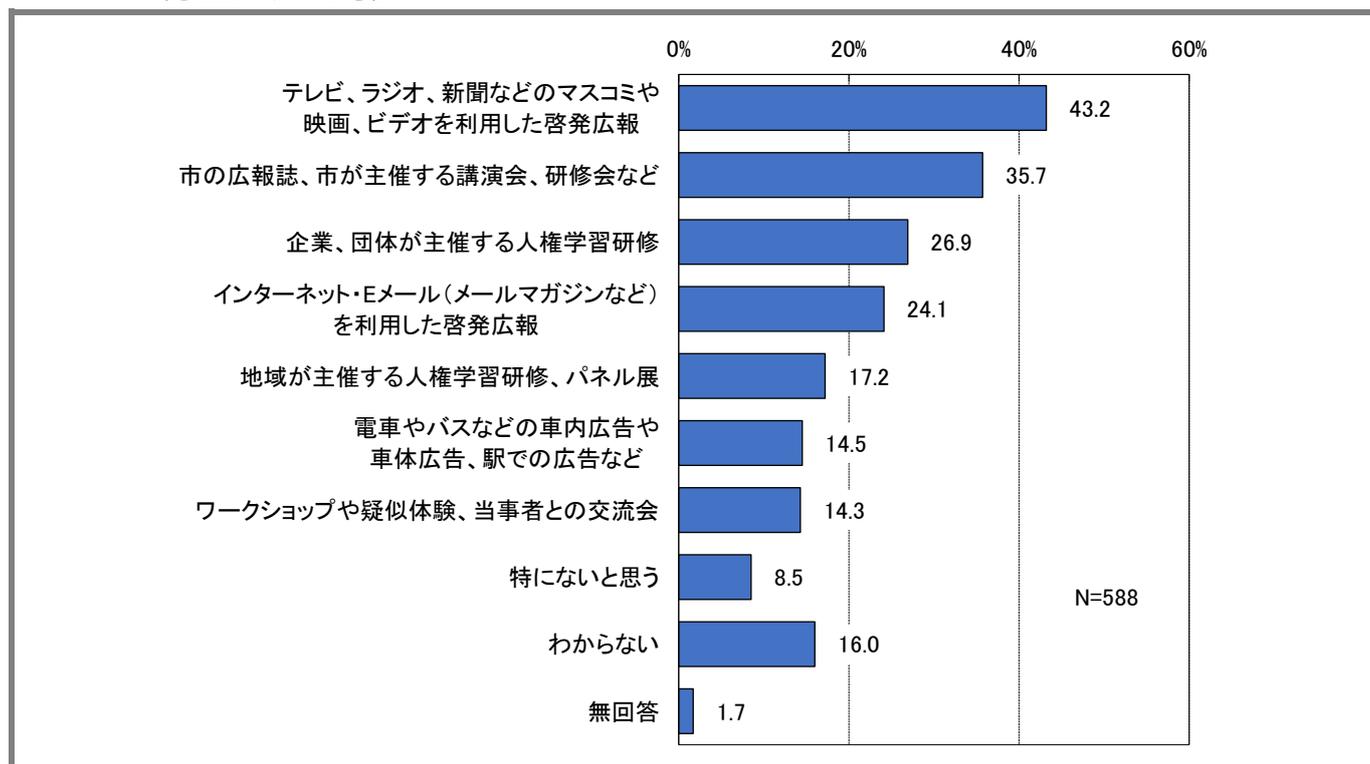
V. 人権問題解決のための啓発事業や市の取り組みについて

質問38 あなたはこれまでに人権に関する講演会や研修・学習会などに何回くらい参加しましたか。
(〇は1つだけ)



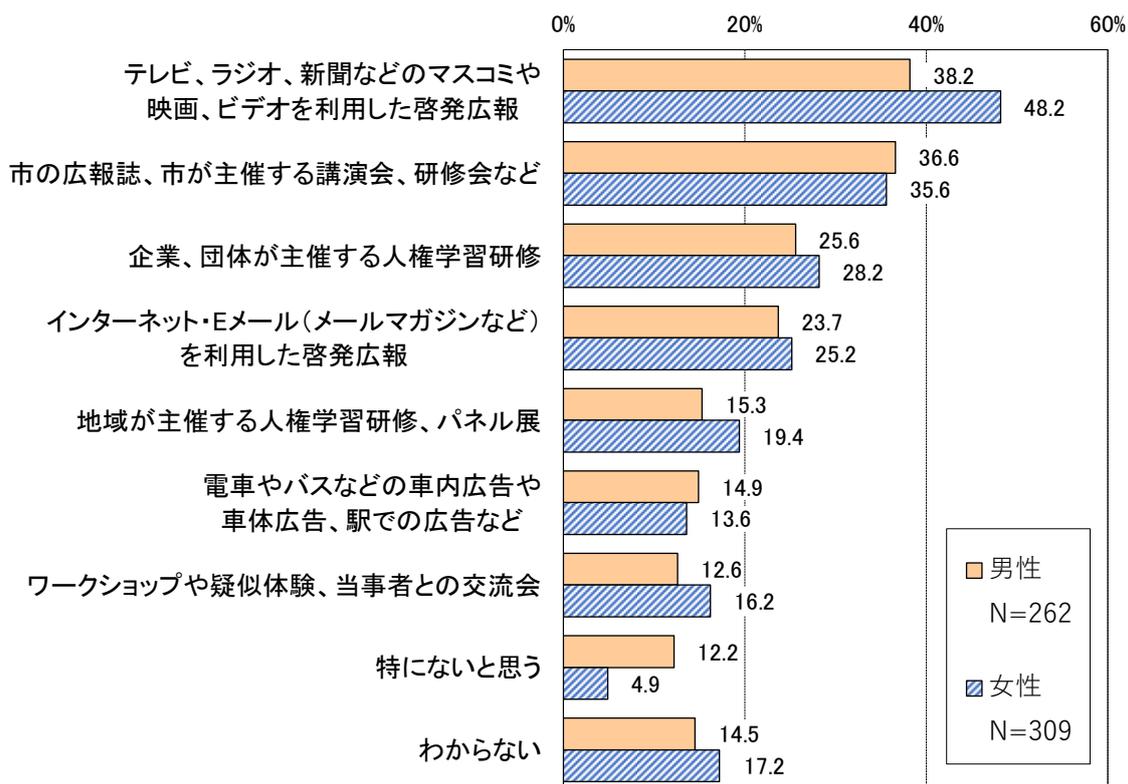
- 人権に関する講演会や研修・学習会などへの参加回数について、「1回もない」と回答した人の割合は全体の55.3%で、「1~2回」が21.4%、「3~4回」が8.8%、「5回以上」が13.3%となっている。
- 男女別に見ると、「1回もない」と回答した人の割合は、女性(52.4%)よりも男性(58.8%)の方が高くなっている。
- 年齢階層別に見て「1回もない」という回答割合が最も高いのは「30~39歳」(59.7%)、最も低いのは「40~49歳」(49.5%)となっている。

質問39 あなたは人権の大切さを多くの人に知ってもらうにはどんな方法が効果的だと思いますか。
(〇はいくつでも)

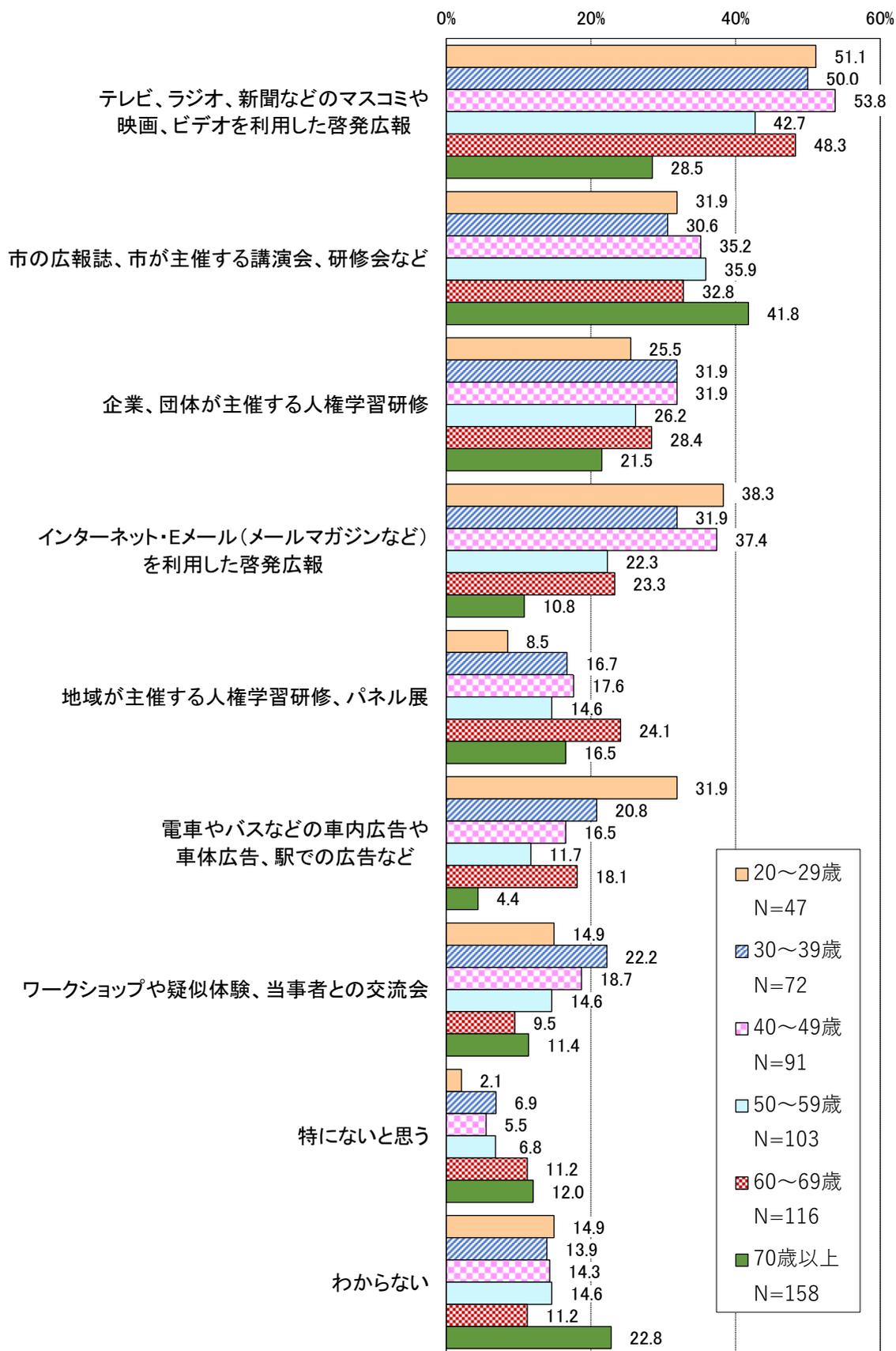


- 人権の大切さを多くの人に知ってもらうのに効果的だと思う方法については、「テレビ、ラジオ、新聞などのマスコミや映画、ビデオを利用した啓発広報」を選択した人の割合が43.2%と最も高く、以下、「市の広報誌、市が主催する講演会、研修会など」(35.7%)、「企業、団体が主催する人権学習研修」(26.9%)、「インターネット・Eメール(メールマガジンなど)を利用した啓発広報」(24.1%)、「地域が主催する人権学習研修、パネル展」(17.2%)と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られないが、「テレビ、ラジオ、新聞などのマスコミや映画、ビデオを利用した啓発広報」の回答割合については、男性38.2%に対し女性48.2%と、10ポイント高い割合となっている(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ると、「70歳以上」では「市の広報誌、市が主催する講演会、研修会など」が41.8%と最も高い回答割合となっているが、それ以外の階層においては「テレビ、ラジオ、新聞などのマスコミや映画、ビデオを利用した啓発広報」という回答割合が最も高くなっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。
- また、50歳未満では、「インターネット・Eメール(メールマガジンなど)を利用した啓発広報」の回答割合がいずれも2番目に高い回答割合となっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

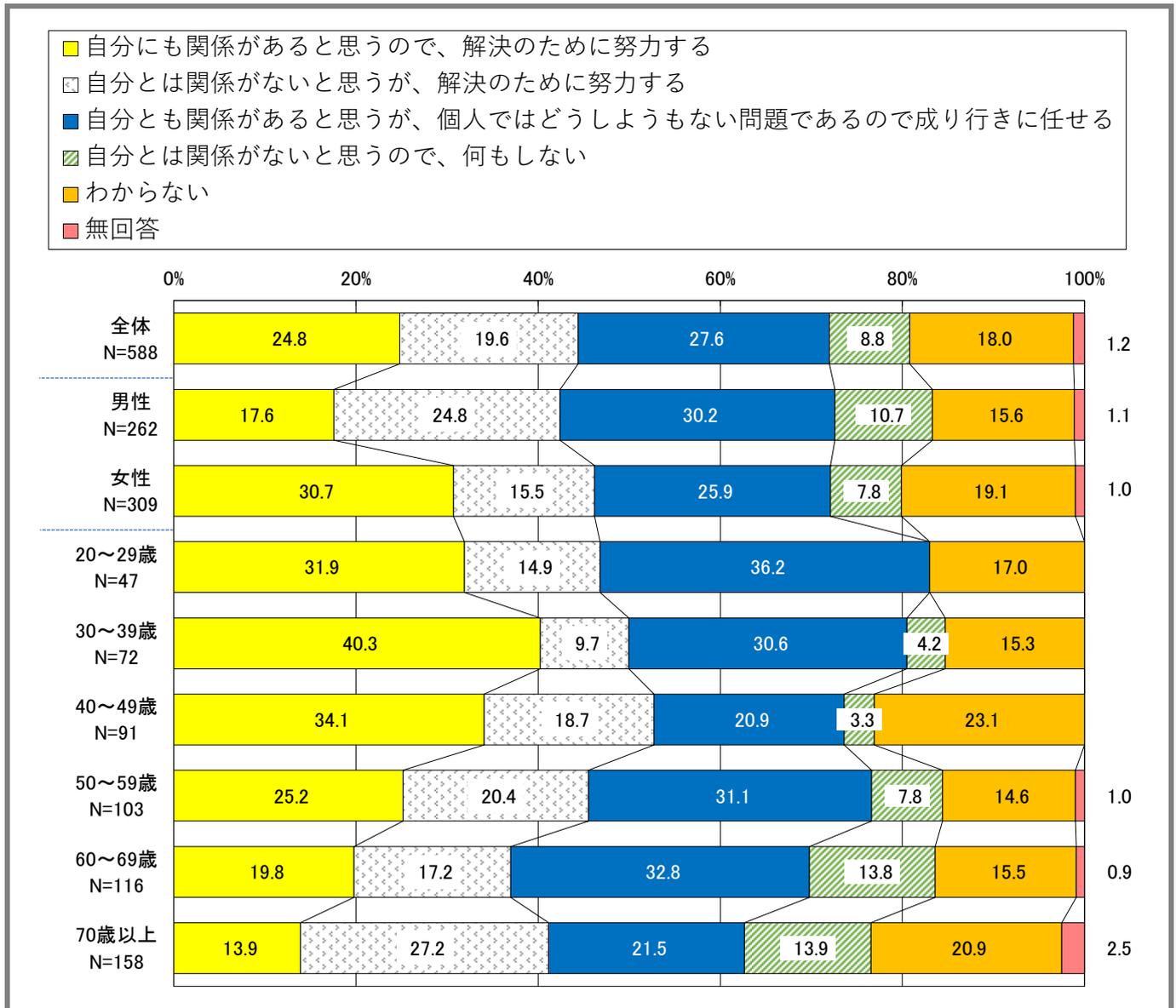
《男女別クロス集計結果》



《年齢階層別クロス集計結果》

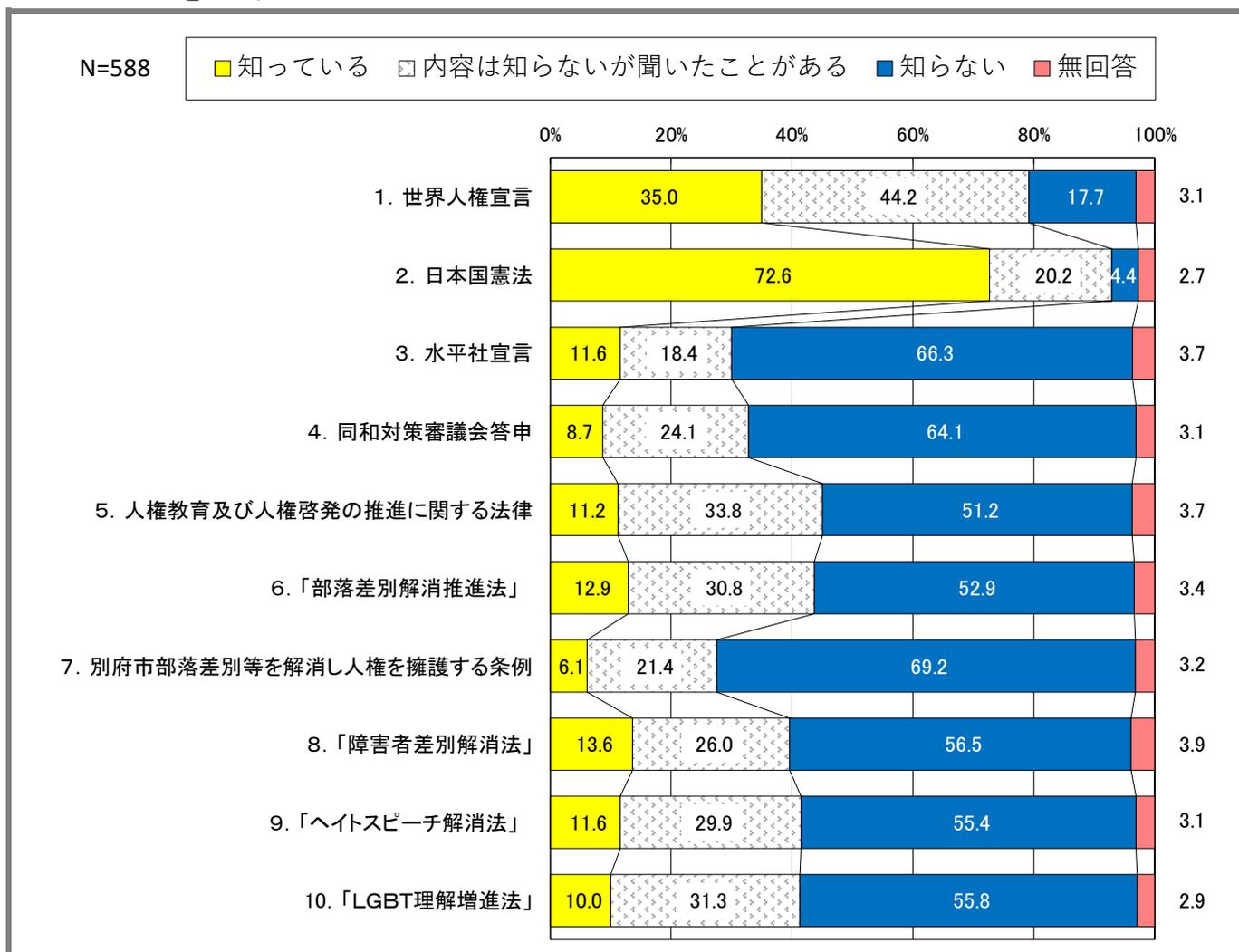


質問40 様々な人権問題の解決とあなたとの関係について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(〇は1つだけ)



- 様々な人権問題の解決と自分との関係については、「自分とも関係があると思うが、個人ではどうしようもない問題であるので成り行きに任せる」という回答が全体の 27.6%と最も多く、次いで「自分にも関係があると思うので、解決のために努力する」が 24.8%、「自分とは関係がないと思うが、解決のために努力する」が 19.6%と続いており、「自分とは関係がないと思うので、何もしない」という回答は 8.8%となっている。
- 男女別に見ると、「自分にも関係があると思うので、解決のために努力する」という回答割合は、男性 (17.6%) よりも女性 (30.7%) の方が 13.1 ポイント高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、「自分にも関係があると思うので、解決のために努力する」という回答割合は、「20~29 歳」を除くと、年齢階層が低くなるにつれて高くなっており、「30~39 歳」では 40.3%となっている。

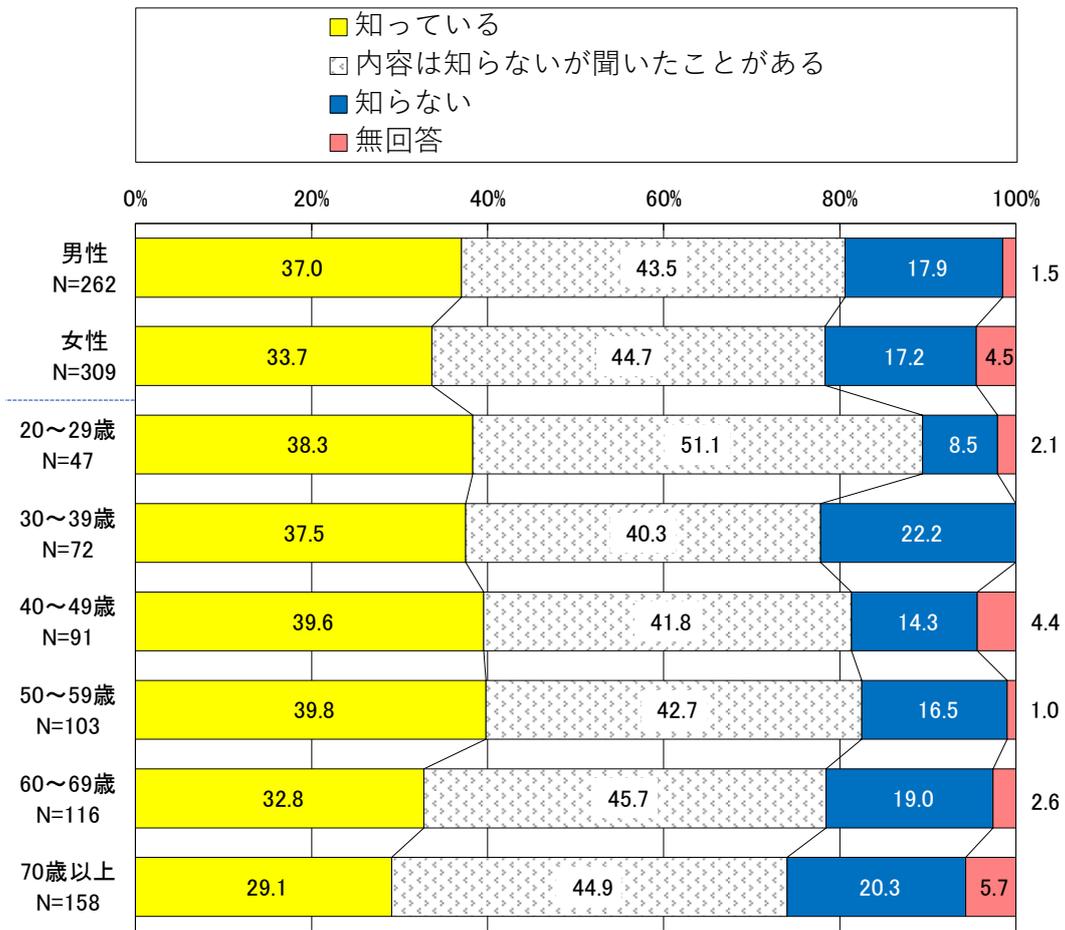
問4 1 あなたは次の人権に関する宣言や法令などについてご存じですか。(10の質問のそれぞれについて○を1つ)



● 人権に関する10個の宣言や法令について、「知っている」という回答割合が最も高かったのは「日本国憲法」(72.6%)で、以下、「世界人権宣言」(35.0%)、「障害者差別解消法」(13.6%)、「部落差別解消推進法」(12.9%)、「水平社宣言」「ヘイトスピーチ解消法」(ともに11.6%)、「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」(11.2%)、「LGBT理解増進法」(10.0%)と続いているが、いずれも低い割合となっている。

1. 世界人権宣言

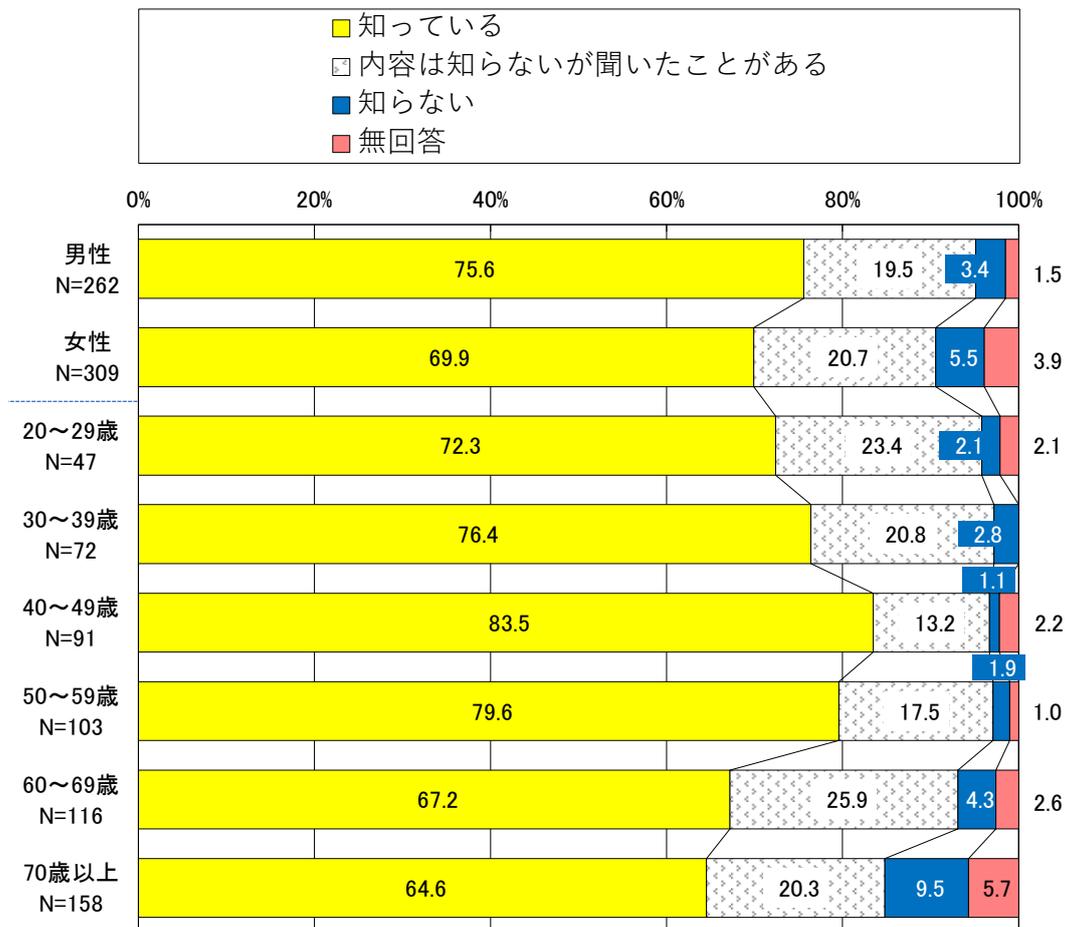
《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



- 男女別に見ると、女性（33.7%）より男性（37.0%）の方がやや認知度が高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、60歳以上の認知度が低くなっている。

2. 日本国憲法

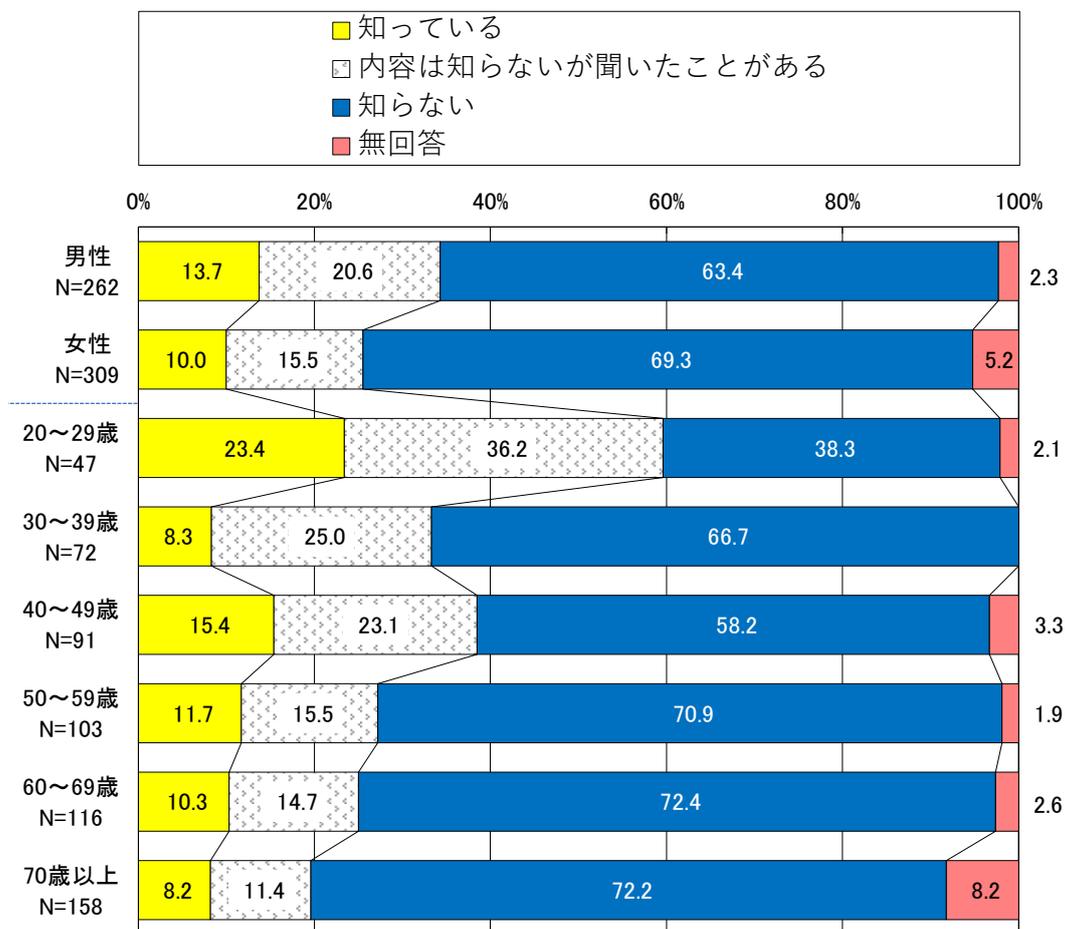
《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



- 男女別に見ると、女性（69.9%）より男性（75.6%）の方が認知度が高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、認知度が最も高かったのは「40～49歳」（83.5%）、最も低かったのは「70歳以上」（64.6%）となっている。

3. 水平社宣言

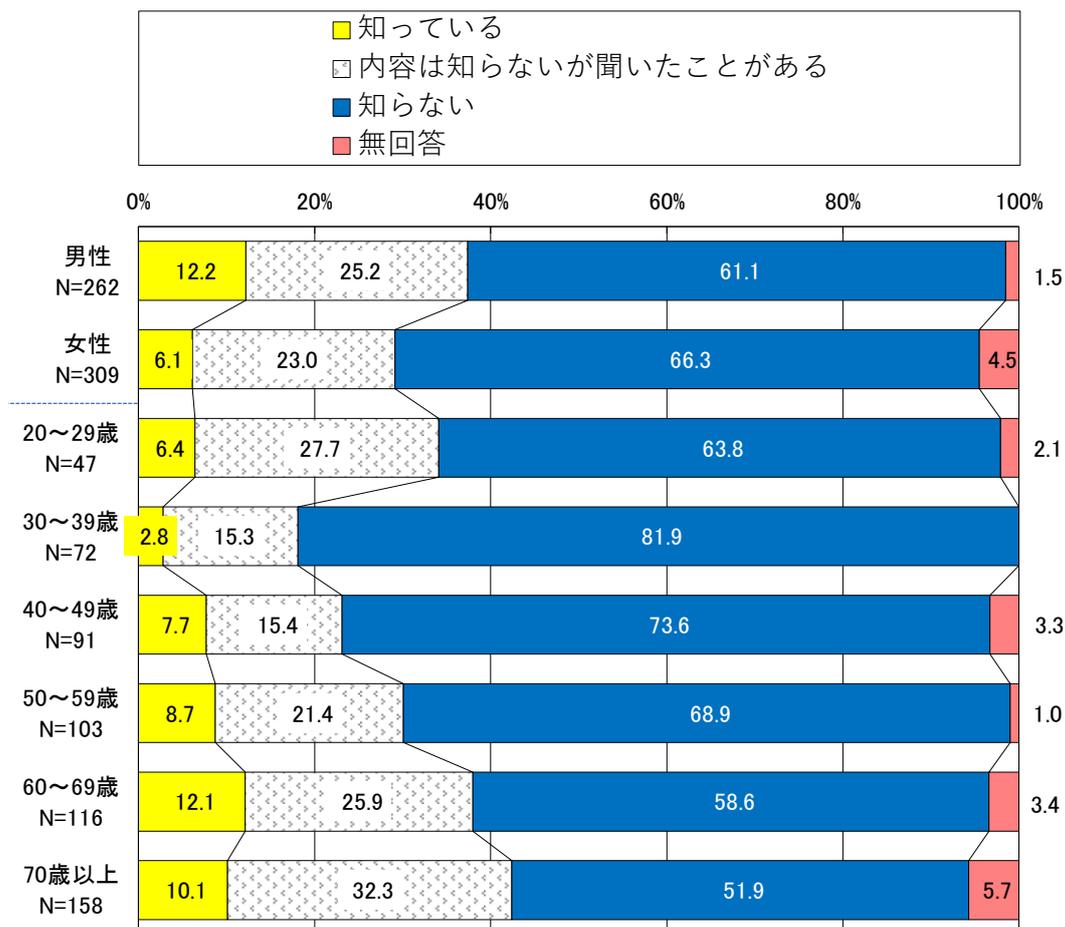
《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



- 男女別に見ると、女性（10.0%）より男性（13.7%）の方がやや認知度が高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、認知度が最も高かったのは「20～29歳」（23.4%）、最も低かったのは「70歳以上」（8.2%）となっている。

4. 同和対策審議会答申

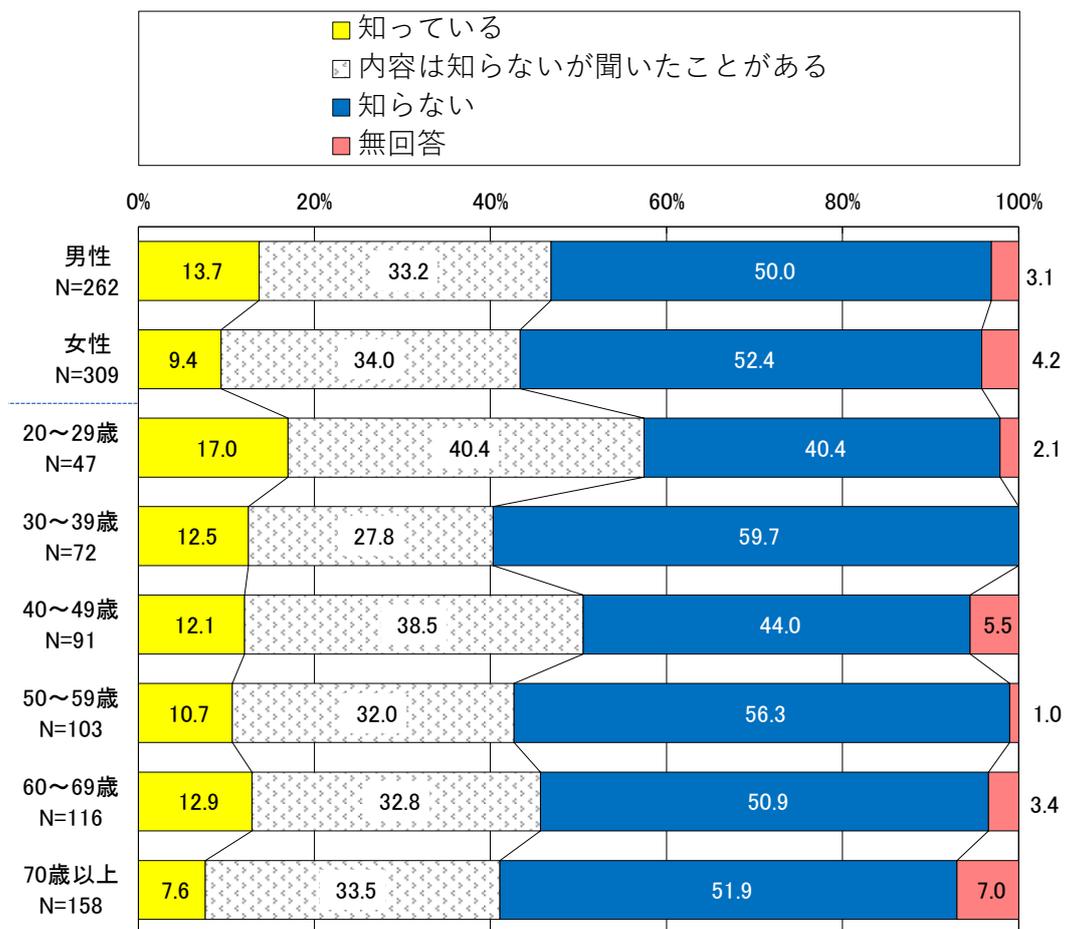
《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



- 男女別に見ると、女性（6.1%）より男性（12.2%）の方が認知度が高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、認知度が最も高かったのは「60～69歳」（12.1%）、最も低かったのは「30～39歳」（2.8%）となっている。

5. 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律

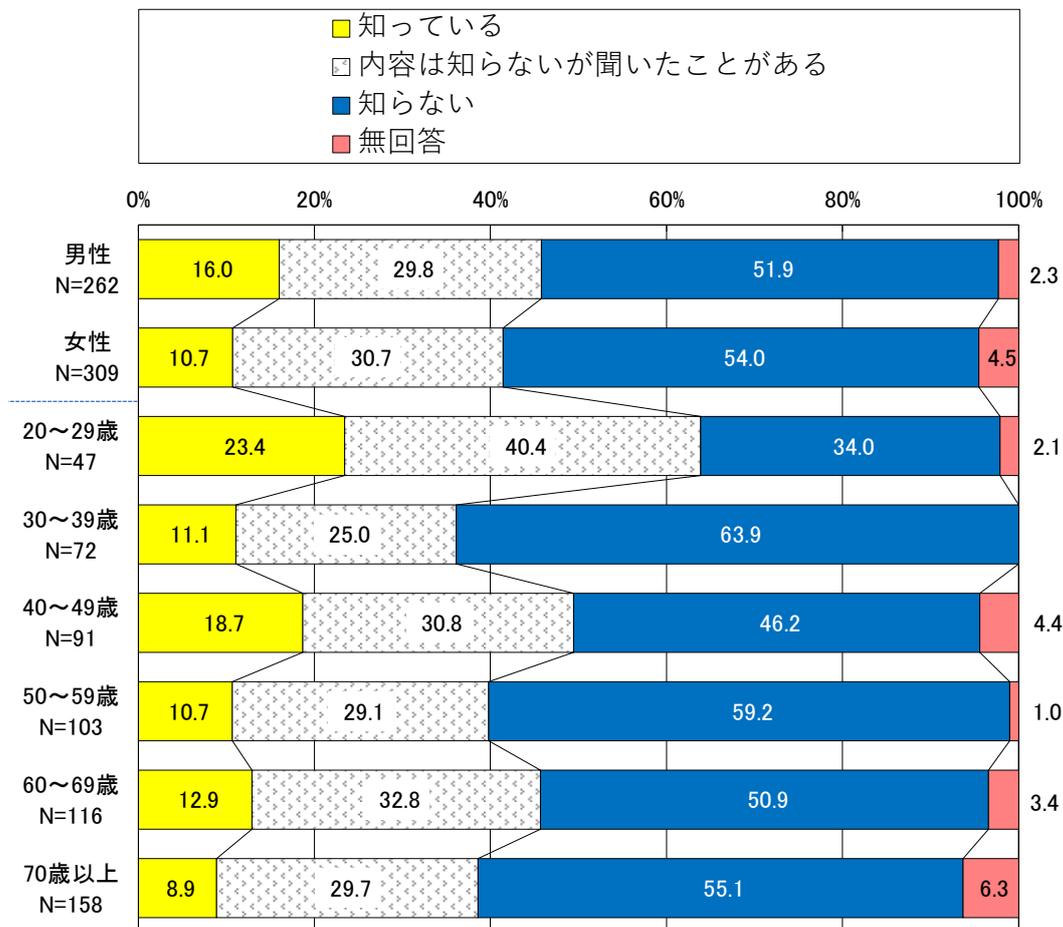
《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



- 男女別に見ると、女性（9.4%）より男性（13.7%）の方が認知度が高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、認知度が最も高かったのは「20～29歳」（17.0%）、最も低かったのは「70歳以上」（7.6%）となっている。

6. 「部落差別解消推進法」

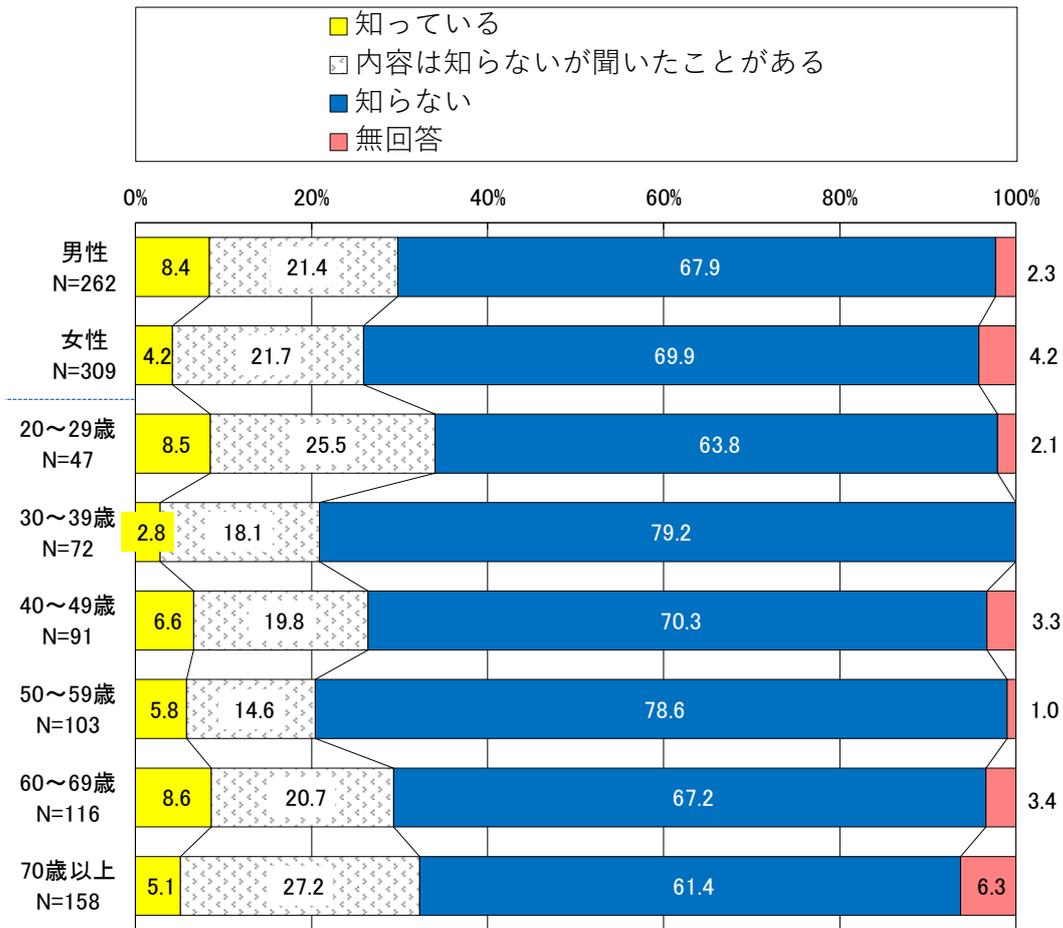
《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



- 男女別に見ると、女性（10.7%）より男性（16.0%）の方が認知度が高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、認知度が最も高かったのは「20～29歳」（23.4%）、最も低かったのは「70歳以上」（8.9%）となっている。

7. 別府市部落差別等を解消し人権を擁護する条例

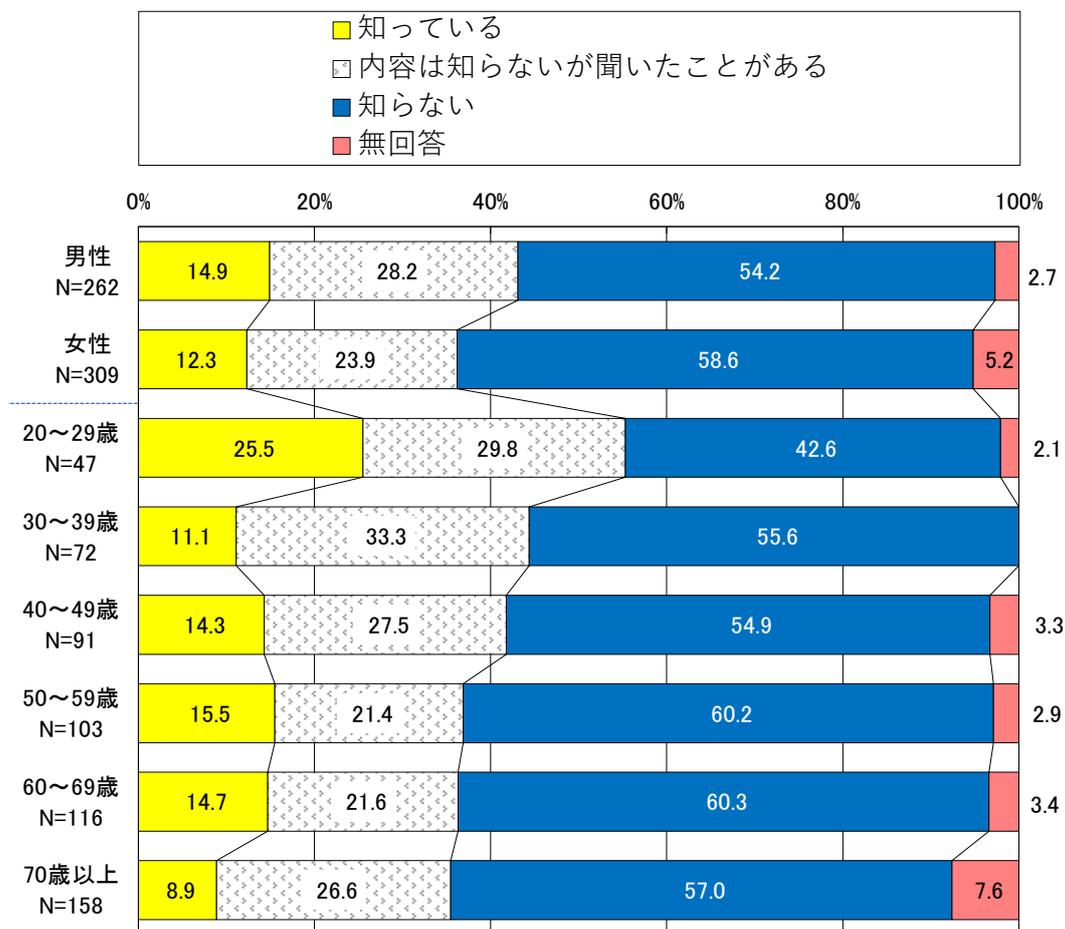
《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



- 男女別に見ると、女性（4.2%）より男性（8.4%）の方が認知度が高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、認知度が最も高かったのは「60～69歳」（8.6%）、最も低かったのは「30～39歳」（2.8%）となっている。

8. 「障害者差別解消法」

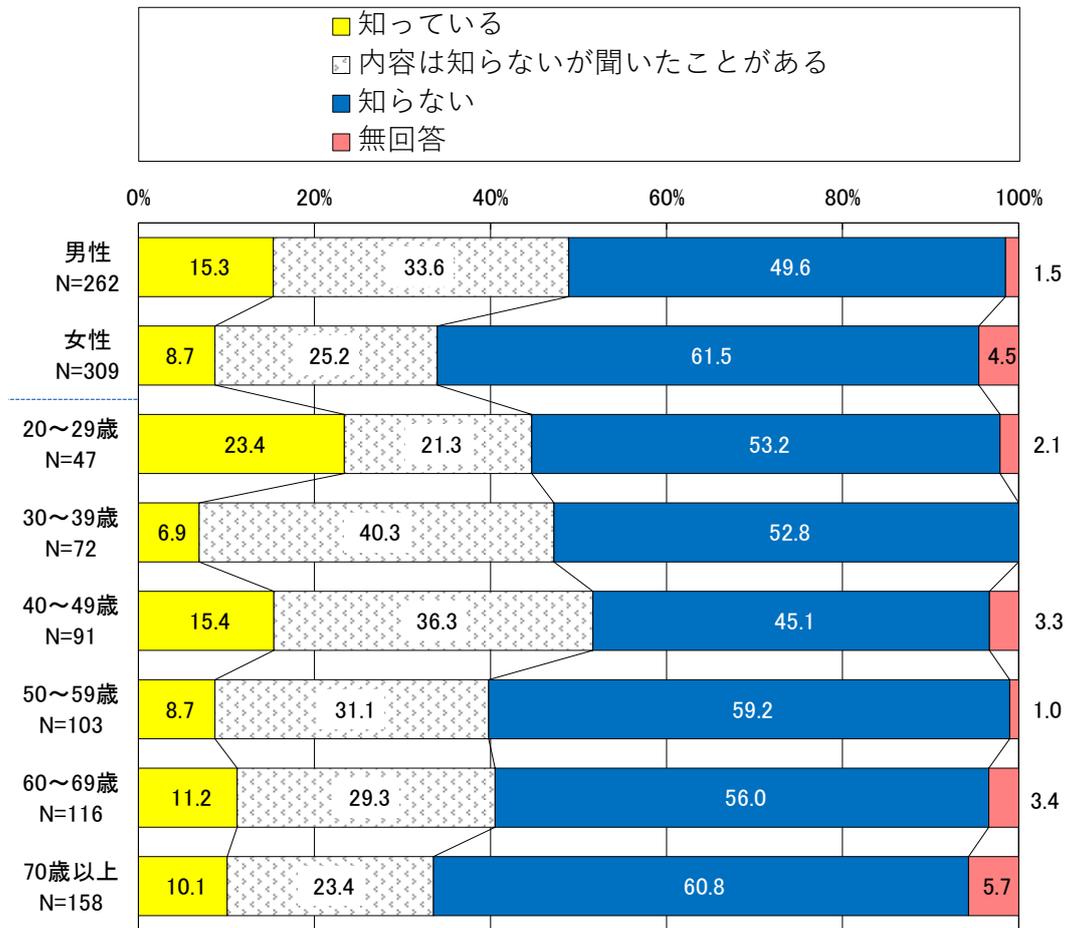
《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



- 男女別に見ると、女性（12.3%）より男性（14.9%）の方が認知度がやや高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、認知度が最も高かったのは「20～29歳」（25.5%）、最も低かったのは「70歳以上」（8.9%）となっている。

9. 「ヘイトスピーチ解消法」

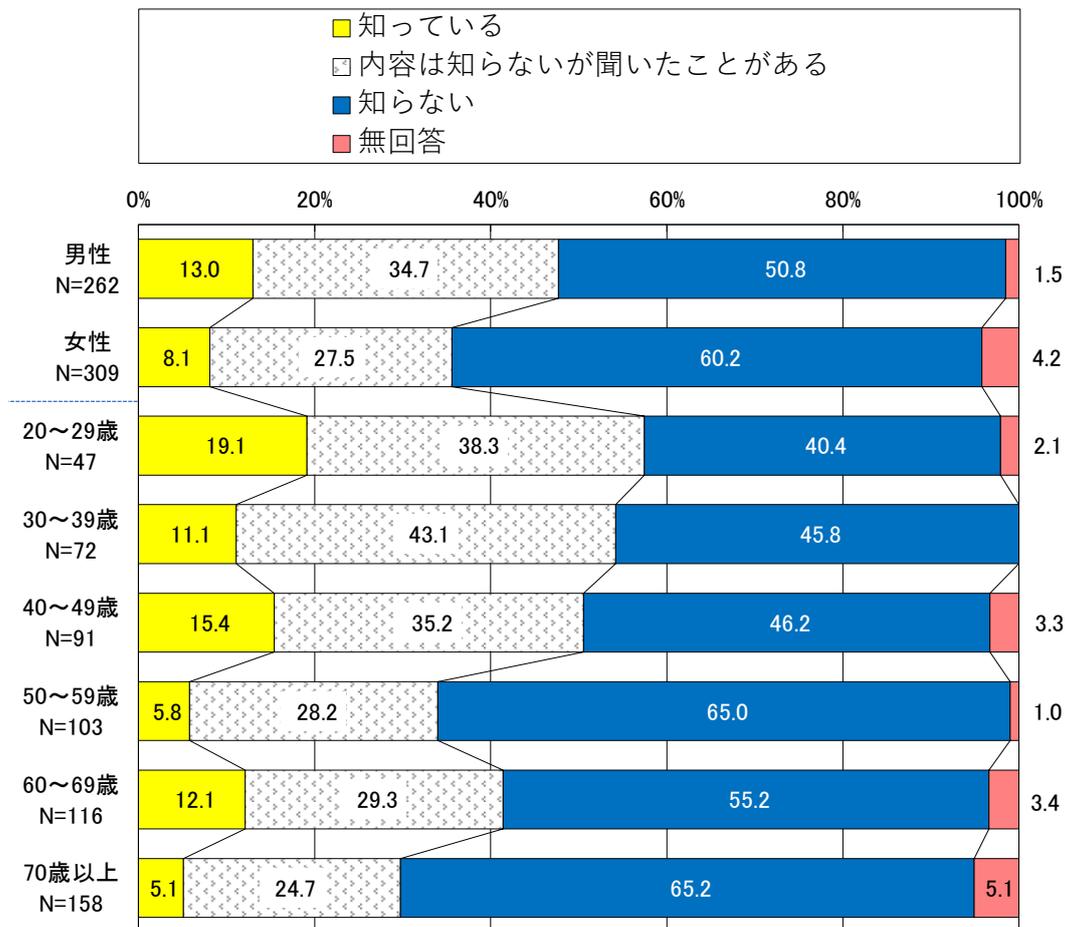
《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



- 男女別に見ると、女性（8.7%）より男性（15.3%）の方が認知度が高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、認知度が最も高かったのは「20～29歳」（23.4%）、最も低かったのは「30～39歳」（6.9%）となっている。

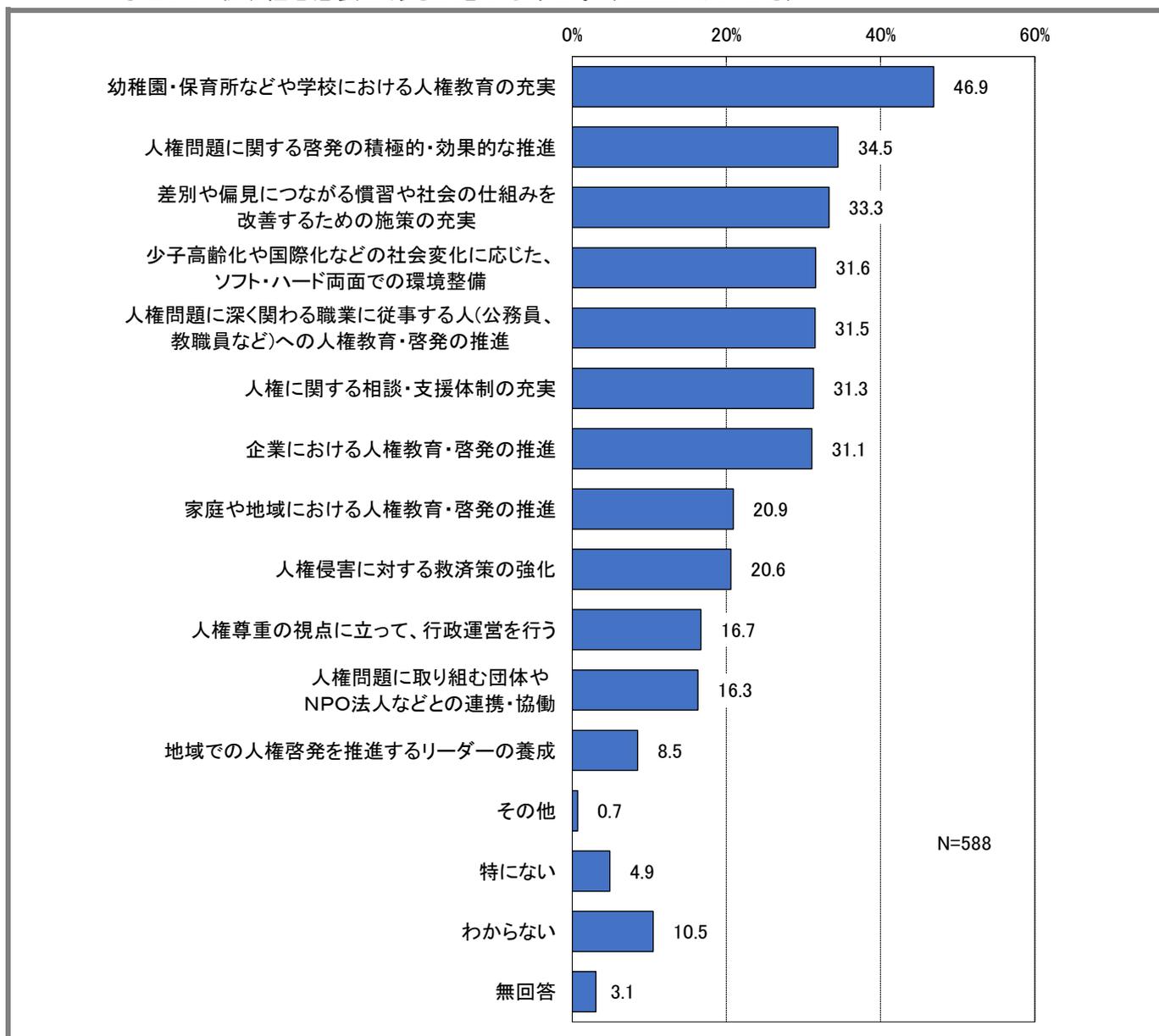
10. 「LGBT理解増進法」

《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



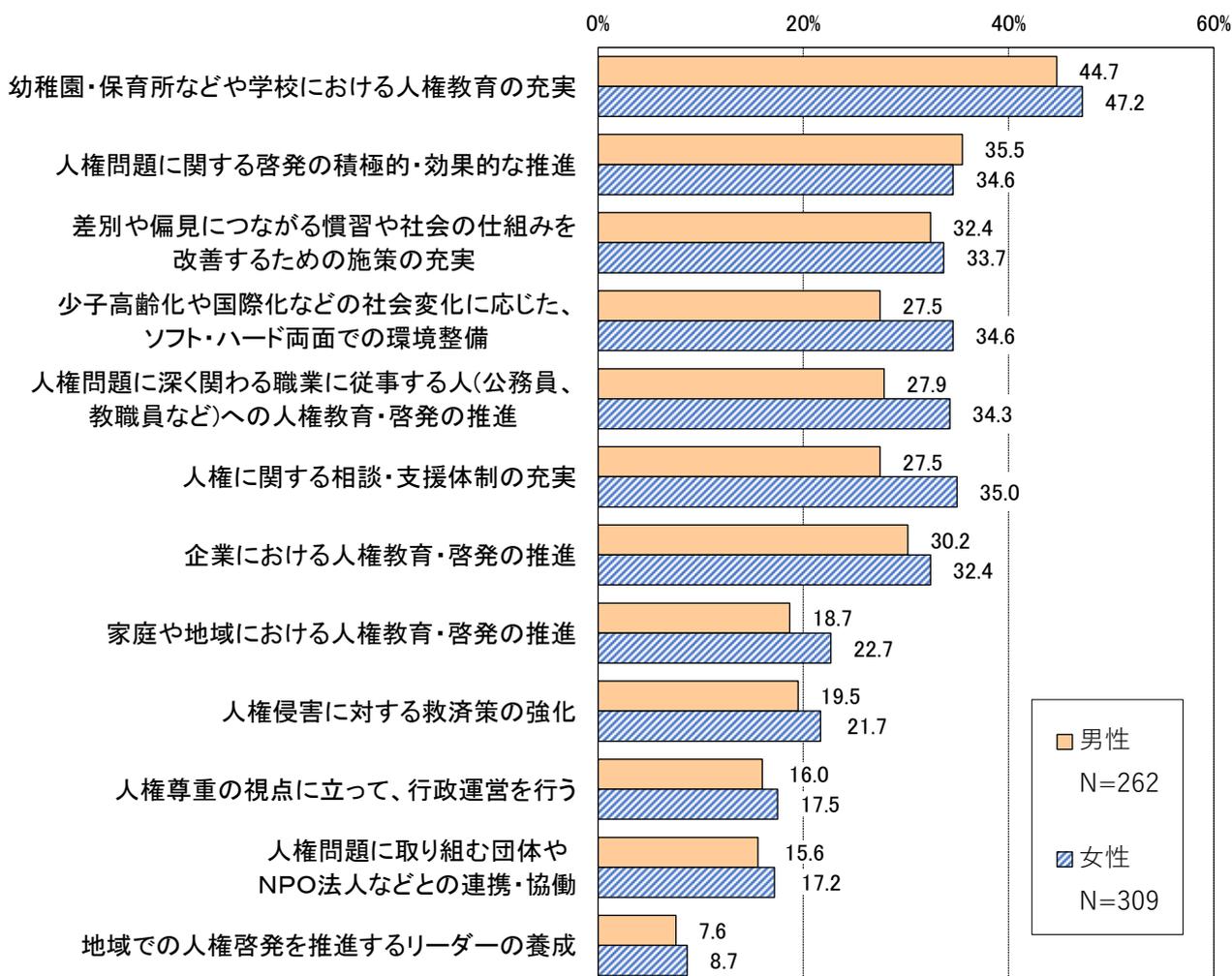
- 男女別に見ると、女性（8.1%）より男性（13.0%）の方が認知度が高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、認知度が最も高かったのは「20～29歳」（19.1%）、最も低かったのは「70歳以上」（5.1%）となっている。

質問42 あなたは市民一人ひとりの人権が尊重されるために、別府市などの行政機関は特にどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(〇はいくつでも)



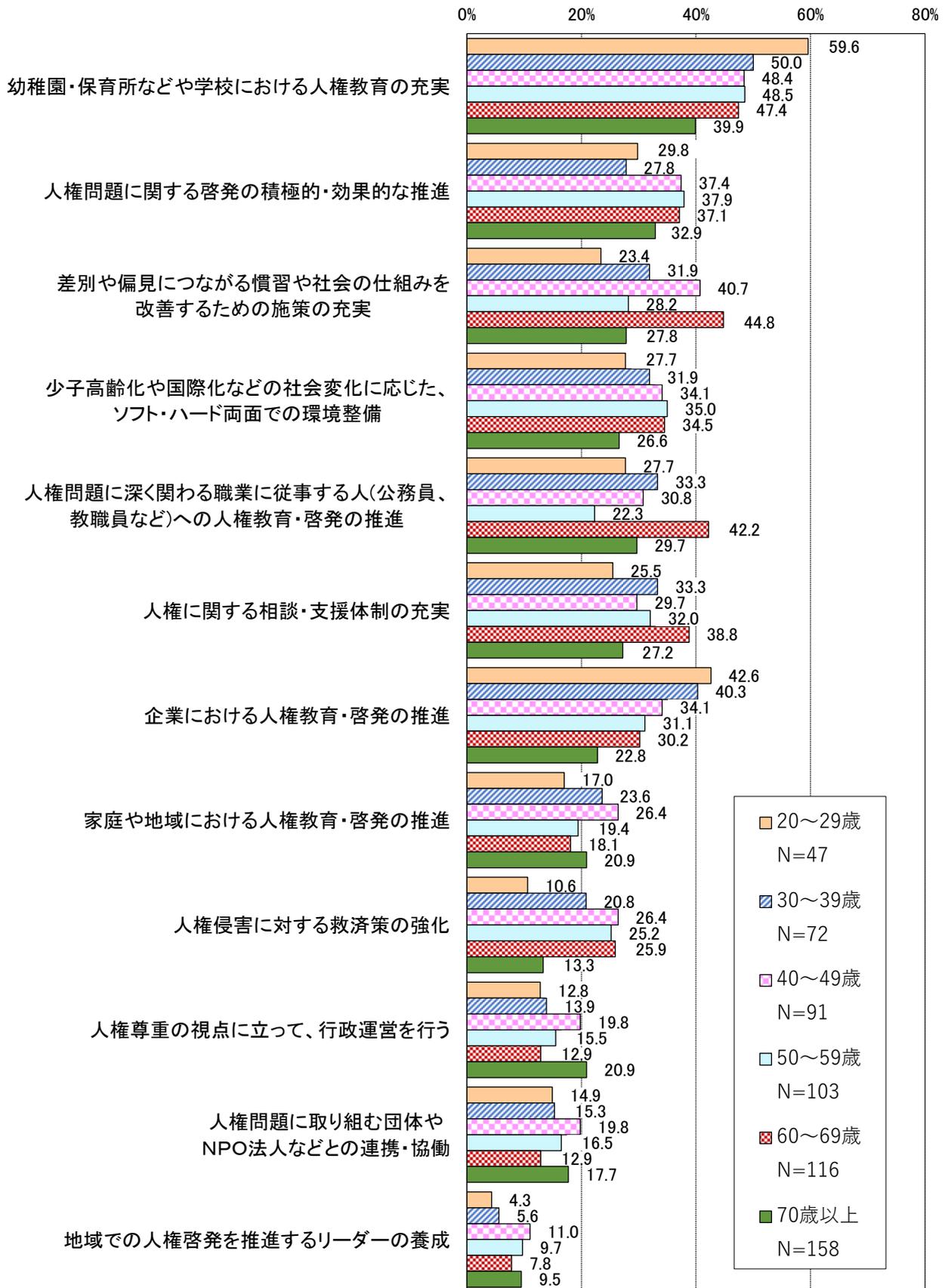
- 市民一人ひとりの人権が尊重されるために、別府市などの行政機関が取り組む必要があると思うことについては、「幼稚園・保育所などや学校における人権教育の充実」を選択した人の割合が46.9%と最も高く、以下、「人権問題に関する啓発の積極的・効果的な推進」(34.5%)、「差別や偏見につながる慣習や社会の仕組みを改善するための施策の充実」(33.3%)、「少子高齢化や国際化などの社会変化に応じた、ソフト・ハード両面での環境整備」(31.6%)、「人権問題に深く関わる職業に従事する人(公務員、教職員など)への人権教育・啓発の推進」(31.5%)、「人権に関する相談・支援体制の充実」(31.3%)、「企業における人権教育・啓発の推進」(31.1%)と続いている。

《男女別クロス集計結果》



- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られない。
- 年齢階層別に見ると、いずれの階層においても「幼稚園・保育所などや学校における人権教育の充実」という回答割合が最も高くなっており、「20～29歳」「30～39歳」では「企業における人権教育・啓発の推進」、「40～49歳」「60～69歳」では「差別や偏見につながる慣習や社会の仕組みを改善するための施策の充実」、「50～59歳」「70歳以上」では「人権問題に関する啓発の積極的・効果的な推進」がそれぞれ2番目に高い割合となっている（次ページの年齢階層別クロス集計結果参照）。

《年齢階層別クロス集計結果》



質問43 人権問題について、また、市の人権問題の取り組みなどについてのあなたの自由な意見を聞かせください。

【20～29歳】

性別	内 容
男性	お疲れ様です。今後のご活躍を願っております。わたくしも、個人としてできることがあればぜひとも取り組みたいと思います。アンケートという形でこのような知る機会を与えてくださり誠に感謝申し上げます。ありがとうございました。
	差別と区別を勘違いしてはいけない。
	人権問題の解決をしばらく学生の頃から聞いていたが、あまり意味が無いような気がする。
	大人になってから差別するような方は、そもそも講演会などに行かないと思います。逆に人権問題を意識し過ぎると、それはそれで差別になるんじゃないかなと思います。難しい問題なので、私としても具体的な答えはありませんが、中学校くらいまでに過去の差別の種類や歴史を学習してもらい、一人一人が差別はいけない事であると理解した上で、他者の出身地などはなんでもいいと思えるような環境づくりが重要だと思います。差別意識をもつだけの方は、そういう人もいるんだくらいで関わらないようにして、差別を行動に移す方は、法律等に則って裁けばいいかなと思います。ただ、意識や行動で差別された場合、どうしても一人で抱え込んでしまう場合も多いと思うので、それに関する相談所があることをしっかり認知させることも重要だと思います。
	同和地区がどの地区なのか知らないが、わざわざ知らせなくとも良いと思う。
	別府地域特有の人権問題があれば知りたいです。
	様々なことに手をつけて進むよりも、確実に進めていくべきだと思います。
女性	がんばって下さい。
	この質問の要項には部落差別についてが多く問われているように感じ、反対に別府市が現在も差別が多く特定の地域に対して行われるのではと推認してしまった。自分の知識不足であるが過去の差別に反対して一層明確にあったことを広めてその上で個々に考え方などのレクチャーをし、自己の意識を確立させるべきだと感じた。
	外国人との共生が進んでいる別府市は特に他の自治体の先頭に立ち外国人の人権尊重意識向上に取り組めるポテンシャルがあると思っています。親元を離れ日本で学ぶ学生が不当な扱いを受けることがないよう市民・企業への周知をお願いします。
	学校や職場などで人権侵害の明確な事例を挙げて指導していく。いじめやハラスメント、中傷などの行為を無自覚にやっている人が多いので。
	学校関係で働いています。どんなに教員が子どもに人権を守ることの大切さを伝えても、保護者の方が協力的でない、人権について興味がない等であると子どもにも分かってもらえません。子どもと その保護者に向けた講演会もあるとは思いますが、自主的に参加する家庭は大丈夫だと思います。全く人権に関心がないご家庭へのアプローチをもっと大々的に学校と市と、出来たら、と思います。
教育を受けられない子も苦しいと思いますが、親の期待が大きく圧力ようになって教育を受けすぎて、子どもらしく遊んだりできない子が心配です。また、必要以上の過干渉により大人になったあと自分の考えややりたいこともなく自分の人生を歩むことができない人間が増えないといいなと思っています。子どもに親のやりたいように行動や考えを支配された子たちは1人になってから社会となじめず苦しんでいくと思います。過保護や過干渉についても考えて頂けるとよりよい社会になると思います。	

性別	内 容
女性	教育の場での人権問題についての授業数を増やすべきであると考えます。
	私は2年前に別府へ引越し、移住してきたためこの地域の被差別部落をそもそも知りません。且つ、APUなど外国人留学生が多く生活し、観光の町として日々いろんな国から人々が訪れていく中で差別などの意識は薄いように感じています。しかし中にはコミュニティ意識が強いが、よそものを嫌う人もいることを知っています。地域のコミュニティをくずさず、外から来た人たちも共に生活していける、今後さらにそのような町づくりができればいいなと思います。
	障がい者施設で働いたことがあり、障がい者の方につきまとわれたり、プライベートの情報を言いふらされた経験があり、障がい者に良い印象がなく、自分もかなり差別的だとこのアンケートで感じた。高齢者、障がい者、外国人などみんなが悪い人ではないとわかっている、あまり関わり合いになりたくないと思ってしまう。学校や企業で人権に関する取り組みをしても、差別的な態度を取る人には全く関心をもたれないのだろうと思うし、深く考えないまま終わると思う。被害を受けた、または受けている人の声をしっかりきいて一つ一つ問題を見つけて、ケアしていくしかないのではないのでしょうか。考えるきっかけにはなったけど、どうしようもないなって思いました。

【30～39歳】

性別	内 容
男性	外国人の権利が優先されるのはよろしくない、日本人の権利が蔑ろなのに外国人の意見に寄りすぎている。外国人の人権を支援するために納税しているわけではない。同和も同様に同和利権が存在する以上、税金を投入して啓発すべきではない。外国人と同和の市民に対する差別も啓発すべし、市民が不当な扱いを受ける事もあるのにそれに対する行動が見えない。外見だけきれいに見せようとしているようにしか思えない。高齢者から若者に対する差別も同様に啓発し意識を持たせるべきである。今後さらに別府市民の人権保障を充実される事を望みます。
	学校教員の人権を護ってあげてください。
	少子高齢化が急速に進む中で若者ほど都会へ出ていくため、例えば大分県の様な地方都市での被差別部落とされてきた町村もいずれ立ち行かなくなるのではないかと。(限界集落)その時には自然と被差別部落の問題も小さくなるだろうから、取り立てて部落のことだけを教材として主張、強調するのは止めて欲しい。大分市での部落解放同盟への利益供与事件に代表されるように「部落」を自身の不正利益追求にさせる材料としてはいけない。そうした背信者も存在することを隠さず、こうした調査に盛り込んで欲しかった。残念だ。例えば、設問でどう市民が事件に対して感じているのか尋ねる設問を何故設けなかったのか？
	人権問題は無くなることは無いので、これからも啓発を続けていくべきだ。一方、同和対策に関しては最近の大分市のように配慮しすぎて、問題となったことや、右翼等との絡みがあると聞くため、別府市にそのような実情があるかはわからないが、そこ出身の議員等の擁立で意見集約し、対応する程度にとどめることが良いと考える。政府の政策で減らされる職員数に対して事務作業は決して減らないため、過度な配慮や研修をしないことが市の職員の負担軽減に繋がると思います。
	努力次第で人生は良い方向に進むので、自分を信じて生き抜いていくしかないと思います。そのためには、良く勉強することが大事だと思います。得意なことを見つけて、それも最大限に活かすことができれば、ストレスを感じずに生活できると思います。

性別	内 容
女性	お互いに迷惑をかけないことが第一優先だという雰囲気がある。空気を読みあう文化が、差別を是正しにくく差別の温存につながっているように思う。それを逆に利用して差別はダサイという空気にもっていったらいいのかもしれない。
	もちろん世界平和です。
	今回のアンケートで自分が[人権問題]についてあまり興味を持っていない事に気づかされました。
	昨年、別府の公会堂で開催された徳田靖之さんの講演の内容がとても心を打たれる内容で、初めて出所後の人たちの人権について考えるきっかけになりました。今年は大分市で講演がありますが、ぜひ今後も機会あれば参加したいです。別府市に関しては比較的、居住地も含め、外からの人を受け入れる雰囲気あり住みやすいと感じます。
	子供に対する人権教育はもちろん大切ですが、大人が人権について学ぶ機会を作ってほしいです。LGBTQ など新しい人権問題についてはよく理解できていない。大人(特に高齢の方)が多く、当事者の方に失礼な発言をしている場面を何度か見ました。
	市がどのような取り組みをしているのか知らない。各々が人権に対する意識が低いと情報すら入ってこない。
	市報などで人権問題に関する研修会などがあることは知っているがなかなか仕事で日時が合わなくて触れる機会が少ないので、企業で おこなってくれたらいいと思います。
	私も元職場で障がい者差別を受けました。私が仕事をしていた時に若い上司男性に、お客様がいる前で「メモをかいて作業をするなら、(私に対して) 障がい者なんだから障がい者の職場に行ったら良い」とおっしゃられました。もし今の職場にもどってくるなら「いつでも戻ってきて良いよ」と私に対して弱者いじめをしている方がおっしゃいました。
	自分に関係がないと、興味を持つことができません。映画では、見たりするのでそういう世界があるのだと感じる程度です。メディア SNS で実際に人権(差別)について当人が声を上げると良いのではと思います(勇気がいると思いますが...)
	小学校などのところから学ぶべきである。
	色々な種類の人権がありますが、人によって考え方が違うので、完全になくすことはできないと思います。一人一人の心がけだけで、変わっていくと思います。
	人権侵害された当事者でないとならない気持や事象も多くあると思う。いつでも人権についての悩みや苦しみを吐き出せる場(意見BOX?Tel 窓口? チャット?)があれば、よりリアルな声が聞けて当事者に寄り沿った対策をすることができるのではないのでしょうか。ただ、何でもルールを作りすぎたり、カテゴリ分けしすぎて厳しくなるのも息苦しい世の中になってしまう気がするため、バランス必要…なかなか難しいですねー。
	人権問題についての市の取り組みを、もっと積極的に発信し、市民が集いやすいように運営してもらいたいです。
	別府市は、国際的な街であり、県内の他の市町村に比べ、外国の方への受入れは、柔軟な感じがします。障がいを持っている方に関しても、支援学校も市内にあり、また太陽の家や重度障害者センターがあることで、街中で車いすの人に会う機会があり、学習とおしつけるより、自然と社会にとりこまれている感じがあります。女性、男性という考えや、LGBT には、大人も含めもっと学んでほしいと思います。部落差別ですが、昔こういうことがあったと学ぶことは大切です。でも、今の若い人は本当に地域とかわかりません。明示して学ぶと、逆にいじめにつながりそうで、知らなきゃよかったと思うことはあります。

【40～49歳】

性別	内 容
男性	オーバーツーリズムが進み、外国人観光客への差別、不親切を見かけるようになりました。人権は居住している方だけにある権利ではない。観光客にもあります。別府市民の人権もちろん大切なので国際観光都市を目指すなら両立させるモデルケースになってほしい。また留学生でアルバイトを頑張っている外国人へのカスハラもよく見かける。そして日出町のイスラム土葬問題での、イスラム教徒への差別をひどく感じます。
	学校などで「いじめ」は「犯罪」であることを子供にもっとわかりやすく説明していくことが重要だと思います。
	興味のある人の自発性に頼るのではなくアウトプット広報が重要だと思う。
	差別という言葉がどれだけ重い物かと会社や学校等で法律として、しっかり。全市民にしっかり教えてほしい。特に40～50の年齢に全く伝わってない気が職場で思います。
	市は今の人権問題への施策は十分やっていると思います。縮小することなく今後も継続して行われることを期待します。
	人権侵害は無意識に行われるものだから、問題が発生する環境を変えることが重要であると思う。
	特に詳しくはないが、皆が楽に暮らせる様、お願いしたい。
	部落差別解消推進課というのがある事すら知らない人が大多数いると思います。市レベルがどうできるとは思えない、人権問題については、国の法律・憲法を変える事が必要なのは？
	部落差別等は、すでに過去のテーマであるような気がします。今 気になっているのは、ムスリムの地の共同墓地問題にもあるように、現在進行形の差別を、別府市として、どう解決していくか?だと思っています。日出、杵築だけの問題では無く、別府市、大分県、日本国の問題として取り上げてほしい。(私は埋葬賛成派です。)
	部落差別問題は、小学校の頃から授業などで教えられてきた。そして、今でも研修などを通して学んでいる。が、家族で話すこともあるけれど「知らないほうが、うまくいくのではないか」という考えは確かに いつでも思います。学ぶからこそ、皆が意識しだす(変な風に)ということはやはり一理あると思っています。何十年かかるか分かりませんが、皆の頭からそういった歴史そのものが消えされは、差別そのものはなくなりほしないのか...と。勝手な方法ですが本当に差別をなくすのは、歴史が忘れ去られるか、歴史を知り差別する人々が亡くなるまで続くのだと考えます。
別府は外国人、障がい者の方も多く居住しており、比較的には差別などがみられない、ある意味先進的な都市だというイメージがあります	
・今まで、差別対象になった事が無く、人権問題を特に意識しておりません。・職場で、外国人がいますが、大きな差別は無いように思います。(小さな物はあります。)・中心人物の思考が、まわりに伝染するので、注意しています。	
女性	このアンケートで部落、性別、外国籍など気にしないと自分では思っていたのですが、いざ、自分の家の近くに…と考えたらやはり犯罪などにつながるんじゃないかと思う自分がいて人間は自分勝手な生物だと改めて思いました。☆人権とはあまり関係がないと思いますが、この世の中全て「笑顔」が一番大切だと思います。差別でなやんでいる方々、愛想もなく仏頂顔して人と接するのではなく愛想をふりまいてあいさつしたら、誰もイヤな気持ちにならずみんな気持ちよく過ごせると思います。
	まだまだ周囲の目、体裁を気にしてしまう人が多いと思います。自分は気にしなくても、「周りの人がどう思うか…」そう考える日本人の本質が人権問題の解決のストッパーになっていると感じます。

性別	内 容
女性	小さい頃から、差別はいけない事だと教える。人に上も下もないのだから。
	人権(問題)に関する相談をきちんと聞きとれる、話を聴ける人物がいるのかどうかとても疑問に思います。あらゆる策を講じて、文化教育の低い別府市ではとてもバランスが悪くなると思います。国や土地の文化があり人権があると思うので、文化教育に対しても同じようにお金を使い、お金を生むことを考える必要があると思います。このようなアンケートも「文化教育について」という切り口でおこなって欲しいです。
	人権問題と声高に取りあげられる機会は増えているが本当に擁護されるべき人は知られなかったり声をあげなかったりするし、人権を味方につけて、変に主張ばかりする人が出てきたり、うまく行っていない様に思う。人権問題とくっつけて大きく取りあげるより、一人一人が相手を大切に思いやる心を育むことが大切(根本)と思う。
その他	地味であっても絶やすことなく何らか、どんな形であっても 取り組み続けて頂きたい課題とします。宜しくお願いします。

【50～59 歳】

性別	内 容
男性	これまでの取り組みも十分なものであると感じている。足りない点と言え、ソフト面としての市民の当事者意識の希薄さ。
	スマホ、ネット環境を持ってない人もいるのに、詳しくはネットなどを見て下さいみたいな風潮になっている。また、持ってないと少し差別されているような感じがします。
	どうすれば個人が人権問題を認識し、自分で考え、行動へとつながるか、が鍵となる。すぐに個人の意識が変わることは無くても、それに気づく“きっかけ”を、地道に提供し続けることが大切だと思う。
	市民一人ひとりの人権が尊重されるために積極的に別府市などの行政機関が問題を重視して今出来る事から行ってもらいたいと思います。
	人が人間らしく生きていける為に、人権がおびやかされたり尊重されない不平等など、社会的に問題がないよう、誰もが安心して生活していく為にも共存共栄を築いていけたらと思う。
	人権問題について関心を持ちたい
	精神障がい者を持つ家族が困っているのに「何かあれば警察に…」などと簡単に言う職員ばかり「何かある前に対処するのが、行政の役目ではないのか。」ということ聞いたことがある。別府市の職員には こういうことはして欲しくないと期待しています。
	全員が納得はできにくい事なので、公正・公平・平等で考えてほしい
女性	必要な事とは思いますが、限りある予算の中。はたして優先度が高いのかといわれれば、そうでもない気もするので、予算の範囲内で。市の行政課題ではなく、法や罰則など、国のかんかつでは!
	あいさつから始めるべきだと思います。おはようございます。こんにちは、さようなら、からで良いと思います。
	ひとりひとりが意識を持ちながら生活していく事が大切。
	家庭が平和で愛にあふれていたら、誰かを差別しようとか攻撃しようなど思わないと思います。
	差別はダメだとわかってはいるが、家族がその方達と結婚するのは…と矛盾する考えがあります。
	市がどんな取り組みをしているか、はずかしながら知りません。
周りに外国の方が沢山いらっしゃる別府市。別府市民の方々は、ほんとに みんなにやさしいし、親切だと思います。	

性別	内 容
女性	人を重んじ生活していく上でお互いに支えあえたらと思います。
	人権とは…人権問題…法の下での平等…ざっくりとわかっているようで、わかっていない私と同じように人権とは何かを説明をきちんと出来る人は少ないと思うので、わかりやすい言葉で伝えて欲しい(人権問題=差別ではないと思うので)
	人権について学ぶ機会が少ないので中学生くらいで学校で学べたらいいと思います。
	人権問題だというタイトルが難しいイメージがあり、敬遠されている気がする。みんなが思いやりの心を持ち、行動できるようになればよいと思う。まわりに気を使わず自分勝手な人が多いと思う。いくら人権問題についての教育をしても自分が変わらなければ意味がないと思う
	人権問題と言っても多くの問題も有り、特に最近のオレオレ詐欺で高齢者の方など経済的な問題の多発の方が治安の悪化の方が問題だと思います、人権団体さんの左的な考え方も大問題だと思いますよ!! 平和ボケの公務員さんに一般の市民の気持ちが理解できますかね キレイ事すぎる。
	人権問題は、きょうみのある人、ない人で大きな違いがあると思います。逆に良く勉強している人でも、何かのきっかけで、さける人もでると思います。むずかしい問題だと思いますが昔に比べたら今の方がだいぶ良くなっていると思います。これからも今までみたいに取りくんだりいいと思います。
	昔に比べると改善されていることも多々あると思うが、日常で理不尽な出来事を知ったり、事件やニュースが報じられると、立場の弱い人マイノリティ等、誰でも皆自由に生きていける世の中になればいいと切に願う。市の取り組みについてはほとんど知らないなので、本アンケートにパンフレットなどを添付していただくと、取り組み内容が分かって良いと思う。
	昔の人達と違って今はそんなに他人に興味がないのでこの様な取り組みの方が不自然に感じられます。人それぞれの考え方もあるし、昔より人間全体的にやわらかくなっているので受け入れやすいと思うので、おしつけの方がよくない気がします。
	日々の生活に追われる毎日、人権問題について取り組みを考える余裕もなく、42問の質問を答え終り。一つ一つの問題に今後は、耳を傾けていかないといけないと痛感しました。
	別府市は外国人との関わりが多い都市だと思う。国の習慣の違いなどにより問題となる行動もあり偏見を持ってしまうこともある。しかし、ルールやマナーなどについては外国の方にも学んでもらいたいので市からも情報提供や教育の場を設けてもらえると良い。 部落差別については今の時代どのような内容で伝えていくのが良いのか… 私自身、周りにそのような差別を受けている人は見かけない。差別的な発言はかなり年配の人から耳にした。実際、昔はそのようなことがあったのだろうが、若い人達に伝え方を間違えると「部落はどこか」を調べることに興味を持つ気がする。昔と違いネット社会のため学習や教育内容も変えていかなければいけないのだろうと思う。
偏見をなくす。	
無回答	どのくらいの割合か分かりませんが、市内に住宅に誰がいるのか(住んでいるのか?)看板が残っています。(名前入り)犯罪? 防犯の点から見てもプライバシーの問題では? これは人権の問題になるのでは? と思います。

【60～69 歳】

性別	内 容
男性	学校現場において職種に関係なく、人権問題学習をていねいにやるべき。現在学校現場でどれだけしっかりと人権問題学習がなされているのか…やや不安。教職員だけでなく児童?生徒も含めて。形式的にやっているのではないか。

性別	内 容
男性	身近で人権という言葉が身にせまっていなかったが、よく考えてみると、いろんな人権があるんだなと気がつきました。なんとなく身にせまっていなくて、考えないんだと気づきました。これからは、少しきょうみをもたないといけないと感じました。
	そんなに差別ってあるんですか!? 私は病気?障がい者?ヤクザ?部落、外国人など別に気にならないから...
	とにかく平和に事が運ぶように話し合いの機会を増やして、人間同士として対話することが大切だと思う。
	なかなか偏見をなくす方法はないと思いますがいろいろな所で目にしたり耳にしたりできると、多少の効果はあるのではと思います。人の心を動かすのは そうとうな時間がかかると思うのであまり結果を求めず地道に取り組んでほしいと思います。
	一人ひとりの意識の向上
	家庭や地域における人権教育・啓発の推進
	会社で、人権問題の取り組みとしてビデオ視聴していたが、やってる感を出しているように感じたので、単なるビデオ視聴はコスパが良くない。主体的なロールプレイングゲームで人権問題を考える機会があれば良いと思う。
	外国人問題以外 特に何もない。
	今後も啓発活動をねばり強く継続して行って下さい。
	人は殆んど差別を受けるような身体的、精神的、学習能力的、言語発生能力、志向(ものの考え方)など8割以上の方が持ち合わせている。人類は過去に於て常に差別と偏見、威圧と征服を繰り返している。戦国武将がリスpektされることも差別容認と取れる。法律は、具体的線引きをして、これを越えたものは法により裁かれればよい。現在は、過去の差別まで掘りおこし、謝罪をくりかえしている。これに費す時間と費用は、国民が負担している。立場を利用して横暴な態度をする者こそ罰するべきである。
	人権の尊重は、とても大切です。憲法で守られていますが、それを感じて暮している人はいません。ここが大きな問題です。誰もが、平等でその権利を活かせる世の中にしていくには、小さい頃から命の大切さを伝えてゆく。
	大分市の入札問題のように、被差別者であることを利用して、相手の弱味につけ込むようなことをする例がある。市の職員が、ちゃんとした対応をとれないものだろうか。自分の身近で、部落の人など知るよしもなく、なぜこれだけ同和問題を取り上げるのかも、よくわからない。以上
	同和問題については、市全体で毅然とした対応をしないと大分市のような事が起こると思います。一部の方が同和事業を私物化して利権をあさっていると思われても仕方がない。
特定の団体からの声ではなく、差別を受けている一般の人から、彼らが何を望んでいるかを聞ける機会を持つべきである	
被差別部落がどこかも知らない私にとっては、大分市の事件の様に過剰な取り組みがアンタッチャブルな存在を作り上げる事になり そのような事例が取り組む積極性を失わせていると思います。	
普遍的観点で啓発活動をして欲しい。	
女性	見て見ぬフリをしなくてすむよう、差別をしていると思われたら通報できるシステムをつくる。通報者を守るように配慮する。
	☆若い人が興味のあるネット関連などをPCの授業とあわせて行う。(SNSの絶対やってはいけないことなど…事例とあわせて) ☆別府市は外国人が多いので外国人関連も、興味わくかも ☆聞くだけの研修はなかなか厳しいので裁判の傍聴などあれば行ってみたい。☆人権→どこまで守られるのか、多様性の押しつけもどうかと思う。自然と身につくと一番いいのだが。

性別	内 容
女性	意識改善は身近な各家庭からが大事と思うが、その力が特に大人にあるかが疑問。必要な情報が必要な人に届くにはどうしたらいいのか難しい。
	何をしているのかわからない。計画と実行と結果が目に見えない。これだけ多様化している別府市形だけの行事にしか思えない。一応、例年どおり講演会でもやってみますか?的感じ。若い世代に合う取り組みは、若い人。老人議員では無理だと思う。
	過去の歴史を振り返ると、いろいろな時代を経て、「人権問題」も数多くありますが、いつの世の中でも、人として一番大事なことは、①相手の立場になって、考えてみる。②相手を思いやる、優しさ。を持つこと。③必要な時には、一人で悩まずに、誰かに『相談』(信頼できる人に)をすること。だと思います。そうすれば、悩んでいたことも、違った面からみえてくるので、いろんな人の意見を聞くことが『問題解決』につながるのではないのでしょうか。
	具体的にどんな人にもわかる様に人権問題の内容のパンフや、地域学校?企業等での取り組みを推進させる様、働きかけする。人の命の大切さ、同じ人間である事を知って欲しいです。
	市役所に、訪れた人達(表情や相談等)に対応して欲しく、何らかの解決策を提示し、その人が当日笑顔で帰れる様な仕組みを作って欲しい。
	私の学生時代(小中高生)は、部落差別についての授業があり、全生徒が体育館に集まって話を聞いたりしていました。たしか高校の時だったと思いますが全体育館に集まる様に言われたのに男子が1人教室に残ったままで、えっ! どうしてと思ったら他の子が「あの人部落なんよ」と言ったのが今でも記憶にあります。今は、その様な指導の仕方は無い様ですが、伝え方啓発の仕方は、傷つく人のいない工夫が必要だと思います。
	人権問題について深く興味を持ち学ぶ機会になりました。市の人権問題の取り組みなどをこれから気にかけていくつもりです。
	人権問題は個々の性格、性質に関わる問題でもある為とても難しい問題、課題であると思います。市が人権問題にどう取り組み、どう関わっていくか? 個人情報、プライバシー生活に、どこまで踏み込めるのか難しい問題だと思います。市の方の関わる方の人柄や性格も大事だと思います。
	日常の中にも人権に関する問題はたくさんあります。が、その事を人権問題と、知らない人が多い。子どもも含め、教育する側も学習し、お互いに支えあうことのできる社会を考える、町であってほしい。
	別府市は特に、岩や政治のせいもあり、外国人(特に中国?韓国)流入で、市民は怖い迷惑騒音 etc 問題が困ってる現状を、把握してほしい! 外人への生活保護など、もっての他! 部落問題より先ず!! 血税の生活保護受給者から、外国人を一切排除して下さい!! 結婚してても! その分を日本国民の高齢者保護に別府市は使うべき!! 部落差別などこうして問題にしなければ自然となくなる! 部落解放運動で儲けようとしている団体の方々(老人)。バレバレなのでもうやめて下さい、こんなアンケート!

【70歳以上】

性別	内 容
男性	人権問題があると言っている人の中に、その事で金儲けをして居る人が沢山いるのでは?と思っています。
	なんといっても、子供の時の教育です。
	意識がないわけではないが、積極的に取り組もうという思いはない。
	何の為にこう言うアンケートをするのでしょうか?
	皆で協力して、平和な、また安心して、生活の出来る別府市に、なっていただきたい。

性別	内 容
男性	学校教育、特に小学校4年～6年生時、専門家による正しい知識を教育し自分で判断し言動できる力を養う
	学校教育の中で、人権について教えることは大事と思います。ただ、その人だけでなく、人としての「あり方」「悪いことは悪い、いいことはいい」の教育も必要と思います。教育機関の努力を期待します。
	具体的な人権問題の公知（問題点の公表、TV、新聞）
	士農工商〇〇と本当の事を言って同和問題は止めたほうが良い。国会では誰も問題にしない。同和の人は県から返さなくてよい多額の補助金をもらっている又、数多く優遇されている。私は逆差別をされた事がある。まずは歴史から学んだほうが良い。差別と言う言葉はなくなるならない。
	市報の人権・差別の記事の充実が必要と思います。例えば具体的な例(事象、ことば、会話)が必要かと。
	市民一人一人が自分の身になって取りくむべきだと思います。
	私が中学校のときで、今はあまり すみません
	私も根拠のない いやがらせを受けたことはあります。でも市に相談するほどではなく1人1人が人権を尊重していけばいいと思います。たとえば事実をもっとしらべるとか、個人が。
	女性は職場で管理職になりたい人や国会議員になりたい人ばかりではなく、家庭で家事を行い家庭を守りたいと思っている人も居ると思う。管理職や国会議員の数が少ないのは、社会がそんなに求めているのではないかと思う。それだけで女性の社会進出を云々するのはおかしいと思う。外国人は日本を理解し、日本人と良好な関係を結べる人以外は居て欲しくないと思う。LGBTの問題は好意も悪意も持っていないのでそれに対する意見はありませんが、理解増進法により内容もよく理解出来ないと思われる子供達にLGBTに関する講習会やイベントに参加させるのは反対です。
	身近に人権の問題がなく、特別意識していなかったが、これを機会に意識していこうと思う。
	人権という事にほとんど知らずに生きて来ました、こんなにいろんな人権問題がある事にびっくりしております。これからはもう少し知らなければと思います。
	人権の日を設定するとともに、環境整備を図る
	人権問題とは国民1人1人の情操及び教養レベルの現れにほかならない問題であると痛感せざるを得ない。やはり、人格・見識ともにすぐれたリーダー(政治代表、企業が長、地域代表)を選出出来る社会をどう形成するかの問題であり、ひとえに家庭教育と学校教育の問題と考えざるを得ない。
	人権問題に真正面から取り組んでほしい。
	人権問題を取り上げるには、あまりにも、活動が地味です。もっと、もっと、市民に広く知らせる方策が必要だと思います。マスコミも取り上げる機会も少くポスターや掲示物もあまり見かけません。
	人権問題を知識としてはあるものの、身近に感じたこと無い。実際の事例等をもっと知ってもらふ必要があると思う。
人権問題自体がよくわかりませんので、すみません。	
日出町の問題ですが、イスラム教徒の墓地問題は別府市でも何か代案を出してはどうでしょうか！「イスラム協会」は別府にありますから、もし日出町がどうしても拒否するのであれば、別教で引き受けることも考えられると思います。「死者の人権」も考慮すべきです。神戸市の模範を学んではいかがでしょうか。	

性別	内 容
女性	まずは知ることが大事だと思う。そして周りの人と話して、どのようにしたら一人ひとりの人権が尊重されるのか考えていけたらよいのでは、ないでしょうか。
	皆がなるべく平等に生活できるよう願っています。
	皆様の人権問題の啓発の推進のおかげでしょうね。今の世の中何でも有りという風に成りつつあると思います。わざわざ掘り起こす事もないとは思いますが、中には気にする人も居るのでしょうか完璧に無くす事は無理だと思います。
	学ぶ機会も多かった私ですが、十分だとは思っていません。残念ながら、今も様々な差別があると思います。年令を重ねてもできるだけ学んでいこうと思っています。取り組みの中心は市に頼らざるを得ません。よろしく願いいたします
	学校の学習の時間で「道徳」の時間が今はないと聞かせられ現代の子供達が最も学ばなければならぬ授業が「道徳」ではないかと強く思う。(人権問題にせよ)数学、国語他も大切だけど、これからの子供にとって人間形成にあたって人間とはどうあるべきか?ぜひ「道徳」の時間を余裕を持って教えて欲しいと思う。(現在の詰め込み授業の中でむずかしいとは思いますが…。特に中学・高校。
	月に一度「市民別府市民人権デー」を決め、その日は市民みんなで、人権について考える日にする。
	差別等今まで考えて生活してこなかったし、誰とでも普通に接してきたつもりなので特に考えた事はありません。ただ相談所の方達の差別や偏見を聞いたりします。その為相談に行きたくない等。
	差別問題など沢山取り上げられますが、知らなくて良い事まで講座等で知ってしまうのは残念に思う時もありました。
	子供に対する虐待の報道をよく耳にしますが、そのような事が出来るような人は人間では無いと思います。最悪な事にならないように頂きたいと思います。子供達を守ってあげられる場を考えて頂きたいです。
	市が窓口(オープン)に相談しやすいように設ける。時間外でも、設けるといいですね。
	私が子供の頃、部落という言葉が、普通に使われていました。たとえば、部落対抗リレーとか(運動会等)その地域に住んでいた同級生の友人もいました。私は大人になって差別を知り「何で」??と、考えさせられましたが、答えはみつきりませんでした。今でも友人は友人なんです。差別は、あってはならないと強く思います。
	私の辺りには余り人権問題になる様な事が無いので良く分からないです。前郵便局につとめていた時はいろいろお客様が人の事をよく言っていました。私は何も言えませんでした。ただ聞くだけです。まだまだ人のうわさをする人が居るんだと思います。
	人権問題アンケート用紙を見ると、とってもむずかしくわからない事ばかりです
	人権問題とは、具体的にどういう事柄なのか、どういう事をさすのか分かりにくい! 非常に奥の深い問題だと思います。
	人権問題について、長年取り組まれてきているが、情報過多の現在においては、関心後の二極化が進んでいるように感じる。そこでできるだけ早い段階(小・中学生)に、その根本理念を定着させる事が人権意識の向上・浸透につながると思われる。「わかりやすく」が肝要。
相談に行ったら親身に話しをきいてあげることが大事だと思います。	
同和問題については、大人になるまで知らなかった。テレビや集会で知った。知らなかった方が良かった。知らない人も多いと思います。こういう取り組みも必要かと思うが、寝た子を起こすのではないか。	

性別	内 容
女性	部落差別問題は、現在あまり知らない人が多いので、特に取り上げないで、皆、仲良く、過ごし、(困った時、皆で助け合い)が大事だと思います。知らない人々に、わざわざ、知らせる必要はないのではないのでしょうか。差別、差別という言葉が、差別を産み出しているのではないのでしょうか。
	無作為で選んであるので部落出身本人にも送付されているのでしょうか。複雑な感情です。

第 3 部
考 察

I. はじめに

別府市では、「すべての市民がお互いの尊厳と自己実現の権利を認め合い、異質の文化や考えが互いに交流できる『共生社会』を基本理念とし、人権という普遍的文化を別府市において構築し、人権が尊重されること豊かな『国際観光温泉文化都市』を実現すること」を目標とした「別府市人権教育及び人権啓発基本計画」を策定し、人権のまちづくりを推進している。今回の市民意識調査は、市民の人権・部落差別問題に関する意識の現状を把握・分析し、今後の人権教育・啓発に関する施策を有効に推進するための資料とすることを目的に実施したものであるが、人権問題に関する市民意識調査としては、令和2年11月以来、5年ぶりの調査となる。

今回の調査では、最近の人権を取り巻く情勢の変化等に鑑み、質問の内容について一部見直しを実施し、前回の調査項目をベースに設計を行った。人権のまちづくり推進の成果として、令和2年度調査結果と比較し、人権問題に関する市民の意識がどのように変わってきたかを検証することは、今後の施策推進にとって不可欠である。

そこで、この考察においては、前回調査結果との比較を中心に、可能なものについては国（令和4年8月「人権擁護に関する世論調査（内閣府）」）、県（令和5年8月「人権に関する県民意識調査（大分県）」）の調査結果とも比較対照しながら、別府市における人権問題に関する市民意識を明らかにするとともに、今後の施策の方向性に言及することとする。

II. 回答者の基本属性について

まず、前回調査結果との比較の前提として、調査回答者の基本属性の差異を明確にする。

今回、調査対象者の抽出については、前回同様、男女年齢階層ごとの同数無作為抽出で行っているが、男女別の構成割合はほとんど変わっていない（図1参照）。しかし、年齢分布については、年齢階層ごとの回収率の違いによって、今回の方が「70歳以上」の割合が高く、「20～29歳」「30～39歳」の割合がやや低くなっている（次ページの図2参照）。この回答者の年齢構成の違いが全体の調査結果に及ぼす影響は、設問の内容によっても変わると考えられるが、調査結果の比較検討にあたっては念頭に置く必要がある。

図1 調査回答者の性別構成

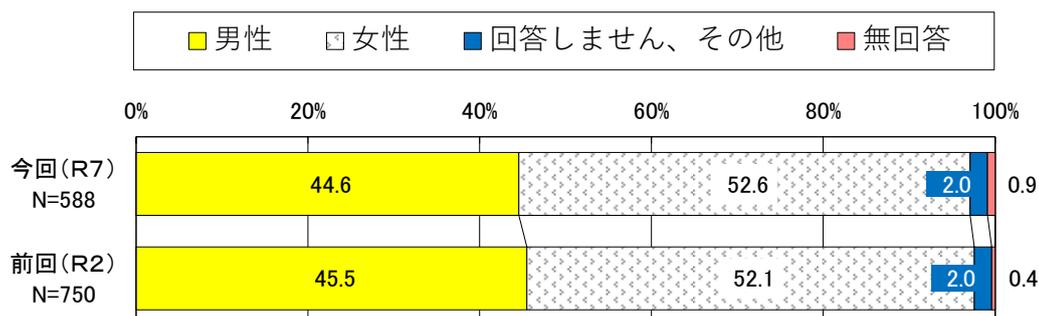
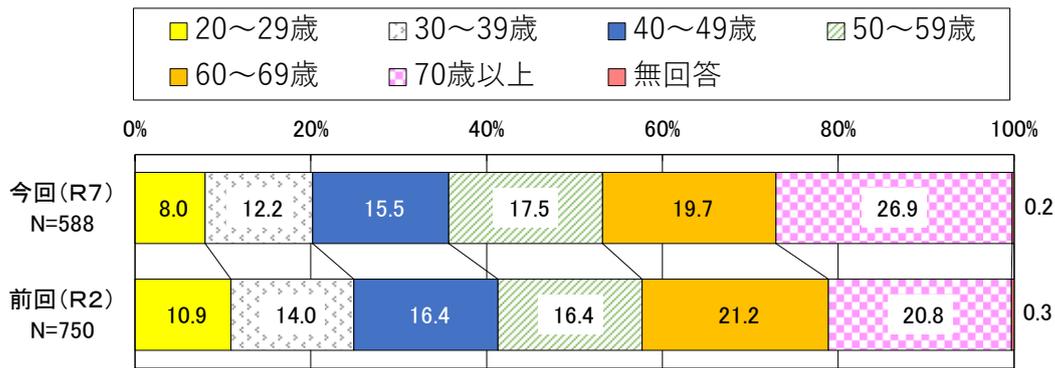


図2 調査回答者の年齢階層分布



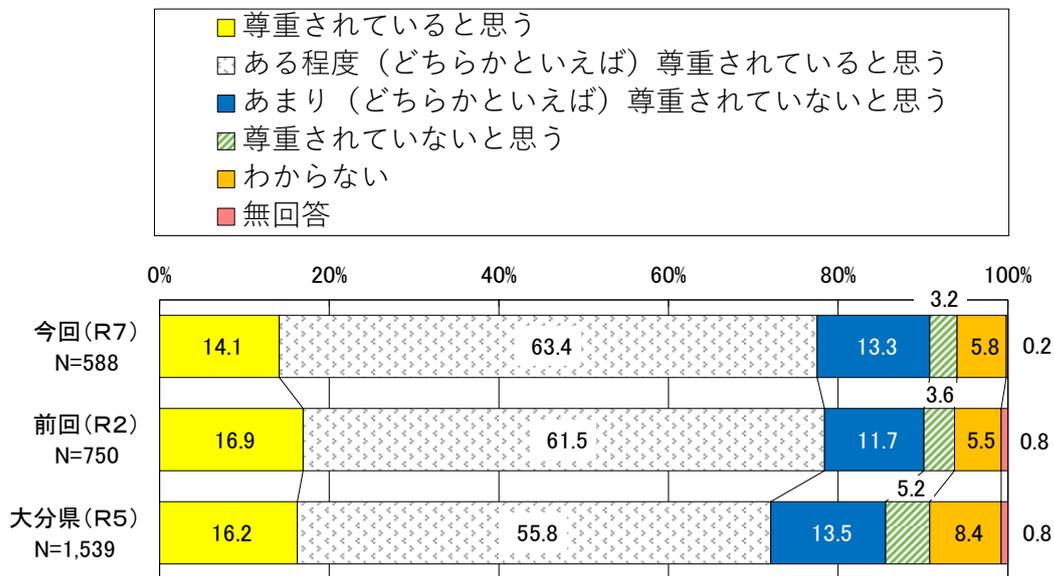
Ⅲ. 人権問題全般について

1. 人権の尊重状況についての意識

今の日本で人権は「尊重されていると思う」と回答した人の割合は 14.1%で、前回 (16.9%) より 2.8 ポイント低下し、「あまり尊重されていない」という回答は 13.3%と、前回 (11.7%) より 1.6 ポイント高くなっている (図3参照)。

また、県調査に比べると、「尊重されていると思う」と回答した人の割合は 2.1 ポイント低くなっているが、「ある程度 (どちらかといえば) 尊重されている」という回答を合わせた割合は、県 (72.0%) に比べ本市 (77.5%) の方が 5.5 ポイント高くなっている。

図3 今の日本で人権は尊重されていると思うか



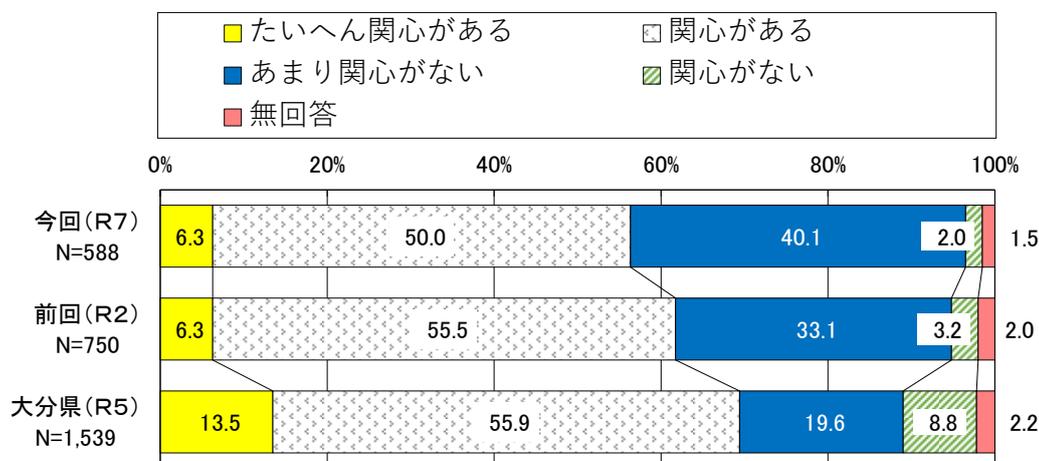
※県調査の選択肢では「ある程度」「あまり」の代わりに「どちらかといえば」が使われている

2. 人権問題に対する関心度

人権問題について「たいへん関心がある」「関心がある」と回答した人の割合は56.3%で、前回(61.8%)より5.5ポイント低下し、「あまり関心がない」「関心がない」という回答は42.1%と、前回(36.3%)より5.8ポイント高くなっている(図4参照)。

また、県調査結果との比較では、「たいへん関心がある」「関心がある」と回答した人の割合は県(69.4%)より13.1ポイント低くなっている。さらに、「あまり関心がない」「関心がない」という回答は県(28.4%)より13.7ポイント高くなっていることから、本市の人権問題に対する関心度は県全体に比べかなり低いことがわかる。

図4 人権問題にどの程度関心を持っているか



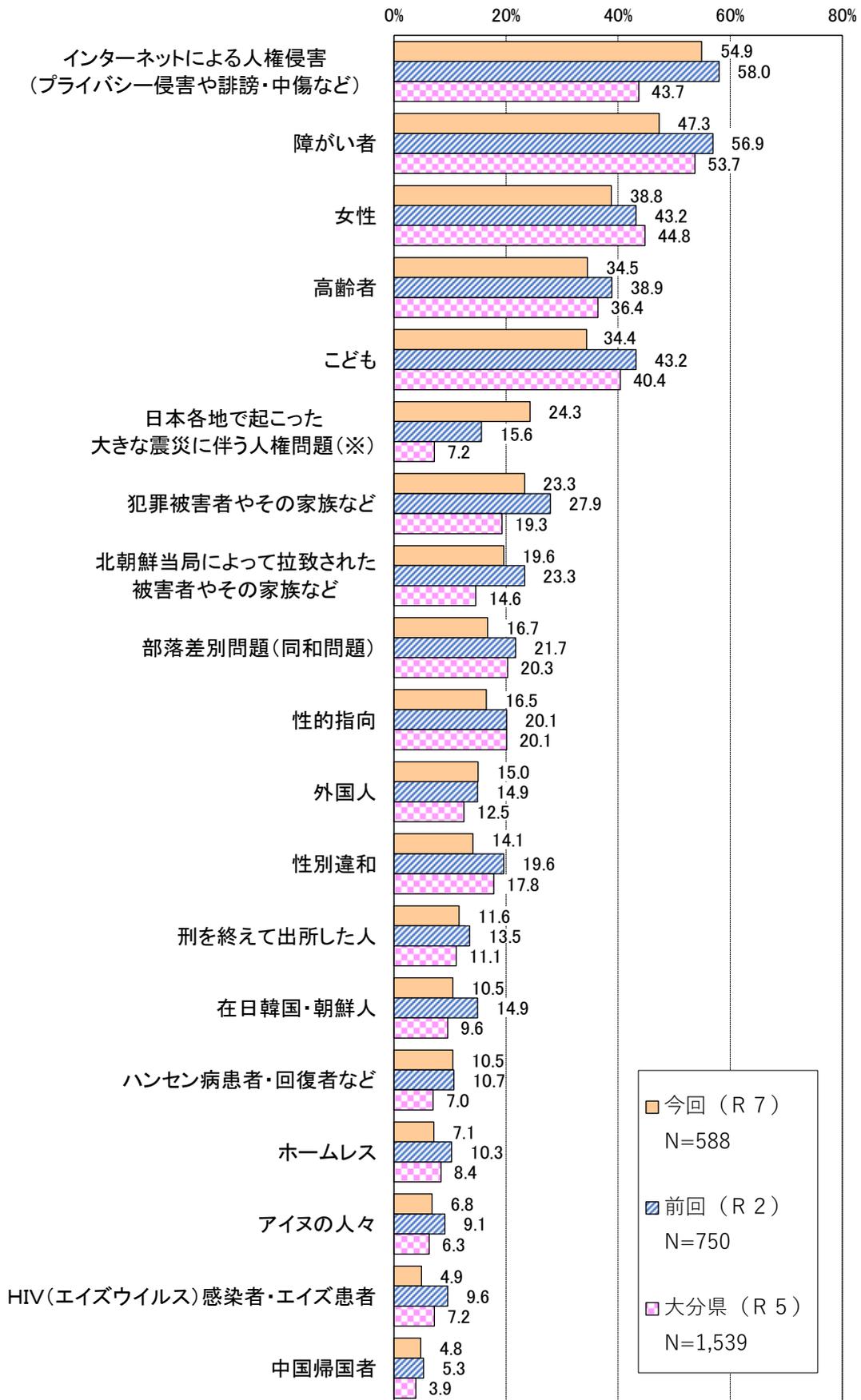
3. 関心のある人権問題

関心のある人権問題としては、前回同様、「インターネットによる人権侵害(プライバシー侵害や誹謗・中傷など)」が最も高い回答割合となっており、以下「障がい者」「女性」と続く上位3項目の順位は前回調査から変わっていない(次ページの図5参照)。一方、県の調査結果を見ると、「障がい者」の割合が最も高く、本市の回答結果は県全体とやや異なる傾向となっている。

なお、今回の調査結果を前回と比較すると、「子ども」と「高齢者」の順位が逆転している。これは今回の調査で回答者全体に対する「70歳以上」の構成割合が高くなっていることの影響が考えられる。

また、「日本各地で起こった大きな震災に伴う人権問題」が第6位と前回及び県に比べ回答割合が高くなっているが、これは前回及び県の選択肢が「東日本大震災に伴う人権問題」に限定されていた影響も考えられる。

図5 関心のある人権問題



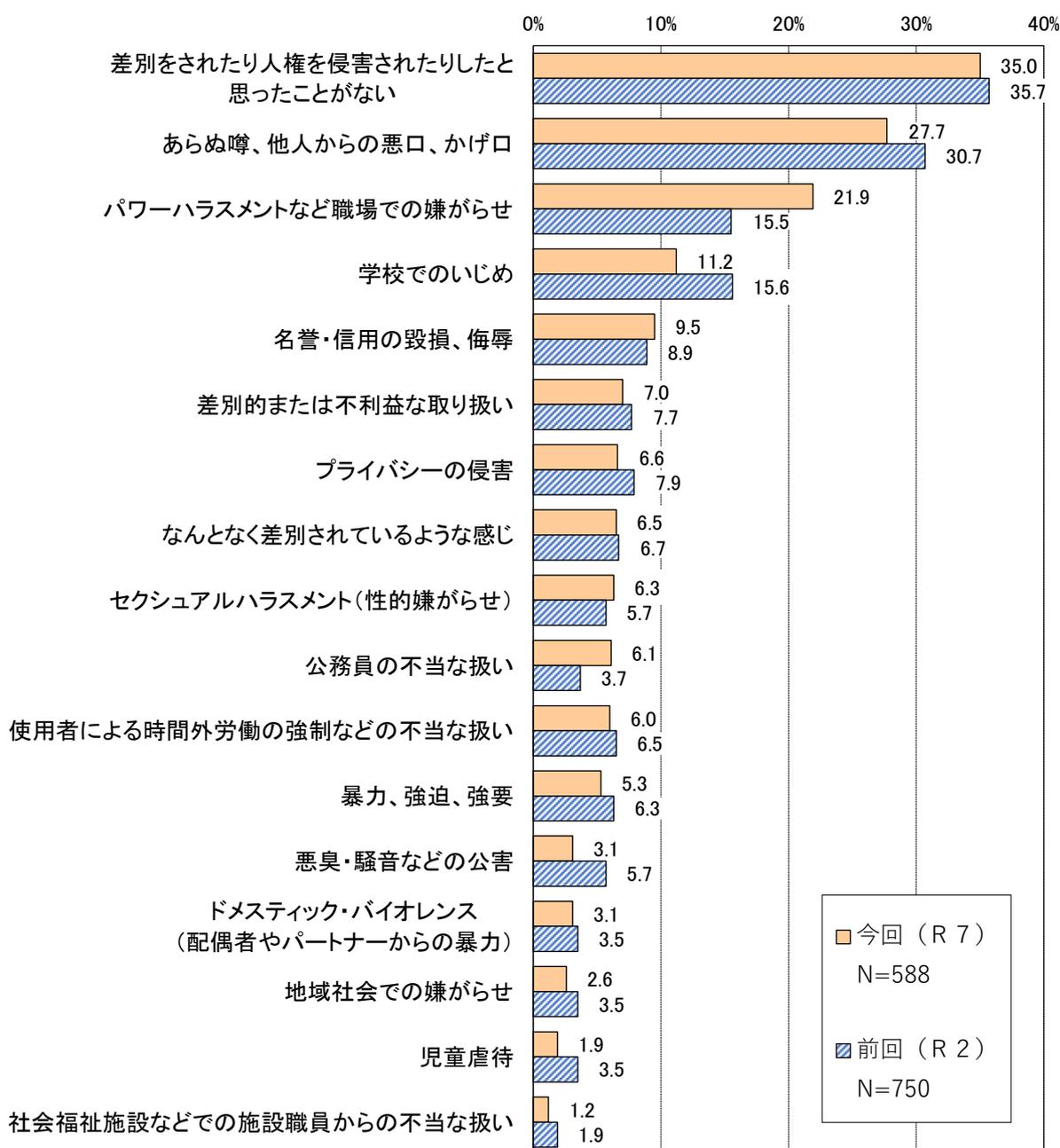
※前回調査及び県調査の選択肢は「東日本大震災に伴う人権問題」

4. 差別や人権侵害を受けた経験

「差別をされたり人権を侵害されたりしたと思っただことがない」と回答した人の割合は35.0%と、前回（35.7%）からほとんど変わっていない（図6参照）。前回と比較して特に回答割合が高くなったのは「パワーハラスメントなど職場での嫌がらせ」（21.9%）で、前回（15.5%）より6.4ポイント高くなっている。これは、最近の職場におけるハラスメントへの意識や関心の高まりが影響しているものと思われる。

なお、「学校でのいじめ」は11.2%と、前回の15.6%から4.4ポイント低くなっている。これは前回に比べ回答者全体に対して「20～29歳」の構成割合が低くなったことの影響が考えられる。

図6 これまで差別されたり人権を侵害されたりしたと思っただことがあるか。
また、それはどのようなことで思ったか。



5. 差別や人権侵害を受けたときの対処の仕方

差別や人権侵害を受けたときの対処の仕方については、その内容や程度にもよるが、「何もしないでがまんした」や「抗議も相談もしなかった」という回答割合は前回調査結果に比べやや低く、「相手に抗議した」の割合も低くなっている。一方で、身近な人に相談した人の割合はやや高くなっている（図7参照）。

しかし、相談できる機関（場所）や団体の認知度については、今回新たに追加した別府市人権啓発センターもしくは別府市男女共同参画センター「あす・べっぷ」は別として、前回からの選択肢項目はすべて低下している（図8参照）。引き続き相談先の周知に努める必要がある。

図7 差別をされたり人権を侵害されたりしたときどのように対処したか

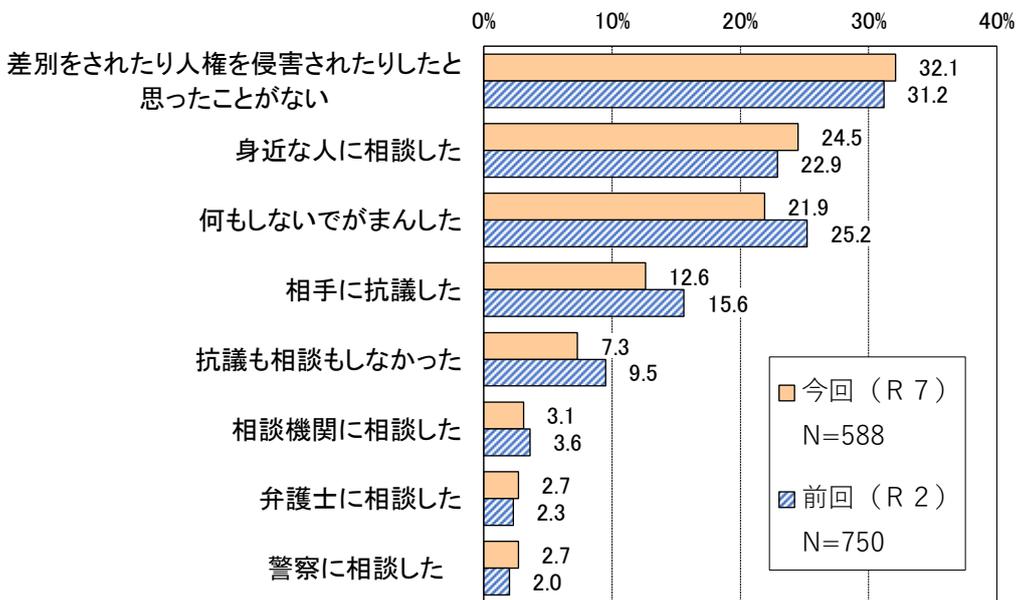
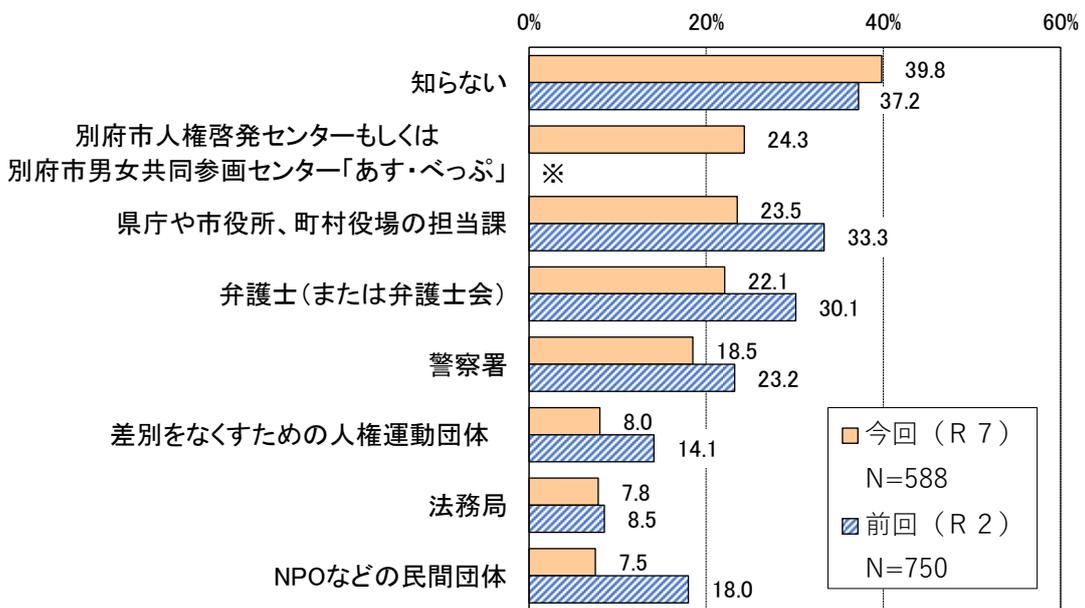


図8 相談できる機関（場所）や団体があることを知っているか



※前回は選択肢なし

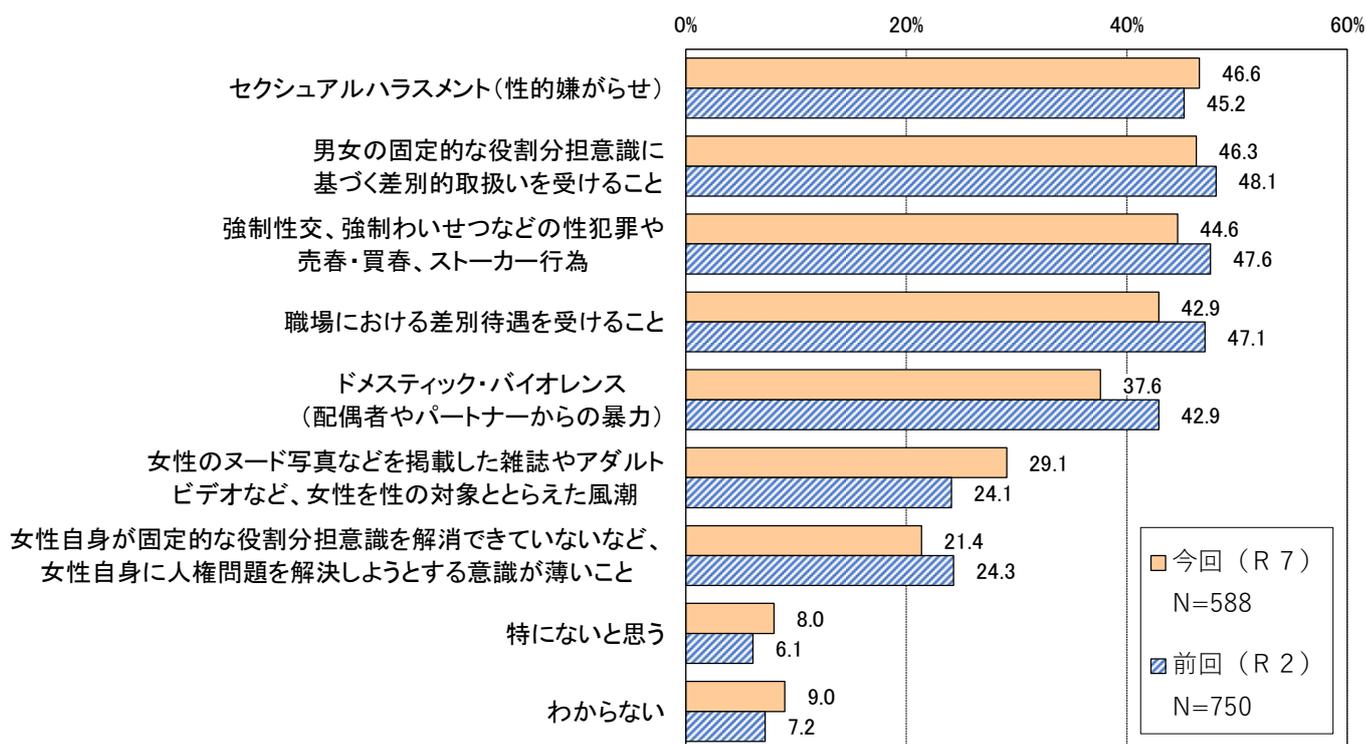
IV. 個別の人権問題について

1. 女性の人権問題

女性に関する人権問題については、前回調査で第4位であった「セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）」の回答割合が今回最も高くなっているが、前回上位にあがっていた「男女の固定的な役割分担意識に基づく差別的取扱いを受けること」「強制的性交、強制わいせつなどの性犯罪や売春・買春、ストーカー行為」「職場における差別待遇を受けること」も、あまり差のない割合で続いており、回答傾向に大きな変化は見られない（図9参照）。

法制度や社会環境の整備が進んでいるにもかかわらず、社会の様々な場面で、女性に対する差別や男女の固定的な役割分担意識が根強く残り、男性から女性への暴力をはじめとする人権侵害も大きな問題となっている。「女性の人権」に関する講座の継続はもちろんのこと、一層の啓発に力を入れていく必要がある。

図9 女性に関することで現在どのような人権問題があると思うか



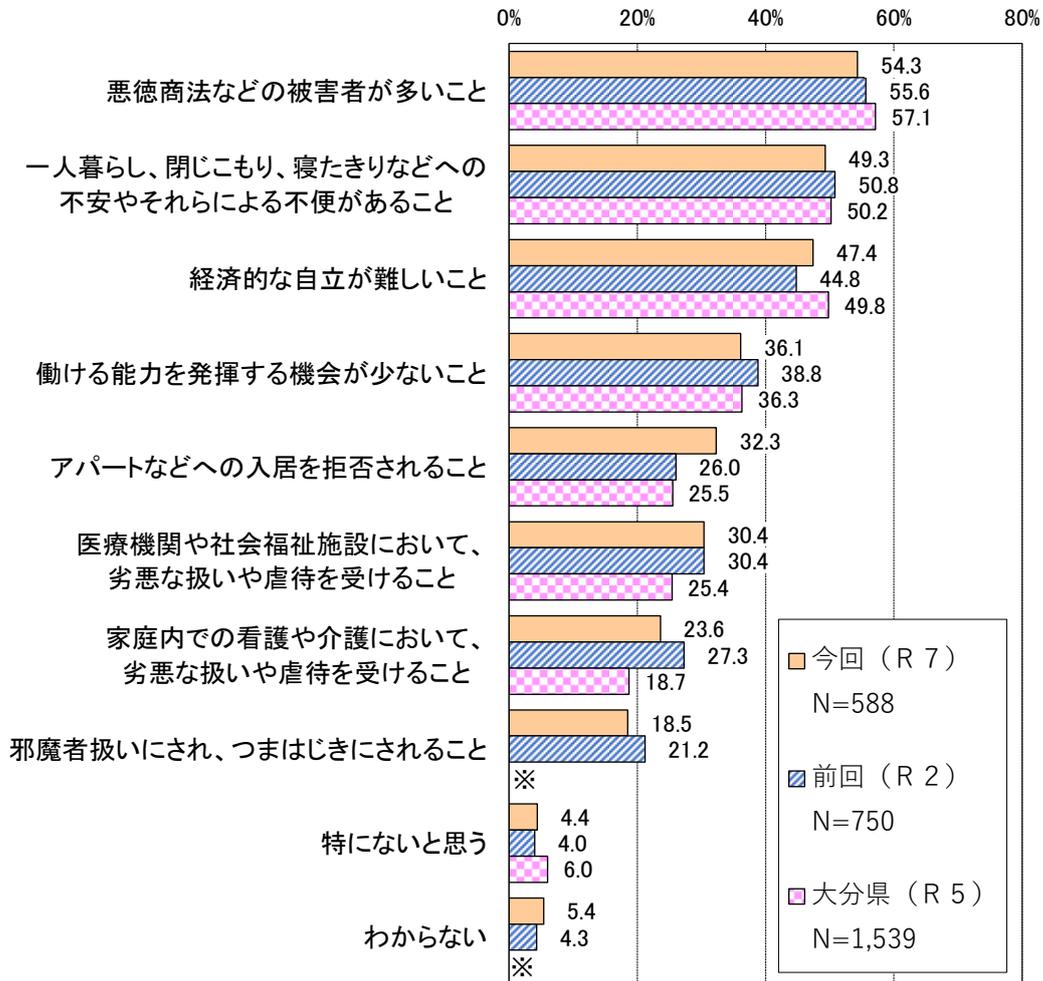
2. 高齢者の人権問題

高齢者に関する人権問題については、「悪徳商法などの被害者が多いこと」という回答割合が最も高くなっており、「一人暮らし、閉じこもり、寝たきりなどへの不安やそれらによる不便があること」「経済的な自立が難しいこと」を含めた上位3項目はもとより、ほぼ全ての項目にわたり、前回調査結果や県の調査結果とほぼ同じ傾向を示している（次ページの図10参照）。

本市は3人に1人以上が高齢者という超高齢社会となっている。すべての高齢者に人間としての尊厳が保障され、超高齢社会を支える重要な一員として、孤立することなく、

生きがいを持って主体的に社会参加できるような仕組みが必要である。引き続き、高齢者の人権に関する講座や研修を推進していく。

図10 高齢者に関することで現在どのような人権問題があると思うか

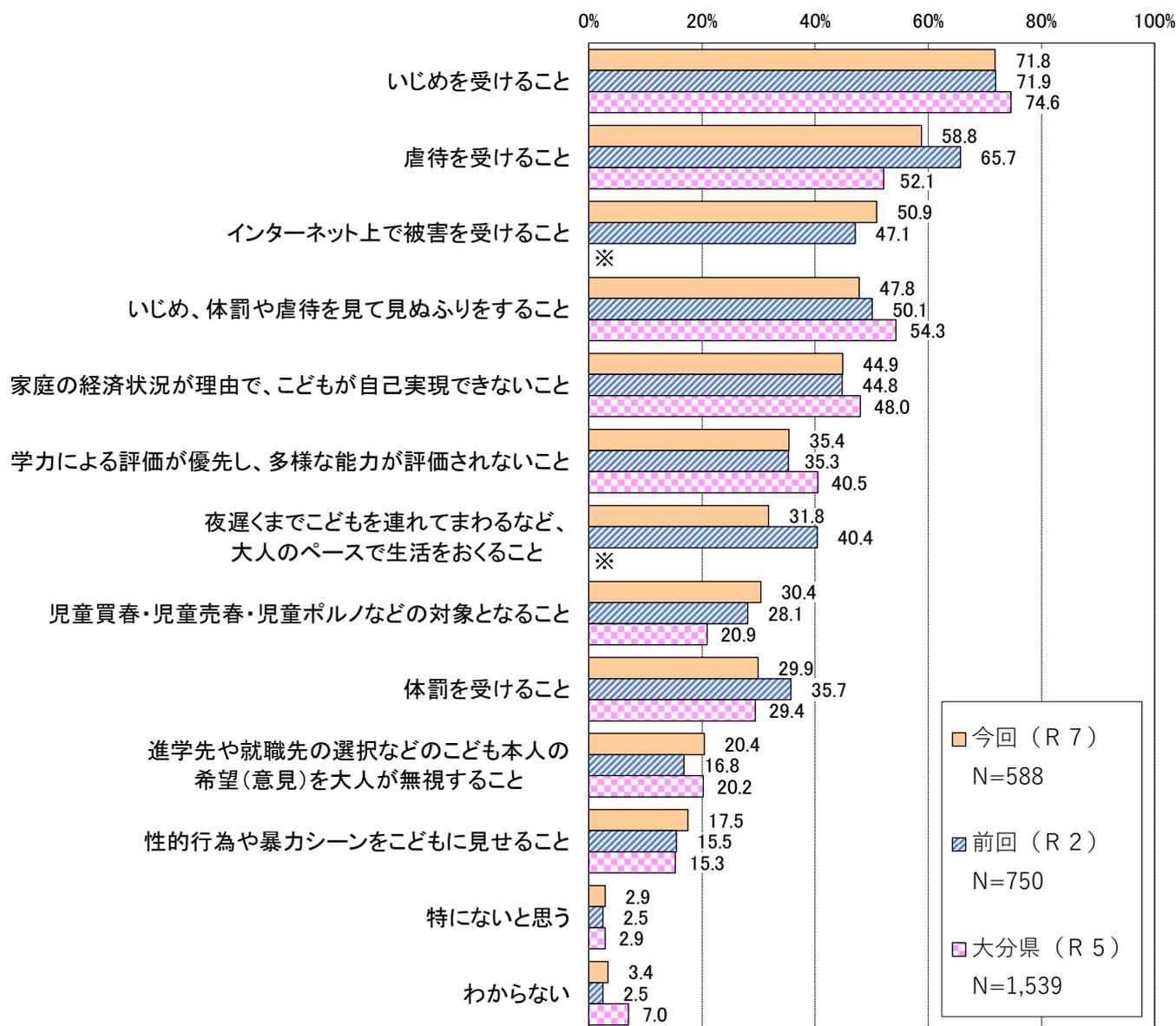


3. こどもの人権問題

子どもに関する人権問題については、「いじめを受けること」という回答割合が最も高く、前回調査結果や県の調査結果とほぼ同じ割合となっている(次ページの図11参照)。また、第2位には「虐待を受けること」があがっており、前回より回答割合は低下したものの、県調査に比べると依然高い割合となっている。さらにスマートフォンやSNSの普及の影響からか、「インターネット上で被害を受けること」は前回よりも回答割合が高くなっており、今回の調査では第3位となっている。

国の子ども大綱や「別府市子ども・子育て支援事業計画」が目指す「子どもまんなか社会」を実現するためには、子どもの人権に関する理解促進や人権教育・人権啓発活動を推進し、子ども・若者が権利の主体であることを社会全体で共有することが必要である。

図11 こどもに関することで現在どのような人権問題があると思うか



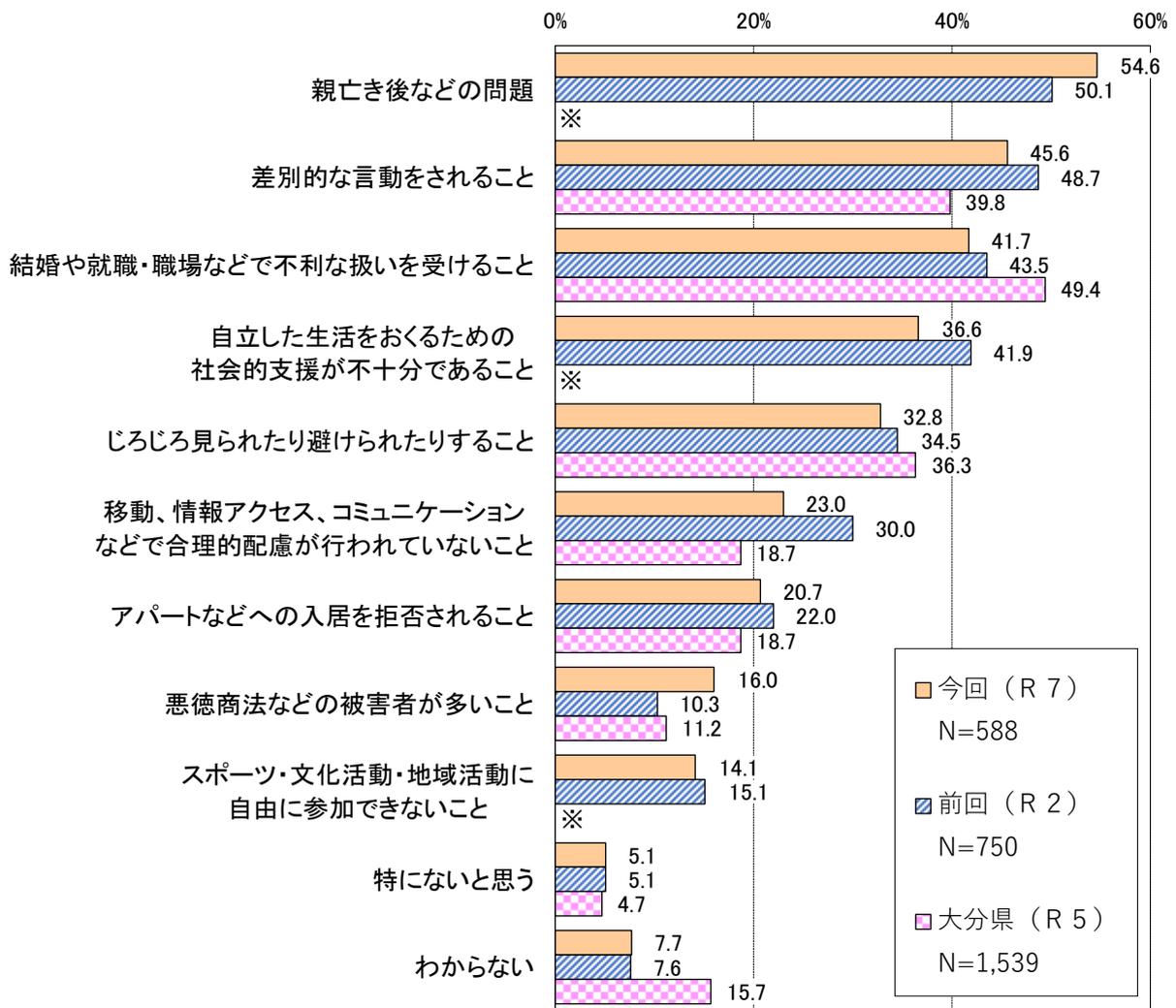
※県調査には選択肢なし

4. 障がい者の人権問題

障がい者に関する人権問題については、前回同様、「親亡き後などの問題」という回答割合が最も高くなっている（図 12 参照）。また、第2位には「差別的な言動をされること」、第3位には「結婚や就職・職場などで不利な扱いを受けること」があがっており、障がい者に対する偏見や差別の根強さをうかがわせる結果となっている。

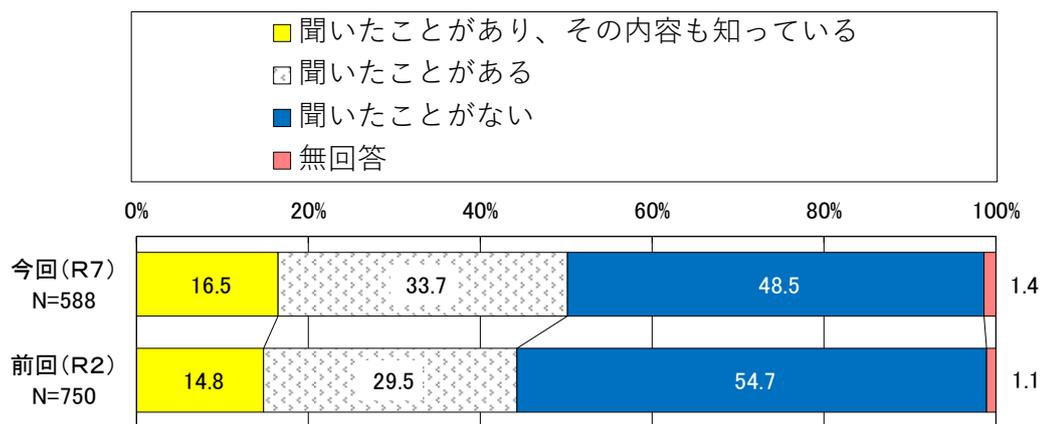
障害者差別解消法の施行から9年が経過し、障がいのある人に対する「合理的配慮」の認知度はやや向上している（次ページの図 13 参照）。令和6年4月の改正障害者差別解消法の施行により、民間事業者による合理的配慮の提供が「努力義務」から「法的義務」へ移行しており、各事業者には対応指針や研修体制の整備が求められている。障害者週間や啓発活動を通じた社会的理解の促進を強化し、引き続き、障がいの有無に関わらず、誰もが安心して安全に暮らせることのできる社会（共生社会）の実現に向けた取り組みを推進する必要がある。

図 12 障がい者に関することで現在どのような人権問題があると思うか



※県調査には選択肢なし

図13 障がいのある人に対する「合理的配慮」という言葉を聞いたことがあるか

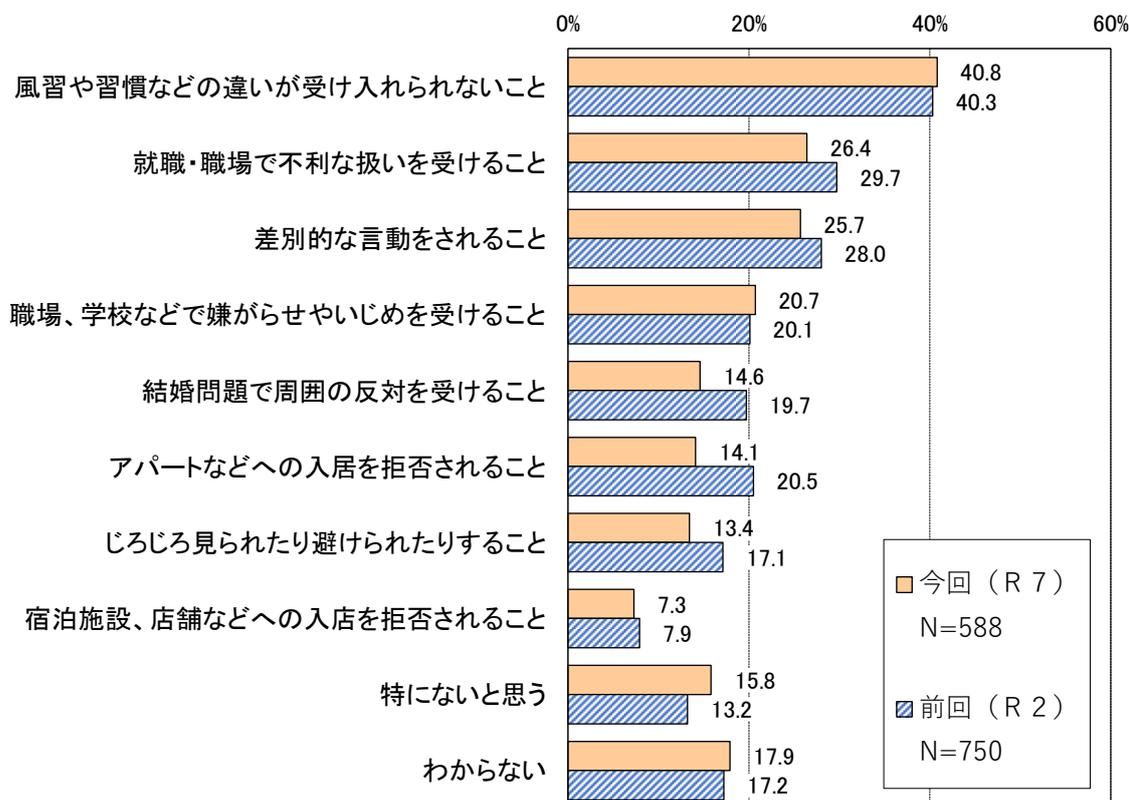


5. 外国人の人権問題

日本に居住している外国人に関する人権問題については、前回同様、「風習や習慣などの違いが受け入れられないこと」という回答割合が最も高くなっている（図14参照）。

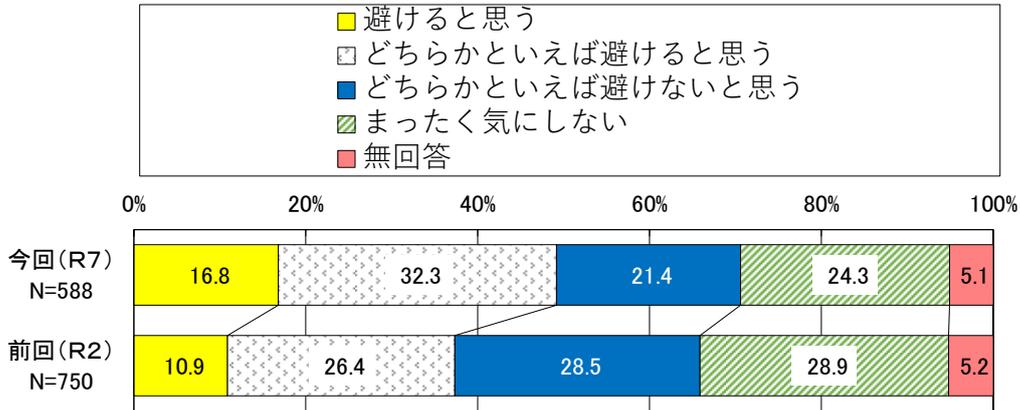
同じ地域住民として外国人と共生する多文化共生社会の実現に向けて、互いの人権を尊重することと併せ、異なる考え方や文化・習慣を持つ人々を特別視せず、その違いを理解し受け入れるための教育や啓発を推進する必要がある。また、外国人に向けた行政サービス等の必要な情報の多言語での発信や、市のPR情報や看板等の表記の多言語化など、外国人が安心して暮らしやすい環境整備を図る必要がある。

図14 日本に居住している外国人に関することで現在どのような人権問題があると思うか



なお、住まいを選ぶ際に「近隣に外国籍の住民が多く住んでいる」場合、価格や立地条件が希望にあっても「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と回答した人の割合は49.1%と、前回（37.3%）に比べ11.8ポイント増加しており、外国人に対する市民意識の変化がうかがえる結果となっている（図15参照）。

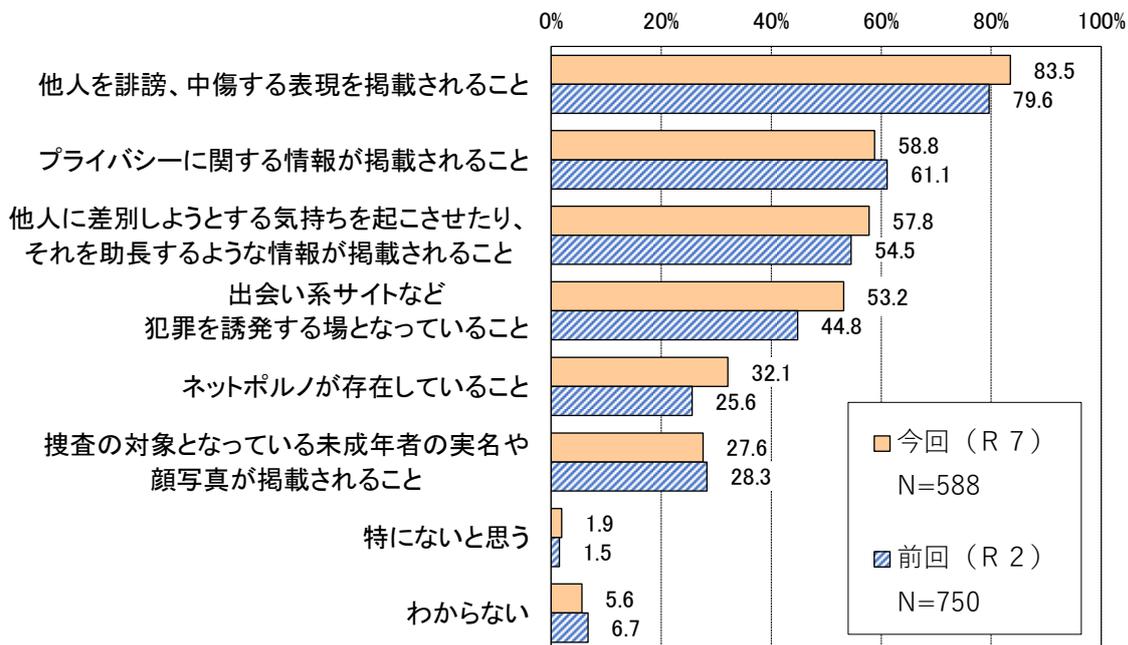
図15 住まいを選ぶ際に「近隣に外国籍の住民が多く住んでいる」場合、価格や立地条件が希望にあっても、避けることがあると思うか



6. インターネットによる人権問題

インターネットの普及と利用者の急増は、インターネットによる人権侵害をより深刻化させており、今回の調査結果においても前回同様、「他人を誹謗、中傷する表現を掲載されること」という回答割合が最も高く、「プライバシーに関する情報が掲載されること」や「他人に差別しようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること」がそれに続いている（図16参照）。また、今回の調査では「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」が、前回に比べ8.4ポイント高い回答割合となっている。

図16 インターネットによる人権侵害に関することで現在どのような人権問題があると思うか



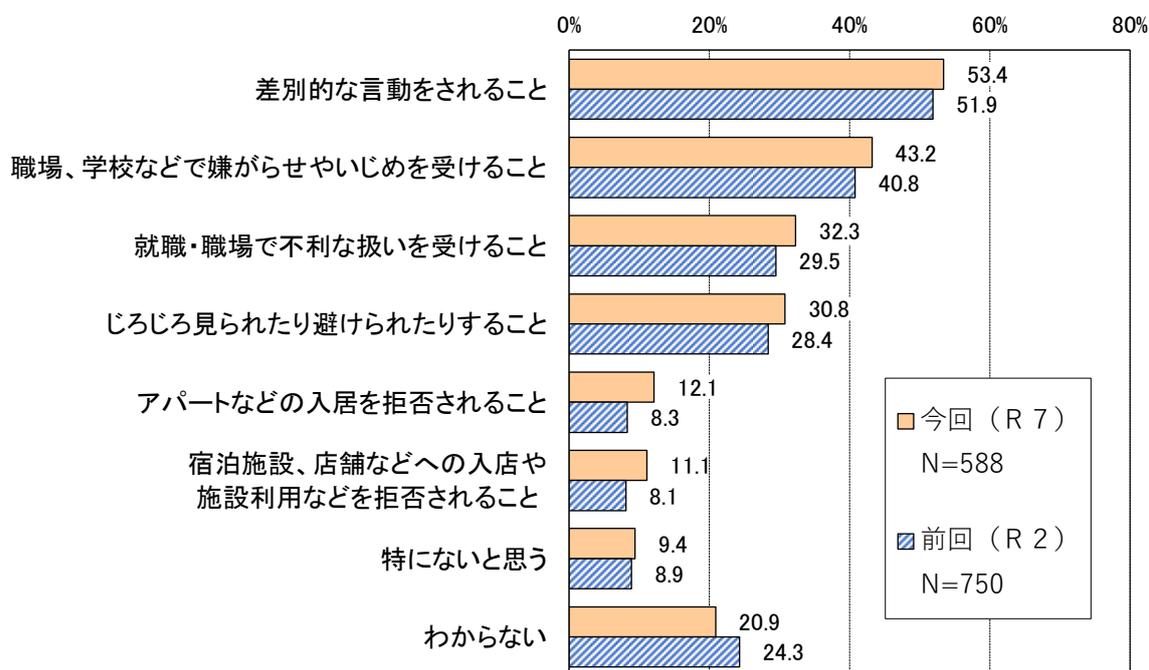
インターネットは、だれでも情報を簡単に手に入れ、手軽に情報を発信できる反面、間違った情報や悪意ある情報が簡単に掲載される。実際、誹謗中傷の書き込みによる悪質な人権侵害事案も発生している。インターネット利用者の一人ひとりが、情報発信・収集にあたり、個人の責任を十分に理解し、情報モラルを身につけられるよう、引き続き教育・啓発に取り組む必要がある。

7. 性的指向や性自認に関する人権問題

性的指向や性自認に関する人権問題については、「差別的な言動をされること」が53.4%と最も回答割合が高く、「職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること」(43.2%)がそれに続いている(図17参照)。全体として前回とほぼ同様の回答傾向にあり、他の人権問題に比べ、「わからない」という回答割合(20.9%)が高いのが、この人権問題の特徴でもある。しかし、前回に比べ「わからない」という回答割合が3.4ポイント低下し、その他の項目の回答割合が数ポイントずつ高くなっていることは、徐々にこの人権問題への関心が広まりつつあることの表れとも考えられる。

性的指向や性自認に関する理解を深め、差別や偏見をなくすため、引き続き性の多様性について教育・啓発を推進するとともに、情報収集に努める必要がある。

図17 性的指向や性自認に関することで現在どのような人権問題があると思うか

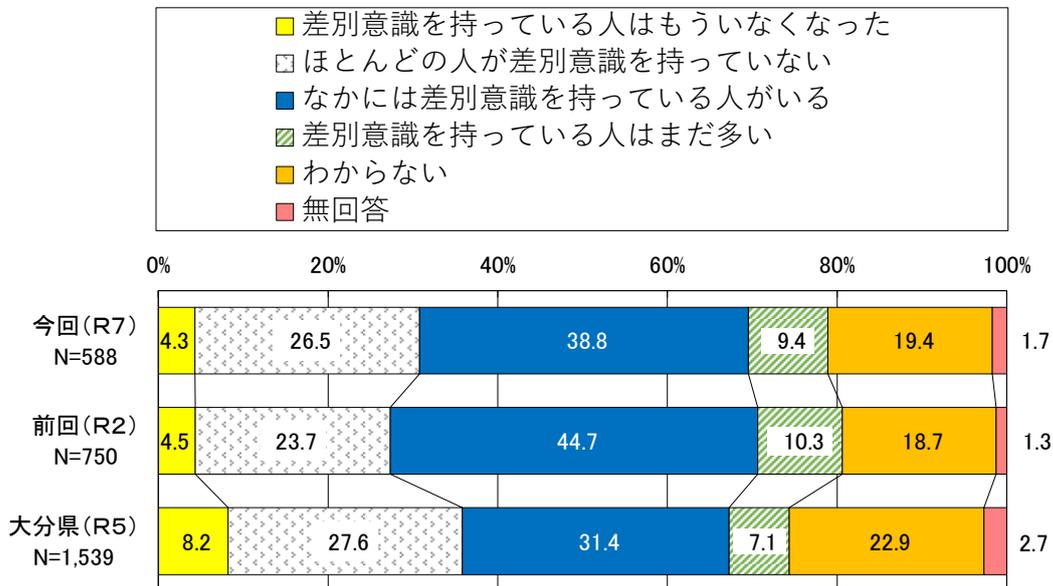


V. 部落差別問題（同和問題）について

1. 被差別部落（旧同和地区）の人に対する差別意識に関する認識

被差別部落（旧同和地区）の人に対する差別意識については、前回調査結果に比べると「ほとんどの人が差別意識を持っていない」という回答割合が高くなり、「なかには差別意識を持っている人がいる」「差別意識を持っている人はまだ多い」という回答割合が低くなっている（図 18 参照）。しかし、県の調査結果と比べると、「差別意識を持っている人はもういなくなった」「ほとんどの人が差別意識を持っていない」という回答割合は低く、「なかには差別意識を持っている人がいる」「差別意識を持っている人はまだ多い」という回答割合が高くなっている。

図 18 被差別部落（旧同和地区）の人を見下したり排除しようとしたりする差別意識を持った人がいると思うか



2. 部落差別問題（同和問題）をはじめて知った時期ときっかけ

部落差別問題（同和問題）をはじめて知った時期については、「6歳～12歳（小学校のころ）」という回答割合が36.1%と最も高く、全体の半数以上が「12歳～15歳（中学校のころ）」までに知ったと回答しており、これは前回調査とほぼ同じ結果となっている（次ページの図 19 参照）。

一方、部落差別問題（同和問題）をはじめて知ったきっかけについては、「学校の授業で習った」という回答割合が41.3%と最も高く、これは全国や県全体と比べて10ポイント以上高い割合となっている（次ページの図 20 参照）。

図19 部落差別問題（同和問題）をはじめて知った時期

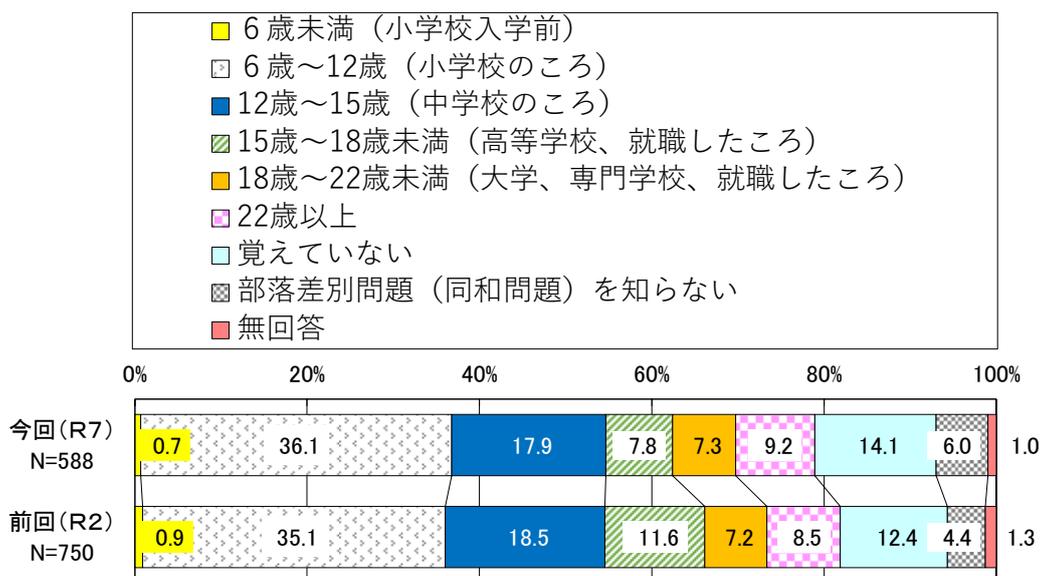
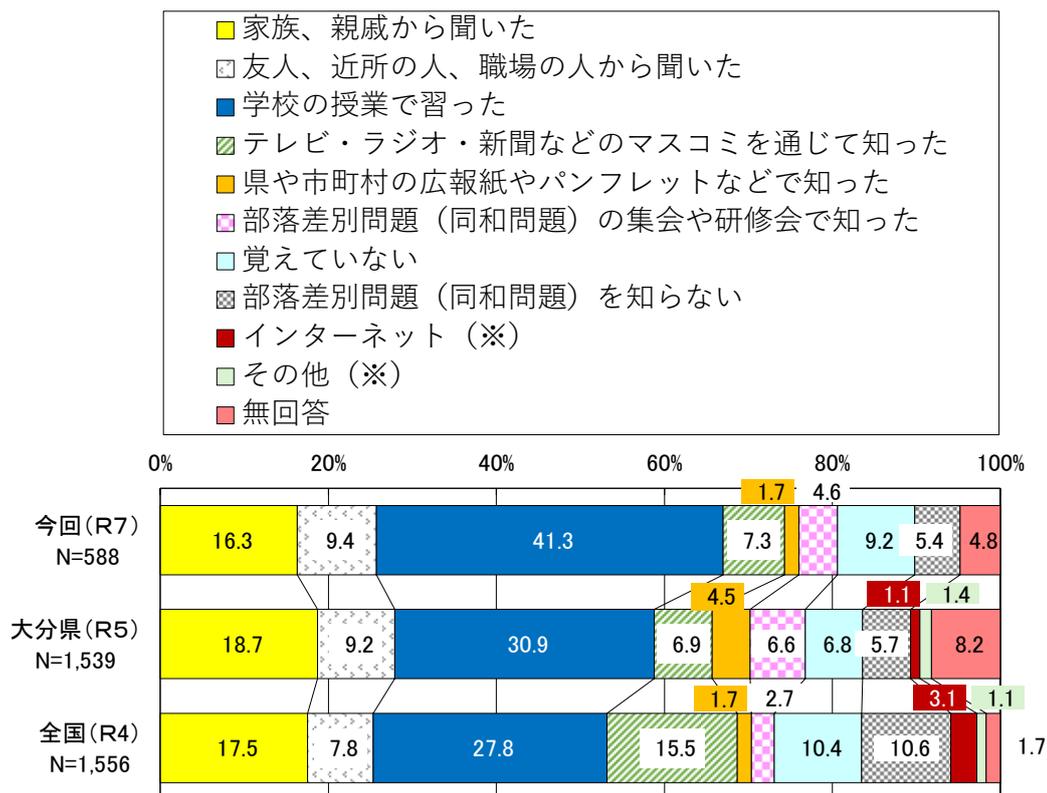


図20 部落差別問題（同和問題）をはじめて知ったきっかけ



※今回の調査には選択肢なし

3. 「被差別部落出身者は怖い」というような内容を見たり聞いたりした経験

「被差別部落出身者は怖い」というような内容を見たり聞いたりしたことが「ある」と回答した人の割合は26.9%となっており、前回とほとんど変わっていない(図21参照)。

また、それを誰から、何によって見たり聞いたりしたかについても、前回同様、「家族」「友人」「近所の人」「新聞の記事」が上位にあがっている(図22参照)。ただし、「家族」「友人」「近所の人」「親戚」からという回答割合は、いずれも前回に比べ低くなっている。さらに、その時にどう感じたかについては、前回同様、「そういう見方もあるのかと思った」という回答が最も多くなっているが、その割合はやや低下し、「そういうことはないと思った」という回答割合がやや高くなっている(次ページの図23参照)。

図21 「被差別部落出身者は怖い」というような内容を見たり聞いたりしたことがあるか

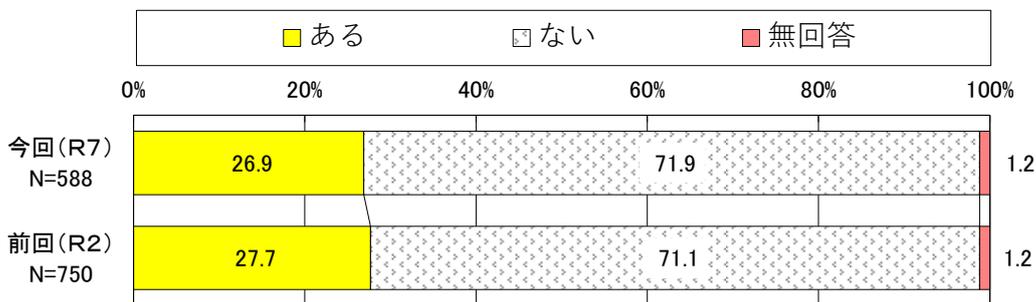


図22 それは誰から、何によって見たり聞いたりしたか

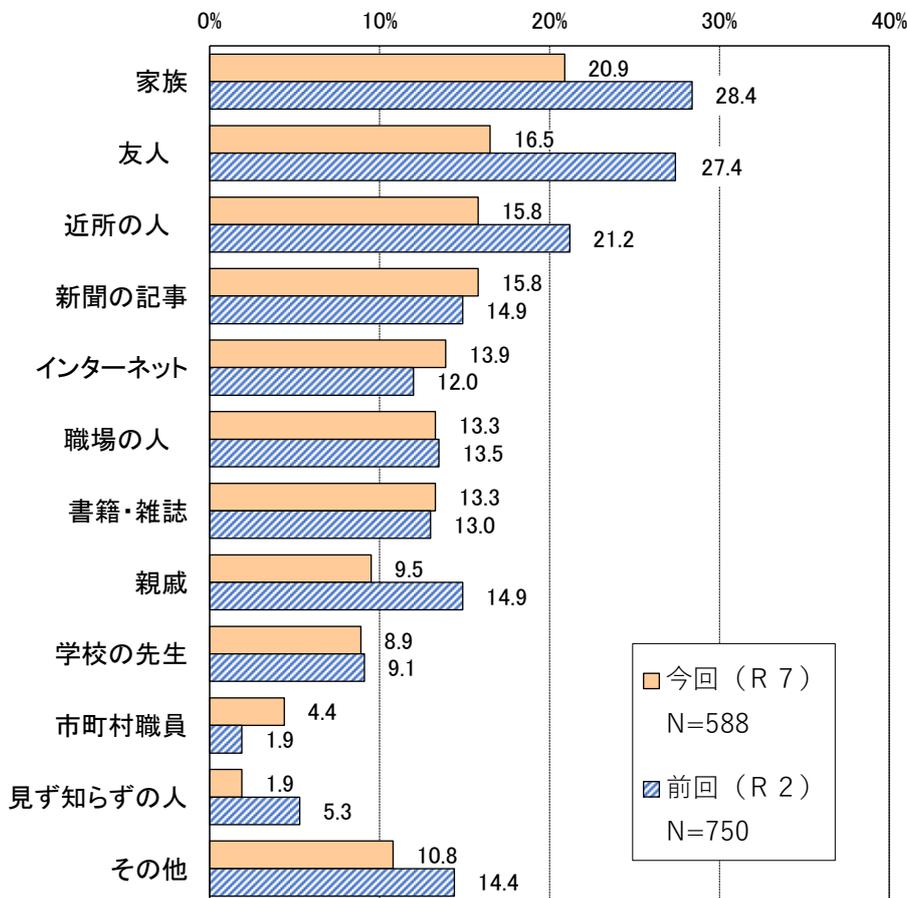
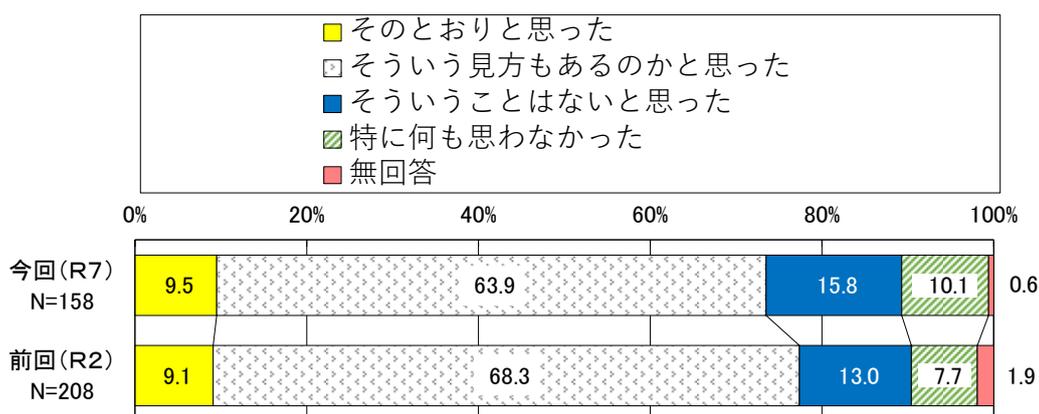


図 23 その時、どう感じたか



4. 部落差別問題（同和問題）についての学習や研修を受けた経験

部落差別問題（同和問題）についての学習や研修を「受けたことはない」と回答した人の割合は25.9%と、前回調査結果（21.3%）より高くなっている（図 24 参照）が、これは前回調査に比べ 70 歳以上の回答者割合が高くなった影響によるものと考えられる（P70 参照）。

受けた学習や研修の内容については、「部落差別の歴史」を筆頭に「差別はなぜいけないのか」「人権の大切さ」「過去の被差別部落の厳しい生活」などが上位にあがっている（次ページの図 25 参照）。前回調査では、学習や研修を受けた経験のない人を含め調査対象者全員に回答を求めていたため、回答割合自体を比較することはできないが、回答傾向に大きな変化は見られない。

また、学習を受けたことについて今どう感じているかについても、「学習を受けてよかったと思っている」という回答割合が前回に比べ高くなっている。今回は学習や研修を受けたことがある人のみの回答で、回答傾向は前回とあまり変わっていない（次ページの図 26 参照）。

図 24 部落差別問題（同和問題）についての学習や研修を受けたことがあるか

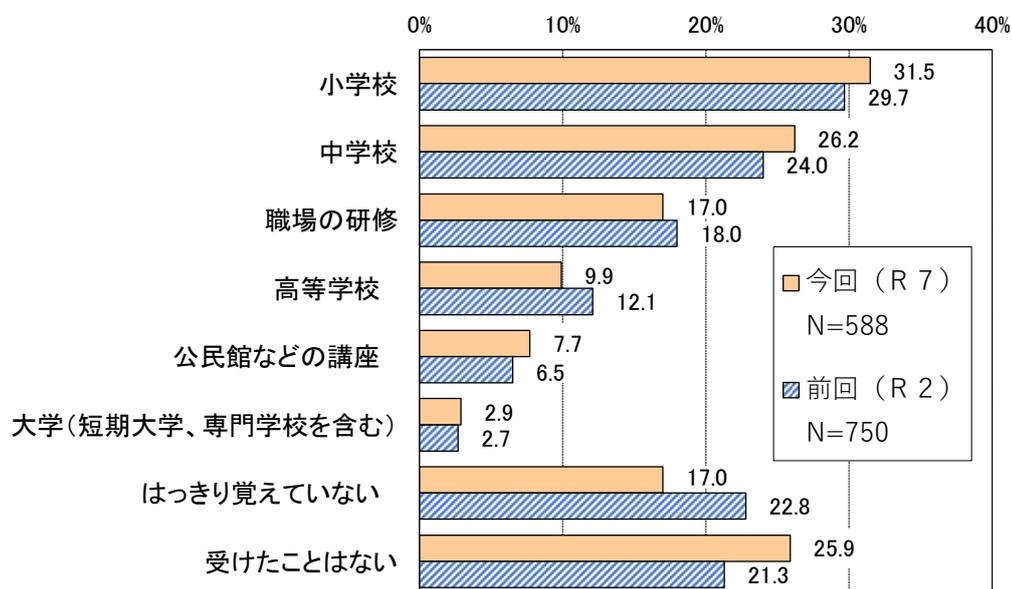
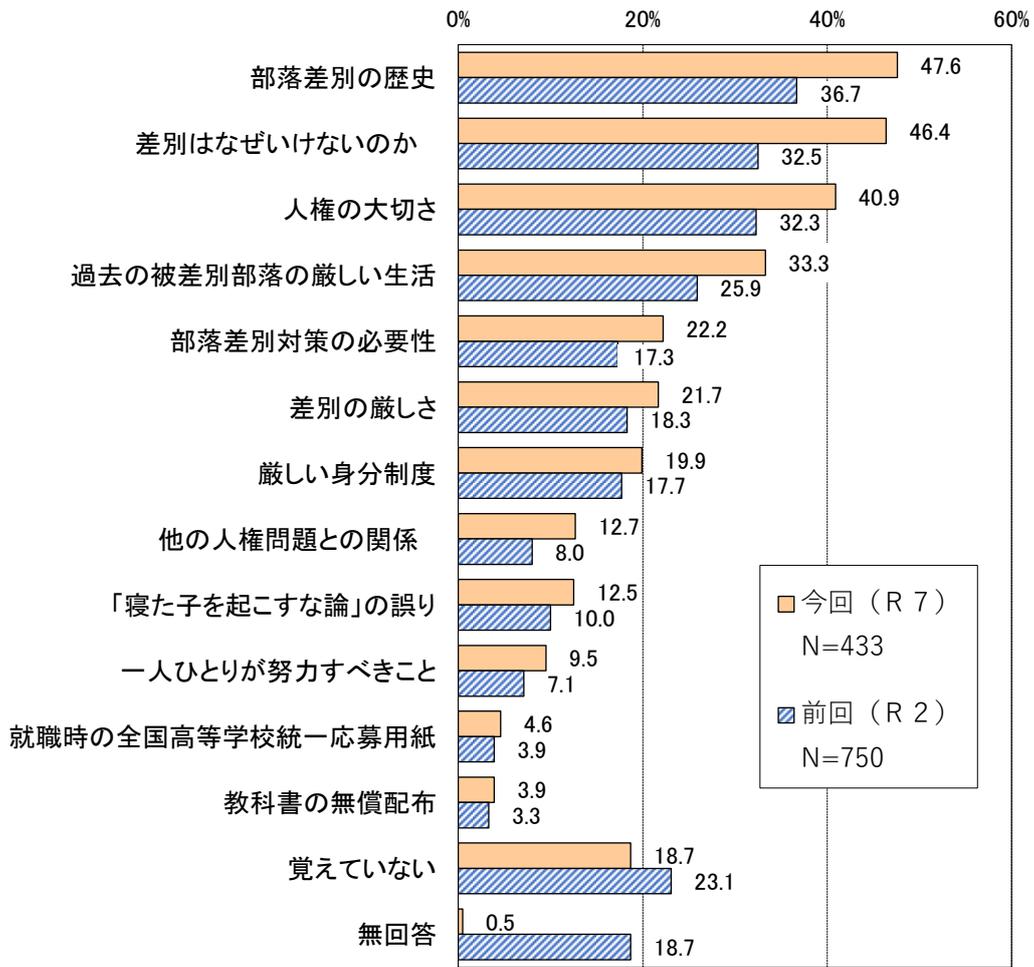
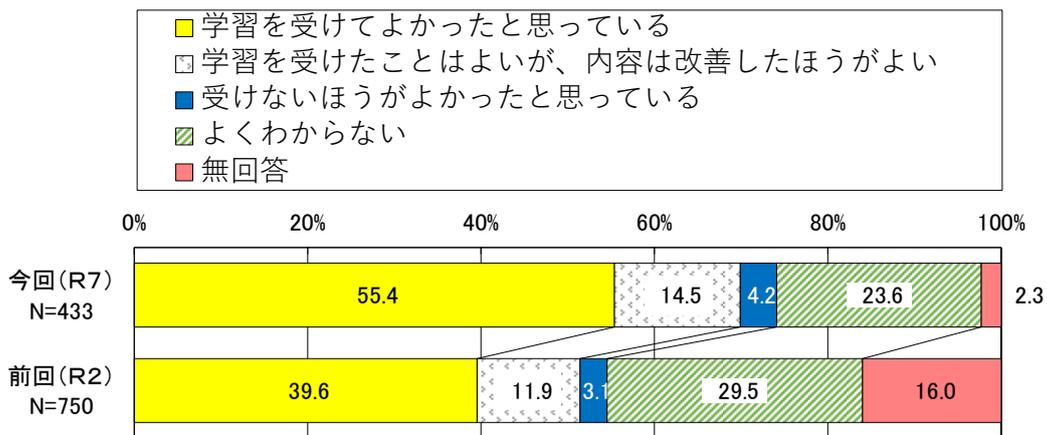


図 25 部落差別問題（同和問題）についての学習や研修の内容



※今回の調査は学習や研修を受けたことがある人のみ回答

図 26 部落差別問題（同和問題）についての学習を受けたことについて今どう感じているか

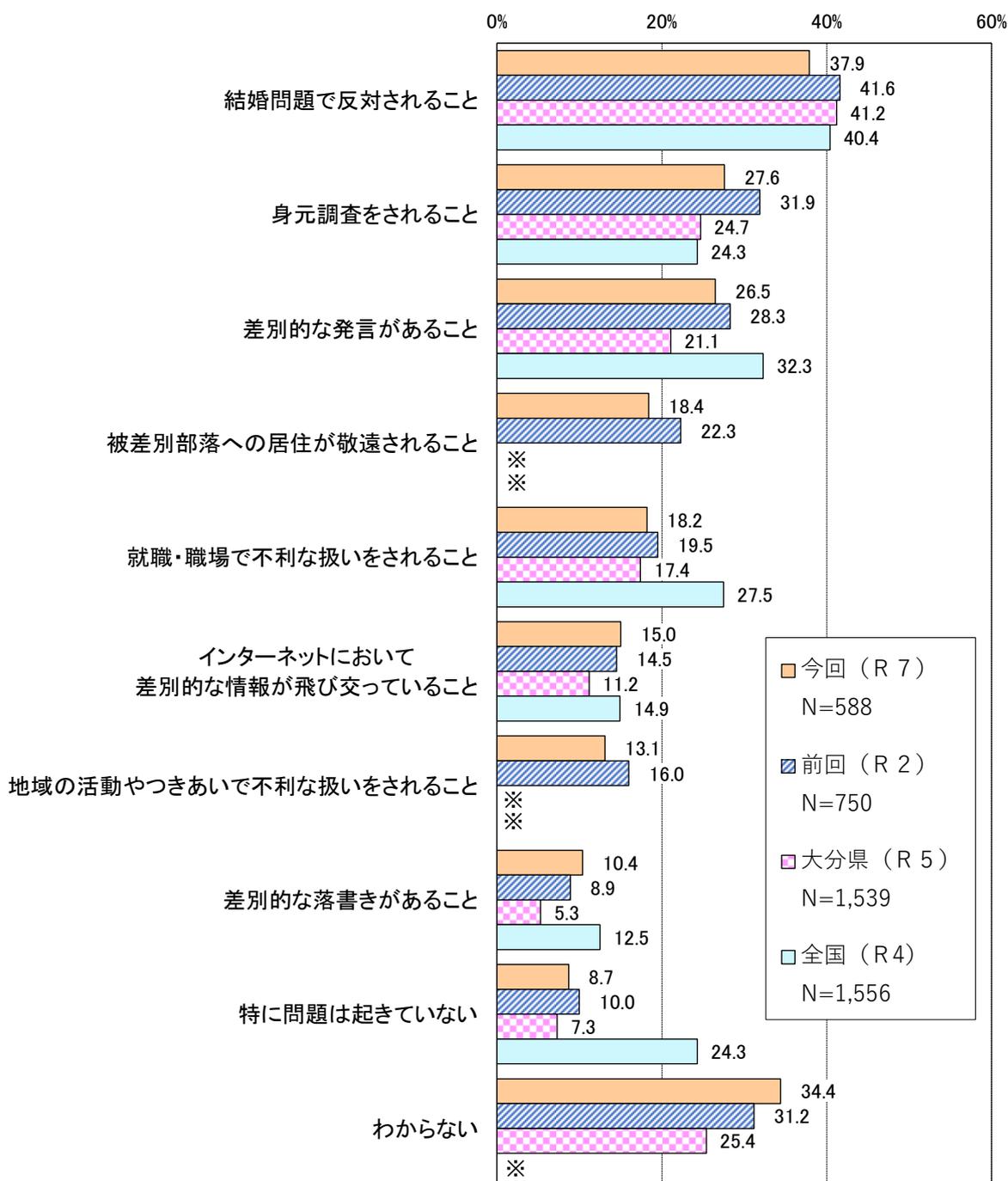


※今回の調査は学習や研修を受けたことがある人のみ回答

5. 部落差別問題（同和問題）に関して現在起きていると思う問題

現在起きていると思う部落差別問題（同和問題）については、「結婚問題で反対されること」という回答割合が37.9%と最も高く、「身元調査をされること」と「差別的な発言があること」がこれに続いている（図27参照）。これは前回調査結果から変わっておらず、県調査でも同じような傾向となっている。なお、国の調査では「差別的な発言があること」、「就職・職場で不利な扱いをされること」がそれぞれ第2位、第3位にあがっており、やや異なる回答傾向となっている。

図27 部落差別問題（同和問題）に関して現在どのような問題が起きていると思うか

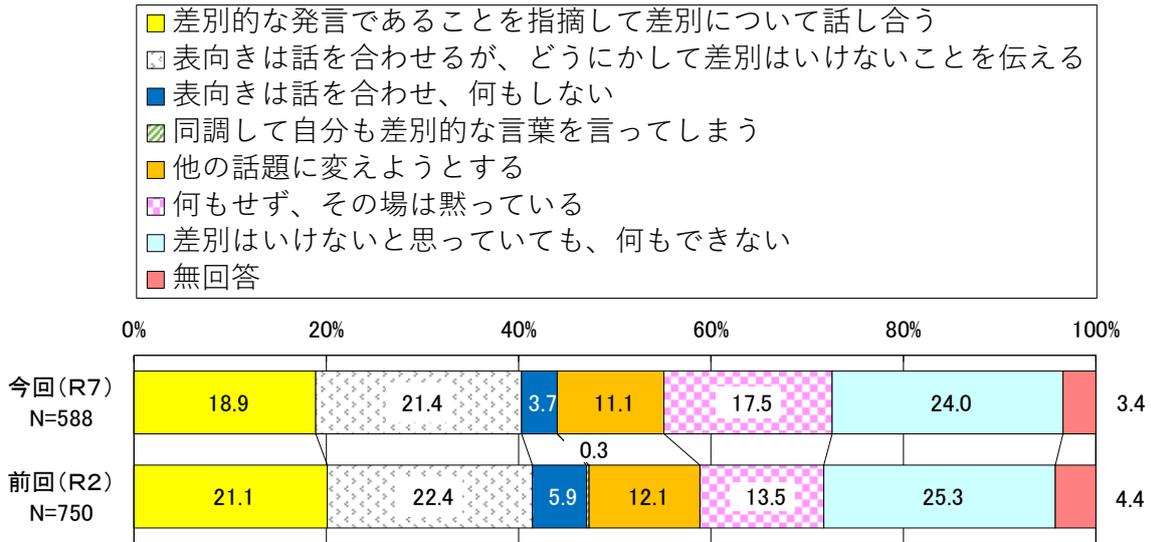


※国、県の調査には選択肢なし

6. 被差別部落出身者に対する差別的な発言に対する態度

学校や職場、日常生活の中で誰かが被差別部落出身者に対する差別的な発言をした時にとる態度について、「差別はいけないと思っても、何もできない」という回答が最も多く、選択肢の回答割合順位は前回と変わっていない（図 28 参照）。また、「同調して自分も差別的な言葉を言ってしまう」という回答は今回ゼロであった。

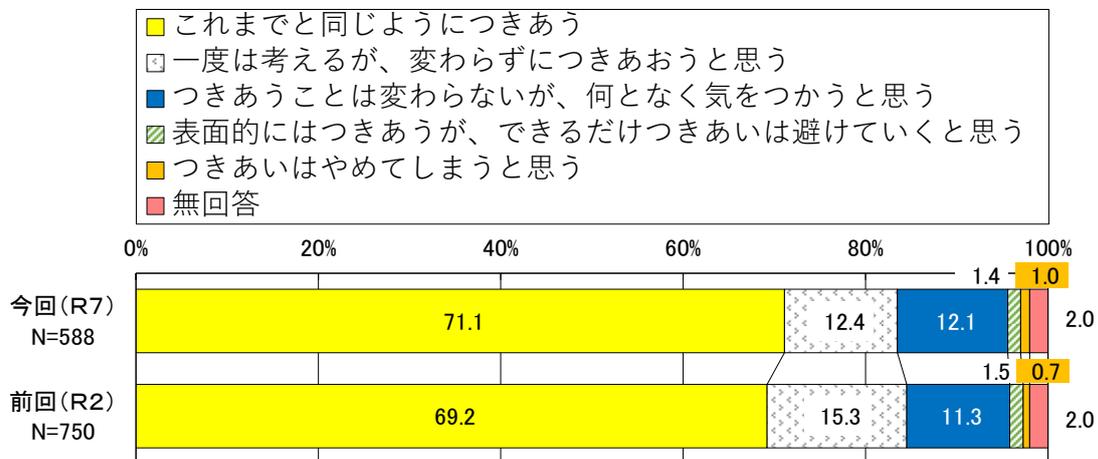
図 28 学校や職場、日常生活の中で誰かが被差別部落出身者に対する差別的な発言をした時あなたはどのような態度を取ると思うか



7. 親しく付き合っている友人や近所の人が被差別部落出身者だとわかった場合の態度

日頃親しく付き合っている職場の友人や近所の人が被差別部落出身者だとわかった場合、「これまでと同じようにつきあう」と回答した人の割合は71.1%と、前回（69.2%）よりやや増加しているが、「一度は考えるが、変わらずにつきあおうと思う」を合わせると、ほとんど変わらない結果となっている（図 29 参照）。

図 29 日頃親しく付き合っている職場の友人や近所の人が被差別部落出身者だとわかった場合あなたはどうにするか

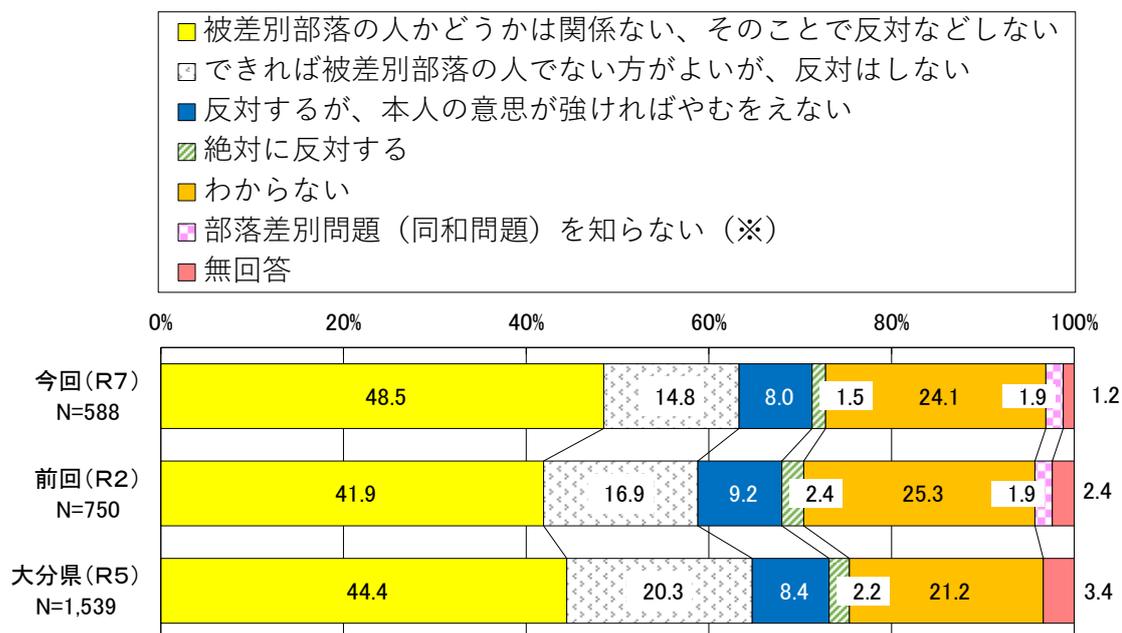


8. 被差別部落の人との結婚等に関する問題に対する意識

家族が被差別部落の人と結婚するとしたら、どうするかという問に対しては、「被差別部落の人かどうかは関係ない、そのことで反対などしない」という回答割合が48.5%と最も高く、前回に比べ6.6ポイント上昇している（図30参照）。これは県調査結果と比べても4.1ポイント高い割合となっている。

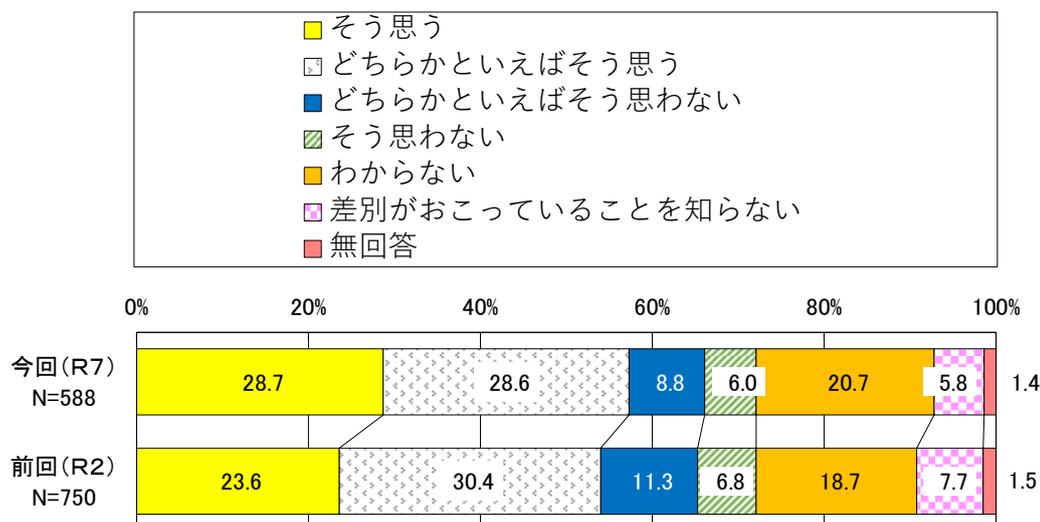
また、被差別部落の人たちに対する就職差別や結婚差別は将来なくすことができると思うかという問に対しても、「そう思う」と回答した人の割合が28.7%と、前回に比べ5.1ポイント上昇している（図31参照）。

図30 家族が被差別部落の人と結婚するとしたら、どうするか



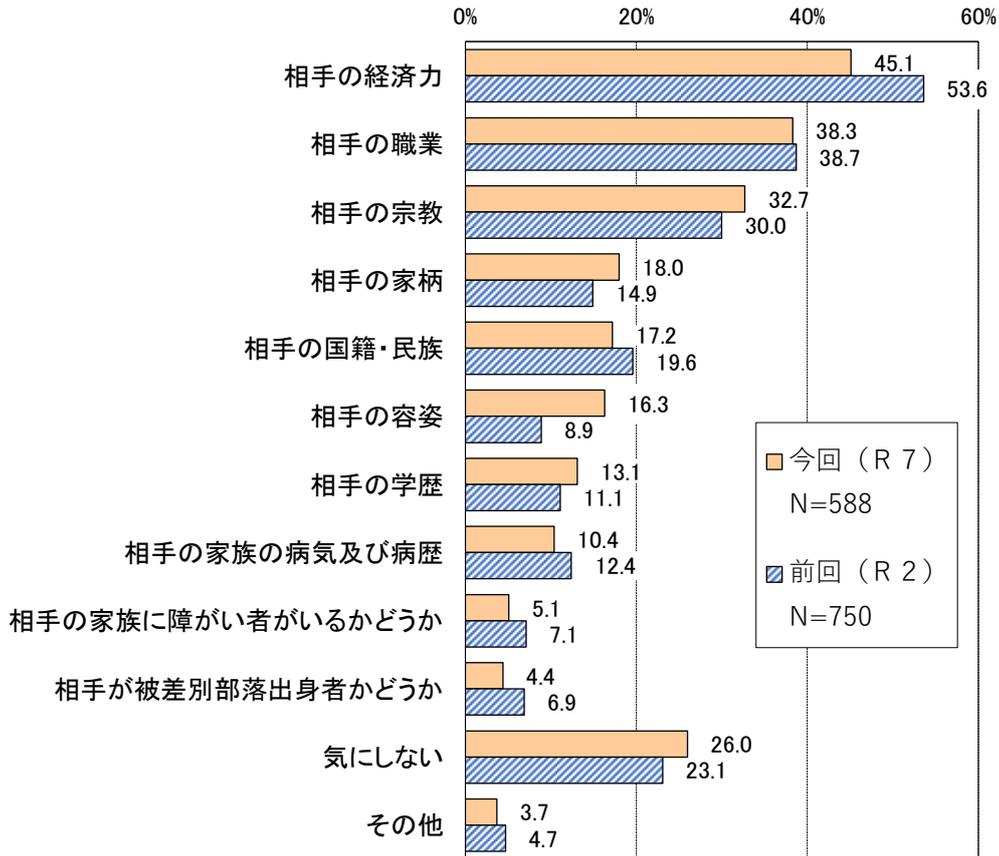
※県調査には選択肢なし

図31 被差別部落の人たちに対する就職差別や結婚差別は将来なくすことができると思うか



なお、本人や家族の結婚相手を考える際、相手の人柄や性格以外で気になること（気になったこと）については、「相手の経済力」（45.1%）や「相手の職業」（38.3%）、「相手の宗教」（32.7%）が上位にあがっており、「相手が被差別部落出身者かどうか」を選択した人の割合は4.4%と、前回（6.9%）よりも低下している（図32参照）。

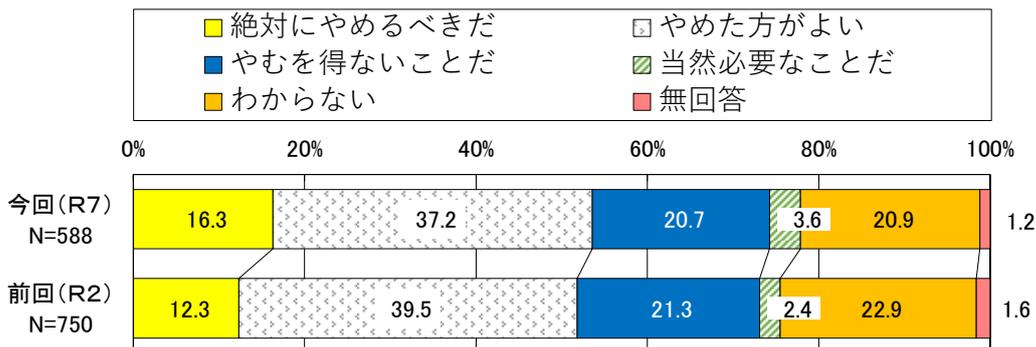
図32 本人や家族の結婚相手を考える際、相手の人柄や性格以外で気になること（気になったこと）



9. 身元調査に関する意識

就職や結婚のときの身元調査については、「絶対にやめるべきだ」という回答割合は16.3%と、前回（12.3%）に比べ4.0ポイント増加しているが、「やむを得ないことだ」「当然必要なことだ」と回答した人の割合も24.3%と、前回（23.7%）に比べ0.6ポイント増加している（図33参照）。

図33 就職や結婚のときに身元調査をすることについてどのように考えるか



10. 被差別部落が住まい選定に及ぼす影響

住まいを選ぶ際に「被差別部落の地域内である」場合、価格や立地条件が希望にあっても「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と回答した人の割合は48.3%（図34参照）、「近隣に被差別部落がある」場合でも34.4%（図35参照）と、いずれもわずかではあるが前回調査結果より増加しており、問題の根深さを裏付ける結果となっている。

図34 住まいを選ぶ際に「被差別部落の地域内である」場合、価格や立地条件が希望にあっても、避けることがあると思うか

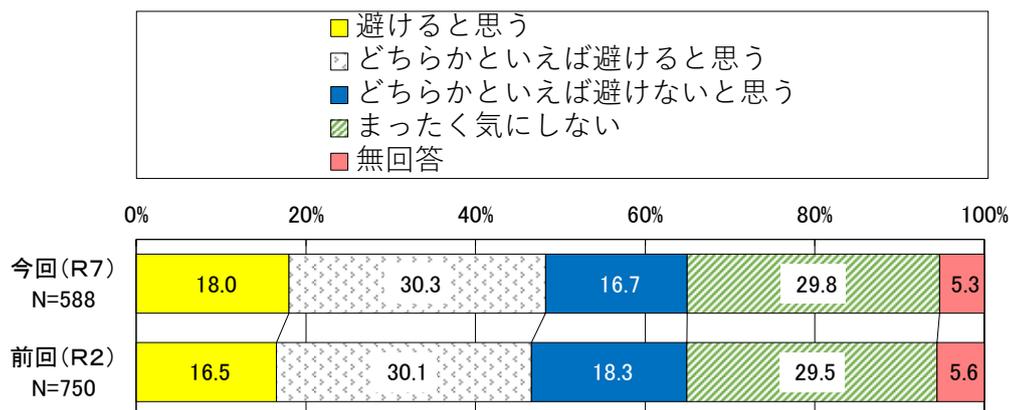
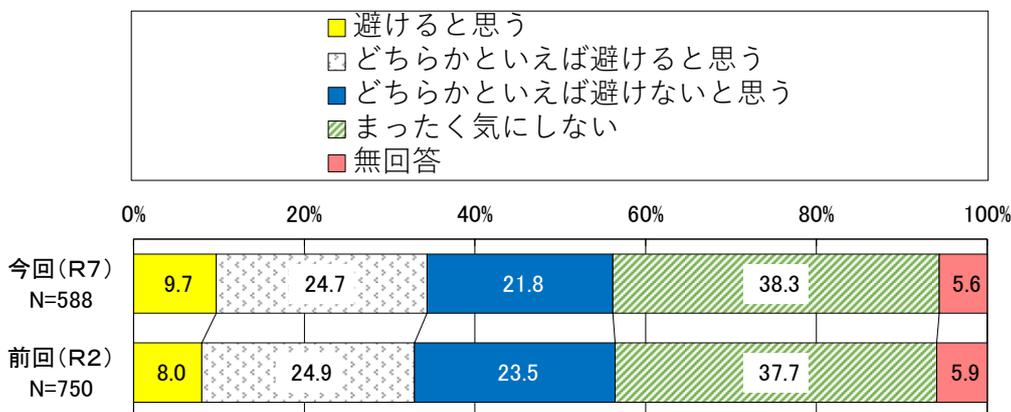


図35 住まいを選ぶ際に「近隣に被差別部落がある」場合、価格や立地条件が希望にあっても、避けることがあると思うか



11. 部落差別問題(同和問題)を解決するための望ましい方向

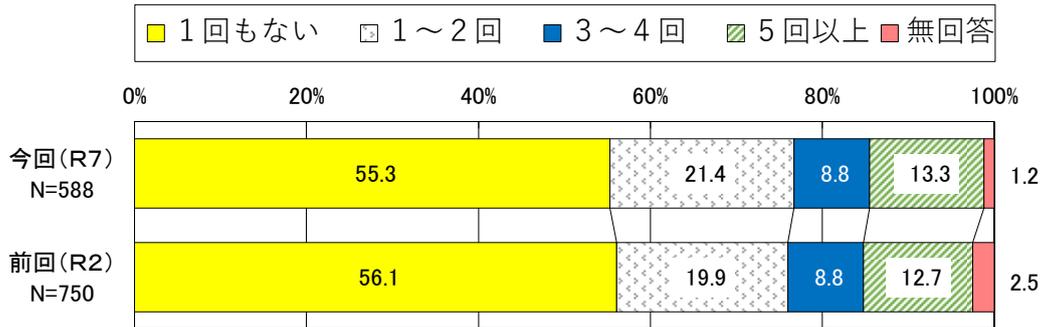
部落差別問題(同和問題)を解決するための望ましい方向については、「小・中学校などの人権教育で、部落差別問題(同和問題)に関する正しい知識を教える」(51.0%)に次いで、「市民が自ら差別や人権について学ぶ」(31.6%)があがっていた(P91参照)。市民の学習に対する支援策として、行政による研修のさらなる充実や学習教材の提供のほか、自治会など地域コミュニティにおける学習会や企業・職場における研修支援や学校教育との連携など多様な主体との協働ならびに方策を検討する必要がある。

VI. 人権問題解決のための啓発事業や市の取り組みについて

1. 人権に関する講演会や研修・学習会などへの参加回数

人権に関する講演会や研修・学習会などへの参加について「1回もない」と回答した人の割合は55.3%と、前回(56.1%)よりやや低くなったものの、大きな変化は見られなかった(図36参照)。引き続き、講演会や研修・学習会などの開催を継続しながら、広報による周知及び参加しやすい環境整備に努める必要がある。

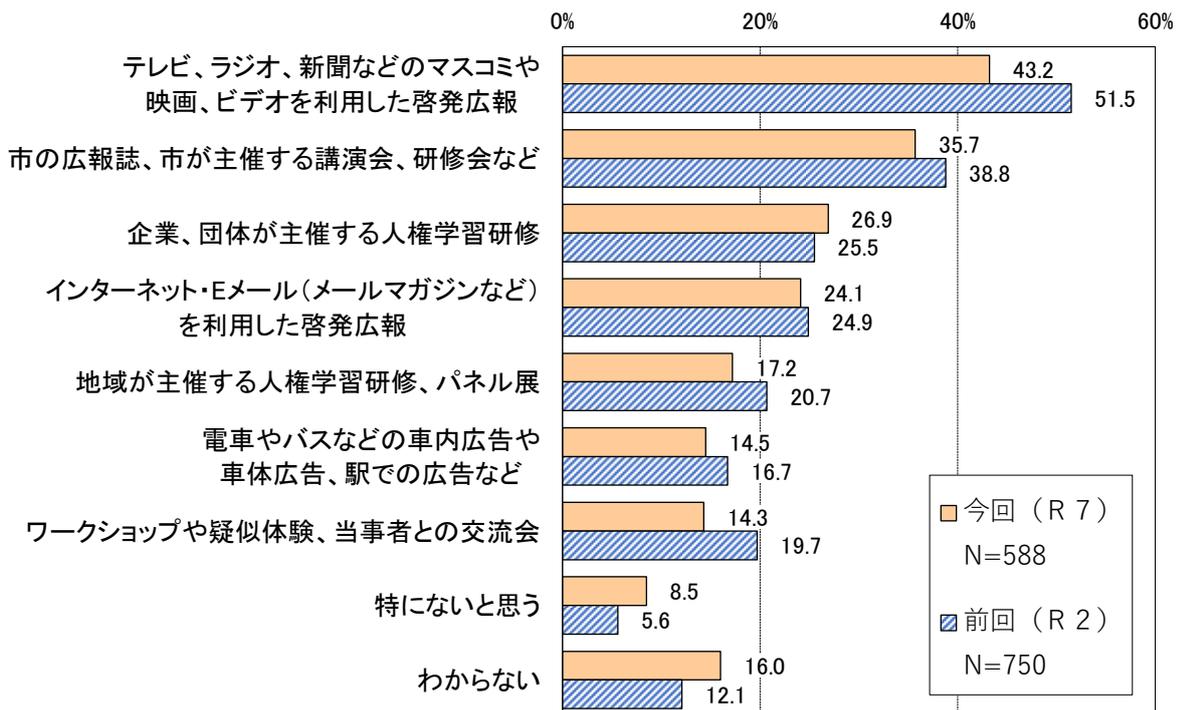
図36 これまでに人権に関する講演会や研修・学習会などに何回くらい参加したか



2. 人権の大切さを多くの人に知ってもらうのに効果的な方法

人権の大切さを「多くの人に」知ってもらうのに効果的な方法としては、「テレビ、ラジオ、新聞などのマスコミや映画、ビデオを利用した啓発広報」を選択した人の割合が43.2%と、最も高くなっている(図37参照)。次に、「市の広報誌、市が主催する講演会、研修会など」となっている。これまで実施してきた研修内容の充実を図るとともに、広報を強化する必要がある。

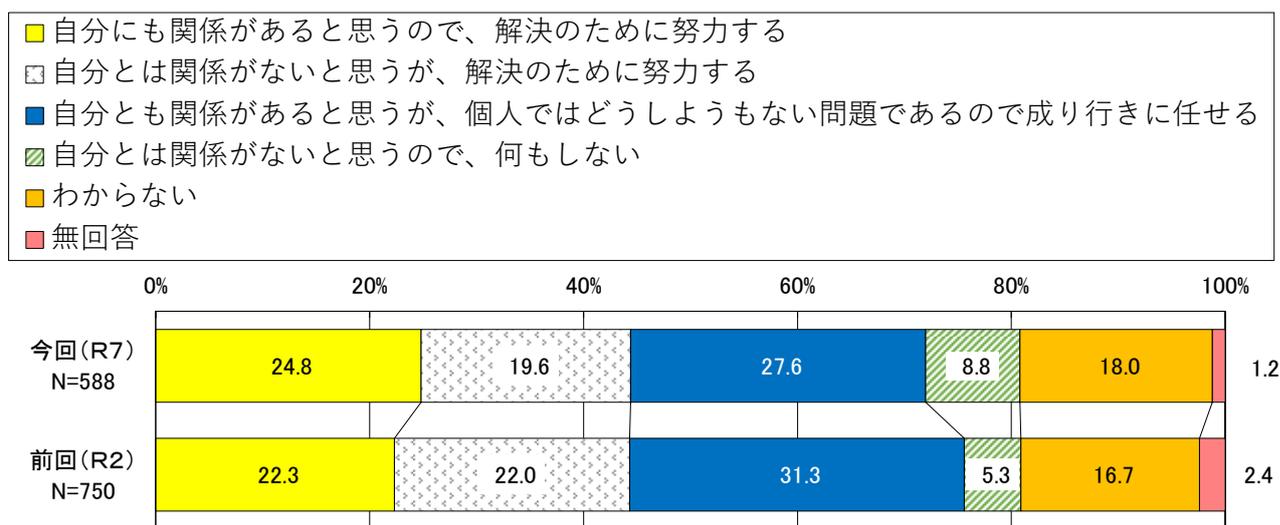
図37 人権の大切さを多くの人に知ってもらうにはどんな方法が効果的だと思うか



3. 人権問題の解決との関係についての考え

様々な人権問題の解決は「自分にも関係があると思うので、解決のために努力する」という回答は24.8%と、前回(22.3%)より2.5ポイント増加しているが、「自分とは関係がないと思うので、何もしない」と回答した人の割合も8.8%と、前回(5.3%)に比べ3.5ポイント増加している(図38参照)。

図38 様々な人権問題の解決との関係について、最も近い考えはどれか



4. 人権に関する宣言や法令などについての認知度

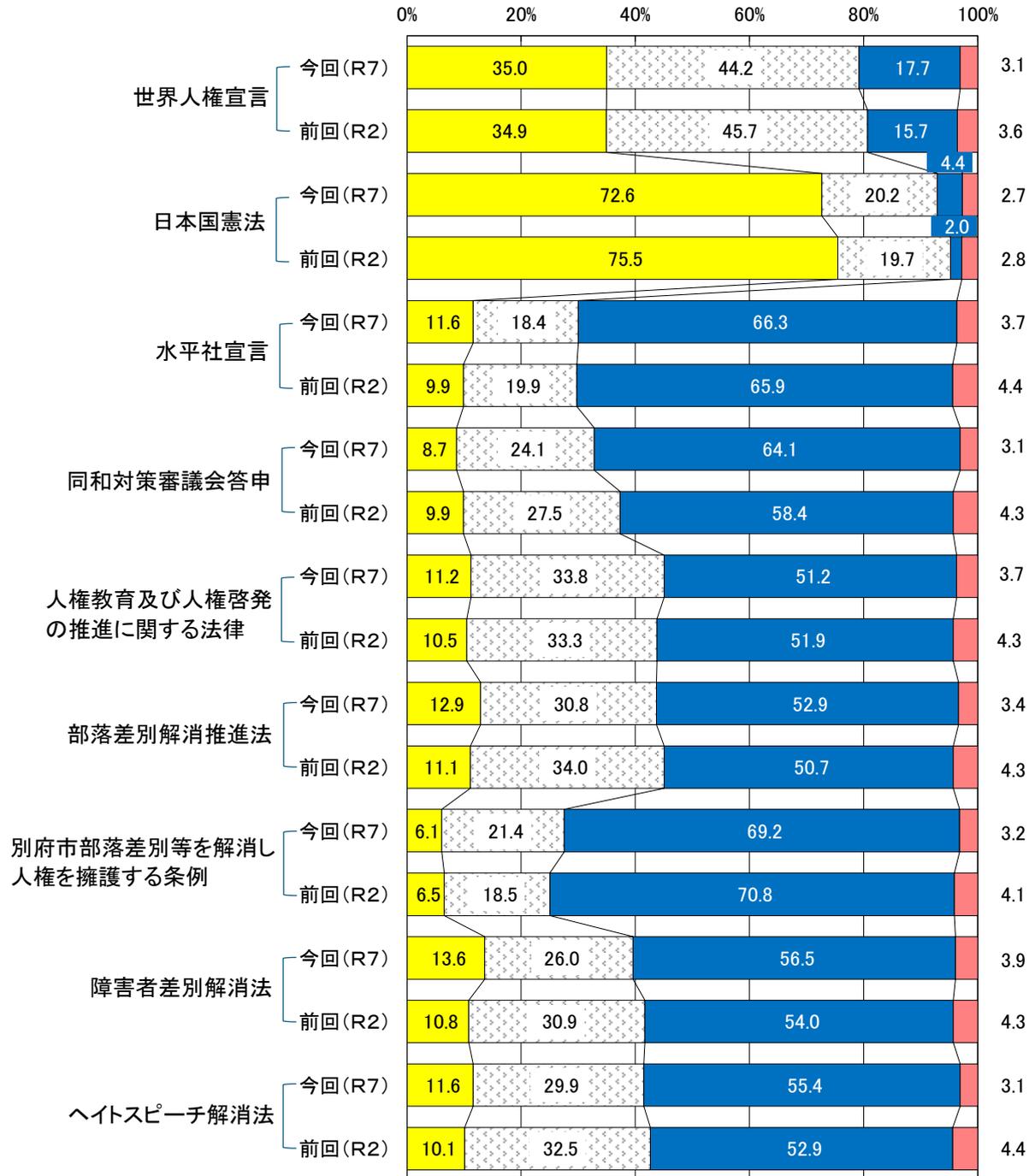
前回調査結果と比較可能な9つの人権に関する宣言や法令などの認知度については、「日本国憲法」と「世界人権宣言」を除くと、「知らない」と回答した人がいずれも半数を超えており、特に「別府市部落差別等を解消し人権を擁護する条例」については69.2%が「知らない」と回答している(次ページの図39参照)。

また、「知っている」「内容は知らないが聞いたことがある」という回答割合が前回よりわずかも高くなったのは「水平社宣言」「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」「別府市部落差別等を解消し人権を擁護する条例」の3項目のみで、それ以外の6項目については割合が低下している。さらに、「知っている」という回答割合が高くなり、かつ「知らない」という回答割合が低くなったのは「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」に留まっている。宣言や法令の周知徹底のため、デジタル・メディアの活用はもとより、これまで各種研修会で行ってきたチラシ配布等広報活動の継続が必要である。

図 39 人権に関する宣言や法令などについての認知度

今回 N=588
前回 N=750

■ 知っている □ 内容は知らないが聞いたことがある ■ 知らない ■ 無回答



5. 市民一人ひとりの人権が尊重されるために、行政が特に取り組む必要があると思うこと

市民一人ひとりの人権が尊重されるために、別府市などの行政機関が取り組む必要があると思うことについては、「幼稚園・保育所などや学校における人権教育の充実」を選じた人の割合が46.9%と最も高く、以下、「人権問題に関する啓発の積極的・効果的な推進」(34.5%)、「差別や偏見につながる慣習や社会の仕組みを改善するための施策の充実」(33.3%)、「少子高齢化や国際化などの社会変化に応じた、ソフト・ハード両面での環境整備」(31.6%)、「人権問題に深く関わる職業に従事する人(公務員、教職員など)への人権教育・啓発の推進」(31.5%)、「人権に関する相談・支援体制の充実」(31.3%)、「企業における人権教育・啓発の推進」(31.1%)と続いている(P110参照)。第2位から第7位までの上記6項目はあまり差のない回答割合で並んでおり、市民一人ひとりの人権が本当に尊重されている状態にするには、地道な人権教育・啓発はもとより、制度及び運用において、幅広い継続的な取り組みが必要と思われる。

今後も多様な立場の人の声を政策に反映し、市民と行政が人権を尊重する社会づくりを進めることが求められる。

第 4 部
調 查 票

ユーザー番号：10001

人権問題に関する別府市民意識調査ご協力のお願い

平素から市政に対し、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。

別府市では、住む人も訪れる人もいきいきと輝く人権尊重のまちづくりを推進するため、5年ごとに市民意識調査を行い、市民の皆さまの人権問題に関するご意見を把握して、必要とされる施策の推進を図っています。

この調査は住民登録をされている20歳以上の方の中から、無作為に選ばせていただきました2,040名の皆さまにお届けしております。いただきましたご回答は、内容をそのまま公表することなく、質問ごとに集計し、考察を加え、報告書を作成してホームページなどでお知らせする予定です。どうぞ率直なご意見をお聞かせください。

できるだけ正確に把握したいと考えておりますので、本調査の趣旨をご理解いただき、多くの皆さまのご協力をお願い申し上げます。

令和7年6月 別府市

【ご記入にあたってのお願い】

1. 封筒のあて名のご本人が回答してください。なお、ご本人による記入が難しい場合は、ご家族などの方が聞きとって代筆して下さるようお願いいたします。
 2. 黒色のボールペンなど、なるべく濃くはっきりと記入できる筆記用具を使用してください。
 3. 調査につきましては無記名で行います。当てはまる回答の番号を○で囲んでください。間違えた場合は、×で消して正しい番号を選んでください。
 4. この調査についてわからないことがありましたら、下記へお問い合わせ願います。
 5. ご記入が終わりましたら、同封の返送用封筒に入れて、6月27日(金)までにお近くのポストに投函してください。
- ※ この調査はウェブでも回答できます。右の二次元コードからアクセスしてください。
- ※ ウェブで回答する場合は、この表紙の右上に記載の5桁の数字(ユーザー番号)を入力してください。
- ※ この5桁の数字は二重回答を防止するもので、個人を特定するものではありません。



《問い合わせ先》 別府市役所 市民福祉部 共生社会実現・部落差別解消推進課

電話：0977-21-1291(直通)

2. 人権問題全般についておたずねします

質問1

「基本的人権は侵すことのできない永久の権利である」と日本国憲法で保障されていますが、今の日本で人権は尊重されていると思いますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 尊重されていると思う | 2. ある程度尊重されていると思う |
| 3. あまり尊重されていないと思う | 4. 尊重されていないと思う |
| 5. わからない | |

質問2

あなたは人権問題にどの程度関心を持っていますか。(〇は1つだけ)

- | | | | |
|--------------|----------|-------------|----------|
| 1. たいへん関心がある | 2. 関心がある | 3. あまり関心がない | 4. 関心がない |
|--------------|----------|-------------|----------|

質問3

日本における人権問題について、あなたの関心があるのはどの問題ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------|
| 1. 女性 | 2. こども |
| 3. 高齢者 | 4. 障がい者 |
| 5. 部落差別問題(同和問題) | 6. アイヌの人々 |
| 7. 中国帰国者 | 8. 在日韓国・朝鮮人 |
| 9. 外国人 | 10. HIV(エイズウイルス)感染者・エイズ患者 |
| 11. ハンセン病患者・回復者など | 12. 刑を終えて出所した人 |
| 13. 犯罪被害者やその家族など | |
| 14. インターネットによる人権侵害(プライバシー侵害や誹謗・中傷など) | |
| 15. 北朝鮮当局によって拉致された被害者やその家族など | |
| 16. ホームレス | |
| 17. 性的指向 | |
| 18. 性別違和 | |
| 19. 日本各地で起こった大きな震災に伴う人権問題 | |

※性的指向とは、同性愛・異性愛・両性愛のように好きになる相手の性別がどうかということ
性別違和とは、体の性別と心の性別が違っていること

質問4

あなたは自身これまで差別されたり人権を侵害されたりしたと思ったことがありますか。

それはどのようなことで思いましたか。(○はい/×でも)

- | | |
|--------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| 1. あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口 | 2. 名誉・信用の毀損、侮辱 |
| 3. 公務員の不当な扱い | 4. 暴力、強迫、強要 |
| 5. 悪臭・騒音などの公害 | |
| 6. 差別的または不利益な取り扱い(人種・信条・性別・社会的身分などにより就職や、結婚などの社会生活の上で不平等または不利益な扱い) | |
| 7. 地域社会での嫌がらせ | 8. 学校でのいじめ |
| 9. パワーハラスメントなど職場での嫌がらせ | |
| 10. 使用者による時間外労働の強制などの不当な扱い | |
| 11. 社会福祉施設などでの施設職員からの不当な扱い | |
| 12. プライバシーの侵害 | 13. セクシュアルハラスメント(性的嫌がらせ) |
| 14. ドメスティック・バイオレンス(配偶者やパートナーからの暴力)(DV) | |
| 15. 児童虐待 | 16. なんとなく差別されているような感じ |
| 17. 答えたくない | |
| 18. 差別をされたり人権を侵害されたりしたと思っただけではない | |

質問5

あなたは差別をされたり人権を侵害されたりしたときどのように対処しましたか。(○はい/×でも)

- | | |
|---------------------------------|----------------|
| 1. 相手に抗議した | 2. 身近な人に相談した |
| 3. 相談機関に相談した | 4. 弁護士に相談した |
| 5. 警察に相談した | 6. 抗議も相談もしなかった |
| 7. 何もしないでがまんした | |
| 8. 差別をされたり人権を侵害されたりしたと思っただけではない | |

質問6

あなたは差別をされたり人権を侵害されたりしたと思った場合に相談できる機関(場所)や団体があることを知っていますか。(○はい/×でも)

- | | |
|------------------------------------------|--------------------|
| 1. 法務局 | 2. 県庁や市役所、町村役場の担当課 |
| 3. 別府市人権啓発センターもしくは別府市男女共同参画センター「あす・べっぴん」 | |
| 4. 警察署 | 5. 弁護士(または弁護士会) |
| 6. 差別をなくすための人権運動団体 | 7. NPO などの民間団体 |
| 8. 知らない | |

3. 個別の人権問題についておたずねします

質問7

あなたは女性に関することで現在どのような人権問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

1. 男女の固定的な役割分担意識(「男は仕事、女は家庭」など)に基づく差別的取扱いを受け
ること
2. 職場における差別待遇(採用、昇任、賃金)を受けること
3. ドメスティック・バイオレンス(配偶者やパートナーからの暴力)(DV)
4. セクシュアルハラスメント(性的嫌がらせ)
5. 強制性交、強制わいせつなどの性犯罪や売春・買春(いわゆる「援助交際」なども含む)、ス
トーカー行為
6. 女性のヌード写真などを掲載した雑誌、新聞やアダルトビデオ、ポルノ雑誌など、女性を性の
対象ととらえた風潮
7. 女性自身が固定的な役割分担意識を解消できていないなど、女性自身に人権問題を解決しよ
うとする意識が薄いこと
8. 特にないと思う
9. わからない

質問8

あなたは高齢者に関することで現在どのような人権問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

1. 経済的な自立が難しいこと
2. 働ける能力を発揮する機会が少ないこと
3. 悪徳商法などの被害者が多いこと
4. 家庭内での看護や介護において、劣悪な扱いや虐待を受けること
5. 医療機関や社会福祉施設において、劣悪な扱いや虐待を受けること
6. 邪魔者扱いにされ、つまはじきにされること
7. 一人暮らし、閉じこもり、寝たきりなどへの不安やそれらによる不便があること
8. アパートなどへの入居を拒否されること
9. 特にないと思う
10. わからない

質問9

あなたはこどもに関することで現在どのような人権問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

1. いじめを受けること
2. 体罰を受けること
3. 虐待を受けること
4. いじめ、体罰や虐待を見て見ぬふりをすること
5. インターネット上で被害を受けること
6. 進学先や就職先の選択などのこども本人の希望(意見)を大人が無視すること
7. 学力による評価が優先し、多様な能力が評価されないこと
8. 家庭の経済状況が理由で、こどもが自己実現できないこと(自己実現:自分の可能性を開いたり、能力を発揮したり、希望をかなえたりすること)
9. 児童買春・児童売春・児童ポルノなどの対象となること
10. 性的行為や暴力シーンをこどもに見せること
11. 夜遅くまでこどもを連れてまわるなど、大人のペースで生活をおくること
12. 特にないと思う
13. わからない

質問10

あなたは障がい者に関することで現在どのような人権問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

1. 結婚や就職・職場などで不利な扱いを受けること
2. 差別的な言動をされること
3. 悪徳商法などの被害者が多いこと
4. アパートなどへの入居を拒否されること
5. スポーツ・文化活動・地域活動に自由に参加できないこと
6. じろじろ見られたり避けられたりすること
7. 自立した生活をおくるための社会的支援が不十分であること
8. 移動、情報アクセス、コミュニケーションなどで合理的配慮が行われていないこと
9. 親亡き後などの問題
10. 特にないと思う
11. わからない

質問11 あなたは、障がいのある人に対する「合理的配慮」という言葉を聞いたことがありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------------------|-------------|
| 1. 聞いたことがあります、その内容も知っている | 2. 聞いたことがある |
| 3. 聞いたことがない | |

質問12 あなたは日本に居住している外国人に関することで現在どのような人権問題があると思いますか。(○はいくつでも)

1. 職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること
2. 結婚問題で周囲の反対を受けること
3. 就職・職場で不利な扱いを受けること
4. 差別的な言動をされること
5. アパートなどへの入居を拒否されること
6. 宿泊施設、店舗などへの入店を拒否されること
7. 風習や習慣などの違いが受け入れられないこと
8. じろじろ見られたり避けられたりすること
9. 特にないと思う
10. わからない

質問13 あなたは、「ヘイトスピーチ」という言葉を聞いたことがありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------------------|-------------|
| 1. 聞いたことがあります、その内容も知っている | 2. 聞いたことがある |
| 3. 聞いたことがない | |

しつもん

質問14

あなたは犯罪被害者やその家族などに関する事で現在どのような人権問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

1. 犯罪行為によって精神的なショックを受けること
2. 犯罪行為によって経済的負担を強いられること
3. 事件について周囲でうわさ話をされること
4. 警察に相談しても期待どおりの結果が得られないこと
5. 捜査や刑事裁判において精神的負担を受けること
6. 刑事手続きに必ずしも被害者の声が十分反映されるわけではないこと
7. 報道によってプライバシーに関する事が公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること
8. 特にないと思う
9. わからない

しつもん

質問15

あなたはインターネットによる人権侵害に関する事で現在どのような人権問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

1. 他人を誹謗、中傷する表現が掲載されること
2. 他人に差別しようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること
3. 出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること
4. 捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真が掲載されること
5. ネットポルノが存在していること
6. プライバシーに関する情報が掲載されること
7. 特にないと思う
8. わからない

質問16

あなたは地震などの災害が発生した場合、避難所などにおいてどのような人権問題があると思いますか。（〇はいくつでも）

1. 避難生活でプライバシーが守られないこと
2. 女性・障がい者・高齢者・外国人・乳幼児・妊婦・性的マイノリティなどへの十分な配慮が行き届かないこと
3. ペット同伴者に対する情報が少ないこと
4. デマや風評などにより被災者が差別的な言動を受けること
5. 支援や被災状況などの必要な情報が行き届かないこと
6. 避難生活の長期化によるストレスなどの二次的被害があること
7. 特にないと思う
8. わからない

質問17

あなたは性的指向や性自認に関することで現在どのような人権問題があると思いますか。（〇はいくつでも）

*性的指向とは、同性愛・異性愛・両性愛のように好きになる相手の性別がどうかということ
性自認とは、自分の性別をどう思っているかということ

1. 職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること
2. 差別的な言動をされること
3. 就職・職場で不利な扱いを受けること
4. アパートなどの入居を拒否されること
5. 宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用などを拒否されること
6. じろじろ見られたり避けられたりすること
7. 特にないと思う
8. わからない

質問18

感染症患者など(特に、ハンセン病患者・回復者、HIV感染者、エイズ患者など)に関する人権上の問題について現在どのような人権問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

1. 結婚や就職・職場などで不利な扱いを受けること
2. 病院での治療や入院を拒否されること
3. 宿泊施設、店舗などの利用、サービスの提供を拒否されること
4. 悪い噂や病気に関する情報が他人に伝えられるなど、プライバシーが守られないこと
5. 白ごとの付き合いを断られたり、避けられたりすること
6. 感染症についての学習機会が少ないことで、正しい知識や理解が得られてないこと
7. 特にないと思う
8. わからない

質問19

あなたは、刑を終えて出所した人に関する事からで、特にどのような人権問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

1. 更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること
2. 就職・職場で不利な扱いを受けること
3. アパートなどへの入居を拒否されること
4. 宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用を拒否されること
5. 学校、幼稚園などへの入学や入園を拒否されること
6. 結婚や婚約について差別されること
7. 特にないと思う
8. わからない

4. 部落差別問題（同和問題）についておたずねします

質問20

あなたは被差別部落（旧同和地区）の人を見下したり排除しようとしたりする差別意識を持った人がいると思いますか。（○は1つだけ）

1. 差別意識を持っている人はもういなくなった
2. ほとんどの人が差別意識を持っていない
3. なかには差別意識を持っている人がいる
4. 差別意識を持っている人はまだ多い
5. わからない

質問21

あなたが部落差別問題（同和問題）をはじめて知ったのはいつ頃ですか。（○は1つだけ）

1. 6歳未満（小学校入学前）
2. 6歳～12歳（小学校のころ）
3. 12歳～15歳（中学校のころ）
4. 15歳～18歳未満（高等学校、就職したころ）
5. 18歳～22歳未満（大学、専門学校、就職したころ）
6. 22歳以上
7. 覚えていない
8. 部落差別問題（同和問題）を知らない

質問26

あなたは部落差別問題(同和問題)に関して現在どのような問題が起きていると思
いますか。(〇はいくつでも)

1. 結婚問題で反対されること
2. 就職・職場で不利な扱いをされること
3. 差別的な発言があること
4. 差別的な落書きがあること
5. 身元調査をされること
6. 地域の活動やつきあいで不利な扱いをされること
7. 被差別部落への居住が敬遠されること
8. インターネットにおいて差別的な情報が飛び交っていること
9. 特に問題は起きていない
10. わからない

質問27

あなたはこれまで学校・職場・地域などで部落差別問題(同和問題)についての
学習や研修を受けたことがありますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1. 小学校 | 2. 中学校 |
| 3. 高等学校 | 4. 大学(短期大学、専門学校を含む) |
| 5. 公民館などの講座 | 6. 職場の研修 |
| 7. はっきり覚えていない | 8. 受けたことはない |

質問28

質問27で「1」～「7」のいずれかを選択した方におたずねします。
それはどのような内容だったのでしょうか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 差別はなぜいけないのか | 2. 部落差別対策の必要性 |
| 3. 差別の厳しさ | 4. 厳しい身分制度 |
| 5. 過去の被差別部落の厳しい生活 | 6. 部落差別の歴史 |
| 7. 他人権問題との関係 | 8. 「寝た子を起すな論」の誤り |
| 9. 一人ひとりが努力すべきこと | 10. 人権の大切さ |
| 11. 教科書の無償配布 | 12. 就職時の全国高等学校統一応募用紙 |
| 13. 覚えていない | |

質問29

質問27で「1」～「7」のいずれかを選択した方におたずねします。

こうした学習を受けたことについて今どう感じていますか。(○は1つだけ)

1. 学習を受けてよかったと思っている
2. 学習を受けたことはよいが、内容は改善したほうがよい
3. 受けないほうがよかったと思っている
4. よくわからない

質問30

学校や職場、日常生活の中で誰かが被差別部落出身者に対する差別的な発言をした時あなたはこういった態度を取るとおもいますか。(○は1つだけ)

1. 差別的な発言であることを指摘して差別について話し合う
2. 表向きは話を合わせるが、どうにかして差別はいけないことを伝える
3. 表向きは話を合わせ、何もしない
4. 同調して自分も差別的な言葉を言ってしまう
5. 他の話題に変えようとする
6. 何もせず、その場は黙っている
7. 差別はいけないと思っていても、何もできない

質問31

日頃親しく付き合っている職場の友人や近所の人被差別部落出身者だとわかった

場合あなたはどのようにしますか。(○は1つだけ)

1. これまでと同じようにつきあう
2. 一度は考えるが、変わらずにつきあおうと思う
3. つきあうことは変わらないが、何となく気をつかうと思う
4. 表面的にはつきあうが、できるだけつきあいは避けていくと思う
5. つきあいはやめてしまうと思う

しつもん

質問32

あなたの家族が被差別部落の人と結婚するとしたら、あなたはどうしますか。(○は1つだけ)

1. 被差別部落の人かどうかは関係ない、そのことで反対などしない
2. できれば被差別部落の人でない方がよいが、反対はしない
3. 反対するが、本人の意思が強ければやむをえない
4. 絶対に反対する
5. わからない
6. 部落差別問題(同和問題)を知らない

しつもん

質問33

あなたは被差別部落の人たちに対する就職差別や結婚差別は将来なくすことができると思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う |
| 3. どちらかといえばそう思わない | 4. そう思わない |
| 5. わからない | 6. 差別がおこっていることを知らない |

しつもん

質問34

あなたは就職や結婚のときにその相手方などの身元調査をすることについてどのように考えますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 絶対にやめるべきだ | 2. やめた方がよい |
| 3. やむを得ないことだ | 4. 当然必要なことだ |
| 5. わからない | |

しつもん

質問35

あなたや、あなたの家族の結婚相手を考える際相手の人柄や性格以外で気になること(気になったこと)をお答えください。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 相手の学歴 | 2. 相手の経済力 |
| 3. 相手の職業 | 4. 相手の家柄 |
| 5. 相手の容姿 | 6. 相手の宗教 |
| 7. 相手の国籍・民族 | 8. 相手が被差別部落出身者かどうか |
| 9. 相手の家族に障がい者がいるかどうか | 10. 相手の家族の病気及び病歴 |
| 11. 気にしない | 12. その他 |

質問36

あなたが住宅を購入したり借りたりするなど住まいを選ぶ際に価格や立地条件が希望にあっても次のような物件の場合避けることがありますか。

(7つの質問のそれぞれについて㊶㊷㊸㊹から〇を1つ)

	㊶避けると 思う	㊷どちらか といえば避 けると思う	㊸どちらかと いえば避けな いと思う	㊹まったく 気にしない
1. 被差別部落の地域内である	1	2	3	4
2. 近隣に被差別部落がある	1	2	3	4
3. 近隣に低所得者など、生活が 困難な人が多く住んでいる	1	2	3	4
4. 近隣に外国籍の住民が多く 住んでいる	1	2	3	4
5. 近隣に精神科の病院や障が い者施設がある	1	2	3	4
6. 近隣に老人ホームなどの 高齢者施設がある	1	2	3	4
7. 近隣に保育所(園)や幼稚園、 こども園がある	1	2	3	4

しつもん

質問37

あなたは部落差別問題(同和問題)を解決するためには、どのような方向が望ましい
 と思いますか。(〇はいくつでも)

1. 市民が自ら差別や人権について学ぶ
2. 国や地方自治体が、部落差別問題(同和問題)の解決に向けた教育・啓発活動や相談活動などの施策に効果的に取り組む
3. 小・中学校などの人権教育で、部落差別問題(同和問題)に関する正しい知識を教える
4. わざわざとりあげないで、そっとしておくほうがよい
5. 被差別部落の人々自身が、自分の生活向上に努力すべきであると思う
6. 被差別部落の人々が、一か所にかたまってしまうようにすればよいと思う
7. 差別をしたり、差別を利用するような場合には、法律で処罰すべきだ
8. 市民一人ひとりが、住所や出身地に関係なく活発に交流する
9. 市民一人ひとりが、差別をなくすための運動に積極的に取り組むべきだ
10. 何をしても、解決することはむずかしい
11. 社会的問題としては解決している
12. その他(具体的に:)
13. わからない

5. 人権問題解決のための啓発事業や市の取り組みについておたずねします

質問38

あなたはこれまでに人権に関する講演会や研修・学習会などに何回くらい参加しましたか。(〇は1つだけ)

1. 1回もない 2. 1～2回 3. 3～4回 4. 5回以上

質問39

あなたは人権の大切さを多くの人に知ってもらうにはどんな方法が効果的だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 市の広報誌、市が主催する講演会、研修会など
2. 企業、団体が主催する人権学習研修
3. 地域が主催する人権学習研修、パネル展
4. ワークショップや疑似体験、当事者との交流会
5. テレビ、ラジオ、新聞などのマスコミや映画、ビデオを利用した啓発広報
6. インターネット・Eメール(メールマガジンなど)を利用した啓発広報
7. 電車やバスなどの車内広告や車体広告、駅での広告など
8. 特にないと思う
9. わからない

質問40

様々な人権問題の解決とあなたとの関係について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(〇は1つだけ)

1. 自分にも関係があると思うので、解決のために努力する
2. 自分とは関係がないと思うが、解決のために努力する
3. 自分とも関係があると思うが、個人ではどうしようもない問題であるので成り行きに任せる
4. 自分とは関係がないと思うので、何もしない
5. わからない

質問41

あなたは次の人権に関する宣言や法令などについてご存じですか。

(10の質問のそれぞれについて㊦㊧㊨から○を1つ)

	㊦知っている	㊧内容は知らないが聞いたことがある	㊨知らない
1. 世界人権宣言	1	2	3
2. 日本国憲法	1	2	3
3. 水平社宣言	1	2	3
4. 同和対策審議会答申	1	2	3
5. 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律	1	2	3
6. 「部落差別解消推進法」	1	2	3
7. 別府市部落差別等を解消し人権を擁護する条例	1	2	3
8. 「障害者差別解消法」	1	2	3
9. 「ヘイトスピーチ解消法」	1	2	3
10. 「LGBT理解増進法」	1	2	3

質問42

あなたは市民一人ひとりの人権が尊重されるために、別府市などの行政機関はどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

1. 人権問題に関する啓発の積極的・効果的な推進
2. 幼稚園・保育所などや学校における人権教育の充実
3. 家庭や地域における人権教育・啓発の推進
4. 企業における人権教育・啓発の推進
5. 人権問題に深く関わる職業に従事する人(公務員、教職員など)への人権教育・啓発の推進
6. 地域での人権啓発を推進するリーダーの養成
7. 差別や偏見につながる慣習や社会の仕組みを改善するための施策の充実
8. 人権問題に取り組む団体やNPO法人などとの連携・協働
9. 人権に関する相談・支援体制の充実
10. 人権侵害に対する救済策の強化
11. 人権尊重の視点に立って、行政運営を行う
12. 少子高齢化や国際化などの社会変化に応じた、ソフト・ハード両面での環境整備
13. その他(具体的に:)
14. 特にない
15. わからない

質問43

人権問題について、また、市の人権問題の取り組みなどについてのあなたの自由な意見をお聞かせください。

～ ご協力いただき、誠にありがとうございました ～

切手は貼らずに同封の封筒に入れ、6月27日(金)までに、投函してください。

ウェブで回答された方は、返送不要です。

人権問題に関する別府市市民意識調査結果報告書

令和8年3月

編集・発行者 大分県別府市
市民福祉部 共生社会実現・部落差別解消推進課

〒874-8511

大分県別府市上野口町1番15号

TEL 0977 (21) 1291

FAX 0977 (21) 0288
